

東北アジア研究センター報告 第15号

よみがえる江戸時代の村田

—山田家文書からのメッセージ—

高橋陽一・佐藤大介・小関悠一郎 編



享保壬子閏五月戊戌

山田源須敬

不尊信
神儒之書者非吾子孫矣

東北大学東北アジア研究センター

よみがえる江戸時代の村田

—— 山田家文書からのメッセージ ——

高橋陽一・佐藤大介・小関悠一郎 編

Reviving Murata Town of the Edo Period
—— The Message of the Historical Documents of the Yamada Family ——
(CNEAS Reports Vol.15)

Edited by TAKAHASHI Yoichi, SATO Daisuke, KOSEKI Yuichiro
Copyright © 2014 by Center for Northeast Asian Studies, Tohoku University
Kawauchi 41, Aoba-ku, Sendai City, 980-8576 Japan

All rights reserved
<http://www.cneas.tohoku.ac.jp/>
Printed by Tohoku Print Co.,Ltd

『よみがえる江戸時代の村田——山田家文書からのメッセージ——』

目次

編集にあたって	高橋 陽一	3
一 講演録		9
村田町、生い立ちの頃——山田家文書の概観から——	佐藤 大介	9
山田家蔵書の世界——地域歴史資料としての価値——	小関悠一郎	37
二 研究ノート		69
江戸時代の刀剣鑑定——山田家刀剣関係史料の分析——	後藤 三夫	69
三 史料編（解読文）		76
解題		76
凡例		78
I 山田家の歴史		
〔1〕備後伝〔享保一五（一七三〇）年、一八一二三〕		79
〔2〕〔褒賞状写〕〔享保三（一七一八）年、一五一二—二〕		80
II 山田家の交流		
〔3〕〔山田新七宛遊佐清左衛門（木斎）書状〕〔年未詳、一六一三—八一二〕		81

[4]	(本役銭受領証)〔寛永一二(一六三五)年、二五―二三―三五〕	82
[5]	(川村孫兵衛他借用証文)〔天和二(一六八二)年、A―三一―八一〕	83
[6]	柴田郡村田郷酒屋延宝七年酒造石高之覚〔天和三(一六八三)年、一六―二―四七〕	83
[7]	家藏之刀劍相改帳〔享保一〇(一七二五)年、一八―六―二〕	86
[8]	覚〔天保一一(一八四〇)年、二五―六―四四〕	95
[9]	荷物請証之事〔天保一五(一八四四)年、二五―六―一二〕	95
[10]	覚〔弘化三(一八四六)年、二五―六―一一〕	96
[11]	(紅花受取証)〔年未詳、二五―六―一五〕	97
Ⅲ 村田町の運営		
[12]	南町より市立前之儀奉願候ニ付添翰を以乍憚品々申上候御事	
	〔延享二(一七四五)年、A―三一―一四〕	98
[13]	口上之覚書を以申上候御事〔延享二(一七四五)年、A―三一―一六―一二〕	99
[14]	乍恐奉願候御事〔延享二(一七四五)年、A―三一―一九〕	99
[15]	当御町商人共、市中立前え罷出、諸式商売可仕旨被仰渡奉承知、 何も立前え罷出商売仕罷有申候処、右ニ付乍恐口上書を以、左ニ奉願候御事 〔宝暦二(一七五二)年、二五―二―四一八〕	100

Ⅳ 山田家文書目録

凡例	104
山田家文書目録	106

Ⅴ 史料編(画像)

史料編(画像)	233
---------	-----

編集にあたって

高橋陽一

二〇一三年六月二十九日(土)、宮城県柴田郡村田町(道の駅「村田」歴史と蔵のふれあいの里村田町物産交流センター)にて、公開講演会「よみがえる村田の歴史―江戸時代からのメッセ―」が開催されました。主催は、東北大学東北アジア研究センター・上廣歴史資料研究部門(以下「上廣部門」)・東北大学災害科学国際研究所・NPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク(以下「宮城資料ネット」)・村田町教育委員会です。曇天で時折小雨の舞う中、予想を遥かに上回る約一四〇名もの方々にご来場いただきました。お聞き下さった皆様に心より御礼申し上げます。

上廣部門は、上廣倫理財団の全面的なご支援により、二〇一二年四月に東北大学東北アジア研究センターに開設されました。「地域と歩む歴史学」を活動理念に掲げ、歴史資料保全活動・地域連携事業・歴史研究の推進の三つを柱に様々な事業を展開しています。「よみがえる村田の歴史」は、この三本柱



講演会のようす

が相俟った講演会であったと思います。

本講演会のきっかけになったのは、村田町の旧家山田家に所蔵されている古文書の調査です。山田家の先祖は、一六世紀後半の安土桃山時代に現在の福井県から蔵王町遠刈田に、そして後に村田町に移住し、酒造業などを開始しました。いわば村田町の商業のパイオニア的存在です。同家には、江戸時代に建造された店蔵など数棟の土蔵があつたのですが、東日本大震災により一部が損壊しました。修繕のために所蔵品が整理されたところ、大量の古文書が確認されたことから、宮城資料ネットや村田町による本格的な調査が実施されました。その結果、古文書には従来ほとんど知られていなかった江戸時代前期（一七・一八世紀）の村田町の歴史を解き明かす内容が含まれていることが判明しました。貴重な歴史資料の存在とそこからみえる郷土の歴史の豊かさ・面白さを多くの皆様に知っていただきたいと考え、上廣部門が中心となって、江戸時代研究の専門家を招いての講演会を開催することにしました。当日のプログラムは次の通りです。

〈開会の挨拶〉 平川新（上廣部門兼務教授、東北大学災害科学国際研究所所長）

〈講演〉 「村田町、生い立ちの頃——山田家文書の概観から——」

講師 佐藤大介（災害科学国際研究所准教授）

「山田家蔵書の世界——地域歴史資料としての価値——」

講師 小関悠一郎（千葉大学教育学部准教授）

〈閉会の挨拶〉 佐々木安彦（村田町歴史みらい館館長）

※司会進行 高橋陽一（東北大学東北アジア研究センター助教）

詳しい内容は本報告書の「講演録」に譲りますが、佐藤大介さんの講演では、刀剣鑑定や酒造業に出精し、仙台藩初代藩主・伊達政宗にも美酒を献上するなど、村田町での山田家の活動の礎を築いた同家初代・新五郎の軌跡が紹介されました。また、仙台藩領内の土木事業に功績のあった出入司・川村孫兵衛らに山田家が融資を行っていたこと、同家と江戸の豪商三井家との間に紅花の取引関係があったことなどが、各種証文から明らかにされました。歴史資料保全の重要性もメッセージとして込められており、宮城資料ネット事務局長として山田家文書の保全活動に一貫して携わり、数多くの史料を読み込んだ佐藤さんらしい、内容豊かな講演でした。

小関悠一郎さんの講演は、山田家の蔵書から江戸時代の学問状況を明らかにするものでした。当時、山田家には刊本・写本を含めて約五〇〇部一二〇〇冊の蔵書がありました。これは同時代の民間人の蔵書としてはかなり多い数字です。一八世紀の同家の六代・須敬は、仙台藩の儒学者遊佐木斎の門人であり、「神儒の書を尊信せざる者、吾が子孫に非ず」という教えが同家には伝えられてきました。講演では、山田家代々当主の事跡に留意しながら、蔵書目録をもとに須敬らの集書・読書活動の特色が明らかにされ、それ以前、一七世紀の段階で山田家に所在した書物の傾向についても見通しが示されました。古文書のみならず書籍も対象として行われた今回の資料保全の意義にも説き及んだ講演は、江戸時代の学問受容のあり方についての研究を進めつつ、保全活動に参加してきた小関さんならではの講演でした。

このように、佐藤さん・小関さんの講演は、調査活動により発掘された山田家の古文書から、同家の歴史、そして知られざる村田町の歴史を見事なまでに浮かび上がらせるものでした。町の方々にとってわかりやすいだけではなく、学術的にも注目すべき点が多く含まれていました。講演会終了後、充実した古文書分析の成果を一過性の口頭報告で終わらせるのはもったいないと考え、両氏に報告書の共同作成を依頼したところ、快くお引き受けいただきました。また、古文書所蔵者の山田和義さんからも、作

成についてご理解を賜ることができました。

*

*

本報告書『よみがえる江戸時代の村田——山田家文書からのメッセージ——』には、二つの大きな意義があります。

一つは郷土史上の意義であり、町の歴史に関する学術的な意義と言い換えてもよいでしょう。都市仙台から比較的近郊に位置し、いわゆる奥州街道の大河原方面と山形方面を結ぶ街道沿いの中心的町場であった村田は、江戸時代後半の一九世紀以降に紅花などの商取引によって繁栄した町として知られてきました。ご存じの通り、現在も通りには蔵の景観が残されており、往時の隆盛を偲ぶことができます。しかしその一方で、江戸時代前期・中期（一七・一八世紀）の町については、史料的な制約もあって、その状況があまり明らかにされてきませんでした。山田家の古文書から復元された商いと学問を中心とした一七・一八世紀の同家の活動は、村田町の新たな歴史の発見そのものでもあります。佐藤・小関両氏の学術的な史料の分析によって、町の歴史がより豊かになったのではないかと思います。また、つけ加えるなら、江戸時代前期における町方住民の活動の掘り起こしは、仙台藩の研究にも寄与するところが大きいといえるでしょう。

二つ目は歴史資料保全活動の成果としての意義です。宮城県内では、二〇〇三年に結成された宮城資料ネット（二〇〇七年よりNPO法人）を中心に、古文書をはじめとする歴史資料を散逸から守り、後世に伝えていく活動が展開されてきました。その成果は様々な形で発信されてきましたが、二〇一一年に発生した東日本大震災を経て活動がさらに広域化・多様化していく中で、その成果をどのように所蔵者や地域の方々に還元していくのか、それが今改めて問われているように思います。上廣部門の立場として、その担うべき重要な役割の一つは、歴史資料保全活動の成果をわかりやすい形で提示し、地域の

歴史・文化遺産を地域の手で保全・活用していく雰囲気づくりをサポートしていくことにあると考えています。講演会のような地元での報告会に加え、記録として報告書を作成することによって、歴史資料がどこにあり、そこから何がわかるのか、そして保全することがなぜ大切なのかを目に見える形で残しておくことが、その一つの方法であると考えました。

本報告書は、講演録として佐藤さん・小関さんの講演を収載したほか、公益財団法人日本美術刀剣保存協会刀剣等相談員の後藤三夫さんには、専門的立場からみた山田家刀剣関係史料の意義について寄稿していただきました。さらに、山田家文書の中から講演会で使用されたものなど重要史料を選び、古文書の解読文と写真を収載しました。実際に古文書（くずし字）を解読しながら、山田家と村田町の歴史にアプローチすることができます。また、山田家文書の目録も収載しました。書籍や商取引き関係書類、書状を中心とした約二七〇〇点の膨大な史料群の全容を知ることができ、山田家文書の凄さを改めて実感することができます。

なお、講演録の作成は各講演者が行い、史料翻刻は編者の三人が分担しました。目録作成は千葉大学の大学院生・関係者の方々（五味玲子・寺田祥子・西聡子・野口陽子の各氏）にお願いし、小関さんが取りまとめました。「編集にあたって」の執筆と全体の取りまとめは上廣部門の高橋が担当しています。

*

*

講演会から約半年後の二〇一四年二月一日（木）に、村田町中央公民館で、「初めての古文書講座」第一回が開かれました。上廣部門と村田町の共催です。講演会の後、村田町歴史みらい館の石黒伸一朗さんから古文書講座開催のご提案をいただき、喜んで講師を担当させていただくことにしました。三月末まで、計四回の短い講座でしたが、自らが古文書をお持ちである参加者もおられ、村田の古文書が読めるようになりたいという思いを胸に、皆さん熱心に取り組まれました（講座は同年夏も開催しま

した）。今後もできる限り古文書講座を継続していきたいと考えています。郷土史に対する人々の熱意を無駄にしないよう、歴史を通して生まれた地域の方々とのつながりをこれからも大切にしていきたいと思っています。

初めて山田家を訪れた際、蔵の中の膨大な古文書のほとんどが良好な状態で残されていたことに驚かされました。「神儒の書を尊信せざる者、吾が子孫に非ず」の教えが脈々と受け継がれてきたのだと実感しました。講演会開催に至る古文書調査の段階から、本報告書が完成するに至るまで、所蔵者の山田和義さんには度々ご迷惑をおかけしましたが、一貫して格別のご理解とご協力を賜ることができました。ここに厚く御礼申し上げます。また、石黒伸一朗さんをはじめとする村田町の方々には、古文書調査から講演会の準備・開催、本報告書の刊行まで、多岐にわたるご配慮とご協力をいただきました。深く感謝申し上げます。

— 講演録

村田町、生い立ちの頃

—— 山田家文書の概観から ——

佐藤 大介

はじめに

みなさま、こんにちは。ただいまご紹介いただきました東北大学災害科学国際研究所の佐藤大介と申します。

今回このような機会を設けることができたのは、所蔵者である山田家のみなさまの歴史資料活動に対するご理解、村田町の関係者の皆様のご尽力、それから上廣倫理財団のご尽力によるものでございます。最初に、そのことにつきまして、あらためて御礼申し上げます。

今日の私の講演は「村田町、生い立ちの頃」というタイトルにしました。副題に「山田家文書の概観」とあります。山田家文書には、後ほど撮影した写真のコマ数を述べますが、たくさん点数があります。私と小関先生の二人の話で、そのすべての内容をご紹介しますことはできません。私の役目は、今回の講演会にいたるまでの経緯——先ほど高橋陽一さ



写真1 講演のようす

んや、平川研究所長からお話しがございましたが——「地域の歴史資料を守る」という活動の内容を少し紹介させていただいた上で、山田家の活動について、特に初代の山田新五郎の軌跡や、山田家文書に含まれている個別の史料の概要をかいつまんで紹介いたします。

「生い立ちの頃」というタイトルですが、「村田」という地名は、江戸時代以前、中世の文書にも登場しています。では、なぜ「生い立ち」なのでしょう。理由は二つあります。

仙台という町は、今から一〇年ほど前（二〇〇一年）に「開府四〇〇年」を祝いました。実は、現在ある日本列島各地の町や村の、直接の基礎が形作られたのが、今日お話しする江戸時代はじめのことでした。ですので「生い立ちの頃」として、江戸時代のお話をするということが一つの理由です。もう一つの理由は、山田家初代の新五郎の活動は、村田町の生い立ちそのものに関わっていると考えられるからです。

改めて全体の内容を確認します。まず、宮城地区での「歴史資料保全活動」の全体を紹介して山田家文書との「出会い」をお話しします。その上で、山田家初代・新五郎の軌跡について、なぜ村田に來たのか、また山田家の活動について、一七世紀、西暦でいうと一六〇〇年代を中心に紹介します。

山田家文書の全体を知る上で、私の報告はその「入口」といいますか、本でいえば目次のような役割を果たすことができればよいのではないかと考えております。

一 宮城地区での「歴史資料保全活動」——山田家文書との出会い

(1) 宮城地区での「歴史資料保全活動」の始まり

先ほどから「(歴史資料の) 保全活動」ということを申し上げておりますが、どんなことをしているのかということを改めて紹介いたします。

第一に、歴史資料の所在調査です。これは、地元の行政や市民と連携して、「どこに」、すなわち「どのお宅」に、「どのような」歴史資料——古文書、古美術品、民具など——が残されているのかということを、一つの地域単位で確認するものです。例えば村田町でしたら、村田町という一つの町単位で全体的に確認することになります。

それから、今日お話しする山田家のように、一つのお宅にたくさんさんの古文書その他の歴史資料が確認される場合があります。そのときには、「一軒型」の調査保全を行います。

さらにもう一つが、古文書返却事業です。実は、山田家文書との出会いは、この活動がきっかけになっています。地元での活動をする中で、「昔、大学の先生がうちの史料を持っていったまま返してくれない」という話を、数多く耳にしました。私たちは、「地元の市民と連携して活動する」ことを掲げています。そのことを訴える大学研究者の側が、古文書をお借りして返さないままになっているというのは、大変な問題です。私たちが返却を進めている史料を借用した、かつての大学研究者はすでに亡くなられておりますが、ご遺族に代わって、古文書の返却に取り組んでいるところです。

一連の活動を始めるきっかけとなったのは、二〇〇三年七月二六日に発生した、宮城県北部での連続地震です。現在の自治体というと東松島市や石巻市——これは今回の震災で

も大きな被害を受けた地域になりますが、各地で被災した歴史資料のレスキュー活動を行いました。

東日本大震災のような大きな災害が起こったときに、古文書や歴史資料が一斉に地域から失われていく。そのことに対して、歴史資料に関わる人々が初めて自覚したのは、一九九五年一月一七日の阪神・淡路大震災の時です。この時、神戸市の歴史資料ネットワーク（史料ネット）という組織が発足しました。この組織は、現在まで兵庫県での歴史資料を守る活動をつづける一方、その後に日本列島各地で発生した災害に際して、各地での歴史資料を守るネットワーク作りを支援しています⁽¹⁾。二〇〇三年に私たちが活動を始めるにあたって、史料ネットから活動が必要であることを指摘されて、最初の活動に取り組んだわけです。代表的なものとしては、戦前に日本第二位の地主であった斎藤善右衛門家での活動があります。ここでは、戦前の経営に関する文書とともに、私設の縄文資料館の土器などを、関係者と連携してレスキューしました。文書については、一〇万点を超えるものが確認されました。これらは、東北大学が戦前より、斎藤家が設立した斎藤報恩会から多額の研究費など支援を受けているという縁もありまして、東北大学附属図書館に寄贈されています。

ただし、地震を契機に失われてしまった歴史資料も数多くありました。二〇〇三年の地震の時、私たちは一九二軒のお宅を訪問しました。その中には、「先生、一週間遅かった。この前燃やしちゃった。そんなに大事なものならどうしてはやく来てくれなかったんだ」ということを、多くのお宅でうかがいました。活動が遅れたのは、災害が起こる前に、どのお宅に、どのような資料があるかという情報が、行政にも、私たち大学の歴史研究者に

(1) 歴史資料ネットワーク、および日本各地の史料ネットの活動については、奥村弘編『歴史文化を大災害から守る 地域歴史資料学の構築』東京大学出版会、二〇一四年、を参照。

もなかったからです。このような苦い経験を経て、災害が起こる「前」に活動をしなければならぬということに気付きました。⁽²⁾

皆さんもご記憶のことと思いますが、宮城では約四〇年周期で「宮城県沖地震」という大きな地震が起こっていました。二〇〇一年に政府の地震調査研究推進本部から、初めて発生確率が発表されたとき、「三〇年以内に九九パーセント」という数字が出されました。⁽³⁾ 確実に次の地震が起こるという状況でしたので、その対策ということで、二〇〇四年以降も活動を続けました。

ところで、私たちが「一軒型」調査と称する個別の家の保全活動に際しては、市販のデジタルカメラを全面的に活用して、確認された古文書などの歴史資料をすべて撮影するということをしています。なぜ全点撮影するのか、原本が災害などで失われたときに、写真が残れば、「何を書いてあったか」という、内容についての情報を守ることが出来ます。そのことと合わせて、写真帳を作成して、「いま」地域に暮らす所蔵者や地域の人たちが、祖先や地元の歴史を調べるための環境を整える。私たちの調査成果というのは、大学やNPOが独占するのではなく、地元の行政、宮城県の東北歴史博物館、宮城県教育委員会の文化財保護課の四か所、さらに所蔵者にすべて提供して、情報の共有を図っています。確認された歴史資料を皆で守り、活用していくための環境と、歴史資料の大切さについて共通認識を作ることを目的に活動しております。

二〇〇三年から五年がたった二〇〇八年六月一四日、前回の宮城県沖地震からちょうど三〇年と二日後に、岩手・宮城内陸地震が起こりました。このときには、五年間の活動の蓄積がありましたので、発生の当日から被災状況確認のための活動を始めることが出来ま

(2) 平川新「災害「後」の資料保全から災害「前」の防災対策へ」「歴史評論」六六六、二〇〇五年。

(3) http://www.jishin.go.jp/main/chousa/00nov4_2/miyagihm

した。被災した大崎市と栗原市で、四〇軒あまりの旧家を訪問して、被災した歴史資料を救済するための活動を行いました。この活動も含め、東日本大震災の前に、私たちが所在確認や「一軒型」調査のために訪問したお宅は、四一二軒にのぼっています。

その状況のなかで起こったのが、二〇一一年三月一日の東北地方太平洋沖地震——東日本大震災です。

(2) 東日本大震災での活動——村田町を中心に

地震により、東北大学にある宮城資料ネットの事務局自体が被災しました。私自身も直後から車中泊などで過ごし、その後は平川所長の自宅に避難させてもらい、その後で被災対応の活動を始めました。今でも活動が続いております。

今回の大地震では、特に津波により、多くの歴史資料が失われました。震災前、宮城県北上町（現・石巻市）の自治体史編さん事業や、その後の私たちの保全活動で調査した、石巻市雄勝町と北上町の事例もその一つです。両地区では、津波で地区の旧家八軒に残されていた、一万三〇〇〇点ほどの古文書が失われました。しかし、これらのデジタル写真データについては、仙台市で保管されていたものは被災を免れました。今回の津波被災地では、所在さえ把握されないまま失われた古文書も多数あるでしょう。石巻市の事例から、私たちはなぜ災害「前」に活動をしなければならないのか、活動の意義をもっとも悲しいかたちで知る事となりました。

その一方、流出を免れたものの、津波で被災してしまった歴史資料が多数あります。これらは、現在でも多くの市民ボランティアの方の協力を得て応急処置、それから撮影を続

けています。二〇一三年六月一日現在、一時搬出をとまなうレスキューを実施した所蔵者は七〇軒です。

村田町では二軒の所蔵者方で歴史資料レスキューを行っています。所蔵者と直接連絡をとったものや、村田町教育委員会の石黒伸一朗さんを通じて対応の依頼があったものです。

(3) 村田町やましょう商人記念館でのレスキュー

最初は、村田町やましょう商人記念館での大沼正七家文書のレスキューです。

大沼家文書については、私は二〇〇三年から古文書の調査に関わっていました。横浜市に在住されていた所蔵者の大沼正七さんとは、調査を通じて親しく交流していましたので、地震後、すぐに歴史資料レスキューの申し出をしようと考え、何度も電話をしました。が、なかなか連絡が取れませんでした。地震後初めて電話が通じたのは、三月二〇日前後だったと記憶しております。大沼さんからは、例年三月下旬に開催されている、「村田町屋の雛めぐり」の準備のため、地震の一週間前に村田町に出かけた際、記念館の仏壇に古文書があるのを見つけた、しかし別の機会に調査できるだろうと思って、そのまま置いてきてしまった、どうか何とかしてほしい、というお話がありました。この時点では、ガソリン不足もあり、自家用車で村田町も含めた被災地に出かけて活動することが出来ませんでした。ガソリン供給が安定した四月五日、現地に急行し、指示のあった文書をレスキューしました。

写真2は、仏壇の引き出しに入っていた文書をレスキューしている様子です。写真3は文書を記念館から運び出しているときの様子です。一見、ヘルメットにマスクの人たちが



写真3 やましょう記念館からの搬出



写真2 仏壇の古文書を取り出す

写っていて、何をしているのか、とも見えなくてもありませんが、大沼正七さんのご了承を得て、歴史みらい館の佐々木館長と石黒さんの立会いで搬出している様子です。

その後、文化庁による被災した歴史的建造物の調査事業で、土蔵から新たに古文書が見つかかりまして、二〇一一年七月に石黒さんから私たちの仙台の事務局に運び出されて、保全活動を行いました。

やましよ記念館での活動を通じて、震災前からのつながりが、災害が起こったとき、歴史資料を守るために大変重要であるということを知ることができました。

なお、私たちが村田町で「二件」対応しているというのは、宮城資料ネットが直接関わった案件、ということです。村田町では、教育委員会を中心に、行政が被災歴史資料のレスキューを精力的に進めています。村田町に限らず、今回のような大きな災害が起こると、行政の担当者がまず行わなければならないのは、避難所などでの被災者の対応や、給水その他ライフラインの確保に関わる活動です。その中で、石黒さんを中心に、被災対応の合間をぬって被災確認を続け、その後多くの貴重な地元の資料を、村田町歴史みらい館や、町内の保管場所に搬出をしています。村田町では、一九九四年度から、地元でどこに、どのような歴史資料があるかという調査をされていたことです。さらに、村田町歴史みらい館という、立派な資料館があります。施設があり、行政の担当者が被災した文化財への対応を積極的に行われたことで、地域の貴重な歴史資料が震災から守られ、次の世代に引き継いでいくことができるのです。私がいうのも何ですが、資料館があり、積極的な職員の方がいてよかったと思いますし、一連の活動に心から敬意を表したいと思います。

(4) 山田家文書の保全活動

私たちが村田町で被災歴史資料の救済に関わった、もう一軒のお宅が、山田家です。以下、いよいよ山田家文書のお話しをしていきたいと思います。

先ほど、私たちが、ある大学の先生が借りたままの古文書を、ご遺族に代わって元の所蔵者に返却する古文書返却事業を行っている、と紹介しました。

この事業が始まったのは、二〇〇七年のことです。残されていた未返却の古文書に、どの家の文書が、どのぐらいの量で含まれているのかということを、「一軒型」調査活動と同じやり方で行いました。全点をデジタルカメラで撮影した上で、すべての文書の目録を取ります。さらに、文書の内容にまで立ち入って、どの家の文書かということを確認しました。この中に、山田家の文書、二四点が含まれていたのです。そのことは、震災前の二〇〇八年一月には判明していました。しかし、山田家が現在どうなっているのか、私たちはどのようにして訪問すればよいのか分からないままでした。

山田家に訪問するきっかけとなったのは、東日本大震災でした。二〇一一年九月、被災した家屋を修繕するため、中に保管されていた山田家の文書が、村田町歴史みらい館に一次搬出されたという連絡を、石黒さんから受けたのです（写真4）。未返却のままになっていたもののほかにも、文書が残されていたことが分かりました。災害に対応した活動と、震災前から取り組んでいた、古文書を元の所蔵者の方にお返しする活動が、東日本大震災を契機に、一つの活動として取り組まれることになったのです。

早速石黒さんを通じて山田家に連絡を取っていただき、同年十一月に、まず未返却になっていた文書二四点を、山田家へお返ししました。その際、新たに確認された文書につ



写真4 一時搬出された山田家文書

いても、地元の貴重な史料で、かつ被災をしているということもあり、ぜひ私たちに保全させてほしいということをお願いしました。山田家のご了解を得て、保全のための活動を始めたのです。山田家文書については、石黒さんに立ち会っていただく形で、文書を仙台に借用して、全点を撮影しました。

今日のもう一人の報告者である小関悠一郎さんは、文書返却の段階から、山田家文書の保全活動に参加しています。このあと報告がありますように、江戸時代の書物や出版と、それを通じた社会思想の研究をご専門にされています。山田家文書は、そのような研究を行うのにふさわしい内容の史料を含んでいます。

その一方、撮影作業の全体は、基本的には古文書や歴史の知識がない、一般の市民の方にお願ひしています。私どもでは撮影マニュアル⁽⁴⁾をつくり、専門家の立場から、古文書を整理・撮影する際の最低限の約束事を示した上で、撮影にあたってもらっています。

村田町や、かつての仙台藩領に限らず、今でも各地にはたくさん歴史資料が残っている状況です。それらを、歴史の専門家だけで守り、将来に伝えていくのは不可能です。市民の力が、絶対に必要なのです。それでは、どのように市民の方々と協力して活動するか。私たちの研究所では、そのことが研究テーマです。そのなかで、山田家文書の保全活動をしました。

なお、山田家文書は、専用の封筒で整理し、保管箱に入れて、箱に入れて全点返却しています。私たちは今までの研究者とは違い、お借りして調べたものは、きちんと所蔵者にお返しする、ということを、信用していただくために申し上げておきます。

山田家文書の保全活動について、概要をご紹介します。期間は二〇一一年一月から二

(4) 歴史資料保全活動における古文書撮影マニュアル。
<http://www.miyagi-shiryomuseum.org/01/satuei04/satuei04.htm>

○一三年三月です。ちなみに、この間にはその他の文書に対して災害対応もしていますので、山田家だけでこれだけの時間が掛かった、ということではありません。この間の従事日数は三六日で、一日あたりカメラ三台ほどで撮影作業を続けました(写真5)。合計で約三万三〇〇〇コマとなりました。このデータは山田家に提供するとともに、利用のご許可をいただいたものについては、写真帳として印刷したものと、その基になったDVDデータディスクを、村田町にも提供しました。

歴史資料保全活動においては、史料の現物(原本)が、これからも末長く保存されていくことが最も大事なことです。その一方、東日本大震災のような巨大な災害を踏まえれば、記録したデータについても、国内や海外の研究機関などと連携しながら、地元の歴史資料を残していくということについて、検討を進めているところです。

少し前置きが長くなりました。山田家文書を調べるに至った経緯については、震災前からの様々な活動を通じて生まれた、人々の「縁」によっているのだということを知っていただきたいと思い、時間をとってお話しいたしました。

それでは、次に山田家初代・新五郎の軌跡について見てゆくことにしましょう。

二 山田家初代・新五郎の軌跡

(1) 新五郎、福井を出て遠刈田に至る

山田家文書の中に、村田町に移り住んできた、初代新五郎の事跡を記した『備後伝』という記録⁽⁵⁾があります(史料編「史料1」)。それによれば、山田家初代の新五郎は、初め「新



写真5 山田家文書の撮影作業

(5) 山田家文書 整理番号一八一二三(以下、山田家文書の整理番号は宮城資料ネットの保全活動に際して付したものによる)。

七」を名乗り、隠居してからは「備後」と称しました。彼は天文二〇（一五五二）年に生まれ、慶安元（一六四八）年に亡くなりました。数え年九八歳まで長生きをした人物です。

この『備後伝』という記録では、六代目新五郎——「致斎」という号を名乗ります——が——彼が自分の祖母から聞き取ったことをまとめた、ということ——です。その内容は、山田家が村田に来るまでの経緯とともに、村田町の、まさに報告のタイトルでもある「生い立ち」に関わっていると考えられます。初代新五郎の活動から、村田町の生い立ちを探ることが、これからの報告の主な内容になります。なお『備後伝』ですが、原本は難しい漢文で書いてありますので、私のほうで内容を噛み砕いて報告するというかたちにします。

初代の新五郎さんは、天文二〇（一五五二）年に越前の福井で生まれました。現在の福井県福井市に山奥町という地名がありますが、そのあたりの出身だとのこと。なお、これ以後山田家は自らの苗字として「福井」や「山奥」と名乗ることがあったことが、山田家文書から知られます。福井出身であるということ、後々まで意識していたのでしょうか。

『備後伝』によれば、彼は「剛直廉恥」、非常にまっすぐな性格で、恥を知ってわきまえた性格だったとあります。また、「力量絶倫」であつた。この後お話ししますが、非常な力持ちであつたと言ひ伝えられていました。それから、刀の目利きに優れる、ということも記されています。単に美術品としての目利きに優れていたのか、あるいは刀鍛冶をしていたか、今のところ不明です。刀の目利きだけでは生業にはならないと思いますので、おそらく鍛冶屋であつたのだろうと推測しておきたいと思います。

新五郎が、福井から今の宮城県に來たのは、天正年間（一五七三〜九二）です。天正「何

年」かということは記録にはありません。この時期に、蔵王にあった遠刈田金山に移住したが、金山が非常に賑わっているのです、そこで旅の商人として商売を始めた、という主旨の記述があります。

ここで問題になるのは、なぜ新五郎は福井から遠刈田に移住したのかということです。これは、福井から「出た」理由と、遠刈田で「迎え入れる」要因を考えることが重要になってきます。とはいえ『備後伝』には、そのあたりの詳しい事情は記されていません。時代状況から、私の推測も含めて考えてみたいと思います。

天正年間の福井——越前国での大きな出来事としては、室町幕府の守護大名以来の名門であった、戦国大名の朝倉家が滅亡するということが挙げられます。天正元（一五七三）年八月、織田信長の軍勢により、居城である一乗谷が落城し、朝倉家は滅びました。その二年後、天正三（一五七五）年には、織田家は越前の一向一揆を弾圧しています。北陸地方は、戦国時代は一向一揆のまさに中心的な地域でした。それに対し、信長は柴田勝家や前田利家といった有名な武將を配して一揆を弾圧し、越前を支配下に治めようとします。福井では、前田利家によって一向衆の門徒たちが多く犠牲になったということを記した瓦が出土しています。天正年間の福井は、地域が混乱する時期であったということが分かっています。新五郎はそれを避け、新天地を求めたのかもしれない。

それでは、遠刈田の金山になぜ来たのでしょうか。遠刈田温泉の近くには、今でも岩崎山という金鉱窟の跡が残っております。この金山については、伊達政宗が仙台城を築城するため採掘をしたところ、「慶長金」と呼ばれるような非常に大きな金塊を見つけた。それが、慶長六（一六〇一）年に築城された仙台城を建設するための資金になった、という

言い伝えがあります。江戸時代中頃に作られた、地元の地名や歴史をまとめた『奥羽観蹟聞老志』や『封内名蹟志』という記録には、天正から少し後の慶長年間（一五九六―一六一五）に、遠刈田で金を採掘していたという言い伝えが記されております。

金山の様子や政宗との関わりについても、同時代の確実な記録は今のところ確認出来ません。とはいえ、『備後伝』にある、山田新五郎が移住してきて商業をする、という記事は、当時の金山の繁栄を推測する手がかりになると思われます。先ほど述べましたが、『備後伝』は、享保年間（一七一六―一七三六）に、六代目新五郎が、祖母からの話を基に作成したものです。その祖母は、初代新五郎から直接話を聞いていた可能性が高いと考えられます。ある程度は信頼できる、重要な記録になってくると考えられます。

新五郎は、織田家の侵攻で混乱する故郷の福井を離れ、当時繁栄をしていた遠刈田の金山に移住してきた、という仮説を示しておきたいと思います。

ところで、先ほど新五郎が「刀の目利きであった」というお話をしました。山田家文書の中に、元和一〇（一六二四）年三月吉日の日付を持つ『分記論』⁽⁶⁾という、刀剣鑑定の秘伝書が残されています。文書には判子が押されていますので、初代新五郎が所持していた原本だと考えられます。実は、私たちが行っている被災歴史資料のレスキュー活動のボランティアに参加している、宮城県美術刀剣保存協会副会長の後藤三夫さんから、史料の意義についてご教示いただきました。『分記論』とは、正しくは『紛寄論』という表題で、豊臣秀吉や徳川家康に仕えた京都の刀剣鑑定家・本阿弥光徳の口伝を集めたものを伝授されたものではないかということです。

新五郎が暮らしたのは、戦国時代の終わりから江戸時代の初めです。この時代、刀とい

(6) 山田家文書二二四。

うのはもちろん武器として実用されています。その一方、美術品として名刀を鑑賞する、そのことに関わる免許を、新五郎は福井から遠刈田に移住した後で伝授されました。このことから、一六世紀から一七世紀の初め、村田町も含めた蔵王山麓では、刀を持った人がたくさんいて、その中で刀の目利きを楽しむような社会文化的な環境があったということが推測されます。

ちなみに『分記論（紛寄論）』ですが、日本の公的機関に所蔵されている本を調べるデータベース⁽⁷⁾がインターネット上に公開されていますが、それで検索しても、所蔵機関が四か所しか出てきません。場合によっては、今の日本に何冊残っているのか、そのようなレベルの刀剣書である可能性があります。詳細については、後藤さんを中心に調査をして、改めてご報告申し上げたいと思います。

(2) 新五郎、村田へ

遠刈田に移住した新五郎ですが、時期は分かりませんが、村田町に移り住みます。『備後伝』によれば、新五郎が遠刈田金山に住んでいた当時、金山の経営者である山師が、村田本町に住む遠藤藤八郎という人物でした。遠藤がどのような人物かについては、今のところ手がかりがありません。一方、金山を経営するには、大変なお金が必要です。戦国時代の終わりから江戸時代の初め、村田には金山を経営できる人が存在するほど、経済的に豊かな場所だったということを推測することができます。新五郎は、村田の遠藤藤八郎の家に「わらじを脱いだ」とあります。新五郎は村田に移住するにあたり、一旦遠藤家に落ち着き、その後で町の人間になっていきました。遠刈田金山を通じて村田と縁が出来て、

(7) 国文学研究資料館「日本古典籍総合目録データベース」
<http://basel.nijiac.jp/~tokoten/about.html>

移住してくるようになったのです。『備後伝』には、新五郎が村田で、刀の鑑定や農業に加え、清酒の醸造を始めた、それこそが村田町における清酒の元祖であるということが記されています。新五郎は一男一女をもうけ、村田町に定着していったとのことなのです。

(3) 村田での山田新五郎

村田に移住した後の新五郎について、『備後伝』は様々なエピソードを記しています。

① 大力の持ち主

最初は、力持ちエピソードです。ある日、新五郎は両脇と背中に、合わせて二石五升分の米俵を抱えて歩いていました。それを見た村田荒町の大沼将監という者が、新入りの新五郎というのはどんな奴だ、とも思ったのでしょうか、歩いている新五郎の上に飛び降りてきました。その重みで、新五郎の履き物の歯は折れてしまいました。下駄でも履いていたのでしょうか。しかし、新五郎は上を見上げただけで、米俵に加えて将監を乗せたまま、何事もなかったように歩いて行きました。大沼将監は、「計り知れない力だ」と感嘆して、ほほえんで去っていった、ということが書いてあります。なお、大沼将監についても詳細は分かりませんので、もし地元の方でご存知の方がいらっしゃれば教えてください。

新五郎の大力に関する話というのは、この後も引き続き出てきます。実は近年の江戸時代史の研究では、地域のリーダーの条件として、実際に力持ちであることが必要だった、あるいはその系譜を引いていることが重要であったと、小林文雄さんが論じられています⁽⁸⁾。それを踏まえれば、初代新五郎は力持ちであったということに加え、大力の者の系譜を引いているということが、その後、山田家の村田における社会的な地位に影響したので

(8) 小林文雄「通り者の世界と地域社会」岩田浩太郎編『新しい近世史五 民衆世界と正統』新人物往來社、一九九六年。

はないかとも考えられます。

② 足立村・西安寺との関わり

次が、足立村の西安寺との関わりです。新五郎は、村田に移住してから本願寺の宗派の者を度々訪ねていたと、『備後伝』に書かれています。西安寺については、「西窪」というところの「鰯夫」、独身の信徒であった円頂というものを訪ね、彼を越中国——まさに浄土真宗の本場を行脚させて修行させ、村田に戻ってきた円頂に「権宅」という僧名を名乗らせた上で、東本願寺から「西安寺」という寺の名前を得たとあります。

足立村と村田町は、戦国時代には一つの村だったという説が、江戸時代中期に編さんされた『封内風土記』という記録に載っています。新五郎と足立村との関係については、村田と一つの村だったかもしれない、ということを経証しているのかもしれませんが。ともあれ、浄土真宗の門徒にとって、寺院や道場というのは、信仰を超えた地域の核として、大変重要な施設です。これも私の推測になってしまいますが、新五郎は福井時代からの真宗門徒としてのネットワークを生かして、足立村の寺院を整備し、地域の核にしていこうとしたのではないかと考えられます。

③ 美酒を求めて——政宗に最上山形の酒を運ぶ

このあとの話として、村田の「当時之領主」が、その「仙台屋敷」で「国之大君・貞山公」、すなわち伊達政宗をもてなす事になった際のエピソードが記されています。

「当時之領主」ですが、新五郎が祖母から聞き取りをした享保年間の時点で分からなくなっていたようです。六代目新五郎は、天正一九（一五九一）年まで村田領主であった村田万好斎か、「宗高公」——寛永元（一六二四）年に蔵王の噴火を祈禱して鎮めたという

エピソードで知られる、政宗の七男・伊達宗高のいずれかではないか、と推測しています。宗高が村田領主であったのは、慶長一八（一六一三）年から、寛永三（一六二六）年の間です。

仙台の町が開かれたのが慶長六（一六〇一）年です。政宗は、寛永一三（一六三六）年に亡くなっています。「仙台屋敷」を、政宗の家臣たちが仙台北町に与えられた屋敷と解釈するなら、エピソードは仙台北町以降のこととなり、領主は伊達宗高のことかとも考えられますが、今後検討すべき課題です。いずれにせよ、当時村田を治めている領主が、その仙台屋敷で政宗をもてなさなければいけない。そういうことになりました。政宗を饗応するため、村田領主の家臣たちは、「最上」、現在の山形県村山地方までに酒を探したが、良いお酒が見つけれなかった。そうしている間に、政宗の来訪の期日が迫ってきた。そこで、仙台から新五郎に使いがやってきます。「最上で美酒を求めよ」。このような任務が、新五郎に与えられました。

政宗の名前を知らない方はほとんどいらっしゃらないと思いますが、自筆の手紙が一〇〇通以上、祐筆が書いたものも含め、四〇〇〇点以上の手紙が確認されているという、戦国大名のなかでは群を抜いて多くの手紙を書いた人物です。そのなかには、前の日飲み過ぎてしまって来客の相手が出来ないで、腹痛だともいっておいてくれ、という、酒の飲み過ぎによる失敗に関する手紙もいくつか残っています。非常に酒好きだったというエピソードが残っている人物です。村田の領主もそのことを知っていたので、政宗に美酒を飲ませようとしたのでしょう。

新五郎は、領主の命を受けて山形に急行しました。現地では七軒の酒造家を訪問し、う

(9) 仙台市博物館三原コレクション、「仙台市史資料 編一一 伊達政宗文書二」仙台市、二〇〇三年、所収。

まい酒か、まずい酒かを吟味して、これは、と思う酒を二樽買いました。そして、得意の大力を発揮して、樽を担いで、峠を越えて仙台へ持参し、政宗の来訪に間に合わせた。そのように記録されています。

政宗は新五郎が持参した酒を飲み、甚だ悦んだとあります。これはうまいと、お気に召したようです。二日酔いになったかどうかは分かりませんが。ともあれ、新五郎は褒美として屋敷の土地を拝領し、家の土地を拝領し、そこに家を建てた。そこには、六代新五郎の代まで引き続き居住している、とあります。現在の山田家のある場所かとも思いますが、政宗の求めに応じてうまく饗応できたということで、屋敷を建てるに至ったという事になります。

④ 酒造りの改良に取り組む

その後、山田家では酒造りの改良をはかったようです。新五郎が尊敬をしていたという、十介（十助）という人物を、故郷の越前から村田に呼び寄せました。この十介さんもまた非常な力持ちの人物だったようです。清酒を造る工程の一つに、発酵が終わった「もろみ」をしぼる、という過程があります。そこで大力を発揮して、濁った「もろみ」を非常にきれいなお酒にした、そのような清酒ができて、村田の人たちは驚き喜んだ、と記録されています。

再び私の推測です。村田の領主が政宗を饗応した時点で、山田新五郎はすでに酒造りを始めていたと考えられます。にも関わらず、領主は新五郎に最上で酒を探してこい、と命じました。これは、新五郎にとって屈辱だったのではないかと思います。政宗に饗されたのは、新五郎が造った酒ではありませんでした。そこで、故郷から親戚を呼び寄せ、そし

て清酒造りになお励んだ、とも解釈できます。

山田家は、村田で初めて酒造を始めた家だとされています。その山田家と政宗に関わるエピソードからすれば、今も続く村田の酒造りというのは、政宗との縁がきっかけだともいえます。一連のエピソードは、れっきとした享保時代の記録に残っておりです。少なくとも、山田家が政宗との関わりで褒美を得て土地を拝領し、その土地に屋敷を建てて酒造りを行った、ということは確かです。このことを、村田の酒造りの歴史に関わる知識として、記憶にとどめていただければと思います。

⑤ 晩年、死して後も

初代新五郎の晩年の話に入ろうと思います。寛永五（一六二八）年には、故郷の越前で旧知の人を訪ね、それから京都に向かっています。東本願寺では、浄土真宗の本尊である六字名号と九字名号を拝領しています。その後、伊勢神宮にも参詣しています。寛永一八（一六四一）年には妻を亡くした新五郎ですが、九七歳の時、息子の新五郎に正月に使うもち米をつくように依頼をした。そのときに米俵を枕のように放り投げてよこした、とあります。百歳近くになってもなお大力を発揮していたのです。

新五郎は、慶安元（一六四八）年三月に九八歳で亡くなります。その際、遺体を火葬した後の遺骨が硬く、遺族たちは、生前に力持ちだった人は違うものだと、子孫たちが話しかけたということです。

以上、エピソードなども含めながら、初代新五郎の軌跡を辿ってきました。史料に限りがあるため、多分に私の推測も含まれています。しかし、『備後伝』には、村田の酒造りという産業の成り立ちにも山田家が深く関わっていたこと、刀を鑑賞するという文化的な

営みの広がりといった、「村田町の生い立ち」について考えさせられる内容が、たくさん含まれているのです。

三 村田町、生い立ちの頃——山田家文書の概観

今まで述べてきた話というのは、六代目新五郎が、祖母から聞き取りをしたものです。六代目新五郎も、話の裏付けについては、周りの人に聞いてもよく分からない、という趣旨の事を記しています。それでは、現在残っている山田家文書の中に、初代新五郎も含めた、江戸時代初めの山田家の活動がどの程度うかがえるのでしょうか。

先ほど述べましたように、山田家文書については、現時点で確認された原本についてすべて写真撮影をしています。写真を見れば、その内容を調べる事が出来る状態ですが、今後は目録の作成などにより、活用しやすい環境を整えていくことが課題となります。ここでは、山田家文書を通じて、村田町の歴史を調べていくための手がかりとなるような文書を、いくつかご紹介したいと思います。

(1) 寛永一二年・仙台藩へ室役への納入

最初は、寛永一二（一六三五）年の文書です（史料編「史料4」）。初代の新五郎はまだ存命ですね。村田町の「室」四軒が仙台藩に役銭（税金）を納めた事に対する、仙台藩からの受領証です。江戸時代初期の古文書で、村田だけではなく、仙台藩の歴史を知る上で、貴重な史料だといえます。

文書は、仙台藩の役人から村田町の検断・掃部助という人に宛てたものです。「室」一軒あたり錢八七六文という税金を課しています。ここから、寛永一二年の時点で、村田町には山田家も含め四軒の麴屋（こうじ）が出来ていた、ということが分かります。しかも、役錢を徴収されています。麴は、日本酒造りには欠かせない原料です。ここから初代新五郎が村田で初めて行った酒造りが、寛永年間には地元の産業として根付いている、ということもうかがえます。

仙台藩の歴史を考える上で、寛永年間というのは、二代目の伊達忠宗が、その後の仙台藩の基礎となる様々な制度を整備した時代です。⁽¹⁰⁾ 税収の関連では、領内全域で検地を行い、年貢徴収の基礎を整えています。山田家文書に残る、村田町の麴屋に対する役錢の徴収に関する証文は、初期仙台藩における税収のあり方を考える手がかりになる史料だといえます。初期の仙台藩の税制度を考える上で、大変重要です。

(2) 村田町での酒造高

続いて、延宝七（一六七九）年村田町酒造石高を書き上げた史料が残っています（史料編「史料6」）。

一七世紀の後半、村田町では八軒の家で酒造りを営んでいたようです。合計の醸造高が八〇石余りと、さほど大きくはありません。村田町で作られた酒が流通した範囲は、村田町内とその周辺ではないかと推測されます。

八軒の酒屋の中で、「新五郎」すなわち山田家の醸造高は二四石余りで第一位です。第二位の家が約一八石です。山田家は、一七世紀後半の村田町で、一番の酒造家としての立

⁽¹⁰⁾ 『仙台市史通史編三 近世Ⅱ』仙台市、二〇〇一年。

場にあったようです。

(3) 川村孫兵衛への融資

天和二（一六八二）年、山田新五郎は仙台藩しゅつにやうづかきの出入司——他藩の勘定奉行、仙台藩のいわば「財務大臣」である川村孫兵衛らを通じて金八〇切を、藩に融資しています（史料編「史料5」）。「切」とは仙台藩の金の単位で、一切が一步です。四歩で二両になりますので、金二〇両と同額を融資したことになります。利息は月一步ですから、一か月あたり一・二五パーセントの利率となります。原本の右上が欠けていますが、おそらく山田家に所定の利子を加えて返済されたことを示すものと考えられます。

金一両の価値が、現在どのぐらいであるかということについては難しいところですが、一般には「一両＝一〇万円」といいますから、現在のお金で二〇〇万円くらい、ともいえますが、いずれ多額の融資をしていることを示す史料です。

川村孫兵衛という人物ですが、今の石巻市の礎を築いた人物として、名前を聞いたことのある方もいらっしゃるかと思います。伊達政宗に招かれ、石巻の開発や北上川の回収に取り組んだのは、初代の重吉という人物です。山田家の史料に出てくる孫兵衛は、重吉の婿養子の孫兵衛元吉です。現在の岩沼市早股付近などに所領をもっていた二代孫兵衛は、孫兵衛堀（仙台市）や伊豆野堰（栗原市）などの用水路や、海岸林の整備に尽力したと伝えられています。⁽¹¹⁾特に沿岸部の開発に関しては、東日本大震災を受け、慶長一六（一六一一）年に仙台領沿岸を襲った津波からの復興策であった、という見解も示されています。⁽¹²⁾

川村孫兵衛らを通じて、山田家から仙台藩が融資を受けたお金は、孫兵衛元吉が取り組

(11) 『伊達世臣家譜第一卷』宝文堂、一九七五年。

(12) 蝦名裕一「慶長大津波と震災復興」『東北学』二九、二〇一一年。

んだような、一七世紀後半における仙台藩での社会基盤整備に活用されたのではないかと推測されます。村田を超え、仙台藩領全体での資産家としての社会的立場を示している史料だといえます。

(4) 「売銭」への褒美

次の史料は、貞享三（一六八六）年の文書です（史料編「史料2」）。先ほどの川村孫兵衛らを通じて融資を行った直後のものになります。新五郎らに仙台藩から褒美が与えられたという内容です。村田町の新五郎と、山田家の一族と考えられる新九郎、清次郎が、「売銭」に尽力をして嶋紬と絹の織物を二反ずつ拝領しています。

この背景ですが、有名な「伊達騒動」という御家騒動があります。この時に幼いながら仙台藩主であったのが、伊達亀千代です。成人後は「綱村」という名前になりますが、その四代藩主綱村は、政治に熱心な人物で、様々な政策を行います。その一つが、藩札の発行です。領内に巡回している銭を藩側に集め、藩に集まった銭と引き換えることの出来る紙幣を発行して、財政の足しにしようとした。しかし、領民たちはそれを信用せず、かえって銭を手元に貯めこみ、信用を失った紙幣によって領内の経済が混乱した、とされています⁽¹³⁾。山田家の文書には、「売銭」が行き届かず、領民が難儀をしていたということが書かれています。「売銭」とは、おそらく紙幣を銭に引き換えることを指すと考えられます。領内では、実際には山田家のような資産を持つ家が、いわば銀行のような役割を果たしていたのだと思います。村田町では、山田家が役目を果たし、住民が藩札を持っていると、きちんと銭に換えてくれる、そのことで領民が安心して過ごしていた、というよう

(13) 伊東信雄『仙台郷土史の研究』宝文堂、一九七九年。

なことが書いてあります。一七世紀後半の山田家が、村田周辺の金融、経済の安定化に尽力していたということをうかがうことができます。

(5) 「立前」と「居懸」——江戸時代中期の村田商人

次は少し時代がくだりまして、宝暦二（一七五二）年二月の村田町の商人共からの願い出の文書です（史料編「史料15」）。

この文書では、村田の荒町や本町、「借屋」と肩書きがある商人三七名と村役人が連名して、市が立つ日には「立前」へ商人全員で出向くよう指示されている。しかし、それでは出かけている間に、村田で「居懸り」での商いが出来なくなってしまう。そこで、「惣町」から「振り代」として金銭を支払うことで代えてほしい、と願っています。

少し意味が分からない部分もありますが、「立前」とは、一八世紀初頭の仙台城下町では、町屋の軒先に設けられる仮設の店舗という意味で用いられている言葉のようです。⁽¹⁴⁾各地で「立前」での市が立つ際、村田の人々は出張を命じられましたが、それでは肝心の村田での商売に差し障るので、お金を支払うことで代えて欲しい、というのが大まかな意味です。

背景について十分に分析できていないところもありますが、この史料は、一八世紀半ば以降の村田の歴史を考える上で大変重要です。一八世紀の半ばには、村田の町場には、居宅で商業を営む人たちが増えていた。さらに、「荒町」や「本町」の肩書きを持つ、村田のいわゆる本百姓、家屋敷を持っている人たちだけではなく、近隣から転入したと思われる「借屋」の肩書きを持つ人たちが入っていた。その人たちが連名で、村田町の生業

(14) 水野沙織「仙岳院日鑑」から見える東照宮門前の諸相『市史せんだい』一五、二〇〇五年。

に関する願い出をしている。江戸時代中頃の村田町では、本百姓と借屋の人々が軒を並べて商業を営んでおり、町の共同体を構成していたことを示しています。さらなる考察は今後の課題となりますが、商業都市としての機能と、商家が集まるという、現在の村田町中心部のイメージに近いような景観というのが、一八世紀中ごろにはできていた可能性がある、ということを考える手がかりになる史料だと思われます。

(6) 江戸時代後期の商い——紅花と「のこぎり商い」

時代がだいぶ進んで、江戸時代の後期の史料を紹介します。史料編「史料8」は、現在日本を代表する総合商社として有名な三井と山田新五郎家が紅花の取引をしたという文書です。福島（福島県福島市）に支店のあった京屋という飛脚問屋を通じて、江戸駿河町（東京都中央区）の三井久兵衛に、紅花二二箇（六六〇キログラム）を出荷した際の証文です。江戸時代の村田の特産品といえば紅花、というのが第一に挙げられると思います。

江戸時代初期に酒造家であった山田家は、江戸時代後期には紅花商人として活動していました。江戸時代にもナンバーワンといえる商人であった三井と関係を持つほどの有力な立場にあったことがうかがえます。また、弘化四（一八四七）年の『紅花買入帳⁽¹⁵⁾』には、柴田郡の村々から紅花を買い集めていたということが分かります。詳細については今後の分析課題です。

また、村田の紅花商人が、京都など関西に紅花を出荷した帰りに、木綿や古着を仕入れて地元で販売していました。通称「のこぎり商い」と呼ばれますが、出荷と入荷の両方で利益を上げることです。山田家文書の中には、嘉永四（一八五二）年の『木綿古手

(15) 山田家文書二五―二二一。

店卸帳⁽¹⁶⁾のような、木綿や古手（古着）の在庫に関する史料があります。

今回の報告は、山田家文書にはどのような史料があるかということをお知らせすることが目的ですので、詳しい内容分析は今後の課題になりますが、江戸時代終わりの山田家が、村田商人のイメージそのままの、紅花商人として「のこぎり商い」に取り組んでいたことが分かります。

おわりに

山田家文書、特に初代山田新五郎の軌跡や、関連する文書の紹介を通して、「村田町、生い立ちの頃」について報告してきました。山田家文書の一六世紀終わりから一七世紀にかけての内容から、山田家の軌跡や山田家文書というのは、仙台藩の「生い立ち」を知る上でも、貴重な歴史文化遺産ではないかと考えられます。

ところで、村田町の歴史文化というところに「紅花」が出てきます。しかし、決して紅花だけではありません。この後、小関さんからも報告がありますが、山田家文書からも、村田町では多様な歴史文化が展開されていたのではないかと考えられます。

東北大学教授だった渡辺信夫さんは、宮城県の歴史文化に対する掘り起こしについて次のような文章を書かれています。「そこには自然と人間が共生する奥の深い文化があり、ロマンがある。我々はもつと自信を持って地域の資源を掘り起こし、他に知らせるべきである⁽¹⁷⁾」。これは、村田町の歴史文化についても同様だと思えます。今日参加されている市民の皆さんにお願いしたいことがあります。村田町では、これから国の重要伝統的建造物

(16) 山田家文書「五〇一―一〇一」。

(17) 渡辺信夫「歴史に学ぶみやぎの将来」『近世東北地域史の研究』清文堂出版、二〇〇二年、初出一九九九年。

群保存地区への指定など、国やその他「外部の人」たちから評価を得ていくと思います。そのことを、地元の歴史文化に対する拠り所とすることは、もちろんよいことだと思います。しかし、まずは地元の皆さんが、ぜひ故郷である村田の歴史を愛してください。地元の人が愛さない歴史に、私のような「外の人間」が愛着を持つことはありません。村田の歴史に自信を持って掘り起こし、どんどんアピールしていただければよいと思います。もちろん、そのことに対し、私も含め仙台の歴史研究者は協力を惜しみません。

最後ですが、山田家文書のなかに、江戸時代の蔵書の目録⁽¹⁸⁾があり、次のような事が書かれています。「神儒の書を大切にしない者は私の子孫ではない。私の子孫は、この本の一頁たりとも紛失してはならない。子孫たるものは書物をよく揃えて大切にしてい、自分のために読書を心がけなさい」。これを代々受け継いできた山田家のご当主には、大変なプレッシャーが掛かったのではないかと思います。しかし現代まで史料は受け継がれてきました。今後は、私や小関さんも含めた歴史研究者や村田町など山田家文書の保全に関わった人々、それから、今日山田家文書の事を知った皆さんに、そのままかえってくるものです。地域の史料を大事にする、私は、山田家や皆様に「この史料は大事です」と申し上げた以上は、山田家文書を活用し、将来に伝える責務を負ったと思っています。それと共に、山田家文書も含め、地元の史料は「みんなで」大事にしてい。そのことをぜひ訴えたいです。これにて、私の報告のまとめとさせていただきます。ご静聴どうもありがとうございます。(拍手)

(18) 山田家文書一八一四。詳細は本書小関講演録を参照。

山田家蔵書の世界

地域歴史資料としての価値

小 関 悠 一 郎

はじめに

皆様こんにちは。いま御紹介にあずかりました、小関と申します。佐藤さんの大変分かりやすいお話と熱いコメントの後で少しやりにくいところがありますが、思い返してみますと、ちょうど今から一〇年ほど前、初めて佐藤さんにお会いした時に、村田町に古文書があるから見に来ないかとお誘いを受けたのです。私が村田町に来て古文書を見たのは、その時が初めてということになります。それ以来、大沼家文書の調査に参加するなどして村田町の古文書に触れていたのですが、たまたま二〇〇九年四月から三年間、仙台に住んで研究をする機会を得ることができました。その間、東日本大震災があったわけですが、震災後の二〇一一年二月、村田の古文書について問い合わせがあるから一緒に来て見てみたらどうかと再び佐藤さんに誘われました。その時は佐藤さんの付き人のように付き従っていただけでですので御当主の御記憶にあるかどうか分かりませんが、初めて山



写真1 講演のようす

田さんのお宅にお伺いして、山田家の古文書類を見せていただいたんです。その際、印象に残ったのは、山田家には非常にたくさん書物が保存されているのだ、ということでした。その後、先ほど写真撮影の作業について紹介がありましたけれども、山田家文書の撮影作業に参加しまして、これはやはり山田家に残る本というのは非常に貴重なものだという思いを強くしたわけです。そのような経緯で、今回こちらでお話をさせていただくことになりました。先ほどのお話にもありましたように、今回、宮城資料ネットの資料保全活動を一つの契機として、山田家の皆さんや石黒さん・高橋さんをはじめとする皆様方のお力により、このような講演会が企画されたというのは私としては非常に画期的なことだと思っております。

一 地域の歴史叙述と山田家蔵書（文書）

いま画期的と申したのですが、書物も含めて山田家文書の保全を行い、そこから地域の歴史を改めて考えてみよう、描き出してみようという取り組みのどのあたりが画期的なのでしょう。そこで、プリントの一番のところにあたるのですが、山田家文書がこの村田あるいは柴田郡の地域の歴史を描くために、どのように用いられてきたのか、ということを確認しておきたいと思います。お手元に三枚の資料がありますが、基本的に一枚目のプリントに沿ってお話を進めていきたいと思います。

(1) 「郷土誌」と山田家文書

私も十分に調べ尽したといえないかもしれませんが、いろいろ調べてみますと、山田家文書を一番早い段階で地域の歴史を描くための資料として活用したのは、明治三六（一九〇三）年の『柴田郡誌』であると思います。この『柴田郡誌』では「村田町発達の由来」を示す史料として「町民山田某所蔵の記録」を参照し、慶長年間に山田家がここに移住したことに言及して、「当町はその頃より発達したるもの」だと書かれております。この『柴田郡誌』がどのような経緯でつくられたかと申しますと、例言にその経緯が書いてありますように、基本的に小学校教員の参考となるような郷土誌をつくるという目的で編まれたものなのです。つまり、小学校での教育という非常に実践的な目的をもって地域の歴史を描く、そのために山田家文書が活用されたわけです。その意味で、『柴田郡誌』は、山田家文書を地域のなかで活用しようとした最初の取り組みの成果といえるだろうと思います。

この本で山田家文書を活用することになった背景として見落とせないのが、当時の山田家の御当主の人柄であったように思われます。大正一四（一九二五）年にも『柴田郡誌』という同タイトルの郡誌がつくられておりますけれども、そこには当時の山田新五郎氏について次のように書かれております。新五郎氏は、温厚宏量な人格者であり、困窮者や移住者への支援（先ほど移住の話が出ておりましたけれども、明治時代になっても移住者が絶えなかった）、それから、一九〇三年の『柴田郡誌』の編集目的とも関わると思いますが、村治、すなわち小学校の創設や消防組織・産業改良・民風改善に力を尽くし、村会議員などをとめて、「村民の輿望」を担って尊敬を集めた。「本町切つての旧家山田家」が「地方の先覚者」を生み出したのだ、そのように書かれております。山田家文書が早くから地

域の歴史を描くために使われてきたのは、このような当時の山田新五郎氏の人格やその活動が地域の中で信頼を得ていたことも背景となっていたということになるかと思えます。

(2) 平氏の研究とその影響

(1)では地域の歴史を叙述するにあたって山田家文書が活用されたということを述べたわけですが、その後、山田家文書は、村田町あるいは柴田郡主体の歴史叙述とは少し異なるかたちで、アカデミックな歴史研究に結び付けられることになります。先ほどから何度か名前が出ている山田須敬という山田家第六代の当主が非常に学問に熱心で、多くの史料を残しており、それが、その辺りに関心を持っていた研究者である平重道氏の目にとまったのです。ただし、平さんの文章によると、平さんが山田家文書・山田須敬のことを初めから知っていて古文書を見せてくれと頼んだかというそうではない。実は当時、平さんは斉藤報恩会から支援を受けて、仙台藩の闇斎学派の儒者として有名な遊佐木斎の学問を研究しており、それが新聞記事に載った。その記事を目にした山田家当主の新五郎氏は、自分の家にある古文書の内容と平氏の研究内容との関連性を鋭く見抜き、平氏を訪問して山田家所蔵の古文書や書物のことを伝えたということです。つまり、当時の御当主は、自家にある古文書の内容をしっかりと理解されていて、それを仙台の研究者に自ら知らせに行ったのです。だから実は、山田家文書の活用の幅を広げるきっかけは、当時の山田新五郎氏自身がつくったものだったということになるわけです。ちなみに、その平さんの文章の中に柴田郡村田郵便局長山田新五郎という名刺を山田さんから受け取ったとありますけれども、その名刺が山田家文書にも残っておりまして、三枚目の右下にその写真を載せておき



写真2 27-7「手帳」に挟まれた名刺

ました（写真2）。そこには、郵便局長という肩書がありまして、これを見ますと、もしかしたら、当時の新五郎氏がこれとまったく同じ名刺を持って平氏を訪ねたのではないかなと思われて、感慨深いものがあります。

(3) 書物を含めた資料保全

このように山田家文書というのは、かなり早い段階から地域の歴史を描くために活用されてきたわけです。ところが山田家蔵書、先ほど大量の本があるということを申しましたけれども、山田家所蔵の本のほうがどのように活用されてきたかといいますと、これについてはほとんど活用されて来なかったといわなければならないのではないかな。いわば蔵書についてはその存在が知られながらも見過ごされてきたのではないかな、というふうに考えられます。

なぜそれほどたくさん本がありながら見過ごされてきたのか。いろいろな要因があると思うのですが、一つにはやはり書籍という史料の性格によるところが大きいと思います。そこでちょっとスクリーンのほうを御覧いただきたいと思います。この本は『本朝神社考』といって林羅山という儒学者が著したもので、山田家にはその刊本が全部揃っており、その一部分がこれです。二つ同じような画面が左右に並んでいるのですが、視力に自信がある方は、この二つを見比べてその違いを探してみてほしいと思います。すぐ気づくこととしては、左側にはシミが上部にあるということ。本当に目が良いかたは、この右下のところに虫食いがあるということが見えますでしょうか。こういうふうに、違いというところとそれくらいで、ここに伊勢という文字が見えると思いますが、字体も同じですし、ここ

の柱といわれる部分もまったく同じ模様であるということが分かります。この写真は、右側は山田家にあった本の写真なのですが、実は左側は古本屋さんのホームページにこの写真が載っていたのを、ちょっとお借りしてきたものなのです。どういふことかといいますと、山田家に所蔵されている本とまったく同じものが図書館とか資料館などに行って見られるというばかりではなくて、古本として売られている場合もある。ちなみにお値段は四万円ちょっとです。少し高いという気はしますが、頑張れば手に入れられなくもない値段でございます。そうすると私が頑張って四万円出せばそれを好きにできるということとして、そうしますと山田家の本の価値というのはどのくらいのものなのか。まったく同じものが売り買いされているという状況なわけです。そういうことで、書籍史料の一つの特色としては、まったく同じものが複数存在するということです。

それからこれも同じようなものを二つ出しておいたのですが、今度は内容に注目していただきたいのです。ここに本朝五岳と書いてあって、比叡山とか高千穂とか、また、天香久山といった地名が見えております。いま私が読んだところに山田家や柴田郡に直接関わる地名があるかという、直接には関わらない地名が出てくるわけです。そういうことで、書籍史料のもう一つの特色としては、その本がある地域にあったとしても、直接その地域に関わるものが、本の内容には書かれていない場合が多いということです。こういう史料の性格ですから、地域の歴史を描くに当たって、これがあまり重視されなかったというのは、ある意味では当然ということになると思います。実は、こういう書籍史料が見過されてきたということは何も山田家文書ばかりのことではありませんで、日本各地でもこれまでは同じようなものでした。それについては例えば次のような指摘がなされています。

「これまで、歴史研究において、書物や出版の問題は、ながらく等閑視されてきた。……史料調査の現場でも、——日本各地で史料調査が行われ文書の整理や目録の作成がなされてきたが——手書きの文書のみが重視され、書物はながらく目録の「雑」の部に入れられ分析の対象となつてこなかった」（若尾政希「特集にあたって」『一橋論叢』七八〇、二〇〇五年）と。各地で行われてきた史料調査で書物が出てきたとしても、それを重視した歴史研究がなされてきたかという点、必ずしもそうではなかったのです。

ところが最近では、このような考え方は大幅に見直されておりまして、書物を歴史資料として用いることで新しい歴史像を描き出していこうという試みがたくさん生まれてきております。こうした中で文書だけでなく書物まで含めて全点を撮影し、それを保存して後世に伝える。歴史資料の保全という観点から、山田家の蔵書資料をも保全活用していこうという宮城資料ネットの取り組みは、さまざまな書物に関わる研究が行われるようになった現在でも、ある意味では先駆的な意味をもっているのではないかと思つてゐるわけです。書籍史料に対する考え方が見直されてきたという状況と、歴史資料の保全という観点・活動とが相俟つて浮かび上がつてきたのが、山田家の蔵書であるということです。宮城資料ネットによつて先駆的な保全活動がなされた今こそ、山田家蔵書の価値を読み解いていく、そのような研究が必要とされているのではないかというふうに考えております。

保全から研究に至る過程については、先ほど佐藤さんの御講演の中で、袋づめや撮影作業がどのようになされたのか紹介がありましたので、そちらに譲りたいと思いますけれども、山田家文書の原状は、写真のように文書類を束ねて保管されておりました。ここに見えますように、その中に書物が紛れ込んでいる場合もありましたが、山田家の書物は基本

的には、蔵書としてかなり整理されたかたちで保管されていました。状態も良くて、たくさん虫食いがあるということではない。さらに江戸時代の本箱がそのまま保管されている、そういうものもございました。本箱の蓋を取ると本がきちんと積み重ねられていたわけです。こういう一点一点の書籍を袋づめして番号を付けていく。それに基づいてどこに何があるのかという目録をつくって把握し、そこから研究が始まるということになります。現段階ではこのような作業の途中ということで、今日は自分の覚え用につくった簡易目録に基づいてお話を進めていきたいと思っています。⁽¹⁾

二 山田家蔵書の世界

(1) 山田家の代々当主について

山田家蔵書とはどのようなものなのか検討する前提として、山田家の系譜を載せておきました。書籍史料を扱う場合には、やはり書籍というのは個人の性格とか趣味といったものを強く反映する資料ですので、山田家の代々の当主の名前、事績、生没年というのが重要になってくるわけです。ただ山田家の系譜を見ますと、先ほどから名前が出ております六代目の山田須敬さんという人、その下の七代目の山田新五郎さんのあたりまではよく分かるのですが、その後幕末期くらいまで十分に事績が分かっておりません。山田家蔵書を分析するにあたっては、そのあたりが少しクリアしなければならぬ部分だということのみ、ここでは指摘しておきたいと思います。

(1) 講演後、文書を含めた全点目録を作成した。本書「四 山田家文書目録」参照。

(2) 山田家蔵書の概観

それでは、山田家には実際どのくらいの本が残されているのでしょうか。あくまで概数なのですが、大体五一〇部一二〇〇冊ございます。これは他のところに残されている江戸時代の蔵書、例えば村役人であるとか、そういう家に残されている本としてはかなり多いほうであると思います。例えば三〇〇部七〇〇冊とかそういう数字がよく見る数字でありまして、山田家には大変多くの本が現在まで伝えられてきたといえます。それから刊本・写本の割合ですが、出版されたものだけではなくて写して読まれた本が非常に多いというのが、江戸時代の書物あるいは読書の特徴なのです。山田家の場合は、約一一〇〇冊対一〇〇冊と刊本の割合が相当大きくなっています。この意味についてはまだよく分かりません。

次にどのような本があるのかということ、極めて大雑把にジャンル分けをしてみました。そうすると、やはり儒学・漢学関係の本が圧倒的に多い。一六〇部五六〇冊。全体の半分近い本が儒学・漢学関係の本であるということです。漢学に含めてもいろいろな漢詩文関係が六〇部一八〇冊ですから、この二つを合わせますと二四〇部七四〇冊ということで、冊数で見ると三分の二近くを儒学・漢学関係の本が占めている。これはおそらく他のところの蔵書ではなかなかみられない非常に特徴的な蔵書構成であると思います。その次にまとまってみられるものとして手習・教訓書、寺子屋で学習に使うような往来物、文字の形や語句・言葉遣いを学ぶような手習いの本ですね。それに教訓書も加えておきましたけれども、それが約八〇部九〇冊。学習用ということでそれくらいある。それから、このまとめもやや乱暴なのですが、趣味に関わるものとして謡曲や読本、小説類が五〇

部一〇〇冊ということになります。それから暦や占い、天文といった本が三〇部四〇冊ということ、ある程度まとまっております。その他、神道・和歌とありまして、この神道というのは先ほどの質問にありましたが、実はやはり儒学と深く関わっております。といますのは、山田須敬さんが学んだ学問というのが、山崎闇斎やまざきあんさいという人の学問を中心としております。その山崎闇斎は朱子学者として知られている一方で、垂加神道という神道の創始者でもあったのです。そういうわけで、この神道というのも儒学と深く関わるかたちで読まれていたものであろうと思います。和歌も神道と関わっているものと考えられるかもしれません。それから医学書・本草書、薬の本とか医学の本が複数冊みられます。仙台の国分町の薬屋さんがいろいろなケガをした時の処方などを書いてくれたという本も残っております。それから小笠原流とか礼法の書物が何冊もあり、辞書や地誌類もあります。医学から辞書・地誌くらいまではかなり実用的な意味をもった、実生活で役に立つような本であるかと思えます。最後に囲碁、展示のところに棋譜が展示されておりましたけれども、これは今回の分け方というと、趣味の本ということになるのかどうか、おそらくそうなるのかなと思います。ともあれ、山田家文書は儒学・漢学の書が非常に多いというのが大きな特色でございます。

以上で全体を概観してきましたが、どういうジャンルの本があるのかというだけでは具体的なイメージがつかめないと思いますので、これからいくつか具体例を見ておきたいと思います。まず儒学関係から。これは、先ほどの闇斎と同じく朱子学者で知られています。林羅山が点を付けた『孟子』です。ここに朱熹という字があります。これが朱子学という時の朱子ですね。漢文で書かれたものです。同じように漢文で書かれた、これは『大学章

句』ですけれども、落書きのような書き込みがあるのが分かります。古びて見えますけれども、幕末期に使用された本であることが、後ろのほうの絵の書き込みで分かっています。以上二つは漢文のものですけれども、儒学書といっても何も漢文のものだけではなくて、この写真にはカタカナがたくさんあるのが分かんと思いますが、和文で書かれたものもあります。これにもやはりここに朱文公とあって、これが朱子のことですけれども、朱子学関連の本になります。これらのような儒学の基本書目は、一般的には一七世紀以降たくさん出版されております。この出版によってそれまで公家とか僧侶のみに学ばれていた朱子学的な知識を、その気になれば享受し得る。その気になっても金銭的余裕がなければ享受できなかったかもしれませんけれども、その気とお金があれば享受し得るような環境にしたのがこれらの本なのです。山田家蔵書の中にはこのような本が複数にわたり入っているわけです。そうしますと山田家の蔵書といえますのは一七世紀に日本史上初めて出版業が成立し、それを背景としてたくさん朱子学関係書も出版される。そういう一七世紀の文化動向を反映した蔵書構成になっているともいえると思います。

このように儒学関係、とりわけ山崎闇斎の本がたくさんあるわけですが、代々山田家の当主は、見てきたような難しそうな本を一人で読んだ、独学したのかというと必ずしもそうではありません。ここに『木斎先生論語講義』^{ゆきさい}というのを挙げておきましたが、先ほどから何度も名前が出ております遊佐木斎の講義を書きつけたのがこれでございます。遊佐^{ゆさ}木斎は山崎闇斎の学派の儒者なのですけれども、山崎闇斎の学派というのは講釈を非常に重んずる学派で、例えば先生が話したことをすべてノートにとる。先生が咳払いをすると、「ここで咳払いを一つ」というふうに書く。それくらいといわれていますので、もし山

田須敬もそのような態度を身に付けていたとすれば、こういうノートは遊佐木斎の講義を逐一書きとめたものとして非常に貴重なものであらうと思います。このような講義ノートは他にもありまして、例えば『神代卷講義』という神道の講義に關してみますと、「右講義八月十七日ヨリ廿六日迄ニ式十座ニシテ終ル。上卷十五座、下卷五座也。廿七日為伝授誓約人数左之通。／一、氏家甚藏（角田町） 一、阿子嶋彦次郎 一、同九郎次（白石） 一、山田屋新七 一、同新五郎（村田町）／ 右五人一所ニ誓約。」とあつて、この五人と一緒に誓約して「講師泥芽翁」から伝授を受けたということが書いてあります。山田須敬というと、遊佐木斎に師事して講義を受けたという印象があるわけですが、須敬が誰とどういうふうに学問をしていたのかということは、この本で初めて分かるわけです。それから、この一番下のほうは、「新庄儒師蘭谷先生」の講義ノートです。山田須敬は遊佐木斎だけではなくて蘭谷先生とか榴岡先生という人たちの講義も丹念にノートしていたのです。榴岡先生というのは、遊佐木斎の門人で、仙台藩の学問所の指南役になつた八嶋榴岡やしまりゅうこうのことであると思われます。以上のように、単に遊佐木斎との関係が明らかになるというだけではなくて、その門人たちがどれくらいの範囲でどのような関係を結んで学問に取り組んでいたのかということが、山田家文書・藏書をあわせた考察によつて初めて明らかになるのではないかと、ということでございます。

ここまでは難しい本の話だったのですが、次に手習いの本も見ておきましょう。この本には落書きのような書きつけがたくさんあることが分かりますが、『大坂状』といひまして、大坂冬の陣のときに徳川家康と豊臣秀頼がやりとりをした書簡という設定になっている往来物です。諸牢人を集めて籠城の用意云々などあつて内容も非常におもしろいので

すが、ここで注目したいのは、「持主山田屋門之助」と書いてあるところです。この山田屋門之助というのは、調べてみますと、須敬の実父・第四代当主新五郎（新七）の幼名であるということが分かります。ここには山田屋新四郎と読める文字もありますが、この新四郎というのは須敬のお兄さん、山田屋門之助の長男、若くして亡くなった第五代の山田新五郎であると考えられます。ということは、第四代の山田門之助は、一六四五年の生まれですので、この本は実は一七世紀の半ばという非常に早い段階で使われた本ではないかという推定が成り立つのです。さらにこの本は父子代々同じ本を使って手習いをしていたということも示しております。その意味でも非常に興味深い本であるということになります。さらにこの本が面白いのは、一番後ろに「十月 門之助、十二月 勘七、二月 たき助、……七月 三郎右衛門」というふうに月毎に人名を並べた書き込みがあることです。これが意味するところはまだ分からないのですが、もしかすると、月毎にこの人たちがこれを見て練習をしたとか、そういうことなのかもしれません。仮にそうだとすれば、この本は山田家の人だけではなくて、一族かもしれませんが、少なくとも当主だけではなくて、複数の人が共同で使ったものかもしれない。このあたり「見事」と読める文字もあります。この『大坂状』という教訓書は、このような書き込みがあることによって、非常に価値が高いであろうと思います。

さていま、山田家の当主の話をしましたが、山田家蔵書を検討すると、他にもこれまで分かっていなかった山田家当主に関わる情報がいくつも含まれていることが分かります。この和歌の本には「享保七年貞愛十五歳」と書いてあります。これは第七代の当主である貞愛のことだと思いますが、そうすると生没年が分かっていた貞愛ですが、



写真3 13-66「大坂状」

この記述から一七〇八年生まれだろうということが考えられるわけです。それから、これは『西銘』という儒学関係の本ですけども、そこに持ち主・山田屋貞義、その隣に山奥貞生とありまして、二人の人が持っていたのかなと思うのですが、その左を見ると「須敬、先に諱貞信という。或いは貞義という。又貞生という」とありまして、致斎とか新五郎として知られてきた山田須敬が、こういうふうにも何回も名前を変えていたということが分かるわけです。このように見てきますと、例えば先ほど趣味の本といたしましたけれども、謡曲の本なども、山田家当主の事績を証明する史料になります。ここに「明治二三年」とありまして、この明治二三（一八九〇）年というのは、先ほどの大正一四（一九二五）年の『柴田郡誌』で伝えられている山田新五郎氏の活躍した時代であったと思いますが、その『柴田郡誌』に山田新五郎氏の趣味は謡曲であるというふうに書いてあります。この謡本の存在によって、この記述が確かに当たっているということが裏付けられるわけです。

このように山田家蔵書を見ると、他のところに同じ書籍があるといっても、やはりそれぞれの本に一つ一つ個性があって、私たちはそこから様々な情報を読み取ることができるといえます。

(3) 致斎山田須敬の蔵書目録

ここまでは山田家蔵書の概観なのですが、では、いま山田家に残されている書物一点一点が、いつ山田家に入ってきたかという点、これを全て明らかにすることはできません。ということは、もしかすると、例えば明治時代に山田家が古本屋から江戸時代の版本を大量に買ったということも考えられなくはない。そもそも江戸時代には、山田家の蔵

書はどのくらいあったのだろうかということになるわけですが、その際に参考になるのが、享保一〇（一七二五）年頃に作られた山田家の蔵書目録です。「書籍目録」という表題があり、目録の内容は大体この写真のように書かれているのですけれども、お手元にご覧いただいた内容に基づいた山田家蔵書目録の一覧表⁽²⁾をお渡ししてありますので、そちらを御覧の傾向を考えてみましょう。目録の冒頭には『小学』・『近思録』・『四書』・『五経』などの書名が見えておりますが、表では水色の印をつけた儒学関係の書物がやはり非常に多い。これに漢詩文と神道を加えると、その大半を占めるということです。それから和歌・紀行文・医学、医学関係の本は今より少し多い割合含まれているように思われます。数はどうだったかといいますと、蔵書目録の一番左に番号が付けてありますが、一応四〇九部ここにあります。蔵書目録の一一三番と一一四番の間を御覧いただきたいのですが、「右者正徳五乙未年六月改之候 山田須敬」とありまして、ここより上は正徳五（一七一五）年にあつたものということになります。他方、例えば八ページ目の三五三番には延享三年というふうにあります、これが一七四六年。この目録は享保一〇年頃にできたのですが、おそらくその後に入ってきたものを書き加えていったのではないかというふうに考えられます。これらのことを勘案してみますと、山田家の蔵書数は、正徳五年の改めの時に少なくとも一・一三三・三九四冊はあり、おそらく実際はそれ以上あつたものと考えられます。それが延享元（一七四四）年頃には約四〇〇部一一〇〇冊に増加したということになります。この目録には重複して書かれているものもありますので、それを加味しなければならないため、もう少し部数は減るかもしれませんが、この一八世紀半ばには、いま残されている

(2) 五九頁以下に当日配布した一覧表を掲載した。



写真4 18-4「書籍目録」

冊数とはほぼ同じくらいの冊数が山田家にあったということがわかります。以後、売却・購入等を経て現在の蔵書構成になる。だから大まかな蔵書構成の傾向は、やはり山田須敬がつくったことだと思います。それは、やはり蔵書目録をみると、須敬が買い集めたものが大半を占めるということにも示されております。

ではこの大量の本を山田須敬はどこで入手したのかというと、実はこの書籍目録は、それについての情報も豊かに含んでおります。表の右側から二つ目に入手先という項目がありますけれども、そこに例えば「江戸ヨリ調」とか「仙台ニテ調」というふうに書いてありまして、江戸から取り寄せた、あるいは仙台に行つて買ったというようなことが分かります。また京都もよく出てまいります。正徳五年改め分までを見ますと、仙台で買ったものの四二、江戸三四、京都一三で、やはり仙台が一番多く、江戸がそれに続き、京都も一定数を占める。その後、全体を通してみますと、判明するものだけですが、仙台九〇、江戸六一、京都四一、その他二四ということ、やはり似たような傾向にあります。ただ、遊佐木斎の門人からもらったというものを仙台で手に入れたと数えるかどうかとか、いろいろ考え方ありますので、この数字もあくまでやすでございます。

ではどうやって入手したのかということを見てみたいと思いますが、「仙台ニテ調」とあるものはおそらく自分で仙台に行つて買ったということで、あるいは京都で買ったものもあります。それから「京都ヨリ」とあるものは京都から取り寄せての購入であった。そのような購入法が基本だったと思います。ただそれに加えて、黄色い印がついているのですが、例えば三ページ目の一二〇番を御覧いただきますと、「江戸ヨリ木斎先生江参候ヲ蜂屋先生為御知ニ付望申上調申候」とあり、江戸から遊佐木斎のところに届いた本を、

木齋門人で須敬の師匠格であった蜂屋氏を通して手に入れたことが分かります。そういうことで、やはり遊佐木齋の門人としてのつながり、文人的なつながりに依拠して手に入れるということがあったようでございます。それから、例えば三枚目の二八五番をみますと、「京都へ猶子大沼氏観光ニ詔遣候処、土産物ニ貰」うということで、猶子であったということなのですが、その大沼氏が京都に観光に行った時に頼んで、土産物として『易経本義』をもらった。土産としてはとても難しいものをもらっているのだなと思いますけれども。それから次のページにいきまして三五二番をみますと「仙城南町大和屋久四郎殿より長崎ミやけニ貰候」ということで仙台の知人、関係人物から長崎へ行ったときの土産として『松前風土記』という本を貰ったようです。このように書物が土産として入ってくる、そういう場合もあった。それから少し戻りまして三〇二番、三〇三番あたりをみますと「角田松岡氏ノ本」、これは左をみますと「古本ニて五匁五分ニ調求候」ということで、松岡氏から買い求めたということです。その下をみますと「右ハ同人ノ本、角田へ相返ス」ということが書いてありまして、これは松岡氏に借りてそれを返却したということで、借用したり筆写したり、もしかすると貰ったということがあったようです。それから、その下の三一九番のところをみますと「当地正眼庵柏英之相払度由ニ付買求候」ということで、地域のなかの蔵書家がそれをまとめて売りたいなくなったということで、それを全部まとめて引き取るというかたちで、仙台や江戸で買うのとは別に地域のなかで書物が売り買いされている。それを集積していったということになるのかもしれませんが、そういう場合もありました。二七三番『普救類方』ふきゅうるいほうという医学の本に関しましては「同氏三人寄合ニ調置候」ということで、同氏ということは山田氏だと思いますので、山田氏の一族三人が共同で購

入をした。そういう事例もございます。書物による知というのは、山田家だけがその財力で手に入れて独占したという性格のものばかりではなくて、地域で貸し借りをしたり一族で共同購入をしたり、地域に開かれた側面も一定度あったということが、ここからいえるだろうと思います。

最後に二つお話をしたいと思います。一つは山田須敬さんが山田家蔵書の中核を形づくったことは間違いないのですが、それ以前はどうだったのかということです。一七世紀段階で山田家に本はあったのかということ。もう一つは山田須敬が、あんなにもたくさんの本を買って勉強して、それをどのように生かしていったのかということを手短になります。最後に話したいと思います。

(4) 「旧より在来ル書」

山田家蔵書が一七世紀段階でどのくらいあったのかということにつきましても、蔵書目録が参考になります。この赤線を引いたところ「旧ヨリ在之」と書いてあります。そういう記述が蔵書目録のなかに七、八件出てきておりまして、表に緑の色を付けておきました。一ページ目から全ページにわたって一つか二つずつありますので御参照ください。表も参照しながら現在の山田家蔵書に目を向けると、須敬以前からあったものだろうと考えられる本がいくつか浮かび上がってきます。例えば、寛永一五（一六三八）年、二条の仁左衛門という刊記を持つ『聚分韻略』しゅうぶんいんりゃくという本には、蔵書目録に書かれているのと全く同じように「旧より在来ル書也」という書き入れがあります。一七世紀の前半に刊行された本が、おそらくかなり早い段階で山田家に入ってきたものと考えることができそうです。そこ

で、書籍目録上で「旧ヨリ在之」などとされるものと、須敬以前から伝えられたと考えられる現存の本を整理してみました。蔵書目録上の古くからあるとされる本が左側、現存のもので昔からあったという書き込みがある本が右側でございます。山田須敬があんなにも儒学を勉強する以前、山田家はどのような本を持っていたのか。『御国中郡村附ケ』というのは、おそらく仙台藩領の村の名前を書き上げたものであろうかと思えます。これには教育的・実用的な意味合いがあったかもしれませんが。それからその下の『産前後葉方』『中條産之医書』、これは医学関係の本になろうかと思えます。『平家物語』『曾我物語』のような軍記物といわれるような書物が入っていることも注目されることです。この軍記物につきましては近年、江戸時代の人々の常識とか意識のあり方に非常に大きな影響を及ぼしたことが知られてきておりますが、まさに同じように山田家の当主も軍記物を読んで、いろいろなことを考えたのではないだろうかということです。それから先ほどの佐藤さんの御報告にも刀剣の話がありましたが、それに関する本、『刀目利本』『鍛冶番次第』『鍛冶番次第目録』というのが入っております。これについては現物もしつかり残っております。これに先ほどの『分記論』を加えると、一七世紀段階の山田家蔵書の一つの特色は、刀の目利き本や「鍛冶番」、これは各国の鍛冶の系譜などが書いてある本ですけれども、刀剣関係の書物の存在にあるかと思えます。先ほどの佐藤さんのお話にも出てきましたが、山田家初代の備後さんが好んで刀剣の火床（ほど）を弁じたという家譜の記述、初代の備後が亡くなってから六〇年くらいあとの史料に出てくる、備後が刀剣に詳しくあったのだという須敬のおばさんの話が、やはり本当らしいということが、この書物の存在によって証明されるということになるかと思えます。

(3) 若尾政希「『太平記読み』の時代」(平凡社、一九九九年)。

「書籍目録」上の 旧蔵書

- ・御国中郡村附ケ
- ・産前後葉方
- ・刀目利本
- ・平家物語
- ・曾我物語
- ・中條産之医書
- ・利名集
- ・鍛冶番次第
- ・鍛冶番次第目録

現存する旧蔵書

・聚分韻略 (4-14)

※寛永15年1月、二条 仁左衛門刊、「旧ヨリ在来ル書也」/致斎須敬(後表紙)

・鍛冶番 (8-78)

※刊本、「彦兵」(末尾)、「旧ヨリ在来候書物也。此外目録書一冊有り」(後表紙見返し)

・〔刀目利本〕(13-63)

※刊本、寛永2年跋、「久信(花押)」(末尾)、「彦兵衛」・「旧ヨリ在来書也。此外鍛冶番一冊有別 須敬」(後表紙見返し)

・大坂状 (13-66)

※「持主山田や門之助」「山田新四郎」(表紙見返し)、「山田屋周蔵」(末尾)

一致

六代須敬によって現在の蔵書構成の基礎が形づくられた山田家蔵書ですが、以上のよう
に、そこには、例えば初代備後の事績と密接に関係しその関心をよく反映した書物が含ま
れているわけです。その意味で山田家蔵書は、近世前期以来の村田商人の〈知〉の実像に
迫り得る史料なのだというふうに思います。

そして、須敬以前から徐々に蓄積され始めた山田家蔵書が、須敬の集書活動とも相俟つ
て増大し、蔵書目録をつくって管理しなければならない程の量になったのが享保年間であ
る、ということになります。この享保年間には、山田家以外にも各地で蔵書目録がつくら
れるということが、横田冬彦さんらによって指摘されております。⁽⁴⁾ なぜかというところ、やは
り先ほど儒学書のところでお話しましたが、一七世紀になって三都で本がたくさん出版さ
れる。それが各地に少しずつ広がって、おそらく山田家にもそこで出版されたものが届い
ていたのだと思いますが、書物が蓄積されてそれが一定量に達するのが享保年間である
ということです。それが家産として継承されていく。このように、村田商人の〈知〉が全国
的な動向と共通する側面を持つていることも見落とせない点だといえましょう。

(5) 致齋山田須敬の学問と実践

最後に山田須敬の学問についてお話しします。これは先ほどから何度も出ておりますが、
蔵書目録の最初の部分です。ここに「神儒ノ書ヲ尊信セザレバ、則チ我が子孫タルベカラ
ザルナリ」と書いてありますが、山田須敬は神儒の書を学ぶことによって何を解決しよう
としたのでしょうか。その手がかりの一つが、次のような記述であると思います。「一度
政教を失えば、天下は仏教の邪説に惑い靡いてしまっただろう。甚だしくは父祖の遺体を火

(4) 横田冬彦「近世の学芸」(『日本史講座』第六卷、
東京大学出版会、二〇〇五年)。

葬し、子孫を不幸の罪に陥れてしまうことになる。私は幸いにも正道に志し目を覚ますことができたが、祖先の火葬のことを思うと悲痛嘆息しないことはない。記して子孫に伝える」とある。山田須敬の学問は、単に学説を弄ぶというものではなくて、自分のとっている信仰態度や習俗が正しいのかということを深く考えて、それを変えていこうという、そういう意味を帯びたものであったことが分かります。火葬するのは罪だということが書いてあるわけですが、さすがにこういうことをいっているわけですから、須敬の読書は最初、地域の人々に訝しまれた。「以テ迂トナシ、以テ狂トナス」というように、村田の人々は、須敬を迂遠なことをする狂った人だと見ていたのです。江戸時代には、百姓に学問は無用だという見方もありましたが、須敬は自分がこのようにいわれるのは、人々が仏教の邪説に惑っているからだと言っています。ところが、先ほどの文には続きがありまして「今也、却テ書ヲ読ミ、後遂ニ怪シム者無シ。唯書ニ基クノミ也」と須敬は書いておられます。須敬のひたむきな学問姿勢がそうさせたのか、当初は怪しんでいた地域の人々も、かえって自ら書を読むようになったというのです。詳細については今後の検討課題ですが、こうして人々の信頼を得た須敬の学問は、幕末にまで受け継がれていきます。幕末の当主が読んで勉強したとみられる、この『孟子』のような儒学関係の書物がそれを示しているといえましょう。

最後に思い出していただきたいことは、一番最初の『柴田郡誌』のところで申したのですが、幕末期に生まれた山田家の山田新五郎氏が非常に地域の人々の信頼を集めるような人格者であって、実際にその地域をより立てていくような活動をいくつも行った、先覚者といわれるような人だったこととございます。これは今後考えなくてはいけないことでも

ありますが、やはり山田新五郎氏がそのような人格者であったということ、儒学を含めた学問的な素養や環境が山田家にあったということとは、おそらく切り離せないことなのではないでしょうか。したがって、今述べたような須敬の学問的取り組みは、学知とリーダーとしての資質を後世の村田に伝えていくことになった、と考えられるのではないかと思います。

おわりに

江戸時代には儒学が社会に浸透していたかという議論がありまして、よくよくみるとそれほど儒教的な社会とはいえないのですが、それでも一八世紀半ば以降になりますと儒学に関心をもつ人たちが、武士あるいは民間にたくさん出てまいります。山田家蔵書からみえてくる山田家当主の学問的営為は、そうした一八世紀の儒学の比重が高まっていく動向、そういった人々の学問への関心の高まりを先駆的あるいは象徴的に示す事例であるということができるかもしれません。したがって山田家蔵書は一七世紀の村田商人のような人の知識や技能のありかた、教養のありかたを示すと同時に、一八世紀半ば以降の儒学をはじめとする学問が地域の人々にとってどのような意味をもったのか、そういうことを読み解くうえでも大変貴重な地域の歴史資料であると思います。そのことを指摘しましてお話を終えたいと思います。どうもありがとうございました。（拍手）

別表：山田家蔵書目録（山田家文書18-4より作成）

	書名	入手先	M17改	冊数	注記	形態	売却等	備考
1	小学	江戸ヨリ調	○	式冊				
2	近思録	江戸ヨリ調	○	五冊				
3	四書	仙台ニテ調		十四冊				
4	五経	仙台ニテ調		十冊				
5	神代巻口訣	江戸ニテ調	○	五冊			新五郎二渡 (見消)	
6	文会筆録	江戸ヨリ調	○	式拾八冊				
7	朱書抄略	江城ニテ調	○	五冊				
8	程書抄略	江城ニテ調	○	三冊				
9	張書抄略	京都より(抹消)	○	壹冊		写本		
10	周子書	京都より調候木斎先生ノ書也		壹冊				
11	周書抄略	京都闇斎先生	○	壹冊		書本		
12	大学衍義	江戸ニテ	○	式拾冊	内三十ノ三十一壹冊不足			十九冊次在
13	西銘	木斎先生ノ書之也		壹冊附録		書本		
14	春秋左氏伝	仙ニテ		拾五冊				
15	鬼神集説		○	壹冊				
16	玉山講義附録	江城分	○	五冊				
17	大和小学	江城分	○	五冊				
18	八景詩	京分	○	壹冊				
19	山北記	京分	○	壹冊				
20	朱子読書之要	京分	○	壹冊				
21	五友詩	京分	○	壹冊				
22	朱子奏簡	京分	○	壹冊				
23	陳了翁責沈文	京分	○	壹冊				
24	初学知要	仙府ニ而	○	三冊				
25	改元考	仙府ニ而		壹冊				
26	大家商量集	江戸にて	○	式冊				
27	朱子知行書	京都分	○	壹冊				
28	経石考		○	壹冊				
29	堯曆	江城ニテ	○	式冊				
30	浩範全書	江城ニテ	○	六冊			新五郎ニ遺 候(見消)	
31	中臣祓	五城ニテ		壹冊				
32	雲谷記		○	壹冊				
33	朱子訓子帖		○	壹冊				
34	中和集説		○	壹冊				
35	孟浩録		○	壹冊				
36	孔子生卒考			壹冊	木斎先生ノ作			
37	孝子伝			壹冊	木斎先生ノ御作			
38	変生抄			壹冊	木斎先生ノ御作	書本写		
39	白石翁伝			壹冊	木斎先生ノ御作			
40	大石忠死論			壹冊	木斎先生ノ御作			
41	遂生論			壹冊	木斎先生ノ御作			
42	会講私記			壹冊	木斎先生ノ御作			
43	童蒙須知			壹冊	惺斎先生ヨリ本書ヲカリテ 写			
44	詩文ノ法并官 位唐名			壹冊	惺斎先生ヨリ本書ヲカリ得 テ写			
45	小学四書文字 正誤			壹冊	惺斎先生ヨリ本書ヲカリ得 テ写			
46	古曆便覧	江城にて		壹冊			享保卯霜月 十八日貳ニ 仙府へ遺之	
47	三代記并年号			壹冊		書本也		
48	和歌テニヲハ ノ書			壹冊		書本也		
49	御国中郡村附 ケ			壹冊	旧ヨリ在之	書本也		
50	産前後薬方	左ニ記中条ノ本也		壹冊	旧ヨリ在之	書本也		
51	俗説俗説弁	江城ニ而		拾冊	内俗説弁七冊		弘仙へ、十 八日遺之	
52	訓蒙図彙	江城ニ而		八冊				
53	童子訓	江城ニ而		五冊			弘遺	
54	或問銘	江城ニ而		六冊				
55	用字格	江城ニ而		式冊			弘ニ遺	
56	聖学道統伝			壹枚	木斎先生ノ選			
57	四書大全	五城にて	○	式拾式冊				

	書名	入手先	M17改	冊数	注記	形態	売却等	備考
58	四書便講	江戸にて	○	六冊				
59	字彙	江戸より	○	拾五冊				
60	古文前後集	五城にて	後集失ス 後集は大谷□氏 々(抹消)	五冊			新五郎二渡	
61	千家詩	五城にて		三冊	内草書式冊		壹冊物、新 五郎二渡	
62	歳時記	五城にて	○	七冊				
63	家礼	江城にて		三冊				
64	關異	京洛分	○	壹冊				
65	再遊紀行	江城にて	○	壹冊				
66	遠遊紀行	江城にて	○	壹冊				
67	孟子要略	江城にて	○	壹冊				
68	易学啓蒙	江城にて	○	式冊				
69	孝経刊誤	五城にて	○	壹冊				
70	孝経外伝	五城にて	○	壹冊				
71	訓蒙詩	五城にて		壹冊				
72	朱子行状	江城にて	○	壹冊				
73	仁説問答	江城にて	○	壹冊				
74	大学記聞	江城にて	○	三冊				
75	四書序考	江城にて	○	四冊				
76	近思録句解	江城より	○	拾冊				
77	四箴附考	五城にて	○	壹冊				
78	不許友以死説	五城にて	○	壹冊				
79	冲漠無朕説	五城にて	○	壹冊				
80	致斎箴	五城にて	○	壹冊				
81	学規		○	壹冊				
82	性論明備録		○	壹冊				
83	拘幽操 (附録共二)		○	式冊				
84	三体詩	五城にて	不足	三冊				
85	三体詩抄	五城にて	十冊 三冊求	拾三冊				
86	書経集注	五城にて		六冊			弘二遣候	
87	古今和歌集	五城にて	○	式冊				
88	天象列次図	江戸より		壹軸	安井算徹ノ作			
89	和漢名数	五城にて		壹冊		小本也	新五郎二遣 ス	
90	官位小鏡	五城にて		壹冊		小本也		
91	点例	五城にて		式冊		小本也		
92	経書字弁	五城にて		式冊		小本也		
93	何物語	江戸より	壹 式	三冊				
94	小児必用記	五城にて		六冊			弘二遣候	
95	四書裡諺抄	五城にて	九冊失ス	拾冊				
96	華夷通商考	五城にて	○	五冊				
97	韻鏡	五城にて	○	壹冊				
98	尺牘双魚	五城にて	○	四冊				
99	大学金鑑抄	五城にて	○	七冊				
100	梅花心易	江戸にて	○	壹冊				
101	小学示蒙句解	江戸より	○	拾冊				
102	天文指南抄	五城にて	○	五冊				
103	西銘講義	京都分		壹冊				
104	鎌倉紀行	江戸分	○	壹冊				
105	三重韻	五城にて	○	壹冊	外ニ正俗字例有			
106	小字彙	五城にて		式冊	内一冊角田権四郎殿へ進候			
107	以呂波韻	五城にて	○	壹冊			新五郎二遣 ス	
108	五経字引	五城にて		壹冊				
109	朗詠集	五城にて	○	式冊				
110	近対集	五城にて		四冊				
111	刀目利本			式冊	旧ヨリ在之			
112	塵劫記	五城にて		壹冊	手前ニ有リ	板行物	新五郎二遣 ス	
113	大学 道春点			壹冊				
右者正徳五乙未年六月改之候(山奥氏)山田氏須敬 ※正徳五年=1715								
114	周室并列国系 譜略			壹冊		書本也		
115	広東演説記			壹冊		書本也		
116	義経論			壹冊	先生ノ作	書本也		

	書名	入手先	M17改	冊数	注記	形態	売却等	備考
117	重盛論			壺冊	先生ノ作	書本也		
118	梅花心易掌中指南	仙台ヨリ調申候		五冊				
119	助語辞	仙台ヨリ調申候	○	壺冊				
120	続垂加文集		○四	五冊	江戸ヨリ木斎先生江参候ヲ蜂屋先生為御知ニ付望申上調申候			
121	講学鞭策録	京都ヨリ相調候	○	壺冊				
122	排積録	京都ヨリ相調候	○	壺冊				
123	刑経	京都ヨリ相調候	○	壺冊				
124	城南雜詠	京都ヨリ相調候	○	壺冊				
125	増損郷約	京都ヨリ相調候	○	壺冊				
126	夜寝箴	京都ヨリ相調候	○	壺冊				
127	社倉附考	京都ヨリ相調候	○	壺冊				
128	武銘	京都ヨリ相調候	○	壺冊				
129	石摺	京都ヨリ相調候		壺枚	朱文公ノ御筆左ニ印			
130	神代卷	京都ヨリ相調候	○	式冊			新五郎ニ遺ス	
131	詩法掌韻	仙城ニテ調		五冊				
132	塵劫記			壺冊	前ニ印			
133	西土論			壺冊		書本也		
134	小学蒙養集		○	三冊				
135	平家物語			拾貳冊	もとより有之	仮名本		
136	曾我物語			拾貳冊	もとより有之	かな本		
137	小学句読口義詳解		○	拾四冊				
138	洪範全書發微	享保三年ニ求ル 江戸	○	壺冊			新五郎方へ遺候	
139	春秋述曆		○	壺冊				
140	春秋杜曆考		○	壺冊				
141	変生抄			壺冊	先生ノ御作			
142	四書	享保五子ノ五月廿六日当着		壺部	京都にて四ツ宝銀八拾歩藤屋へ頼調		拾四冊物、新五郎ニ渡ス	
143	小学（本註）	享保五子ノ五月廿六日当着		式冊	京都にて調也		新五郎ニ渡ス	
144	小学集成		四冊	壺部	仙台にて求る			
145	神代卷	享保六年京都ヨリ求る	○	式冊	御靈点			
146	神武卷	享保六年京都ヨリ求る	○	壺冊				
147	竹園抄		○	壺冊	歌書也	書本也		
148	四書(道春点)			壺部				
149	中臣祓			壺卷	遊佐先生ノ御点			代六十五文
150	伊香保紀行			三冊	同先生江、江戸より参候ヲ求る			新銀三十三分
151	人倫箴	とらノ八月	○	上中下式冊	同先生ノ御著述			代三百文
152	六論衍義	仙城ニ而代百三十五文ニ求る	○	壺冊				
153	丙辰紀行	五城ニ而買求る	○	壺冊				
154	癸未紀行	五城ニ而買求る	○	壺冊				
155	長明方丈記	五城ニ而買求る	○	壺冊				
156	柿本御法楽和歌集			壺冊	新五郎仙々遺候ヲむかいノ幸八（七）を頼写之也			
157	田植稼	伊達桑折ノ求る		式冊	俳諧本也。孫太郎虫之説、扇ノ箴有り			
158	大学新大全	仙城ニテ調求る、銭貳百文ニ	○	四冊	氏家伝次郎撰ノ由			
159	松嶋富山遊記	仙城ニテ調求る、銭五十文ニ	○	壺冊	富春叟ノ作			
160	杜律	仙城ニテ調求る、銭貳百八拾文	○	六冊				
161	俗説弁	江城にて		七冊				
162	近思録集解	仙台にて求ル、百六十式文		二冊				貞愛調
163	耆 誤考	仙台にて求ル、百六十式文		一冊				貞愛調
164	孔子家語	仙台にて求ル、二百四十文	○	五冊				貞愛調
165	吟譜	仙台にて求ル、十六文		一冊				貞愛調
166	小学句読頭書	仙台にて求ル、二百文		六冊				貞愛調

	書名	入手先	M17改	冊数	注記	形態	売却等	備考
167	孝子作右衛門伝		○	一冊		書本		貞愛調
168	大学講義			二冊		書本也		貞愛調
169	西銘講義			一冊		書本也		貞愛調
170	拘幽操			二通り		書本也		貞愛調
171	十六点画			一冊		書本也		貞愛調
172	小川子名説			一冊		書本也		貞愛調
173	鈴木問目			一冊		書本也		貞愛調
174	敬説			一冊		書本也		貞愛調
175	詩歌集			一冊		書本也		貞愛調
176	〔 〕説			一冊		書本也		貞愛調
177	思齋記			一冊		書本也		貞愛調
178	四蒙生八卦図説			一冊		書本也		貞愛調
179	大学開書			二冊		書本也		貞愛調
180	未発愛之説			壹冊		書本也		貞愛調
181	西土論			壹冊		書本也		貞愛調
182	中臣祓			壹冊		書本也		貞愛調
183	畏齋記			壹冊	近思録集解ヨリ二十口冊数三十五冊者新五郎貞愛調候	書本也		貞愛調
184	聖像			壹軸				注記略
185	聖学道統伝			壹帖				
186	天象列次図			壹軸				
187	諱并号説			軸物				
188	氣乗除年早問云々			軸物				
189	朱文公ノ御筆石摺			壹軸				
190	藤原姓			一冊	尚御家中小田四郎左衛門殿 タ得之写物也。未知是非違 ヒ多シ			
191	拘幽操			壹冊	木齋先生ノ御講筵			
192	本邦名字説			壹冊				
193	百人一首			壹枚				
194	中條産之医書			壹冊	旧ヨリ有之候。書本也。不 他見可秘書也。	書本也		
195	刀脇指目利ノ本			八冊				注記略
196	刀脇指目利ノ本			三枚				注記略
197	(天和二年ト三年ノ)御袖御判御証文							
198	剣術之目録			壹卷				注記略
199	江戸ノ佐々木万次郎殿筆			壹枚				
200	青山様御筆物			貳枚	壹枚は御哥、壹枚は覚書也。			「軸物之方へ書入故墨引」「左へも印置候」
201	貞山様御重判物			壹冊				
202	当所御城御代々御領主様	家君公ノ御筆也			万好齋以前タ大松沢氏迄			
203	折合補空朱胡之説異同考	貞愛写之		壹冊	木齋先生之御作			
204	西土論	白石本町阿子ヶ嶋彦右衛門手配ノ由		壹冊				
205	楠氏父子永訣授一卷書図賛并翰述			壹冊	先生ノ御作ノ貞愛写之			
206	杜子美東坡山谷筆之写	(入手経緯略)		貳枚添書 壹枚合三枚				「軸物之中へ書入故此ニ墨引」「左へも印置候」
207	語録解義			壹冊	貞愛写之			
208	蠡海集	享保乙巳八月	○	壹冊				
209	唐詩訓解		○	三冊	貞愛求買之			

	書名	入手先	M17改	冊数	注記	形態	売却等	備考
210	唐宋千家連珠詩格		○	二冊	貞愛買求之			
211	(道春点) 大学			壹冊	元禄八乙亥冬先公京師より御買調下賜る。須敬読儒書、本此書。			
212	仙台御城中ニ立石碑銘			壹本	可敬先生公ヨリ得テ写之			
213	付合小鏡・名所小鏡	江戸の四匁にて調候		式冊				
214	秀平の佐藤庄司への状			壹枚	基打ノ自昭坊ノ筆、江戸の丹野藤八兼而書貫置候由、下しくれ候。本書ハ右自昭所持申由也。			「軸物之内へ書入」「左へも印置候」
215	詩林良材	享保十一丙午六月仙城ヨリ求ル		六冊	此代三百五拾文。古本にて			
216	円機活法	八月仙台ヨリ調候	○	四拾冊	此代式分五文			
217	婦関之図	蜂屋先生之御筆		壹幅	(注記略)			
218	神学発明之説			壹冊				
219	垂加翁神説序跋并十全医の序			壹冊				
220	剣術之目録			壹巻	平井氏より得之也。			「イヤ書故墨引」
221	聞書			壹部				
222	聞書指南			四冊物				
223	修治算要	仙城ニ而買調候		式冊	元禄年中ニ求る。須敬求候。			
224	運氣論		○	壹冊				
225	断易指南	仙台にて求る		拾冊				
226	薬種斤目付			壹冊	元禄年中ニ書貫候也。仙国分十九間松は屋甚三郎筆之。			
227	薬性能毒			六冊	元禄年中ニ買求る。			
228	利名集			上下式冊物	旧より有之候。			
229	吟譜			壹冊		小本也。		
230	歌会集			壹冊		書本也		
231	語録解義			壹冊		書本也		
232	奥羽軍記	京都ヨリ		四冊				
233	易学啓蒙諺解	仙台ヨリ買調候 六兩	○	四冊				
234	日本水土考	仙台ヨリ	○	壹冊				
235	天文教導和歌註	仙台ヨリ		壹冊				
236	大坂首帳			壹冊	白石及川所右衛門殿の得之			
237	明詩選	仙台ヨリ	○	式冊		小本也		
238	対類	仙台ヨリ		壹冊				
239	家礼抄			壹冊	松岡喜武ノ写セルヲ借り得て写ス。松岡氏ハ仙台大嶋東岡先生ヨリかり得て写スト云。…	書本也		
240	洛陽道詩	仙府本屋次右衛門の調候		壹冊	張州六歳神童之筆趾			
241	伊達之御系図			壹冊	栗村氏ヨリ得之而写ス	書本也		
242	脈之聞書	石井氏の伝		壹冊		書本也		
243	鳥羽恋塚碑銘			壹枚	享保十三戊申冬、自京都得之			
244	清明通変占			壹冊				
245	御地頭御隠居一夢様碑銘			壹枚				
246	清酒御改之札	黒澤久兵衛殿印形		壹枚	寛永 年、御国中清酒屋御改之時之從御蔵被下置候御札、村田新七殿トアリ。…			
247	七才詩		○	式冊	享保己酉貞愛從京都調參候。			
248	日本儒学伝			壹冊	跡部良顯君著述	書本也		
249	御国食禄実紀			三冊	柴田小泉東方肝入三浦勘兵衛殿より借申而写取候			
250	七政運行記			壹冊		書本也		
251	東照宮御祭始			壹冊				
252	御役方列位甲乙			壹冊				

	書名	入手先	M17改	冊数	注記	形態	売却等	備考
253	天地神系図伝略	仙台ヨリ壺匁式文ニ調候		壺枚				
254	昼夜長短之図	同所ヨリ壺匁ニ求候		壺枚				軸物ノ方へ写替候故墨引
255	五歳之筆跡			式枚	江戸長谷川丁山田善三郎五歳ニテ書。己酉享保一四年。			軸物之内へ書入
256	木斎先生大学講義			六冊	貞愛記之			
257	同席			壺冊				
258	宮床村荒神記			一枚	仙台龍鳳寺作る。亀井玄林老々得テ写之			
259	御忌勸進和歌			一冊	慈鎮和尚五百年忌			
260	冷泉為久卿長歌ノ写				白石阿子寫氏ヨリ求之			
261	中臣祓			壺冊	貞愛書之	書本也		
262	阿蘭陀撮要	カスハル伝			濱田寿専老々書を得て写之			外科書也
263	水戸梅里主人公御墓ノ銘			壺冊				
264	垂加文集	享保辛亥春江戸にて求ル	○	七冊				
265	垂加文集拾遺	享保辛亥春江戸にて求ル	○	三冊				
266	皇明千家詩	享保辛亥春江戸にて求ル		式冊				
267	玉鉾の道草	享保辛亥春江戸にて求ル		壺冊				
268	夢寝説	享保辛亥春江戸にて求ル	○	壺冊				
269	秋のね覚	享保辛亥春江戸にて求ル		式冊	ノ十六冊にて代金壺分ニ調申候			
270	長崎夜話草	享保辛亥春江戸にて求ル		五冊				
271	日本道中行程記	享保辛亥春江戸にて求ル		壺冊	但し折本懐中物也			
272	本朝古今都ノ地			壺冊		書本也		
273	普救類方			壺部	同氏（寛義・貞義）三人寄合ニ調置候			
274	古談筆乗	享保辛亥年写之		式冊	惺斎先生著述之物、使貞愛写之	書本也		
275	白石詩草	同年壬子江戸に而壺匁三文	○	壺冊				
276	唐詩選	江戸に而代式匁	○	壺冊				
277	古文後集俚諺鈔	江戸にて壺分ニ調候		壺部 廿冊物				
278	年代記	江戸分		壺冊		懐中物		
279	日本行程記	江戸にて		壺冊		懐中物		□書故墨引
280	江戸之図	江戸にて		壺冊		懐中物		軸物書付ノ方へ写替候、左へ印置
281	若木詩抄	古本にて五十銅ニ調候		二冊				
282	新古今集	江戸にて調候、古本にて		壺部 式冊物				
283	庭訓往来			壺冊	真田太兵衛殿筆。寛文十二年二月と有り	書本也		
284	御国之絵図			壺枚	佐藤露命老々得之写			左へ印置、軸物ノ覚長へ写替候
285	易経本義		○	壺部 四冊物ニテ	京都へ猶子大沼氏親光ニ詔遣候処、土産物ニ貫候			
286	京都大絵図			壺帖	京都へ猶子大沼氏親光ニ詔遣候処、土産物ニ貫候			軸物ノ方へ写替候
287	交仇族問目并批語			壺冊	惺斎先生著述			
288	古文合解評林			五冊	此二書從京都調下シ、古文・四十二国共ニ七冊ニテ直段拾四匁			
289	四十二国人物図説		○	式冊				
290	白石老人筆	享保十九甲寅六月六日		壺枚	白石阿子島新蔵分得之候			

書名		入手先	M17改	冊数	注記	形態	売却等	備考
291	明心極意秘要 卷			三本				軸物ノ方へ 写故墨引、 左へ印置 候
292	同ヶ条書			半切紙 壹枚				左へも印置 候
293	眼形ノ巻			壹本				左へも印置 候
294	家運ノ巻			壹本				左へも印置 候
295	記請ノ巻			壹本				左へも印置 候
296	鎌之図			壹枚	味木新平殿御事小山喜平殿 ヨリ伝授			右軸物改帳 へ写替候故 墨引、左へ 印置
297	南郭文集	京都ヨリ拾式匁五分ニ 調候	○ 初編六冊	壹部				
298	王昌齡詩集		○	壹冊	享保二十卯仲春、於仙府書 肆買求			
299	絶句解			壹冊		袖中本 也		
300	絶句解拾遺			壹冊	右式冊江戸より調候。代銀 五匁也	袖中本 也		
301	唐詩品彙			二冊	京都ヨリ求之	袖中本 也		
302	朱子語録	古本にて五匁五分ニ調 求候		一部 五冊に而	角田松岡氏ノ本			
303	詩經大全			一部 式十式冊 物	右ハ同人ノ本、角田へ相返 ス			
304	書翰諺解			三冊	右ハ同人ノ本、角田へ相返 ス			
305	東海漫遊稿			壹部 四冊物	右ハ同人ノ本、角田へ相返 ス			
306	批大学弁断			壹冊	右ハ同人ノ本、角田へ相返 ス			
307	陳臥子明詩選	仙城にて六匁五分ニ求 る		式冊				九ヨリ十二 迄
308	四林千字文			壹部 四冊物	佐久間洞岩老之筆、乾金壹 分、唐紙表頭賃壹分、取合 式分入料			
309	靈宝閑書			壹冊	須敬幼年之頃、仙城ニ而求 る	懷中 長とち		
310	増読古曆便覧		○	一冊	京都へ頼入、山田屋十郎次 調参候。ミヤけニ貫候			
311	日東通曆		○	二冊	京都へ頼入、山田屋十郎次 調参候。ミヤけニ貫候			
312	天経或問	元文二丁巳冬京都ヨリ	○	三冊				
313	大略天経或問 名目抄	元文二丁巳冬京都ヨリ		壹冊	右四冊にて文銀拾八匁			
314	度量考	元文二丁巳冬京都ヨリ		六冊	文銀拾三匁	書キ本 也		
315	慶会集			壹冊	三浦氏ヨリ借り得て写			
316	本朝名公墨蹟			式冊	元文三戌午秋、刈田東根む めノ木屋敷嘉兵衛分弘ニ被 越ヲ本町弥兵衛才覚にて百 銅ニ求之			
317	屋形様御自詠 歌				元文三戌午秋、春日御社江 御奉納	写		
318	大明九辺万国 図	元文四己未江戸分調候		壹枚				
319	五経集註		○	五十八冊	右七品八拾四冊ニ而金七切 ニ古本ニ而買求候。書込并 点など消シ候所見得候。表 紙損シも少々有之。雨もり 致候所も見得候。当地正眼 庵柏英之相払度由ニ付買求 候			
320	翰墨全書		○	拾冊				
321	錦繡段			式冊				
322	文章規範		○	四冊				
323	三体詩			三冊				
324	小学句読			四冊			此二品相払 候、産衣へ 取替候	雨洩損シ有 之
325	古文前集			三冊				

	書名	入手先	M17改	冊数	注記	形態	売却等	備考
326	産衣	仙台ニ而		三冊	古本にて買求候。小学句読・古文前集取合七冊ニ而取替候			
327	竹千代君様御 髪置御賀屏風 画賛							
328	中庸開書			三冊ニ而 壹部	蜂屋可英丈ヨリ致恩借写取也			
329	中庸開書略			貳冊				
330	屋形様御詠歌			壹冊		写		百首
331	唐詩礎			壹冊	江戸ノ丁銀百六十銅ニ勘六ニ申遣調候。元文庚申仲秋刈田白石わたり町菊池屋十郎左衛門ノ写ヲ借用致写候			
332	大掌会悠紀主 基御歌			壹冊	江戸ノ便ニ調候、丁銀貳百四文ニ調候			
333	歌林良材	寛保辛酉元年ニ江戸ノ買調候	○	壹部 貳冊物				
334	四書集註俚諺 鈔	九月一日雨当着	○	冊五拾卷 物	取合五拾四冊にて代金貳両ニ江戸にて勘六（利三郎）調致持参候			毛利貞斎・ 大学五冊・ 中庸五冊・ 論語廿冊・ 孟子廿冊
335	田舎莊子			四冊		仮名物		
336	撰著秘訣	壬戌二年夏写	○	壹冊	山形小林用中賢より書本ヲ借り参り写			
337	格致余論諺解	霜月		貳冊	江戸ノ古本にて調候			
338	屋形吉村公御 自詠	寛保二壬戌四月		壹枚	御自筆ノ由、壬戌当四月山形江口氏公豊ノ得之候			
339	南部燈下書	寛保三癸亥春	○	壹冊				
340	訳文筌蹄	京都ヨリ調	○	六冊	十郎左衛門へ去秋、頼為申上候而、此季春十郎左衛門降、家ニ持参候			
341	正運紀略	京都ヨリ調		一冊	同断。訳文筌・正運にて此代拾壹匁三分也	懷中折本		
342	和漢合運	京都にて六匁		四冊物 壹部	京都より三郎兵衛調参候			
343	古語拾遺	壹匁四分	○	壹冊	京都より三郎兵衛調参候			
344	松前風土記		○	壹冊	享保癸亥之夏、仙台蜂屋十太夫様可央ノ本書御借シ給候ヲ当所内町大庭善兵衛殿須敬頼写候			
345	復陽記	延享改元季秋仙城にて調候		貳冊		仮名書		
346	伊呂波韻	延享改元季秋仙城にて調候		壹冊物	頭書有り	中字		
347	異称日本伝	江戸へ頼、金三分にて調候	○	拾五冊				
348	綱宗公御筆	川崎御下中ノ参候ヲ貳百銅ニ調候		色紙壹枚				
349	富嶽図記	仙府大和屋殿へ頼江都ノ調		壹冊				
350	医方歌括	仙台大和屋殿へ頼江府ヨリ調		壹冊	是ヲハ乙丑正月大和屋殿へ遣候			
351	医道日用綱目	仙台大和屋殿へ頼江府ヨリ調		壹冊				
352	墨蹟			壹枚	仙城南町大和屋久四郎殿ノ長崎ミやけニ貰候	唐筆		
353	墨蹟			壹枚	右大和屋殿ノミやけ物ニ貰候。延享三丙寅正月御手代衆にて被遣給候	唐筆		
354	月到一	唐紙へ		壹枚	蜂屋可敬先生公之御筆			
355	雪中松柏			壹枚	蜂屋可敬先生公之御筆			
356	百人一首			壹枚	紙ノ幅貳寸四方之紙へ官名共ニ書ル。小山新平殿筆。元禄年中ニ須敬小山氏より貰候			
357	狸ノ手蹟ノ写			壹枚	享保丙午ノ秋蜂屋先生公より得て写			
358	木斎先生之御 筆	享保十四乙酉年拝受		壹枚				

	書名	入手先	M17改	冊数	注記	形態	売却等	備考
359	杜子美東坡山谷三人之筆ノ写			三枚添書共二	享保年中京都大文屋加右衛門本書ヲ仙台へ持参、太守公様奉入御覧候書也。蜂屋先生公より写ヲ得て写之…			
360	青山公様之御筆			式枚	内壹枚御歌、壹枚御覚書			
361	佐々木万次郎殿御筆			壹枚	正徳年中遊佐圓次郎様からい申候			
362	御袖御判御証文			式枚	天和二同三年金子御用御かし上仕候御証文也			
363	御郡司大河内四郎兵衛様から老公江被下候御褒美之御書付物ノ写				本書ハ検断新介方ニ有り			
364	聖像			壹軸	元禄十二年之冬米沢絵師長谷川市之丞ニ為書候			
365	諱并号説			壹軸	惺斎蜂屋先生之御筆			
366	氣氣乗除云々			壹軸	正徳乙未年、木斎先生公之御筆			
367	石摺朱文公ノ御筆			壹軸	惺斎蜂屋可敬先生公之御跋書有り。太守様御覧ニ入候由、先生公之御談話也			
368	壽ノ字			壹枚	享保十三甲申年駿州之住山口岩松六歳ノ筆。其親人江戸へ同伴致、無縁寺にて為書、望之衆へ進候由。江戸にて藤八方			
369	面後清江興云々			壹枚	宝永八卯冬来朝之朝鮮人之筆ノ由。三浦善兵衛殿から貰候			
370	定家卿百首				四字頭			
371	折手本			壹帖	蜂屋可敬先生公ノ御筆			
372	色紙			式枚	風早様御筆御歌、京都より貰候			
373	宝鏡寺御姫宮様御筆			壹枚	享保十九甲寅年七月二日、当地定龍寺有仙法印より申請候。守袋へ可奉納者也云々			
374	明心極意卷			三本		判切唐紙		
375	同ヶ条書付			壹枚				
376	眼形卷			壹本				
377	家軍卷			壹本				
378	起請卷			壹本				
379	鎌ノ図			唐紙壹枚	右巻物六本ト書付式枚仙城大町五丁目横丁にて味木新平殿御事小山喜平殿より伝授。元禄年中ノ事			
380	京都ノ図			壹枚				
381	江戸ノ図			壹枚				
	(一枚撮影脱カ)							
382	敬ノ字			唐紙壹枚	右同御筆			
383	大坂ノ図			壹枚				
384	御歌			壹枚	油小路大納言様御筆…。有心法印より貰候			
385	三夕くれ御歌							
	(一枚撮影脱カ)							
386	百首歌			壹冊	蜂屋十太夫可英様から本書拝借致写得候			
387	切間近思			壹枚	岩出山伊達彈正様村泰公之御筆			
388	伊手正水之筆			壹本	元禄年中天球和尚様上方から御持参給候。天球和尚ハ村田出生之御僧…			
389	近衛様御筆			壹枚	京都ノ衆から貰候			
390	仁和寺様御筆			壹枚	京都ノ衆から貰候			
391	白石御老人之御筆			壹枚	白石本町阿子嶋新右衛門殿より貰候			

書名	入手先	M17改	冊数	注記	形態	売却等	備考
392 道統伝			壺軸	仙台五丁目小山新平殿筆			
393 歴代国号図			壺軸	右御同人之御筆			
394 今川状			壺折	仙城須藤平治殿御筆			
395 小山遺藁			壺冊	詩集也。梅森宋旦医丈より 写給候			
396 陽関之図			壺幅	蜂屋先生公之御筆	絹地		
397 雲龍			壺幅		唐白紙		
398 芙蓉			壺幅		絹地		
399 墨蹟			式枚	右御同筆也	唐紙江		
400 名酒造り方		○	壺冊	いろいろノ酒ノ方冊一品			
401 石摺文字写様		○	壺冊				
402 雨炬之方		○	壺冊				
403 鍛冶番次第		○	一冊	旧より在来ル書也			
404 鍛冶番次第目録			一冊	旧より在来ル書也			
405 神風記		○	五冊				
406 尺牘		○	三冊				
407 顔子家訓		○	三冊				
408 和漢歴代備考		○	拾貳冊				
409 本朝右筆宝		○	貳冊				

(末尾：明治十七年四月六日（旧三月十一日）改メ。○ノ印ハ現在ナリ。外ニ、戦国策壺部、世説新語同、読韓非子同四冊、蒙求一。)

二 研究ノート

江戸時代の刀剣鑑定

——山田家刀剣関係史料の分析——

後藤 三夫

一 刀剣鑑定とは

日本刀はその姿や鍛え肌、刃文等の特徴により、平安末・鎌倉初期の草創期から江戸末期まで時代別に九分類され、夫々の時代の特徴を有するが、それを見極め作者を特定する「刀剣鑑定」は、一三世紀前半の後鳥羽上皇の時代からあったと記録にある。⁽¹⁾

そして、長大な太刀を佩^はく南北朝時代から嘉吉・文安・宝徳年間（一四四一～一四五二）に至り打刀を差す様式に日本刀が徐々に変化していく過程で、太刀の茎の部分を磨き上げ短くし「打刀」として再利用する時に作者銘の部分が切り取られてしまうことにより、「鑑定」の技が一層必要とされるようになった。

刀剣鑑定の規格化は、足利義満の刀剣係を務めた宇都宮三河入道が始めたといわれ、その系列の本阿弥^{ほんあみ}家は、初代長春が妙本と称して足利尊氏に仕えて以降、刀剣の研磨と鑑定を以て代々足利家に仕えた。慶長年間（一五九六～一六一四）の初め頃、九代目光徳が秀

(1) 「剣など御覧じ知る事さえ、いかで習はせ給へるにか、道の者（鑑定の専門家）にもやたち勝りて、賢くおはしませば 御前にて 良き悪きなど定めさせ給ふ」とある。（『増鏡』後鳥羽院新島守項 かくて世をなび……より抜粋）

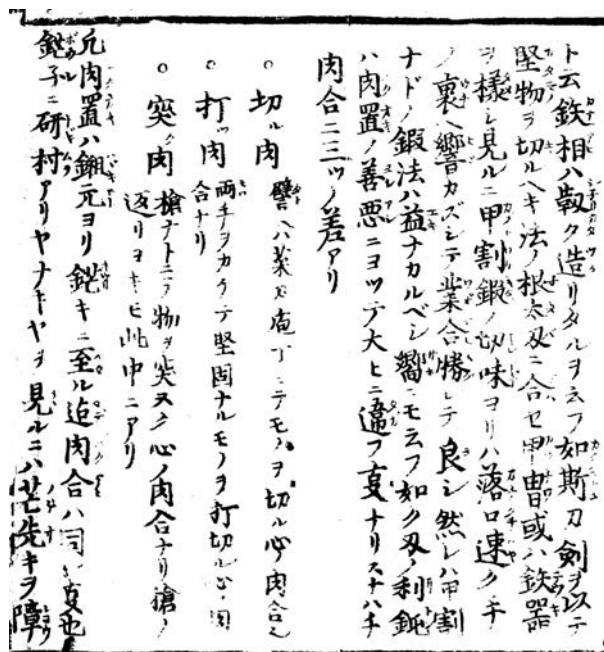
吉より刀剣鑑定と折紙発行を許可され、その鑑定方法と折紙は江戸時代を通じて権威を持ち続けた。現代にも「鑑定書・鞘書き」の形で伝えられている。今日、「鑑定書」は様々な団体により発行されているが、公益財団法人日本美術刀剣保存協会の発行するものが中心となっている。

現代の刀剣鑑定は、入れ札式で作者・国・時代をあてる知的ゲームである。その様式は一六世紀後半の安土桃山時代頃に確立され、武士達の嗜みの一つとして盛んに行われていった。筆者は、江戸時代の古文書の中に、武士が刀を持ち寄り鑑定の力量比べをした記録を見たことがあるが、鑑定の基本は現代と変わってはいなかった。

二 刀剣書

刀剣の専門書として代表的なものに、『懷宝劍尺』^②がある。刀の切れ味のランキング表を初めて表した書として有名であり、幕末に最も売れた書物の一つに数えられている。主に慶長年間以降の新刀を扱っているが、それ以前の古刀期の刀も含まれている。

山田家文書にみられる刀剣書は、切れ味によるランク付けでなく、正統派主流の美術的価値でランク付けしているものであること、古刀（天正期以前の刀）についての記述がほとんどで、刀剣鑑定の基本を受け継ぎ、姿、地鉄、刃文、肌、帽子、反りなどから作者、流派、時代を特定し、出来の善し悪しで代付けする手法で古来の価値観を伝える格式の高いものであることが特徴であり、『懷宝劍尺』とは異なる性格を有している。



『懷宝劍尺』（部分、筆者蔵）

②『懷宝劍尺』は寛政九（一七九七）年秋、鑑定家として名高い肥前唐津藩士柘植平助方理が、据物師で首切り役人の山田浅右衛門吉睦、山田の門弟の伊予今治藩士須藤五太夫睦清の協力を得て編纂した、刀を切れ味によって分類した刀剣の百科事典といふべき内容の書物である。本書は、応仁の乱より始まる戦国時代の刀剣の切れ味に関する情報を収載すると共に、山田自身の試し切りの経験をもとに、古今東西二万四〇〇〇工といわれる刀工の中から、特に斬味の良い刀を造る刀工を、最上大業物一二工、大業物二二工、良業物四八工、

このような日本刀に対する思想は、米沢藩出身の江戸時代後期の刀工・水心子正秀が唱えた復古新刀の原点になっていると考えられる。

三 山田家刀剣関係史料の特徴

(1) 『分記論 第三』（元和一〇（一六二四）年、三三七四）

第三とあることから、何冊かのセットになっていたと思われる。この伝書は、刀剣目利きについて本阿弥光徳の口伝を集めた『紛寄論』⁽¹⁾を筆写したものの一部と思われる。

本史料は、平安時代末から室町時代にかけて最も繁栄した、刀剣伝法五ヶ伝（備前・大和・山城・相州・美濃）の一つ備前物についての鑑定奥儀の秘訣である。平安時代末から鎌倉時代初期の古備前物、鎌倉時代中期から室町時代までの備前物（雲類、一文字派、吉井派、長船派、小反派）の特徴、見所が記されており、刀剣鑑定の先鞭資料として貴重である。奥書により一流道極先師・大雲伝左衛門・中村鉤閑斎正次から山田新七郎へ刀剣の目利きを伝授する免許皆伝の形態で、華道・茶道等の芸術文化同様、刀剣鑑定へも深い関心を寄せていた江戸時代の町方教養人の姿を伺い知ることができる。

本史料の発行年代が本阿弥光徳（元和五（一六一九）年七月二〇日卒、六四歳）の死後五年後の元和一〇（寛永元）年であることから、



『分記論 第三』

業物八四工、業物混合六六工の合計三三一工の五段階に分類評価している。

例えば、「最上大業物」では、古刀においては長船秀光、初代兼元、二代兼元、三原正家、長船元重、新刀においては長曾禰虎徹、多々良長幸、陸奥守忠吉、初代津田助広、初代仙台国包、初代肥前忠吉、長曾禰興正、初代長道が挙げられている。

また、文政一三（一八三〇）年には、業物ランクをその後の試し斬りの経験等から追加した『古今鍛冶備考』が刊行された。本書もまた柘植が著者とされているが、編纂に際し、山田が資料・資金を提供したといわれている。掲載している刀工数は『懷宝剣尺』の約五倍に当たるが、全ての刀を試した訳ではなく、長年の役務上の経験に加え、当時の刀剣の一般的評価を鑑み分類したと考えられている。

(3) 日本刀はすべからく慶長以前の古刀を見習うべしとする主張で、江戸後期の新々刀の登場に大きな影響を及ぼした。

(4) 現段階では紛寄論の原本はあまりに希少のため遭遇できない。しかし、今までの資料には『紛寄論』に最も近い書としては「心鏡台」があり、本間薫山先生（古刀研究家・一九九一年没）によって発表されている（これは寛永七年の奥書のある「紛寄論」を江戸時代後期に写したものとされている）。山田家の分記論と比較すると構成が微妙に異なるところがあるので、書写された時点で編集しなおされた可能性がある。しかし、個別内容はよく似たものになっている。山田家の分記論は元和一〇年と奥書にあるので「心鏡台」の原典より古く、本阿弥光徳逝去後数年後の書になり、現在、「紛寄論」に最も近い書といえる。

口伝は死後書写されて伝えられてきた希少な書であるといえる。

伝授者の一流道極先師・大雲伝左衛門・中村鉤閑斎正次がどのような人であったのかにも興味が湧くところである。

(2) 『刀見分拽集』(元和一〇(一六二四)年、三一七五)

刀剣のランクを出来、不出来によりランク付けし、炮物、いわゆる焼身は無価値である等、状態による価値の判別方法が書かれている。奥書によると『分記論 第三』と同じく、一流道極先師・大雲伝左衛門・中村鉤閑斎正次から山田新七郎へ伝授する形態をとっている。

(3) 『刀匠の系譜書上』(諸国鍛冶系図、元和一〇(一六二四)年、三一七六)

諸国の刀工の系譜とランク(上中下)が書上げられており、やはり一流道極先師・大雲伝左衛門・中村鉤閑斎正次(か。紙面破損)から山田新七郎へ伝授する形態をとる。主な内容は以下の通りである。

備中刀工―青江物の系譜と代付けランク

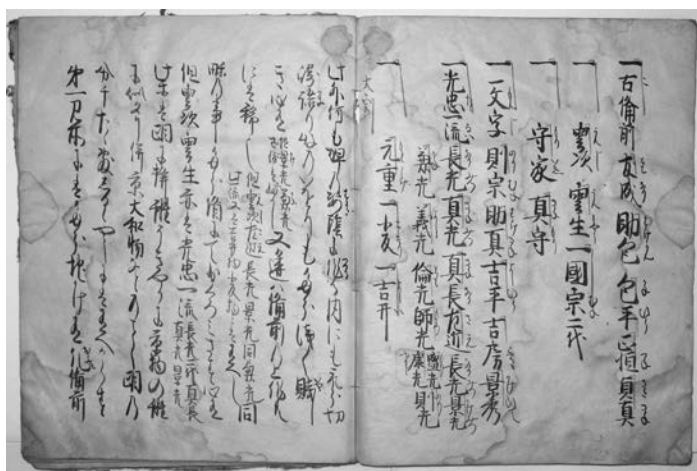
備後刀工―正家をはじめとする系譜と代付けランク

伯耆刀工―安綱の系譜と代付ランク

豊後刀工―行平の系譜と代付ランク

肥後刀工―国村の系譜と代付けランク

※凡そ諸国の鍛冶は上中下あわせ一六〇〇あるとし、そのうち当代世間に用いられて



『分記論 第三』

いる作者は大体右に記した二〇〇ばかりだとしている。

越中 宇多派の国光（山城 来派国光とは別人）

加賀 藤島友重

越前 千代鶴

出雲 吉則

石見 直綱

因幡 清綱

安房 海部

伊勢 村正

（４）『家藏之刀剣相改帳』（享保一〇（一七二五）年、一八一六）

山田新七がまとめた、山田家所蔵の刀剣の一覧であり、先祖よりの宝なので大事にするようにと書かれている。

注目すべきものとしては、奥山大学の御世に罪人を試し切りしたとの由来のある脇指や、伊達騒動のクライマックスである原田甲斐刃傷事件にまつわる弓などが挙げられる。また、刀の刀装具の記録も詳細でしかも庶民の持つ刀装具ではないものが多い。来国俊の太刀、則重の脇差には埋忠の鐔が装着されているとあるので、残されているのであれば相当豪華な拵であったと推量される。履歴や外装を新調した時期・作者・費用等情報が多く貴重な記録である。また、「平井氏」なる人物を通して入手したことなどが判明する点も興味深い。



『刀匠の系譜書上』

主な内訳は以下の通りである。

刀…来国俊—長さ二尺五寸壹分／拵え付き・鎌倉時代中期・山城。

小脇差⁽⁵⁾…国次—長さ九寸九分／同上。

小脇差…来国光—長さ八寸九分／合口拵え・鎌倉中後期・山城・

栗田口。

脇差…則重—長さ一尺七寸／鰐は埋忠・拵え付き・鎌倉後期・

越中。

特に則重は伝来品らしく、拵えのみ元禄一四（一七〇一）年に三両かけ仙台正

阿弥に製作を依頼している。しかも埋忠の一流品の鰐を付けた豪壮な拵えから

みると、則重が山田家にとって一番大切にされていたように思われる。

刀…備州長船—長さ二尺三寸／備州長船住以下の〇〇作が見えず拵定ではないかと思

われる、とある。

刀…拵定—無銘物⁽⁶⁾—長さ二尺二寸六分／経緯、お拵えのことが書かれている。拵え付

き・室町後期・備前物。

脇差⁽⁷⁾…無銘—長さ二尺二分。

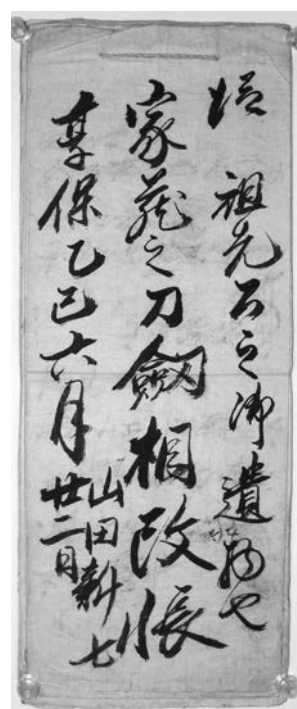
脇差…長さ一尺八寸一分／雲とのみ記された銘。備前の雲次か雲生かと思われる。摺

上げによるものか。元禄一五（一七〇二）年角田に参りしとき、松岡氏より引

き出物として貰い受けたとある。

脇差…無銘—長さ一尺四寸／拵えの概要が記されている。

脇差…拵え記述あり。



『家蔵之刀剣相改帳』

(5) 脇差は一尺以上二尺未満だが、一尺二〜三寸の短刀に近いものを小脇差という。

(6) 無銘だが極めが「拵定」ということ。

(7) 通常二尺以上は「刀」、未満は「脇差」なので、この場合は「刀」が正しい。

小脇差…信国。

道中指⁽⁸⁾…無銘—長さ二尺五分。

忠貞…懷中刀—長さ七寸五分。

無銘刀…長さ二尺三寸六分。

無銘小脇差…長さ九寸。

槍

槍

弓…一張り。

弓…一張り。

丹波守吉道—一尺八寸。

丹波守吉道—一尺七寸／元和六（一六二〇）年三月日。

無銘脇差—一尺八寸／元文六（一七四一）辛酉二月、岩沼初午市で求める。

忠光—九寸五分。

信国—二尺六寸／寛保元（一七四一）年辛酉年八月に求める。

友光—延享元（一七四四）甲子五月二七日に買い求める。友光は応永頃の大和鍛冶か。

以上の如く、時代のある鎌倉時代以降の山城系の名刀が数多くあり、それらを鑑賞できる環境・資力が山田家に備わっていたことがわかる。当時の山田家の繁栄振りが伺える史料である。

(8) 道中指は江戸時代町人など旅行の時に指した脇差で、通常の脇差より長めのものが多い。鞘の内側に細工して小粒が入れるようになっていたりものなどもある。刀装具は廉価なもので実用的なものになっている。

三 史料編（解読文）

◎ 解 題

山田家文書の中から、講演会で使用された史料を中心に、山田家の系譜、学問・商いの状況、村田町の運営について知ることができる古文書の解読文を収載した。

「Ⅰ 山田家の歴史」の「1」「備後伝」は、山田須敬がまとめた山田家の系譜・事跡で、和歌・漢詩の書付帳の中に収載されていたものである。同家が福井から刈田郡遠刈田を経て村田に移住してきたことや、先祖の人となり、伊達政宗とのつながりなどについて漢文体で叙述している。「2」「褒賞状写」は、山田家が売銭（紙幣を銭に引き換えること）を行ったことに対し、褒美として嶋紬計六反を授けることを命じた文書である。山田家の社会貢献が藩に認められたことを示す史料である。

「Ⅱ 山田家の交流」の「3」「山田新七宛遊佐清左衛門（木斎）書簡」は、仙台藩の儒学者遊佐木斎が門弟の山田新七に宛てた書状であり、新七からの贈答の御礼や縁談について伝えている。「4」「本役銭受領証」は、村田町の「室」四件が仙台藩に役銭（税金）を納めた事に対する、仙台藩からの受領証である。「5」「川村孫兵衛他借地証文」は、仙台藩の土木技術者で出入司（勘定奉行）でもあった川村孫兵衛（二代・元吉）ら仙台藩首脳が連名で、山田家から金八〇切（二〇両）の融資を受けた証文である。文書の右上隅に切り欠きと印鑑に抹消印があり、山田家に返済されたと考えられる。「6」「柴田郡村田郷酒屋延宝七年酒造石高之覚」は、村田住民の造酒高の書上げであり、山田新五郎は高二四石五斗となっている。「7」「家蔵之刀剣相改帳」は、先祖から伝来している山田家所蔵の刀剣の一覧である。「8」「覚」は、飛脚問屋の京屋福島店からの紅花の荷受証文で、送り先は江戸駿河町の三井越後屋呉服店である。「9」「荷物請証之事」は、同じ村田の商人大沼養之丞からの紅花の荷受証文である。「10」「覚」は、飛脚問屋の嶋屋福島店からの紅花の荷受証文で、送り先は江戸南堀町の船問屋井上重治郎である。「11」「（紅花受取証）」は、大石田の間屋設楽次郎右衛門と二藤部兵三郎から山田新五郎宛

の紅花荷受証文であり、送り先は三井越後屋京都店の三井則右衛門であるとみられる。〔8〕〔11〕の文書からは、山田家の商取引圏が広範囲にわたっていたことが確認できる。

「Ⅲ 村田町の運営」の〔12〕「南町より市立前之儀奉願候ニ付添翰を以乍懼品々申上候御事」と〔13〕「口上之覚書を以申上候御事」は、町の仮検断の立場にあった山田新五郎が、藩に対して、町の市日に関する南町と新町の争いについて意見を申し述べた文書である。〔14〕「乍恐奉願候御事」は、山田新五郎が病氣（胸痛）を理由に仮検断の免職を請願し、それを大肝入の佐山八郎兵衛が藩に取り次いだ願書である。〔15〕「当御町商人共、市中立前え罷出、諸式商売可仕旨被仰渡奉承知、何も立前え罷出商売仕罷有申候処、右ニ付乍恐口上書を以、左ニ奉願候御事」は、借屋層を含めた村田荒町・本町住民が連名で、市日に仮設店舗に出て商いをするようにという藩の仰せ渡しに対し、通常の家業に専念させてくれるよう要求した願書である。

なお、これらの各史料の写真画像は、全て巻末に掲載している。

◎凡例

- ① 史料表題の「」は、編者（高橋）が便宜的に付した史料番号である。「山田家文書目録」の目録番号は表題下部「」内の成立年代の後に「一八一二三」のように付している。なお、史料表題は「山田家文書目録」の表題と異なる場合がある。これは「山田家文書目録」の表題が、内容を注記するなど、独自の目録作成用の記載方式に従って付けられているためである。
- ② 史料表題は、原則として原典の記載のままとした。原典に表題が付されていない場合には、編者が（）付きで表題を付した。「」内には史料の成立年代を記している。
- ③ 帳面等の表紙に付された表題は「」つきで記した。
- ④ 収載史料の改行箇所は、原典に従った。ただし、文字数の関係で原典通りに改行できない箇所は、（）により改行箇所を明記した。
- ⑤ 読解に便利のように、適宜読点（、）を補った。
- ⑥ 異体字は原則として常用漢字に改めた。また、変体仮名や合字についても、「者↓は」「江↓え」「夕↓より」のように、現行の平仮名に改めた。
- ⑦ 解読不能箇所は、一文字につき「□」で表した。
- ⑧ 棒引抹消箇所は、「文字」のように表した。

I 山田家の歴史

〔1〕 備後伝〔享保二五（一七三〇）年、

一八一三〕

（前略）

「 致齋集内

備後伝

紀高祖備後事

祖考姓源氏、山田、又称山奥、実

名某、仮名新五郎、後改新七、老号

備後、天文辛亥某月某日、生越之

前州福井也、為人剛直廉恥、力量

絶倫、好弁刀劍之炉矣、天正中

到奥州刈田郡遠刈田、而金山之

賑、為客交、主村田本町遠藤

藤八郎、家遂卜居、於此地設一酒

肆、酤酒、兼旁力農以營生業、此地

有清酒、蓋始於此人云、娶伊藤氏、生

一男一女、長者新五郎更名新七、老称

備後、次女名春、適樋口氏、履端祝賀

先寿遠藤氏、是不忘旧故也、高祖

雄力大出群足一人以敵数人、冬日蹈履

背負米三俵、兼兩脇挟二俵、而運從他

所数也、荒町有大沼將監者見之、驚

歎之余、戲將試其力立所、累積米

俵上、待其過躍到其負上、貶履齒折

摧不蹶仆、徐回頭為誰、而并肩之

行步如初、大沼氏愕然云、噫、子之

雄力不可測、乃飛下、微笑相去、闔

境称賛、如出於一口、此尋本願寺宗

派、屢往芦立村願勝寺、住僧怠行

事、偶同村西窪之鰥夫、有円頂号道

願坊者、而修他力念仏門、又磨尖尾

刀、便産業也、訪之約為檀那、後以越

之中州行脚、僧一向宗權宅云、為道

願之後住、且遣權宅於京師東本

願寺請得、寺号西安寺是也、当

時領主 村田万好斎或云、伊達右衛門大尉

宗高公之時、於仙台之第、享

未知孰是

国之大君貞山公欲求美酒、於最上以

為之饗、已迫期日、不可及也、於是自

仙台急来遣輕卒二人、於此村田命備後、

購求美酒於最上、備後謹奉

命、即独兼昼夜往山形、經廻酒肆

七所、以試其美惡醇酒、買美酒、盛

二樽、親自齋歸、此日已期日、而

国大君未入第、於是 公大喜曰、不以

苦艱為勞使 我忘不饗之醜、可

謂老而益壯者也、

国之大君吞其酒、 公甚悅矣、為賞之

併素所宅之余地尽下賜之、則拜之

歸家、建四柱於田畦以象家形、此

一夜寢、漸造營家室、子孫相繼而

居也、猶子十介者、遠来自越之前州、

此人兼有力、一日灑醪、以澄酒、謬布

置舟之台址一隅不平不流出無由正之、十助輒取酒舟之一隅而輕揚之、以加礎石、人皆歎賞也、寛永戊辰之秋、備後往故国、逢親戚旧故共、談往事、且遊京師、謁于東本願寺宣如上人、自筆賜六字与九字之仏号、及法諱、於道意也、遲留之間、尋名境探古跡、殊詣于伊勢兩宮而帰家矣、委任世事於嗣子新五郎、幽居後園、寛永辛未八月十九日妻以病歿、因浮屠氏諡妙喜、葬加野山、此嘗卜宅兆除五患之地也、正保丁亥季冬、嗣子新五郎家庭而確舂糧米、以給新歲一月之食備後自親肩米五斗来云、為我確舂之、便自戸外投之、恰如転一小枕也、慶安元戊子年三月八日以天年終焉、寿九十有八歳、火化于加野山、子孫往其所哭泣、収骨子、此小泉西町庄介者、同往其所、此人肥大略有力、好角力也、除灰而見之、頭骨不嘗

燒碎、人皆以奇之、安達氏取而蒙之頗緩、兼以所携之酒盛之、更不滴洩也、皆云生時、力強、死後骨堅矣、蓋集其骨、而蔵甕、以葬也、如今我聞其行狀履歷之詳、無知者、吁遺憾哉、唯幼年頃留祖母妙清之語於旁耳、而記其一二、以伝子孫云、享保十五庚戌之年夏五月十日、越前屋山田氏須敬謹識、須敬

謹云、今天下靡点惑胡国浮屠氏之邪説、甚者火葬父祖之尸使子孫大陷不孝之罪、幸哉志聖道得略開其罔每惟念 祖先之火葬未嘗悲痛嘆息哉、因書以示子孫也

異母兄、小名千松、後云新四郎、兼改新五郎、白石新町山崎

氏之女、生一女早死、元禄四^{辛年}十二月十五日以病死矣、弟初名次郎助、大河原本町為大泉氏之養子後呼十三郎妻山田氏也、皆大泉氏之婦所産也、兄歿而帰来、于此嘗好酒、為病、同六^{癸酉}年十二月十三日^{年二十三}而死也、然則吾家称新五郎者、至僕六世、数十三郎則七世也、仍書、

致齋須敬記

〔2〕（褒賞状写）〔享保三（一七二八）年、一五一一二二〕

嶋紬六端、柴田郡村田町新五郎、新九郎、清次郎二相渡可被申候、

右三人之者、売錢無

断絶相出、所之窶ニ

罷成候段、大河内四郎兵衛

被申間候、當時在々ニ而

売錢不自由故、諸人

及難儀候処、宜心入、

在々之者ニハ稀有之

志之者と承届候故、

為御褒美、忝人ニ

式端宛被下之候間、

如此二候、以上、

貞享三年 仲左衛門

閏三月四日

御納戸役人衆

表書之本書、其比之御代官

白土三十郎様御手跡可為由ニ而、

本町検断新助新九郎所持

被申候ヲ写者也、

仲左衛門様ハ其比ノ御出入

松林仲左衛門様也、

大河内四郎兵衛様ハ、其比南六

郡ノ御郡司也、

新五郎ハ考公新七也、

清次郎ハ右新七ノ弟也

後ニ新右衛門ト云

新九郎ハ右新七ノ叔父ヲチブン分也

おばむこ也

壬寅ノ

享保三年

十一月十三日

山田屋新七

須敬写

II 山田家の交流

〔3〕（山田新七宛遊佐清左衛門（木齋）

書状）〔年未詳、一六一三―一八一二〕

飛札忝存候、其許何も

御無恙珍重存候、土用

酷暑二候へとも、最中紅花

之取仕込も有之、一段之事ニ

存候、此方我等所無事、

毎朝学文之寄合等も

治右衛門、覚藏など有之

事ニて大慶申候

一 大豆一袋、麦香煎一袋、

新紅花一袋三様送賜之、

女共悦申候、忝存候、何も

取揃同者共へ御入念忝存候

一 彦右衛門弟新右衛門娘ヲ新五郎へ

甚蔵取持、彦右衛門娘分ニ

いたしもらい候様ニと、最前も

申候、尚又先日甚蔵へ内々ニテ承合くれ申候様ニ、応縁二候ハ、媒人ハ相立可申由申遣候由、一段之事ニ存候、親ニテ親とへとも新右衛門娘ニ而可然と存候由、此段ハ新右衛門只今進退家も無之、親類ノ土蔵ヲかり居之者ニ候ヘバ、新五郎舅にハ如何ニ而も彦右衛門娘分ニいたし候てくれ候ハ、もらい申度としかと申遣し可然候、彦右衛門養女と申候ヘバ各別品も能候、末々とても彦右衛門、九郎次も見すて申ましき事に申候へとも、指当ル弟さへも其方ノ不埒とハ申ながら先其通りニいたし置候事ニ候間、もはやめいニ候いとこニ候と申候てハ末々も遠ク罷成ル事ニて、おいめいいいこなとハわき／＼にも大分有之物ニて、子共と申候とハ違申候物ニ候

間、彦右衛門養女娘分と申候而新右衛門ニハかまひなしニもらい可然候、村田ニてハ新五郎家元かくれなき筋目、其所ニしうともたしかに無之者ヲしうとニいたしもらい候事にてハ、不可然と存候、新五郎ハ可然所よりもらい可申様無之候而、家もまたぬ者ノ娘をよび申候と可申、何ほと物入ハ彦右衛門当座いたし候とも、娘分と申候とめいにて取立祝言いたさせ候と申候得は、末々迄大分違可有之候、彦右衛門もむすめ分と申候事ハリ勝手より申候時ハ、いやニ可有之候ても入れぬ事ニ而、彦右衛門老母存生ニて孫ノ事ニ候ヘバ、此方より打かけ娘分ニいたしくれ候ハ、もらい可申候、尤新右衛門方ヘハかまひ」不申ニ彦右衛門ヘ祝儀等も何様

にもかろく遣し可申と申合之方可然と存候、此段さたなしニ火中可被申候、新五郎にもかたり候事不入事ニ而候、新右衛門娘ニいたし候てハ」末々いたしにくき事共も可有之候、内よりも同前ニ申入候、頓首謹言

六月十日 遊清左衛門（花押）
山田新七殿 貴下

〔4〕（本役銭受領証）〔寛永一二（一六三

五）年、二五―二三―三五〕

西柴田之内村田町、室四間、本役此本代七百弍拾文、壹間ニ付而百八拾文宛御礼銭、本代百五拾六文、壹間ニ付而同代三拾九文宛、二口合八百七拾六文、此四割京代三貫五百四文、慥請取濟切者也、仍如件

寛永拾弐年 鹿又五郎右衛門

霜月廿日 重□（花押）

鈴木新兵衛

検断 掃部助との（印）

〔5〕（川村孫兵衛他借用証文）〔天和二

（二六八二）年、A—三—一—八—二）

壹歩判八拾切

右金致為借所実正也、

月壹歩之利足を加、

来年亥ノ七月元利

共二可被返下者也

川村孫兵衛

天和弐年十二月二日 元吉（重判）

大町清九郎

高□（重判）

松林仲左衛門

実俊（重判）

遠藤内匠

俊信（重判）

柴田中務

宗意（重判）

柴田郡村田町

新五郎との

〔6〕柴田郡村田郷酒屋延宝七年酒造石

高之覚〔天和三（一六八三）年、一

六—二—四七〕

柴田郡村田郷酒屋

延宝七年酒造石高之覚

高

一 六石八斗七升 善右衛門（印）

内 米四石三斗
内 米四石五斗七升

一 内

一 四斗八升 もと

内 米四斗八升

一 九斗六升 もと添

内 米三斗六升

一 壹石九斗弐升 中添

内 米七斗弐升

一 三石五斗壹升 とめ造

内 米壹石三斗壹升

四口合六石八斗七升

米 米糶とも

此造桶 四尺 壹本

式尺五寸壹本

高七石壹斗弐升 七左衛門（印）

内 米四石四斗五升
内 米四石六斗七升

内

一 四斗八升 もと

内 米壹斗八升

一 九斗六升 もと添

内 米三斗六升

一 壺石九斗貳升 中添
内糶七斗貳升
一 三石七斗六升 泊造
内糶壺石四斗壹升
四口合七石壺斗貳升
米糶とも
此造桶
四尺 壺本
貳尺五寸壺本
ノ貳本 七左衛門
高五石六升 源七（印）
内 米三石壺斗六升
内糶壺石九斗
一 三斗貳升 もと
内糶壺斗貳升
一 六斗四升 もと添
内糶貳斗四升
一 壺石貳斗八升 中添

内糶四斗八升
一 貳石八斗貳升 とめ造
内壺石六升
四口合五石六升
米糶とも
此造桶
四尺 壺本 源七
高貳石五斗六升 甚三郎（印）
内 米壺石六斗
内糶九斗六升
一 壺斗六升 もと
内糶六升
一 三斗貳升 もと添
内糶壺斗貳升
一 六斗四升 中添
内糶貳斗四升
一 壺石四斗四升 とめ
内糶五斗四升

四口合貳石五斗六升
米糶とも二
此造桶
三尺 壺本 甚三郎
高七石六升 勘左衛門（印）
内 米四石四斗三升
内糶貳石六斗三升
一 四斗八升 もと
内糶壺斗八升
一 九斗六升 もと添
内糶三斗六升
一 壺石九斗貳升 中添
内糶七斗貳升
一 三石六斗六升 とめ造
内糶壺石三斗七升
四口合七石六升
米糶とも二
此造桶

四尺 壺本 勘左衛門

式尺五寸壺本

ノ式本

高拾貳石貳斗五升 清次郎（印）

内 米七石六斗六升
内 米四石五斗九升

内

一 八斗 もと

内 米三斗

一 壺石六斗 もと添

内 米六斗

一 三石貳斗 中添

内 米壺石貳斗

一 六石六斗五升 とめ造

内 米壺石四斗九升

四口合拾貳石貳斗五升

米糶とも二

此造桶

四尺 式本

式尺五寸壺本

ノ三本 清次郎

高貳拾四石五斗 新五郎（印）

内 米拾五石三斗壺升
内 米九石壺斗九升

内

一 壺石六斗 もと

内 米六斗

一 三石貳斗 もと添

内 米壺石貳斗

一 六石四斗 中添

内 米壺石四斗

一 拾三石三斗 上添

内 米壺四石九斗九升

四口合貳拾四石五斗

米糶とも

此造桶

五尺 壺本

四尺 壺本

三尺 壺本

式尺五寸壺本

ノ四本 新五郎

高拾五石貳斗五升 新九郎（印）

内 米九石五斗三升
内 米五石七斗貳升

内

一 九斗六升 もと

内 米三斗六升

一 壺石九斗貳升 もと添

内 米七斗貳升

一 三石八斗四升 中添

内 米壺石四斗四升

一 八石五斗三升 とめ

内 米三石貳斗

四口合拾五石貳斗五升

米糶とも二

此造桶

四尺 式本

三尺 壺本
 貳尺五寸壺本
 新九郎
 合八口 造石高合
 八拾石六斗七升
 内米五十石四斗四升
 秬三十石貳斗三升
 此造桶合
 一 五尺桶 壺本
 一 四尺桶 九本
 一 三尺桶 三本
 一 貳尺五寸桶 六本
 拾九本
 右之通延宝七年之
 造石高二御座候、此度御免
 被 下有難奉存候、此
 外多ク造申間敷候、
 若多ク造申候と、わき二より
 訴人も御座候ハ、其身は

不及申、肝煎檢断組頭共、
 如何様之曲事ニも可被仰
 付候、以上
 村田町酒や
 善右衛門
 同 同
 七左衛門
 同 同
 源七
 同 同
 甚三郎
 同 同
 新五郎
 同 同
 清次郎
 同 同
 勘左衛門
 同 同
 新九郎
 同 同
 天和三年

九月十四日 市十郎
 同 組頭
 弥七
 同 檢断
 新九郎
 大肝煎
 同 同
 作七殿
 同 同
 掃部助
 同 肝煎
 九右衛門
 〔7〕家藏之刀剣相改帳（享保一〇（一七
 二五）年、一八一六二）
 （表紙）
 〔從 祖先公之御遺物也
 家藏之刀剣相改帳
 山田新七
 享保乙巳六月廿二日〕

此刀劍は

祖先公之遺物也

僕為子孫は宝

愛于此重器而不

可亡失者也

山田須敬記

(花押)

此長之外ニ壺冊軸物

相改候帳有り

又外ニ

書籍之目錄帳モ

有之候

一 来国俊 刀 壺腰

鐔本ヨリ長サ式尺五寸壺分

鐔埋忠目貫桜花

切羽は、き金銀柄糸茶

色目針穴三ツノ内式ツハひやう

たんノ形、ふちハ赤銅ノな、

こ丸ノ内つたノ紋有り

老公京都え御登之時御

見遣候処ニ京都にて目利之人

殊之外褒美致御家ノ守ニ

罷成物之由申せしと也

一 国次 小脇指

壺腰

長サ九寸九分鐔打鐔也

作者を未知目メ鶏切羽は

はき金銀ふち頭赤銅也

一 来国光 小脇指

壺腰

長サ八寸九分鐔なしノ

相口也、目メ布袋午ニ乗候

処、せつはは、き金銀

一 則重 脇指 壺腰

備前物也、長サ壺尺七寸式分

鐔埋忠目メぶどう切羽

は、き金銀木裡石畳ミ

ふち赤銅かしら四分一海

岩貝尽柄糸茶色

元禄十四年ニ

仙台之本阿弥柴ノ左吉殿ノ

彫也、元禄十四年ニ慶長金

三両入御拵候而 老公ヨリ

後家ニ給候、旧ノ拵も有増ニ御

座候ヲ別而右之通ニ御拵候而給候、

百枚道具之由右左吉殿ヨリ

申来候也

一 備州長船 刀 壺腰

長船ノ下ニ切候銘能見へ

不申候、長サ式尺三寸

波柄也 祐定不分伝

天安十年二月日ト有り

此年号時代追而知れる

人にたつね可考事

平安文とも慥ニ見へ不申

一 祐定 同壱腰

無銘物也、長サ式尺式寸

六分、鐔是え打候而有之候

を近年十次郎持参申候、

享保六年二

〔近年〕拵候而貞愛仙府二

罷在候内指セ申候、目メかふと二

むちせつはは、き銀ふち

赤銅也、是等皆旧より有之候物

にて拵申候

此祐定足立小六郎方より参候

物乎未知其訳

金五両小六郎へかし不申、代り二

小六郎持参致候乎

一 無銘物 脇指壱腰

長サ式尺式分打鐔也

目メ菊は、き銀ふち銅

丸ノ内蔦ノ紋有り、目針穴

式ツアリ切レ物也

奥山大学様御代二罪人をためし候処

二ツ胴ヲ切候由也

一 無銘物 刀壱腰

目メ龍至而龜相なる

こしらへ也、此物能キ

あしき未知、長サ式尺三寸

壱分

一 雲ノ一字有り 脇指

壱腰

長サ壱尺八寸壱分

鐔一方ハ菊ノすかし一方ハ

さくら花壱ツ、束目メ貝尽シ

元禄十五年春三月

参日 老公并叔父及親

類衆ト同シク後家見参ニ

角田え参候時、松岡氏より

むこ引出物ニ後家貫之

候脇指也、小刀共二

一 無銘物 脇指壱腰

長サ壱尺四寸

鐔ハ元来長船ニ打りて

有之候也

せつはは、き金ふち赤銅ノ

な、こつたノ紋有り、目メ

枇杷旧より有之候物を以

享保六年二拵貞愛指

用ニ致候

元ハ白鞘ニて有之シ物也

一 脇指壱腰

△

長サ

鐔菊形金所々ニ入、目メ金

龍ふちかしら赤銅貝尽

せつは、ゞき金

正徳年中 御地頭御隠居様

御慰ニ鐔など之類御覽被

遊候而、又以被相返候条持居候者ニ

御慰之ため可入御覽之趣

肝煎方より御町中道具所持

可申者とも二六寸を以被相廻候

後家など離して有之鐔

も無之候故、入御覽不申候処

十次郎ハわきさしより引離シ

入御覽候処、入御意御所

望無是非奉上候由、其後

鐔無之故拙者方祐定ニ打

可有之候、鐔を我等留主中ニ

はつし参候而唯今打候而

置候、宝永三年十次郎

大沼氏えむこニ参候砌柄鞘

ふちかしらをハ致候、十次郎

むこニ参候時為指遣候

一 小脇指

△ 壱腰

長サ 信国平四郎

鐔京鐔也

老公京都え御登之時京都

にて御拵さめかやニ被成下賜シ

わきさし也、身も京都にて

御調候哉、又元来有之候物ヲ

拵計京都にて被成候哉、此品

後家不奉存候事

此小脇指も十次郎大沼ノ

家え持参申候也、むこニ参候而

後之事

一 無銘物 道中指

△ 脇指壱腰

是ハ元禄年中後家

仙台にて刀を古金売持

行を買調あけ申候而指

そへニ拵候、は、き銀ふち

四分一平両市え手ノ内

迄ひをとをし候由拵申候也

長サ式尺五分、つは天法贋

此指添も十次郎大沼之家へ

むこニ参候而後も

もち参候事也

以上三腰十次郎持参

申候△

△ 唐扇拵

一 忠貞 壱腰

長サ七寸五分唐扇拵

懷中刀也、元禄年中

後家仙台にて平井氏ヲ

頼古金売方ヨリ身計を

買調右之扇形ニ拵候

○貞愛依父命弟貞敬ニ譲ル

式尺三寸六分

一 無銘物 刀壱腰

後家上方より道中武土の真

似にて下り候ニ調申候物也

一 無銘物 小脇指

壺腰

長サ九寸

享保初年ノ比乎当所

之市え商人商売ニ持

参申候内買調候

貞愛幼年之比為指候物

也、享保丙午ノ秋角田へ

遣候刀へ被替申也

一 鎗 壺本

長サ

一 同 壺本

長サ

一 村しけたう弓 壺張

舟岡原田甲斐殿一乱之砌

右之御家老 隼人殿卜

申衆え 老公御見廻ニ御

出候時隼人殿ヨリ給候ト也

能弓之由申唱候

一 ぬりこめだう弓 壺張

此弓宝永年中ニ舟岡町

又右衛門ト申仁えかし申而致

紛失々申候、又右衛門ハ舟岡本

町今ノ文次郎継父也

村田荒町高橋屋小右衛門殿

今ノ四兵衛 え度々被参候仁也
之実父

老公へも知音にて有シ也

弓を被好候仁也、元ハ甲斐殿

家人也

右都合メ拾六腰卜

鎗式本

弓壺張

右之内三腰

十次郎市え

残拾三腰 鎗式本

弓壺張

内三腰後家求候

物也

残拾腰卜鎗式本弓

壺張は

祖先公之時何レ代ニ被

相求候哉、後家若年

之比心付不申不承

伝残心今更奉存候事

略伝承候をハ条下ニ訳

を書記置候也

一 祐定は東足立大瓜屋

敷小六郎 今ノ組頭伝兵衛
実父也

分ヨリ参候乎未知是非

五両かし金有之ゆへ

祐定ノ刀壺腰受取卜

老公之被為書置候帳面ニ
見へたり、故ニ推量ニ右
小六郎方より参候刀ニても有
之哉ニ奉存候事、定めて
小六郎方より来るなるべし
前ニも書して有り
一 式尺式分 目針穴式ツ
有之候、無銘ノ脇指ハ
往昔本町作兵衛ト申者
今むかいノ清左衛門
居候屋敷主也ト 之脇指ノ由
奥山大学様御領主之
砌咎人御刑罰有之
時右之作兵衛此脇指
を出し頼候乎、ためし而
貰候処、二ツ胴地申候由
伝へはなしを承候、其以後ニ
此方え御買取候由也

一 雲ノ一字有之候脇指
は元禄十五年三月
角田に而松岡氏ヨリ
むこ引出物ニ後家得候
物也、珍也
〔「は」から「珍也」まで×字抹消〕
一 かなとんき 壺本
後家十六七八歳之比
仙台ニて平井氏を頼候而
調申候
一 とめかき 壺ツ
右同断
一 鉄ノ玉 壺ツ
右同断
手ノ内え掘り候俣打
付頼者也

一 手裏剣 式本
一 しゆり剣 四本
右同断 四本とも二紛
失致候
内式本十一丙午之年
見出し申候
一 目メ 式腰分
旧より有之候
内壺対ハきりん
又壺対ハ鯰二人
一 ふち柄頭 壺腰分
旧より有之候
赤銅也、牡丹ノ花ヲ彫
一 さめ 壺本
先年後家調置候
一 とんぎ 壺本

朱ぬり手ノ内ハ貝らき

元禄年中後家調候

一 しなひ皮 貳本

元禄年中平井氏ヲ頼

相調申候

一 刀 壹腰

享保丙午初秋角

田より貞愛居合刀ニ

こしらへ可申とて持参

其代りニ小指脇角田

四郎兵衛へ遣候

前二も記置候

一 懐剣弥 壹本

△印前二書記

但し朝鮮扇作り

元禄年中二求^レ買^ニ小脇

指^一於仙府拵之さする

一 万力 壹つ

前後致紛失候

一 刀掛道具物 壹通り

家君公之御代より有之候

一 小刀 壹本

つかはたざい。つかハ昔より

有来候者也

一 同前二印置候壹本

つかよろい太刀角田ニ而

貫申脇指へ指りニ而貫候

一 同 壹本

つかむめひいな

一 封小刀 壹本

つか扇なかし

家君公京都より御調御持

参被成候小かたな也

元文四己未

一 かなあふき 壹本

しんちう 貳百五拾銅ニ調候

一 小刀つか共ニ 壹本

つかかに 百五拾銅ニ調候

元文五庚申

一 刀 壹腰

神田住

此代五百文ニ南町

市平致持参候ヲ

買取候、南町七之丞

方より払ニ遣候事

一 十文字鍵 壹本

此代三百文

右同人方より才覚持参
右同人

同年

十月 一尺八寸

一 脇指忠光 沓腰

川原町御足輕源兵衛方

より弘二遣候事、才覚人

荒町検断勘之丞

此買金沓切ト百文

錢ニ直し八百式拾文也

沓切ニ七百廿文相庭

十二月十七日

一 丹波守吉道脇指

沓尺八寸 沓腰

此買錢 五百九拾文

但し損シ候さやへさし

つかなくつぶミにて買

求候、売人河原町

御足輕源兵衛殿立

合候衆、河原町御足輕

喜兵衛殿仙台ノ甚兵衛、

但し古手衣裳へ取

替物ニ致調候

右脇指沓尺八寸

十二月十九日

一 丹波守吉道 脇指

沓腰

元和六年

三月日トアリ

沓尺七寸

此買錢貳百文

古さやへ入つぶミにて買

求候、売人河原町

御足輕源兵衛

沓尺五寸

一 無名脇指 沓腰

此買代沓メ文

元文六辛酉二月岩沼

初午市へ申遣新五郎ニ

為求調候はゞきニはなれ馬ヲ彫候

忠光

一 九寸五分 沓腰

同年同所にて同人方へ

申遣為求候、新五郎鍬

商売ニ参居候故申遣

調候

此買代貳百五拾文

寛保元辛酉年

八月十七日 貳尺六寸

一 信国 八十一 刀沓腰

此代八百文ニ買調候

西ノ

刈田宮原戸ノ内屋敷

小右衛門方より口入河原町

御足輕源兵衛殿才覚人

荒町検断勘之丞

小右衛門源兵衛方より壳被申候

書付取候

延享元甲子五月廿七日

一 友光 脇指壹腰

本町又介致持参買取

くれ候様達而頼申候故

五百式拾錢ニ買取申候

右又介ハ此時手前ニ

しち物ニ指置候勘太

継父也

致齋須敬

須敬友生

[8] 覺〔天保一一（一八四〇）年、二五―六―四四〕

覺

賃先払

一 紅花式拾式箇也 但し壹駄二付

御狀壹通 金壹兩三步式朱也

江戸駿河町

三井久兵衛殿行

⊗ 仙紅四丸 仙兩四丸

仙玉四丸 仙吉壹丸

仙稀三丸 仙合三丸

仙大三丸

ノ廿式箇也

右之通槌ニ請取申候間、無相違御届ケ

可申上候、万一於道中如何様之難事

御座候共急度相弁少シも御損難掛上

申間敷候、為後日仍而如件

福寫

天保十一子歲十二月廿三日 京屋

弥兵衛（印）

仙台村田

山田屋新五郎殿

[9] 荷物請証之事〔天保二五（一八四四）年、二五―六―一二〕

荷物請証之事

全印

一 紅花 廿入 廿八箇也

☐印

但廿入四箇二付

金七拾兩直段

右荷物京都表より為差登被成度二付

金五百兩為替ニ取組右之内金五拾兩

無事着利足請合金ニ請取申候、残

金四百五拾兩相渡し右荷物槌ニ請取申

無相違為差登可申候、荷物無事着

致候ハ、祝義金ニ而金拾兩相戻候様

可仕候、猶爰元より京都迄荷物之義

請合致候上は、於海陸ニ荷物之内ニ而

何連之銘印成共万一如何様之

難事有之候節ハ、其銘印口計

荷物私方ニ而引請御約定之直段

を以弁金致候而貴殿え聊損金

相掛不申候、外銘之荷物えは少も

違乱無御座候、為後日之依而

一札如件

大沼屋養之丞（印）

天保十五年辰八月

山田屋新五良殿

〔10〕 覚（弘化三（一八四六）年、二五―六―一二）

覚 賃金九兩三步也

相済

外金壹兩壹歩式朱也

一 紅花廿四箇也

先般不足分

一 □印

御状壹通

受取申候

但し壹箇ニ付廿袋入

荷符廿四枚

内訳ケ 送り手板六通

仙佳四丸 仙改五丸

仙永四丸 仙長四丸

仙仁三丸 仙大四丸

ノ元合

江戸南新堀

井上重治郎殿行

添金貳兩貳歩卜

六匁

右之通槌ニ受取申候、無相違御届ケ

可申上候、万一於道中ニ火盜難御座候共

相弁ひ少も御損難相掛申間敷候、

為後日之依而如件

福嶋

弘化三年 嶋屋

午七月廿六日 佐右衛門（印）

仙台村田

山田屋新五郎殿

〔11〕（紅花受取証）〔年未詳、二五―六―一五〕

三井則右衛門殿分

一□仙
イ紅花十八入 四丸

同玉仙
紅花十八入 四丸

✂手板壺通

添金壺両三步

一□仙
イ紅花十八入 三丸

同仙
本紅花十八入 貳丸

同玉仙
紅花十八入 貳丸

同合仙
紅花十八入 壺丸

✂手板壺通

添金壺両三步

一□仙
本紅花十八入 四丸

同福仙
紅花十八入 四丸

✂手板壺通

添金壺両三步

合而紅花貳拾四丸

添金五両壺歩

手板三通

出判壺通

右之通槌ニ請取蔵入仕候

尤向船次第積附御案内

可申上候、為念之如此御座候、以上

戌七月晦日 設樂次郎右衛門（印）

二藤部兵三郎（印）

仙台村田

山田屋新五郎殿

Ⅲ 村田町の運営

〔12〕 南町より市立前之儀奉願候ニ付添翰を以乍憚品々申上候御

事（延享二（一七四五）年、A―三―一―四）

南町より市立前之儀奉願候ニ付添翰を以

乍憚品々申上候御事

一 先検断新助代ニ南町より市立前之儀 御公儀え

願申上候処、市日之事ニ付而ハ御伝馬諸役等ニ泥

申義ニ無之候得ハ不及御吟味ニ由を以右願被相

返候由申伝候、且七八ヶ年以前ニも右之段南町より

又以新助方へ願申上度由内々申出候処、先年

不及御吟味ニ被相返候義可奉願様無之由ヲ以

相扣候義ニ候哉、其節新助心付ヲ以本町之者

共ニ料簡ヲも致候様ニと内々申談候故、本町

中より南町え代忝ノ四百文宛年々合力可仕由

申出シ候得共、南町中不申受候事

一 去夏丹左衛門方え右願指出申候間町内へ取合追々

吟味仕候処、南町十六日市ヲ本町市と一同ニ致市

立前より次第追廻シニ仕候様ニハ吟味不罷成候、品ハ

先年も市追廻シニ仕候儀ハ吟味難成事と相見得

其節合力代之料簡ヲ申出シ置候条、此度も右ニ増代

致候而年々代式貫文宛合力可仕候由本町中

決断之上申出候間、南町え此趣丹左衛門方より

両組頭ヲ以致首尾候所不申受候、扱又本町ニ

不限荒町共二三町之市日相分り年数久敷

仕来候義今更南町之者共不勝手之筋、又ハ

本町之者共内々ハ得手不勝手之筋有之候逆

新規ニ追廻シニ仕候儀無扱奉存候条、此末共ニ

只今迄相定候通其町切ニ市日相定置度

奉存候段、本町之者共之吟味承届申上ハ

右願拙者方ニ而吟味可仕様無之候由申断候

得は、左候ハ、乍憚御町役様迄奉願度

由押シ而申出候ニ付取次申上候、以上

仮検断

新五郎（印）

延享貳年七月十九日

儀右衛門様

又左衛門様

[13] 口上之覚書を以申上候御事〔延享二（一七四五）年、A―
三―一―一六―二〕

口上之覚書を以申上候御事

一 南町市ハ先年より十六日計相立罷在候哉、
外ニ相立候日も有之候哉、可申上由被
仰付奉承知候、仍本町南町共ニ承届候所
不分明ニ而耽と可申上様無御座候

一 別紙申上置候元検断新助代本町より南町え
壹ノ四百文之合力之儀ハ壹ヶ月ニ市立前半軒
分百弍拾文ツ、之積りを以申置候事ニ
御座候、兼而立前ニ相当候者ハ両町共ニ
見世賃取立代半軒二百弍拾文ツ、受取
申候故、右之積りを以壹ヶ月ニ半軒ツ、之
合力ニ吟味仕候訳ニ承罷在申候、以上

本町南町仮検断

新五郎（印）

延享貳年七月廿九日

儀右衛門様

又左衛門様

[14] 乍恐奉願候御事〔延享二（一七四五）年、A―三―一―
九〕

乍恐奉願候御事

一 当町検断御蔵守丹左衛門病氣ニ付右仮役拙者ニ被
仰付難有仕合ニ奉存相勤罷在候、然所ニ去々年
胸痛相煩候以後病身ニ罷成筆段等至テ
不自由ニ罷成他筆を以書用相叶罷在候、
仍而此段其節可申上哉と奉存候得共早速
申上候儀恐多奉存今日迄も他筆ヲ相求メ
右御用相勤罷在候、然ニ寒中ニ罷成自病
胸痛指発當時御用相勤可申様無御座候
条、右仮役御免被成下度乍憚奉願候、
以上

村田町仮検断

新五郎

延享貳年閏十二月

大肝煎

佐山八郎兵衛殿

右之通新五郎儀自病指発仮検断御用相

勤兼申候間、御免被成下度由願申上候条、願之通早速御免被成下度奉存候、時々御用支も罷出申義ニ御座候間如斯申上候、同人代り仮検断同町御百姓組頭左次兵衛ニ被仰付候様被成下度奉存候、検断仮役被仰付候而も相勤可申人柄之者ニ御座候間如此申上候、以上

大肝煎

佐山八郎兵衛

判

同年同月

石林太夫様御印判

御代官石川氏ニ有之候所はつし苗字ニ而如此

[15]

当御町商人共、市中立前え罷出、諸式商売可仕旨被仰渡奉承知、何も立前え罷出商売仕罷有申候处、右二付乍恐口上書を以、左ニ奉願候御事〔宝曆二（一七五二）年、二五―二四―八〕

当御町商人共市中立前え罷出、諸式商売可仕旨被仰渡奉承知、何も立前え罷出商売仕罷有申候处、右二付乍恐口上書を以左ニ奉願候御事

一 当御町御百姓共何も少高所持仕罷有候二付、御田地計ニ而相続仕兼、商渡世ニ而半相続仕罷有候所、此末市日ニハ立前え計罷出候而ハ、内渡世一向可仕様無御座候、只今迄之通被成下候得ハ、店売之間ニハ渡世之家業をも仕候二付、無人ニ而も問ニ合申候二付、縦不商ニ御座候而も相続仕候处ニ、此末立前え計罷出申候而ハ、店商之外余ニ家業之方一向ニ可仕様無御座、尤在々より参候者之指引等も仕候处ニ、立前え罷出候而ハ、内々之指引等可仕様無御座、至而迷惑ニ奉存候条、御憐愍を以、只今迄之通居懸リニ而

商売仕候様御吟味被成下度奉願候、勿論

在々市立仕候者も、市日ニ参候而ハ、立前え罷出

内証指引不罷成候間、市間ニ可参と市立相扣

申様ニ罷成候而ハ、自然と市も立劣り申様罷

成可申哉、市立之者多ク御座候得ハ、少々宛も

御町之潤ニ罷成可申御儀と奉存候、^尤只在々より

指引等有之、参候者も^{只今迄之通}居懸り二而

^{商売仕候得ハ、其日ニ首尾合申儀も立前ニ居候不指支市間ニ}

参候」得は、御町之商人は別而隙も相懸り、又ハ居合互

不申、諸式相弁兼相互迷惑ニ奉存候^{間、乍}

^{憚如此奉願候、且又}先年より居懸り二而面々

商売仕候代りニ居越見世賃相懸ケ、右見世

賃惣御町中立前え振り代ニ仕候得ハ、端々迄

之為ニも罷成可申哉、先年惣御町中相談

之上右之通仕来申候間、旁御慈悲を以只今

迄之通面々居懸り二而商売仕候様^{御吟味被成}

下度段^{不顧憚如此奉願候、右之段宜様被仰}

上被下度奉存候、以上仍而右両町之者共

惣連判を以乍憚奉願上候、以上

荒町

宝曆式年二月廿五日

林右衛門（印）

同

喜十郎（印）

同

弥五八（印）

同

六左衛門（印）

同

勇吉（印）

借屋

与四郎（印）

荒町

喜右衛門（印）

同

応四郎（印）

同

市太郎（印）

同

庄三郎（印）

同

勘之丞（印）

同

三郎兵衛（印）

同

清五郎（印）

同

兵吉（印）

同

兵藏（印）

借屋

松右衛門（印）

荒町

喜兵衛（印）

借屋

又兵衛（印）

荒町

所左衛門（印）

同

長十郎（印）

借屋

五兵衛（印）

本町

専吉（印）

同

儀四郎（印）

同

要七（印）

同

嘉四郎（印）

借屋

市郎兵衛（印）

本町

惣吉（印）

借屋

平兵衛（印）

本町

清藏（印）

同

勘右衛門（印）

同

清内（印）

同

新右衛門（印）

同

七兵衛

同

長太郎（印）

同

平内（印）

借屋

伝八（印）

同

三平（印）

本町

林左衛門（印）

検断

秀右衛門殿

同

弥兵衛殿

右之通願申上候間、御吟味被成下度奉存候、以上

検断

弥兵衛（印）

同

同年三月十六日

秀右衛門（印）

松 弥左衛門様

永 又左衛門様

四 山田家文書目録

◎凡 例

◇「箱」「番号」「枝」

古文書を入れた整理箱・封筒に付された番号と一致する。

◇「表題（内容）」

古文書に記されている表題をそのまま記入し、内容に関する注記を（ ）に記した。表題が付いていない場合は、内容から判断して（ ）に表題を記した。書籍史料については、基本的に内題・巻次を記載したが、書籍の特定がしやすいように外題その他を記載したものもある。

◇「日付」「西暦」

「日付」欄には史料の作成年月日を古文書記載のまま記入した。ただし、書籍史料に墨書等で書き込まれた年代については、基本的に「備考」に記している。

「西暦」欄は、「日付」欄を西暦に変換して記入し、年代・月日のいずれかがわからない場合は「9999」のように記入した。なお、月日は五桁で記入している。これは作成月が閏月である場合に、それを表示できるようにするためである。閏月の場合は月の次の行に「1」を、閏月でなければ「0」を記入している。例えば「元文二年閏霜月」は「173711199」となる。

◇「差出人」「受取人」

史料の差出人（作成者）と受取人（宛名）を記入している。へゝ内の半角カタカナは屋号である。書籍史料については、差出人欄に、著者等／板元等を記載し、受取人欄には、当該書籍に書き込まれた所蔵者等の署名や印記を記載した。

◇「形態」

「冊」（冊子形態の史料）か「状」（一紙物の史料）かを記入している。

◇「状態」

破損や前後の欠損、開披不可、付属の史料がある場合にその旨を記入している。

◇その他

書籍史料における奥書等の書込み、その他の情報は「備考」に記した。関連のある史料が別々に保管されていた場合には、関連史料の番号を「備考」に記した。また、判読不能文字は「□」（一字）および「┐」（文字数不明の場合）で示している。なお、本文書は史料保全のために全点撮影済であるが、書籍史料の大部分については、作業時間の制約から途中を省略して撮影されている。目録上では「撮影中略」の記載は省いた。

[illegible]

2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	箱
9	8	7	6	5	4	3	2	1	43	42	41	40	39	38	37	36	35	尊
																		枝1
																		枝2
																		枝3
																		枝4
																		枝5
春秋左伝卷十七・十八（春秋左氏伝再刻十七十八）	（古状、今川了俊対愚息仲秋制詞条々など）	女用文綾錦 全	皇朝史略卷之四（皇朝史略 青山延子著 二）	新撰古暦便覧（享保改正 増続古暦便覧 全）	錦繡段	新刊錦繡段	東男奇遇系筋卷之二	浄瑠璃废物語卷一	大学（亀頭）「大学新大全（一）」	過拙堂修飾大学章句便蒙大全草稿	孟子集註（大全）序説・卷之二（□□）	小学示蒙句解 卷之六下（善行 中）	小学示蒙句解 卷之六上（善行 上）	小学示蒙句解 卷之五下（嘉言 中）	小学示蒙句解 卷之五上（嘉言 上）	小学示蒙句解 卷之四（稽古）	小学示蒙句解 卷之三	表 題（内 容）
		安永九庚子夏六月吉辰（板）		元禄五年壬申臘月之吉 享保十七壬子歳秋七月穀旦														日 付
		178006099		169201299														西 曆
東都書林・山崎屋清七（刊）		仙台国分町十九軒 伊勢屋半右衛門板	水府史臣青山延子著、男延光校	苗村丈伯三径考／五條橋通万寿寺町外 屋川勝五郎右衛門（刊） 武昌城 書林・清兵衛店、北斗城 書肆・梅村弥右衛門（刊）			逝水先生門人海曲逸民撰 朱嘉集註 狂蝶子文麻呂著 武江 感和亭鬼武者											差 出 人
	屋長之助	山田長治、持用 儀兵衛、山田屋、上崎長治郎、大黒		田屋新五郎	山田屋新五郎				（印、山田） （印、山田） （印、山田） （印、山田）									受取人
冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	形態
																		状態
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	表 数
1373151 1631152 2411535 35416 91217 参照	後表紙に書付けあり		4124・25 参照	の書付けあり	共 此書物何方へ参り候 返し可被下候以上は 表紙・後表紙に漢詩等 の書付けあり	卷末に書込みあり 13154 参照												備 考

箱	尊	枝1	枝2	枝3	枝4	枝5	表題(内容)	日付	西暦	差出人	受取人	形態	状態	臺数	備考
2	34						春秋述暦(全)	寛文巳酉之冬序	16699999	弘文學士林聖序		冊		1	
2	33						白石詩集	正徳壬辰仲春	171202099	江戸麹町十丁目 唐本屋清兵衛梓行、京都 同店八郎兵衛(刊)		冊		1	
2	32						初圖頼母子帳	寛延三年午ノ十二月十二日	175012012			冊		1	
2							西銘					冊		1	
2	14						中庸集略卷下					冊	破損	1	2 45・46、11 6 参
2	15						堯曆	享保九年甲辰仲夏日(跋)	172405099	伴部安崇跋/武陽芝神明前 書林・山田屋三四郎板行		冊		1	11 9 参照
2	16						垂加文集拾遺卷之下附録					冊		1	2 29、7 9 参照
2	17						朱子訓子帖			山崎敬義跋/武村昌常刊		冊		1	3 58・59、11 25 参
2	18						続垂加文集卷之上			羅浮子道春撰		冊		1	4 26、11 52 参照
2	19						本朝神社考中之三・四(三ノ四)					冊	破損	1	
2	20						庭訓					冊		1	
2	21						伽羅先代萩六ツ目(先代萩六目)			江戸本ざいもく町一丁目 地本問屋にしのミヤ新六版		冊		1	朱書きあり
2	22						連理欄					冊		1	
2	23						題四十二国人物図説			崎港 西川先生著	山田本店	冊		1	「文久三年四月 山田本店」書込みあり
2	24						分記論卷第一	元和拾年甲子三月吉日	162403099	一流道極先師・大雲傳左衛門・中村釣閑齋正次(花押)(印)	御相伝 山田	冊		1	差出・宛先に朱書きあり、3 74 76 参照
2	25						(分記論)	元和拾年甲子三月吉日	162403100	閑齋正次(花押)(印)	御相伝 山田	冊	前欠	1	差出・宛先に朱書きあり、3 74 76 参照
2	26						責沈(□翁責沈文)			二條通松屋町 武村市兵衛刊行、關齋考訂	新七郎殿	冊		1	
2	27						洛陽道詩(張州河林堂草書 附華炎及諸賢贈言)			京師書坊・茨城多左衛門版行	(印、仙台領) 村田町(一ツ) 山田屋	冊		1	
2	28						大学金鑑抄卷之六			編集跡部源光海翁		冊		1	11 23・27・28 参照
2	29						垂加文集拾遺卷之上					冊		1	2 16、7 9 参照
2	30						朱子荅吳晦叔知行書(朱子知行書)					冊		1	10 4 参照
2	31						本義序列(易経本義 序列)					冊		1	
2	32						龜頭助語辞	天和三癸亥年仲夏穀旦(刊)	168305199	梅村彌右工門翻刊		冊		1	
2	33						朱文公増損郷約					冊		1	
2							商売往来(謄字改正 万宝商売往来 平仮名附)	安政七庚申年三月五刻	168003199	書林・白木裳華房 仙台国分町十九軒 伊勢屋半右衛門板	山田新五郎、善兵衛、(印、陸前柴田郡村田町(一ツ) 山田新五郎)	冊		1	「金五枚山田新五郎善兵衛持用」本文上段、印記複数あり

2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	箱
50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	尊
																枝1
																枝2
																枝3
																枝4
																枝5
毛詩 之十五	毛詩 卷第十三・十五	毛詩 卷第十三・十五	毛詩 卷第十三・十五	毛詩 卷第十三・十五	毛詩 卷第十三・十五	毛詩 卷第十三・十五	毛詩 卷第十三・十五	贈補絵本宝鏡 卷之五	贈補絵本宝鏡 卷之三	（開碁棋譜）	昔語 いばらの露 卷之四	町人袋 補刻考訂（貝原先生口授、 卷之一、二）	絵本故事談卷之七	官刻 六論衍義大意 全	孟子卷之六・卷十四（赤澤太一郎先生 改点） 正／天保九年戊戌十一月再版 享保七年壬寅年四月吉日	表 題（内 容）
														寛政五年癸丑四月（刊）／文政七年甲申三月補正	日付	
														172204099	179304099 182403099 183801199	西暦
				朱熹謹書								浪速書房・田中宋栄堂		武江書林・出雲寺和泉様、ほか5名	京都書林・河合氏梓・俵屋清兵衛	差出人
			山田氏、山豊治					保屋庄右衛門 山田新五郎、秋田新五郎、村田町（一ツ） （印、仙台領）	村田町（一ツ） 山田屋、山田新、秋保屋庄右衛門、山田新五郎 （印、仙台領）	山田貞勝 （印、仙台領）	山田貞勝 （印、本徳）、 （印、山田）、 （印、ヤ正） 大沼屋、山田屋新助持用		新屋、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五郎、山田屋、山田新五			

箱 尊	枝 1	枝 2	枝 3	枝 4	枝 5	表 題 (内 容)	日 付	西 暦	差 出 人	受 取 人	形 態	状 態	臺 数	備 考
3 12						毛詩 卷第十六・二十(毛詩鄭箋十六 一)	寛延二年巳巳春	17499999	皇都書林・丸屋市兵衛・今村八兵衛・ 風月莊左衛門梓行		冊		1	
3 11						小学 卷之二(龜頭小学内篇句読 明)					冊		1	
3 10						小学 卷之三(龜頭小学内篇句読 敬)					冊		1	
3 9						小学 卷之四(龜頭小学内篇句読 積)					冊		1	
3 8						小学 卷之五(龜頭小学内篇句読 嘉言)					冊		1	
3 7						詠筌初編卷三(詠文筌蹄初編卷三)					冊		1	
3 6						詠筌初編卷四(詠文筌蹄初編卷四)					冊		1	
3 5						詠筌初編卷五(詠文筌蹄初編卷五)					冊		1	
3 4						詠筌初編卷六(詠文筌蹄初編卷六)	正徳乙未年正月 吉日	171500199	洛東知恩院門前 澤田吉左工門刊行		冊		1	3 180・81 参照
3 3						玉講附録上之二(玉山講義 附録上二 三)					冊		1	
3 2						玉講附録中(玉山講義 附録中)					冊		1	
3 1						玉講附録下之一(玉山講義 附録下二 三)	寛文壬子仲春 (跋)	167200299	弘文院學士林恕謹跋		冊		1	「東冬江」と表紙見返 しに朱書きあり
2 63						新刊校正増補凹機詩韻活法全書卷之一 (凹機活法)					冊		1	
2 62						凹機詩学全書 卷之二(凹機活法)					冊		1	
2 61						新刊校正増補凹機韻学活法全書 卷之 二(凹機活法)					冊		1	
2 60						叙凹機詩学活法全書(凹機活法)	明暦丙申日南至 (跋)	165699999	耕斎菊池東均(跋)		冊		1	
2 59						新刊校正凹機活法詩学全書卷之六(凹 機活法)					冊		1	
2 58						新刻重校増補凹機活法詩学全書卷之七 (凹機活法)					冊		1	
2 57						新刻重校増補凹機活法詩学全書卷之八 (凹機活法)					冊		1	
2 56						新刊校正増補凹機活法詩学全書卷之八 (凹機活法)					冊		1	
2 55						新刊校正増補凹機活法詩学全書卷之十 (凹機活法)					冊		1	
2 54						新刊校正増補凹機活法詩学全書卷之十 (凹機活法)					冊		1	
2 53						新刊校正増補凹機活法詩学全書卷之十 (凹機活法)					冊		1	
2 52						新刊校正増補凹機活法詩学全書卷之十 (凹機活法)					冊		1	
2 51						新刻重校増補凹機活法詩学全書卷之一 (凹機活法)					冊		1	
3 12						大倉 鳳州 王世貞校正					冊		1	

箱 尊	枝1	枝2	枝3	枝4	枝5	表 題 (内 容)	日 付	西 暦	差 出 人	受 取 人	形 態	状 態	頁 数	備 考
3	34					新刻校正凹機活法詩学全書卷之二(凹機活法)					冊		1	
3	33					新刊校正凹機活法詩学全書卷之三(凹機活法)					冊		1	
3	32					新刊校正凹機活法詩学全書卷之四(凹機活法)					冊		1	
3	31					新刊校正凹機活法詩学全書卷之五(凹機活法)					冊		1	
3	30					新刊校正凹機活法詩学全書卷之六(凹機活法)					冊		1	
3	29					新刊校正凹機活法詩学全書卷之七(凹機活法)	延宝癸丑孟冬吉辰(梓)	167301199	書林・雒陽西御門前 積徳堂重梓		冊		1	
3	28					新刊校正凹機活法詩学全書卷之八(凹機活法)					冊		1	
3	27					新刊校正凹機活法詩学全書卷之九(凹機活法)					冊		1	
3	26					新刊校正凹機活法詩学全書卷之十(凹機活法)					冊		1	
3	25					新刊校正凹機活法詩学全書卷之十一(凹機活法)					冊		1	
3	24					新刊校正凹機活法詩学全書卷之十二(凹機活法)					冊		1	「尤侵覃鹽咸」と朱書きあり
3	23					新刊校正凹機活法詩学全書卷之十三(凹機活法)					冊		1	「庚青蒸」と朱書きあり
3	22					新刊校正凹機活法詩学全書卷之十四(凹機活法)					冊		1	「陽」と朱書きあり
3	21					新刊校正凹機活法詩学全書卷之十五(凹機活法)					冊		1	「寒刪」とあり
3	20					新刊校正凹機活法詩学全書卷之十六(凹機活法)					冊		1	「先蕭」と表紙見返しに朱書きあり
3	19					新刊校正凹機活法詩学全書卷之十七(凹機活法)					冊		1	「肴豪歌麻」と朱書きあり
3	18					新刊校正凹機活法詩学全書卷之十八(凹機活法)					冊		1	「灰眞文」とあり
3	17					新刊校正凹機活法詩学全書卷之十九(凹機活法)					冊		1	「魚虞齊佳」とあり
3	16					新刊校正凹機活法詩学全書卷之二十(凹機活法)					冊		1	
3	15					新刊校正凹機活法詩学全書卷之二十一(凹機活法)					冊		1	
3	14					新刊校正凹機活法詩学全書卷之二十二(凹機活法)					冊		1	
3	13					新刊校正凹機活法詩学全書卷之二十三(凹機活法)					冊		1	

3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	箱
53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	尊
																			枝1
																			枝2
																			枝3
																			枝4
																			枝5
□字千字文 貞	春秋左伝卷十九・二十（春秋左氏伝再刻十九二十）	春秋左伝卷三（春秋左氏伝 再刻三四）	春秋経傳集解哀上第二十九・三十（春秋左氏伝 廿九卅）	春秋経傳集解哀上第二十七・八（春秋左氏伝 廿七八）	春秋経傳集解昭六第二十五・六（春秋左氏伝 廿五六）	春秋経傳集解昭四第二十三・二十四（春秋左氏伝 廿三四）	春秋経傳集解昭二第二十一・二十二（春秋左氏伝 廿一二）	春秋経傳集解襄六第十九・二十（春秋左氏伝 十九廿）	春秋経傳集解襄四第十七・十八（春秋左氏伝 十七八）	元史授時曆経図解附録（授時曆図解附録）	元史授時曆経図解卷之三（授時曆図解冬）	元史授時曆経図解卷之二（授時曆図解秋）	元史授時曆経図解卷之二（授時曆図解十四（四機活法））	新刊校正増補四機活法詩学全書卷之二十三（四機活法）	新刊校正増補四機活法詩学全書卷之十二（四機活法）	新刊校正増補四機活法詩学全書卷之十一（四機活法）	新刊校正増補四機活法詩学全書卷之十（四機活法）	新刊校正増補四機活法詩学全書卷之九（四機活法）	表題（内容）
										辰（版）	元禄十六年癸未月旅王春日得丙								日付
										17039999									西暦
										洛下 小泉光保著／洛陽 小泉市郎兵衛蔵版	洛下 小泉光保編解								差出人
柴田西根莊村 田郷福井屋山 田氏須敬																			受取人
冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	形態
																			状態
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	臺数
跋文末に朱印あり 享保20年頃の跋文あり、 9参照 12 7 1 2 1 13 31、5 16 11 16 24 53 16 3 54 17			朱書きあり	朱書きあり	朱書きあり	朱書きあり	朱書きあり	朱書きあり	朱書きあり	51参照 朱書きあり、 11 50	51参照 朱書きあり、 11 50	51参照 朱書きあり、 11 50							備考

箱	表	題	(内	容)	日	付	西	曆	差	出	人	受	取	人	形	態	状	態	頁	数	備	考
3	75																		1	25	朱書きあり、24・25参照	
3	74																		1	25	朱書きあり、24・25参照	
3	73																		1	6	17参照	
3	72																		1	6	17参照	
3	71																		1	6	17参照	
3	70																		1	「于時明治三庚午年三月吉日 福井性」とあり		
3	69																		1	朱書きあり		
3	68																		1			
3	67																		1			
3	66																		1	「村山」とあり		
3	65																		1			
3	64																		1	朱書きあり		
3	63																		1			
3	62																		1			
3	61																		1			
3	60																		1			
3	59																		1	2	18、11参照	
3	58																		1	2	18、11参照	
3	57																		1			
3	56																		1			
3	55																		1			
3	54																		1			
3	53																		1			
3	52																		1			
3	51																		1			
3	50																		1			
3	49																		1			
3	48																		1			
3	47																		1			
3	46																		1			
3	45																		1			
3	44																		1			
3	43																		1			
3	42																		1			
3	41																		1			
3	40																		1			
3	39																		1			
3	38																		1			
3	37																		1			
3	36																		1			
3	35																		1			
3	34																		1			
3	33																		1			
3	32																		1			
3	31																		1			
3	30																		1			
3	29																		1			
3	28																		1			
3	27																		1			
3	26																		1			
3	25																		1			
3	24																		1			
3	23																		1			
3	22																		1			
3	21																		1			
3	20																		1			
3	19																		1			
3	18																		1			
3	17																		1			
3	16																		1			
3	15																		1			
3	14																		1			
3	13																		1			
3	12																		1			
3	11																		1			
3	10																		1			
3	9																		1			
3	8																		1			
3	7																		1			
3	6																		1			
3	5																		1			
3	4																		1			
3	3																		1			
3	2																		1			
3	1																		1			

箱 尊	枝 1	枝 2	枝 3	枝 4	枝 5	表 題 (内 容)	日 付	西 暦	差 出 人	受 取 人	形 態	状 態	頁 数	備 考
3						(諸国鍛冶系図)	元和拾年甲子三月吉日相伝	162403100	一流道極先師・大雲傳左衛門・中村釣閑斎正次(花押)(印)	山田新七郎	冊	前欠	1	朱書きあり、21・24・25参照
3						詩林良材坤之中				(印、仙台領)	冊		1	131191・23参照
3						孝行になるの伝受				山田屋(印、仙台領)	冊		1	
3						開運出世伝受下之巻				村田町(一ツ)	冊		1	
3						訳室初編巻首・一(訳文筆跡 初編巻首巻一)				山田屋(印、仙台領)	冊		1	21・56・59参照
3						訳室初編巻二(訳文筆跡 初編巻首巻一)				柴田郡村田郷佐藤や村巳の輔(印、陸前柴田郡村田駅(一ツ)山田新五郎)	冊		1	「明治二年柴田郡村田郷佐藤や村巳の輔巳ノ十一月求之」とあり
3						狂蝶新語巻之五	文弥(ママ)六年癸未陽春			羽州山形十日町藤田善吉持用(印)	冊		1	後表紙に書込みあり
3						三書字類	明治五年申年二月謹誌	187202099	榎木寛則訳/雄風館蔵版、東京書林馬喰町二丁目 森屋治兵衛発兌	田新五郎殿	冊	前欠	1	
3						算法日記(雑記帳)	慶応二年丙寅四月吉祥日	18604099		村田村長・安積公	冊		1	
3						(呼出状、村会開会に付)	明治廿四年三月十二日	189103012		田新五郎殿	冊		1	
3						(地券)	明治九年一十年	187699999 187799999			状		21	
4						孟子集註 卷之七、十(倭板四書・山崎嘉点)				(印、一ツ)	冊	挟み込み文書「職養及ほか白紙2枚あり 一部開披不可あり	1	21126941・141038・1158・10325・361326・2311128
4						風俗往来				山田屋徳蔵	冊		1	
4						大学章句					冊		1	
4						(棋譜)	文化七年十二月月中旬	181001299	東都安井仙知門人甲州小野知養		冊	前欠	1	「文化十年正月十三日山田屋徳蔵」ほか書込みあり
4						論語集註 卷之六(倭板四書・山崎嘉点)					冊		1	
4						魁本大学諸儒箋解古文真宝巻之下 後集	元禄十丁丑歳中春白駒	169702099	朱熹集註 中村甚承榮成識/鑰屋善兵衛開板		冊		1	朱書きあり、13194参照

4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	箱		
26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	尊	
																				枝1	
																				枝2	
																				枝3	
																				枝4	
																				枝5	
改正増補 欠番 皇朝史略卷之一（青山延于著 五） 皇朝史略卷之六（青山延于著 三） 本朝神社考下之五・六（上之六）				伊達模様 倭韓乃染分巻四		一休はなし 下	聚分韻略（広益三重韻）	孟子（天保改正 孟子）	唐宋詩語玉屑	出師表	前赤壁賦	聚分韻略（三重韻 全）	精選唐宋千家連珠詩格卷之十一・二十 祥日	陳臥子明詩選	玉葛	鐘馗	新添修治纂要卷之三目録	新刊万病回春卷之五・六 禮集	御手本	表 題（内 容）	
						文政十一年戊子 年初冬補刻			文政十三庚寅仲 春			寛永拾五寅歳孟 春吉辰	慶安元年卯月吉 祥日	弥生吉日	正徳四年甲午曆 正生吉日	貞享三丙寅仲夏 日			日 付		
						182810099			183002099			163802099	164804099		171403100	171403099	168605099				西 暦
士都華氏著、小林六郎訳				浪華 五島清道著、同 廬洲山人閔		書林・京都 吉野屋仁兵衛、大坂 河 内屋長兵衛板行		朱熹集註	矢上快雨先生校、羽州 江村有儀撰 （印）（印）／京撰書林・五書房同梓	荒泉書	荒泉書	二条 仁左衛門	寺町通上本能寺前 林長右衛門開板	行	嶋屋利助・大坂 和泉屋善兵衛求板 嶋屋利助・大坂 和泉屋善兵衛求板 李舒章 宋韓文／武江書肆・文刻堂梓	京都 谷口七左衛門板、書林・京都 高 嶋屋利助・大坂 和泉屋善兵衛求板	川勝又兵衛			差 出 人	
																					受 取 人
				冊		冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	
														後 欠	後 欠					状 態	
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		点 数
219、1152参照	216参照	216参照			「名取郡岩沼」「仙臺 村田」ほか書込みあり り、8133、13134、 14157参照	「東山岸 大澄具」 「文久五年福井店」と 書込みあり			13145、1412・6・ 13参照	朱書きあり		致斎須敬と書込みあり	「芝田次郎 東鑑十六 三十一丁表ニミユ」ほ か書込みあり				「二冊の内、山田屋新 五郎 修治」と書込み あり	書込みあり	「慶応四年三月志満寿 本店」「慶応四年辰正 月山田屋利平」「明治 十二年卯九月山田屋栄 吉」ほか書込みあり	備 考	

4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	箱
40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	尊
																枝1
																枝2
																枝3
																枝4
																枝5
																表
																題
																(内
																容)
																箱
																付
																日
																付
																西
																曆
																差
																出
																人
																受
																取
																人
																形
																態
																状
																態
																数
																考
																考
夢寝の説(全)	嘉永六癸丑歳正月吉日(署名)	享和元年辛酉夏五端午	立齋先生標題鮮註釋文十八史略卷之七(標記増補 十八史略 七)	頭書増補訓蒙図彙卷之八	獸太平記卷之四	御代の恩沢卷之二	棲重恨鯨鞘	庭訓往来	家内用心集	絵本故事談卷之五	商売往来	高砂(謡□小謡并判謡 大蔵流)				夢寝の説(全)
享保八年癸卯九月日跋／享保九年甲辰年正月吉日梓行	嘉永六癸丑歳正月吉日(署名)	享和元年辛酉夏五端午	明治八年十一月版権免許／明治十六年五月刻成 発兌／天明元年跋													夢寝の説(全)
172401099	185301099	180105099	187511099													夢寝の説(全)
跡部光海翁(著カ)、伴部安崇跋／日本橋南一丁目 杉浦三郎兵衛梓行	御用御書物所・仙基国分町十九軒 本屋治右衛門板	洛陽 柳枝軒開板(印)	豊竹君太夫(著カ)、江戸本ざいもく町一丁目 地本問屋にしのみや新六再板													夢寝の説(全)
(印、仙臺村田(麻正)□田(麻正)□五郎持用、奥州仙台村田江大沼屋持用、大沼屋庄之助村田町福井氏、山田屋本	吉十郎、柴田郡小泉村 一満壽 新五郎、山新 山田屋豊治	山田屋本	一升 山田屋新五郎 持用	山田屋新左衛門												夢寝の説(全)
冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	夢寝の説(全)
								前欠								夢寝の説(全)
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	夢寝の説(全)
朱線引きあり	「陸前国柴田郡村田郷五拾四番地山新屋山田新五郎」(印、太田砂糖、書込み多数あり、	78・80参照	2112・69・41・1・8・26・28・19・14・10・1・132・5・13・26・23・11・10参照	13・88・92参照		「此書物御覽被成候ハ、新五郎所へ御返可被成候」と書込みあり 描画の挟み込みあり					書込み多数あり	「嘉永六癸丑歳正月吉祥日」ほか書込みあり				夢寝の説(全)

箱	表題 (内容)	日付	西暦	差出人	受取人	形態	状態	頁数	備考
41	兵庫船宿 (誦本)					冊		1	朱書きあり
42	花実御伽俚卷之五	明和五年子正月吉日	176801099	書林・京都寺町松原下ル町 梅村市兵衛板、ほか3名	秋保□右衛門 (抹消) (印本) 所羽州山形十日町 黒木屋若右衛門 山田豊治	冊		1	「五冊之内何方江参る候而茂御見合御戻可被下候」ほか書込みあり、611、13135参照
43	中庸章句					冊	開披不可	1	「安政四年六月吉辰」
44	(冊子)					冊		1	
45	神代上巻口訣 三					冊		1	
46	神代上巻口訣 二					冊		1	
47	除患録 (除患録 全)	延宝巳未孟秋日 (序)	167907099	黒岩慈庵序		冊		1	
48	雲谷記 (雲谷記 附詩)			二条通松屋町 武村市兵衛刊行		冊		1	
49	社倉附考					冊		1	
50	垂加文集卷之五 (垂加文集 中之三)					冊		1	4162、711、121
51	垂加文集卷之四 (垂加文集 中之二)					冊		1	5参照、711、121
52	垂加文集卷之三 (垂加文集 中之二)					冊		1	4162、711、121
53	垂加文集卷之二 (垂加文集 上之二)	寛文八年戊申仲夏初三日 (撰) 元禄丁丑季冬日 (識)	166805003	山崎敬義撰		冊		1	5参照、711、121
54	家禮卷之四 (家禮 喪祭)		169712099	浅見安正謹識		冊		1	
55	家禮卷之一 (家禮 通冠昏)					冊		1	
56	周易下經 (易經本義 下經)					冊		1	
57	上蒙傳・雜卦傳 (易經本義)	延宝三年乙卯春三月壽文堂刊行	167503099			冊		1	
58	大学衍義 卷之四、五			宋學士 眞徳秀彙輯、明史官 陳仁錫評閱		冊		1	8162参照
59	大学衍義 卷之一、三			宋學士 眞徳秀彙輯、明史官 陳仁錫評閱		冊		1	8162参照
60	朱子行狀	寛文五稔乙巳四月吉且 (刊)	166504099	退溪李先生輯注 / 二条通松屋町 壽文堂 (刊)		冊		1	
61	周書抄略	延宝七年冬至日	167999999	垂加翁山崎嘉序 / 壽文堂刊行		冊		1	
62	垂加文集 (垂加文集 上之一)					冊		1	12150、53、711、
63	武銘	万治三年庚子正月十四日庚午	166001014	山崎嘉考註		冊		1	
64	關異			二条通松屋町 壽文堂		冊		1	
65	大学章句 (倭板四書・山崎嘉点)				山田屋 (一ツ)、村田町 (一ツ) 山田屋	冊		1	書込み多数あり、朱書きあり、8170、131

[illegible]

箱 尊	枝 1	枝 2	枝 3	枝 4	枝 5	表 題 (内 容)	日 付	西 曆	差 出 人	受 取 人	形 態	狀 態	頁 數	備 考
5 40						日本歲時記卷之二(□)歲時記 正月之上(一)	貞享丁卯晚秋念日(序)	16870909	貝原篤信書于筑前荒津之損軒(印)(印)	山新持用	冊		1	
5 39						日本歲時記卷之二(日本歲時記 正月之下(二))				山新持用	冊		1	
5 38						日本歲時記卷之三(日本歲時記 二三月(三))				山新持用	冊		1	
5 37						日本歲時記卷之四(日本歲時記 四五月(三))				山新持用	冊		1	
5 36						日本歲時記卷之五(日本歲時記 七八九月(五))				山新持用	冊		1	
5 35						日本歲時記卷之六(日本歲時記 十月霜月(六))				山新持用	冊		1	
5 34						日本歲時記卷之七(「七」)	貞享五季戊辰三月上壽	16880309	雉陽書肆日新堂壽梓(印)	山新持用	冊		1	
5 33						新編和漢歷代帝王備考大成 卷之十一	正德三癸巳歲六月吉辰	17130609	武城書林・日本橋南壹町目 須原屋茂兵衛梓行、ほか3名		冊		1	14 參照
5 32						新編和漢歷代帝王備考大成 卷之十一	正德癸巳歲秋仲旬(叙)／正德三癸巳歲林鐘開版	17130809 17139999	門人汶上隱甫小山前定叙		冊		1	14 參照
5 31						論語古訓 卷第五・六(論語古訓 自五至六)			日本 信陽 太宰純撰		冊		1	
5 30						論語古訓 卷第三・四(論語古訓 自三至四)			日本 信陽 太宰純撰		冊		1	
5 29						論語古訓 卷第七・八(論語古訓 自七至八)			日本 信陽 太宰純撰		冊		1	
5 28						論語古訓 卷第九・十(論語古訓 自九至十)	元文四年巳未夏五月吉(板)	17390505	房藏板、須原屋新兵衛		冊		1	
5 27						增說韓非子 卷之一(贈說韓非子 序一之□)			物 徂徠先生說、蒲阪修文散人增		冊		1	
5 26						增說韓非子 卷之二(贈說韓非子 之十)			東都 物又松茂卿說、蒲阪圓行方增		冊		1	
5 25						增說韓非子 卷之三(贈說韓非子 一之十五)			東都 物又松茂卿說、蒲阪圓行方增		冊		1	
5 24						增說韓非子 卷之四(贈說韓非子 附錄 十六之二十)	享和二年歲次壬戌冬十一月(板)	18021109	東都 物又松茂卿說、蒲阪圓行方增、東都青山居士保阪内藏助著／修文齋藏板		冊		1	
5 23						韻鏡易解改正重刻 卷第一 目錄(新贈韻鏡易解大全 一)			武陽密乘沙門盛典再選、武州鴻葉沙門音利盛典題(印)(印)／華洛書肆・楊文軒重雕		冊		1	
5 22						贈韻鏡易解大全 二)					冊		1	
5 21						贈韻鏡易解大全 二)					冊		1	

箱 尊	表 題	(内 容)	日 付	西 暦	差 出 人	受 取 人	形 態	状 態	臺 数	備 考
枝 1	贈鏡易解改正重刻 卷第三 目録(新)				武州沙門盛典述		冊		1	
枝 2	贈鏡易解大全(三)				敬義跋		冊		1	
枝 3	贈鏡易解改正重刻 卷第四 目録(新)				二条通松屋町 書肆・武村市兵衛刊行		冊	後欠	1	
枝 4	贈鏡易解大全(四)				二条通松屋町 書肆・武村市兵衛刊行		冊		1	
枝 5	孝経外傳		明暦二丙申年南 呂吉辰(刊)	165608099	二条通松屋町 書肆・武村市兵衛刊行		冊		1	
	朱子訓蒙詩				敬義跋		冊		1	
	瀟湘八景詩(八景詩)				藤井五郎右衛門刊行		冊		1	
	五友詩				二条通松屋町 武村市兵衛刊行		冊		1	
	鬼神集説				壽文堂刊行		冊		1	
	本朝改元考		延宝丁巳之春 (刊)	167799999	山崎嘉(著)／壽文堂板行		冊		1	
	行宮便殿奏箱(朱子奏箱)				山崎嘉跋／二条通松屋町 武村市兵衛刊行		冊		1	
	二説問答(全)		寛文戊申仲夏上 浣	168050999	山崎嘉序／壽文堂刊行		冊		1	
	性論明備録		寛文十二年六月 七日(序)	167206007	山崎敬義序／二条通松屋町 武村市兵衛刊行		冊		1	
	考経刊誤		明暦二丙申年南 呂吉辰(刊)	165608099	二条通松屋町 書肆・武村市兵衛刊行		冊		1	
	孟子要略				山崎嘉跋／壽文堂刊行		冊		1	
	考経大義(全)		寛永十八歳八月 吉辰(刊)	164108099	二条通鶴屋町 田原仁左衛門梓行		冊		1	
	城南雜詠二十首(城南雜詠)				張南軒		冊		1	
	詩経(音□) 詩経 校正改点 下、小 雅鹿鳴						冊		1	
	繪本節用記					柴田郡村田・ 福井氏、(一) マ山田屋新 五郎	冊		1	
	小学 卷第六(鼈頭 小学外篇句説 善 行上)		寛文八戊申暦孟 春吉辰刊板	166801099			冊		1	
	天命図説		元和辛酉孟夏日 (跋)／慶安四 暦孟春(刊)	1632101099 165199999	羅山人道春跋／中野小左衛門(刊)		冊		1	「正徳二年三月廿九 日 此書山田新助殿ノ 本也」とあり
	李退谿先生西銘考證講義		寛文八戊申年仲 春吉且(刊)	166802099	樺木町通角倉町 山森六兵衛刊行		冊		1	
	絵本故事談 卷五(曾我兄弟)					明治十四年山 田新五郎、山 田屋新五郎、 奥羽道中大河 原駅・竹木清 喜	冊	表紙一部半 損	1	「慶應元年」と書込み あり、2・37、4・30、 13・15 参照
	再版増補 朝顔日記 宿屋乃段切大井 川		明治十三年七月 廿六日御届	188007026	大阪松町 加嶋屋清助版(印)、東京 馬喰町二丁目一番地 翻刻人木村文三 郎版		冊		1	朱書きあり

箱 尊	6 3	6 4	6 5	6 6	6 7	6 8	6 9	6 10	6 11	6 12	6 13	6 14	6 15	6 16	6 17	6 18
枝1																
枝2																
枝3																
枝4																
枝5																
表 題 (内 容)	繪本三国妖婦伝 下偏卷之五 浅間嶽後峽逢州執着譚四之卷 加賀見山旧錦繪 再板 傾城恋飛脚 新口村の段 孔子家語合注諺解第五					十八史略字引大全卷之四・七(下) 百人一首 あつめ艸 初編 花実御伽硯 一	繪本写宝袋 三之卷 何物語下 見聞記 幼学詩韻 初学天文指南鈔 卷之五 垂加翁敬義内外説(敬義内外考 全) 本朝名公墨宝 卷之下 増註孔子家語(孔子家語 自一至二)									
日付	文化二乙巳年正月							天明六丙午歳春發行			万治二年己亥正月 中旬(書)／寛文七年霜月吉日(刊)	安政四年丁巳三月再版	宝永三丙戌年仲呂吉旦	正徳甲午仲秋下弦(書)／正徳乙未仲冬月(刊)	正保三年仲冬月	
西暦	186501099							178799999			165901099 16671099	185703099	170699999	171408099 171511099	164611099	
差 出 人	京堀川通高辻上ル町 植村藤右衛門、ほか5名	大阪心齋橋通八幡筋東入 本屋清七版(印)				魏王肅子雍撰、ほか3名／嵩山房梓(印)	原版人吉岡平助、出版人静岡県士族大草常章	京都書林弘所・二条通御幸町西エ入ル町 山本長兵衛、ほか3名	花洛 半月菴主人序		防州 児玉氏信榮書之／書林・田中文内梓行	桂林先生閨、門人成徳隣・増長裕同輯、千鐘房・青藜閣合梓、京都書林・寺町通松原下町 勝村治右衛門、ほか3名	馬場信武述／書肆・大坂梶木町 鳴井茂兵衛	安崇謹書、光海翁源良顕跋／武陽芝神明前 書林・山田屋三四郎板行	春台先生増註／江都書肆嵩山房梓(印)	
受取人	(印、仙台領) 村田町(一ツ) 山田屋	(印、仙台) や、村田屋(印) 薬種店	大河原村栄治郎・とめ					山田屋店中		仙台村田山 田新五郎持用也、一升		(一ツ)				
形態	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊
状態		前欠														
頁数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
備 考	1413・27・51・53・58・72参照	表紙などに書込みあり	書込み多数あり	3・71・73参照			「文久三歳正月吉日」山田屋店中」ほか書込みあり	13・16参照 書込み複数あり、4・42・13・35参照	「文化元年七月申」改メ山田新五郎」ほか書込みあり							

[illegible]

[illegible]

7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	箱 尊
37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	枝 1
																			枝 2
																			枝 3
																			枝 4
																			枝 5
白鹿洞学規集註(学規)	孟浩録	人倫箴 中	初学天文指南鈔 卷之四(初学天文指 南四)	初学天文指南鈔 卷之三(初学天文指 南三)	初学天文指南鈔 卷之一(初学天文指 南一)	春秋左氏伝 卷十三(春秋左氏伝再 刻 三十四)	拘幽操附録	六臣註文選 卷第三十八(文選 六臣 註 三十八)	天経惑問(天経惑問 序図)	新板東波 御手本 全	(女訓書)	(欠番)	(欠番)	(欠番)	(小笠原流口伝書)	日本書紀卷第三(神武卷 全)	日本書紀卷第一(神代卷 上)	増註唐詩五言律詩三體家法卷三之五 (三昧詩鈔 三之五)	表 題 (内 容)
	子(跋) 延宝庚申八月甲	享保己亥之歳仲 春望日(書)／ 享保五庚子孟冬 穀旦(刊)					元禄辛未夏六月 上弦日(書)／ 元禄五年壬申仲 夏壽文堂刊行				享保十乙巳年三 月刻成、宝暦十 三癸未年五月新 刻、天保四癸巳 年十二月再刻							寛永十四丁丑三 月吉日	日 付
	168008199	171902099 172001199					169106099 169205099				172503099 176305099 183301299							163703199	西 暦
衛刊行	友松氏奥跋(印)	行	陸奥仙臺 遊佐好生著、泥(カ) 芽翁 敬書／京兆御書物所・出雲寺和泉掾梓	馬場信武述	馬場信武述	馬場信武述	浅見安正敬書	名	梁昭明太子蕭統撰、唐李善註、ほか5 名	東坡居士書	画工大石真虎、彫工樋口興兵衛				小笠原大膳太夫長時			野田庄右衛門	差 出 人
信貞										(印、仙台額 村田町(二ツ) 山田屋)、山 田屋本店	山新								受取人
冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	形態
											後欠				損甚	前後欠、虫			状態
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	臺 数
		朱書きあり				3 54 5 2 1 12 16 9 9 13 17 3 16 11 51 24 53 52 1 1		8 1 35 参照	11 1 22・42 参照		「文海改」「明治貳拾 貳年 山新」ほか書込 みあり					1 1 3 参照	1 1 3 参照	24 1 1 4 7 参照	備 考

8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	7	7	7	7	7	箱
12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	44	43	42	41	39	尊
																	枝1
																	枝2
																	枝3
																	枝4
																	枝5
表 題 (内 容)																	
続々鳩翁道話 式之上																	日 付
論語 子罕																	西 暦
唐詩品彙 七言絶句																	差 出 人
聚分韻略入声																	受 取 人
付合小鏡																	形 態
増補 華夷通商考 卷之一																	状 態
(能楽)																	頁 数
窮理日新 発明記事巻の五目次																	備 考
国姓爺一代記 三編																	
内編 小学示蒙句解拔書 壹																	
外篇三冊之内 小学示蒙句解拔書																	
木齋先生 孟子講義 (公孫丑上 式冊之内)																	
明治天皇仰景畫録																	
斗藏峯千手観世音菩薩畧縁記																	
朱子読書の要																	
夙興夜寐箴 (夜寐箴)																	
遠遊紀行																	
八雲抄第三下 (八雲御抄 三六)																	
沖漠無朕説																	
皆元文己年三月朔日／文化十四丁丑年十月日																	
大正元年十月 (序)／大正元年十月六日発行、大正元年十月十八日再版																	
享保八癸卯四月十四日朝々廿日																	
172304014 172304020																	
発行書林・大阪河内屋茂兵衛、ほか12名																	
東井潔全纂輯																	
長崎 西川求林齋輯 洛陽書林・甘節堂 學梁軒 刊																	
寺町二條上町 寺田与平治板行																	
致齋 井関子																	
前欠																	
1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1																	
朱書きあり																	

8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	箱
32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	尊
																			枝1
																			枝2
																			枝3
																			枝4
																			枝5
(句集)	和歌灌頂	實語教	神風記 卷第一	孟子 序説・卷之二 (孟子集註)	正俗字例	孟子 卷之十一、十四 告子章句上 (孟子集註 告子・盡心)	艸書要領 卷第五	神風記 卷第二	神風記 卷第三	神風記 卷第五	中華若木詩抄 卷之上	新鐫時用通式 翰墨全書 卷之二・三 (翰墨全書 二・三)	新鐫時用通式 翰墨全書 卷之一 (翰墨全書 一)	顔氏家訓 卷上	顔氏家訓 卷下	楷字千字文 亭	陽復記 上	「梅花心易掌中指南」	民の繁栄三之卷 (民の繁栄 禮)
				安政七庚申年三月廿五日	宝暦十一辛巳年正月吉日	明和五戊子年五月再板	寛文四年甲辰孟夏吉日 (刊)								寛文二壬寅年三月吉日				
				136003025	176101099	176805099	166404099								162203099				
町井簡屋庄兵衛・同字兵衛・重寛板	紀貫之撰	書肆・崑崙堂羽州山形十日町一丁目北條忠兵衛梓		朱熹集註		朱熹集註／壽文堂井上清兵衛 (刊)	書林・村上平樂寺彫開				東山如月和尚註、山田屋信貞刊	錫聖卿撰著	閩海王宇 求啓纂輯、古吳 陳瑞	北斎黃門侍郎顔之推撰／建寧府通判廬陵羅春刊	北斎黃門侍郎顔之推撰／建寧府通判廬陵羅春刊				
	衛次	山田、山形十日町佐藤儀兵衛		福井氏、福井	須敬														受取人
冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊
																			形態
																			状態
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	あり	「嘉永七申寅年山形十日町佐藤儀兵衛次」と	219・224参照	8122・11269・1410・1325・2311参照	「安政七庚申年三月廿五日此書物可習也福井豊治習之」とあり、	「宝暦十一辛巳年正月吉日家之子郎等」と書込みあり	「芝多兵庫家臣」とあり、	「江州久田氏ヨリ得之也」と書込みあり	8129参照	8129参照	表紙などに書込み多数あり、13170参照			11148参照	11148参照	11129参照	712、13167参照	25参照	破損、「弘化五年山新」とあり、8145、131

箱 尊	枝1	枝2	枝3	枝4	枝5	表 題 (内 容)	日 付	西 暦	差 出 人	受 取 人	形 態	状 態	点 数	備 考
8 54						伊達模様 倭韓乃染分 卷五	文化甲子歳秋九月板刻成	180409099	浪華 五島清道著、同 蘆洲山人関、ほか3人／書林東都・前川六左衛門、ほか6人(刊)	山田屋	冊		1	41、21、13、34、14
8 33						商売往来			仙台書肆国分町十九軒 伊勢屋半右衛門梓		冊		1	多数書込みあり
8 34						六臣註文選 卷第三十六・三十七 (法帖)			梁昭明太子蕭統撰、唐 李善 (ほか5名) 註		冊	開披不可・破損あり	1	71、29 参照
8 35						商売往来					冊		1	
8 36						(囲碁棋譜)					冊		1	
8 37						庭訓往来				山田喜平次、山田新五良	冊	開披不可・破損あり	1	「□(宮) 城県管下陸前国」「明治十三年」ほか書込みあり
8 38						四書正文大綱俚諺鈔	元禄十一戊寅歳仲秋穀旦(述)	169808099	毛利貞齋述	山田屋豊治	冊		1	「先生吉住氏 文久二年戊八月吉日 山田屋豊治」ほか書込み多数あり
8 39						和漢朗詠集 上	安永四歳次乙未仲春日(序)	177502099	勢府獨朗軒	貞信 本号、須敬 水原氏、秋保 兎毛平盛光 水原氏、秋保 兎毛平盛光 水原氏、秋保 兎毛平盛光	冊		1	「相者某」と書込みあり、131、37 参照
8 40						相法言彦解 卷之二	安永五年丙申年正月吉日(刊)	177601099	江都書林・須原茂兵衛、ほか5人(刊)	山田屋新五郎 此主也、(印、仙台領村田町(一ツ)山田屋)	冊		1	81、13、131、25 参照
8 41						相法言彦解 卷之一					冊		1	131、37 参照
8 42						相法言彦解 卷之一					冊		1	131、37 参照
8 43						相法言彦解 卷之二					冊		1	131、37 参照
8 44						民の繁栄 二之卷 (民の繁栄 義)					冊		1	131、37 参照
8 45						古易断時言卷四 (古易断時言 貞)					冊		1	131、37 参照
8 46						田村 (能楽)	「」 曆弥生吉日(刊)	999903099	新井白蛾著 谷(カ) 口七左衛門板、書林・京都 橋屋利助、大坂 和泉屋善兵衛求板		冊		1	
8 47						小鍛冶 (能楽)	正徳四甲午曆弥生吉日(刊)	171403099	京都・谷口七左衛門板、書林・京都 高 橋屋利助、大坂 和泉屋善兵衛求板		冊		1	
8 48						大学 (講釈書き付け)	仲春十七日(廿九日)	999902017			冊		1	
8 49						経書字弁総目録 卷之下	元禄十一年戊寅孟春「」	169802099	武江 後学古市興孝編、江府通油町 村「」、洛陽書肆「」刊		冊	破損あり	1	
8 50						新古今和歌集 卷第十一	曆乙丑壬春三月	999903099			冊		1	
8 51						新古今和歌集 卷第十一					冊		1	
8 52						経名考				致斎	冊		1	
8 53						家禮図			山崎嘉、壽文堂刊行	致斎	冊		1	

876	875	874	873	872	871	870	869	868	867	866	865	864	863	862	861	860	859	858	857	856	855	箱尊枝1
																						枝2
																						枝3
																						枝4
																						枝5
芙蓉之図（富嶽図記）	高名太平記 卷之一	長谷川知仙手記 天（囲碁棋譜）	女今川益鏡 全	忠臣蔵四ツ目（台本）	實語教	大学章句（倭板四書・山崎嘉点）	読論語孟子法（孟子集註 卷二）	天学初学問答（大略天学名目鈔）	山北紀行 十二章章八句（三北紀）	大虚菴光悦法書 坤	長明方丈記 全	古今和歌集 上	大学章句新疏 上	大学衍義麻卷之六・七（大学衍義）	唐賢七言律詩三體家法 卷之二（新板 三昧詩 中）	篋簋 卷第三目錄（篋簋 下）	玉免集造屋篇 卷第四（篋簋抄 下）	篋簋内傳註 卷第二（篋簋抄 四）	大和小学 立教第一	大和小学 四	大和小学 三	表題（内容）
夏（刊）	寛保三季癸亥仲				文化三丙寅年初冬再板、文政十丁亥年仲秋求板				貞享丁卯林鐘中旬（刊）							寛永九年壬申三月（刊）	正保四曆仲春（刊）				日付	
174305099					180601099 182708099				168799999（刊）							163203099	184702099				西暦	
前東都 彫工吉田魚川刻／東都芝神明奥村喜兵衛発行				国分町十九軒 伊勢屋半左衛門板		朱熹謹記	朱熹集註序説		二條通松屋町 武村市兵衛刊行	徳友斎光悦書／洛下書林植村藤右衛門（刊）				評閲	宋 学士眞徳秀彙輯、明 史官陳仁錫	中野市右衛門刊行	三浦勘兵衛開板	闇斎撰	闇斎撰		差出人	
富久井屋	山奥忠貞	田（印、仙台村）（印、仙台村）	田屋新五郎	村田町（一ツ山）山田屋、山田屋本店、山田屋	長之助持用也（印、仙台領）										壽桂	須敬、周貞、					受取人	
冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	形態
	後欠	後欠						り	破損、挟み込み文書あり												状態	
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	臺数
		書込みあり				照り、41・65、131・101	「此書物何方」山田本店七月改各様中」安政四年五月廿五日山田屋」」ほか書込みあり					131・79参照		41・58・59参照	「於五城求之畢 須敬」ほか書込み多数あり	書込み多数あり		111・7参照	111・7参照	111・7参照	備考	

箱	表題（内容）	日付	西暦	差出人	受取人	形態	状態	巻	備考
87	刻準提菩薩念誦靈驗記	延享丙寅孟春穀日（序）	174602099	瑜伽沙門如實書於治西鸞尾練若序		冊		1	
88	鍛冶番（後鳥羽院御宇番鍛冶之次第）				山田屋須敬	冊		1	「旧より在来ル書物也」此外目錄書一冊有り
89	争碁廿六番（開碁棋譜）	寛政二年戊二月中旬（写）	179002099		山田信貞写	冊		1	
90	大学				須敬	冊		1	
91	經書字辭					冊		1	
92	絶句解拾遺	享保癸丑猛夏刻	173305099	書林・富士屋弥三右衛門、大和屋孫兵衛発行		冊		1	
93	□占門	文化十二年乙亥七月	181507099	東武書賈・須原茂兵衛、ほか8名		冊		1	（印、須原）、（印、北條）あり
94	（手習手本）			加龍軒菊地上総撰		冊		1	
95	出海向戦凶方凶時之早繰			博文館発行		冊		1	
96	沿海州寫真帖 第三十五卷	明治三十八年十月廿日発行	190510020			冊		1	
97	大海戦寫真帖	明治卅八年六月十七日発行	190506017	東京 實業之日本社発行		冊		1	
98	戦国策 凡例・姓氏・目錄・附録					冊	挟み込み文あり	9 17 22 25 33 参照	
99	重改論語集註俚諺鈔 卷之一			朱熹集註、毛利貞斎述（印）		冊	開披不可	1	
99	重改論語集註俚諺鈔 卷之七					冊	挟み込み文あり	1	
99	重改論語集註俚諺鈔 卷之八					冊		1	
99	重改論語集註俚諺鈔 卷之九					冊		1	
99	重改論語集註俚諺鈔 卷之十					冊		1	
99	重改論語集註俚諺鈔 卷之十一					冊		1	
99	重改論語集註俚諺鈔 卷之十二					冊		1	
99	重改論語集註俚諺鈔 卷之十五					冊		1	
99	重改論語集註俚諺鈔 卷之十六					冊		1	
99	重改論語集註俚諺鈔 卷之十七					冊	開披不可	1	
99	重改孟子集註俚諺鈔 卷之七					冊		1	
100	尊	枝1	枝2	枝3	枝4	枝5			

箱 尊	枝 1	枝 2	枝 3	枝 4	枝 5	表 題 (内 容)	日 付	西 曆	差 出 人	受 取 人	形 態	状 態	頁 数	備 考
9						重改論語集註俚諺鈔 卷之四			京島丸通二條下ル町 井筒屋善助板行		冊		1	24・9・1 16・34・2 25・36・11 37・38・23
9						重改大學章句俚諺鈔 卷之五					冊		1	24・9・1 16・34・2 25・36・11 37・38・23
9						重改論語集註俚諺鈔 卷之二					冊		1	24・9・1 16・34・2 25・36・11 37・38・23
9						重改大學章句俚諺鈔 卷之四					冊		1	24・9・1 16・34・2 25・36・11 37・38・23
9						戰国策 三之下					冊		1	24・9・1 16・34・2 25・36・11 37・38・23
9						戰国策 四之下					冊		1	24・9・1 16・34・2 25・36・11 37・38・23
9						戰国策 四之上					冊		1	24・9・1 16・34・2 25・36・11 37・38・23
9						戰国策 三之上					冊		1	24・9・1 16・34・2 25・36・11 37・38・23
9						戰国策 一之二			縉雲鮑彪校注、東陽吳 師道重校、武 林張 文燿校輯		冊		1	24・9・1 16・34・2 25・36・11 37・38・23
9						戰国策 序			縉雲鮑彪校注、日本平安書林翻刻		冊		1	24・9・1 16・34・2 25・36・11 37・38・23
9						重改論語集註俚諺鈔 卷之十四					冊		1	24・9・1 16・34・2 25・36・11 37・38・23
9						重改論語集註俚諺鈔 卷之十三					冊		1	24・9・1 16・34・2 25・36・11 37・38・23
9						重改大學章句俚諺鈔 卷之一	正徳第五乙未 夏穀旦	17159999	神雄 毛利貞齋述		冊		1	24・9・1 16・34・2 25・36・11 37・38・23
9						戰国策 五					冊		1	24・9・1 16・34・2 25・36・11 37・38・23
9						戰国策 六之上					冊		1	24・9・1 16・34・2 25・36・11 37・38・23
9						戰国策 七之上					冊		1	24・9・1 16・34・2 25・36・11 37・38・23
9						戰国策 六之上					冊		1	24・9・1 16・34・2 25・36・11 37・38・23
9						戰国策 九之下 □上中下	寛保元辛酉仲夏 穀旦	17410509	平安書林・吉田四郎右衛門、ほか4名 翻刻		冊		1	24・9・1 16・34・2 25・36・11 37・38・23
9						戰国策 七之下					冊		1	24・9・1 16・34・2 25・36・11 37・38・23
9						戰国策 九之上					冊		1	24・9・1 16・34・2 25・36・11 37・38・23
9						戰国策 八					冊		1	24・9・1 16・34・2 25・36・11 37・38・23
9						重改論語集註俚諺鈔 卷之六					冊		1	24・9・1 16・34・2 25・36・11 37・38・23
9						重改論語集註俚諺鈔 卷之三					冊		1	24・9・1 16・34・2 25・36・11 37・38・23
9						重改論語集註俚諺鈔 卷之五					冊		1	24・9・1 16・34・2 25・36・11 37・38・23
9						重改大學章句俚諺鈔 卷之二					冊		1	24・9・1 16・34・2 25・36・11 37・38・23
9						重改大學章句俚諺鈔 卷之三					冊		1	24・9・1 16・34・2 25・36・11 37・38・23
9						蘭谷先生倫語講義 公谷長篇					冊		1	24・9・1 16・34・2 25・36・11 37・38・23
9						神代卷口訣 四(日本書紀 卷第二)					冊		1	24・9・1 16・34・2 25・36・11 37・38・23
9						神代卷口訣 五(神代下 第二章)	寛文甲辰四年九 月吉日新刊	16640909	二條通松屋町 書肆・武村市兵衛新刊		冊		1	24・9・1 16・34・2 25・36・11 37・38・23
9						周易上經(易經本義 上經)			朱熹		冊		1	24・9・1 16・34・2 25・36・11 37・38・23

箱 尊	10 5	10 6	11 1	11 2	11 3	11 4	11 5	11 6	11 7	11 8	11 9	11 10	11 11	11 12	11 13	11 14	11 15	11 16	11 17	11 18	11 19	11 20	11 21	11 22	11 23	11 24	11 25	11 26	28	
枝1	枝2	枝3	枝4	枝5																										
表 題 (内 容)	孟子 卷之十一 (孟子集註 告子 盡 心)	大学全経法帖	田畝考附	春秋社暦考	朱書抄略 下之二	中庸或問 (倭板四書・山崎嘉点)	中庸集略 上 (倭板四書・山崎嘉点)	大和小学	本朝名書雲宝 卷之上	堯曆	程書抄略 (歌書)	児童用尋常小学修身書	度量衡考	度量衡考	度量衡考	度量衡考	度量衡考	尺牘彙書	鼎鑄註釈解意懸鏡千家詩	唐詩家法 絶句七	七才詩集註解 卷之一 (三 大学或問 (倭板四書・山崎嘉点)	天経或問 地	大学金鑑抄 卷之一	白鹿洞学規集註	続垂加文集	論語集註大全 卷之十九・二十	大学金鑑抄 卷之二	大学金鑑抄 卷之三		
日 付		延宝九年辛酉八 月吉日刊			延宝九年辛酉八 月吉日刊		万治三年庚子二 月吉日板		寛文八戊申年六 月吉辰刊	延宝改元日序								貞享四丁卯年五 月吉祥日	正保三歲卯月吉 刊行	寛保癸亥初冬十 二日跋			享保十五年庚戌 十一月鐫	元禄三庚午秋九 月重陽日序	慶安三年庚寅冬 十二月九日序					
西 暦		168108099			168108099		166002099		166806099	167399999								168706099	183204099	174310012				173099999	169009009	165012009				
差 出 人	村上勘石衛門、ほか2名	元趙孟頫書			山崎嘉敬義跋／壽文堂刊		闇斎撰／上村四郎兵衛板		二條通松屋町武村市兵衛刊	垂加翁山崎嘉序		東都物茂卿著／平安平璋閱						林五郎兵衛梓	謝枋得編、陳生高注／武村市兵衛刊行	金秀子實著、岩乘子英点、石川潛玄碩 跋			日本崎陽 西川正休訓点ほか／江府書 林・松葉軒 萬屋清兵衛鐫	奥会散人横田俊益記、武都遊子横田俊 将校	山崎嘉集註					
受取人																			致斎											
形態	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊
状態																														
頁 数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
備 考	41・128・103269・361338・23118・212・26					5・19・20・21	2・44参照	2・14・2・45・46参照	8・55・57参照	2・15参照								13・36参照	書付けあり、12・10参	照	2・43参照	7・28・11・42参照	2・28・11・27・28参	照	2・18・3・58・59参	照	2・18・3・58・59参	照	2・18・11・23参照	

[illegible]

[illegible]

[illegible]

13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	箱
13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	尊
											枝1
											枝2
											枝3
											枝4
											枝5
絵本宝鑑 巻第一	絵本宝鑑 巻第二	絵本宝鑑 巻第三	絵本宝鑑 巻第六	写錦袋 二之巻	商売往来 (漢文手本)		(書籍装丁用紙綴)	精選唐宋千家聯珠詩格 巻之十	反切正俗字例 廣益三重韻 唐音 兩韻辨疑	改正 作例日記	表 題 (内 容)
											日付
											西暦
			植村氏一敬子跋／書林 東武・平埜屋 清三郎・中華・小佐治半左衛門、撰陽・ 貫器堂重之梓行								差 出 人
右衛門 郎、秋保屋庄 山田屋、村田 村田町(一ツ) (印、仙台領)	屋庄右衛門 新五郎、秋保 山田屋、山田 村田町(一ツ) (印、仙台領)	本町・秋保屋 持用也、村田 ノ山田新五郎 村田町(一ツ) (印、仙台領)	保屋庄右衛門 田新五良・秋 五右衛門、山 十町黒木屋 本所羽州山形 山田屋、(印、 村田町(一ツ) (印、仙台領)	郎 助、山田新五 吉十郎、吉之	山田忠貞		山田屋本店			山田飛天 小学校生徒 理郡小堤村立 城景磐城国亘 山田飛天	受取人 小堤高等小学 校 山田飛天、 山田秀持、宮 城景磐城国亘 理郡小堤村立 小学校生徒
冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	形態
											状態
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	表 紙・表紙見返しに書 込みあり
	「慶長元年九月福井」 と書込みあり			「慶應元年」ほか書込 みあり	81・37と関連するカ		表紙・表紙見返し・後 表紙・後表紙見返しに 書込みあり			「紀元二千五百四十四 歳」とあり	備 考

箱 尊	枝 1	枝 2	枝 3	枝 4	枝 5	表 題 (内 容)	日 付	西 暦	差 出 人	受 取 人	形 態	状 態	臺 数	備 考
13 30						長右衛門はか申上書 (唐船漂着につき奥州麓郡門脇村楳取)				富塚半兵衛	冊		1	「安永五年七月四日於長崎旅宿写也。富塚半兵衛」とあり
13 29						長谷川知仙手記 地	宝永六丑年八月十九日 正徳六申年五月廿六日	170908019 171605026		山奥□□	冊		1	棋譜、「仙台御屋敷」などとあり
13 28						絵本三国妖婦伝 中編卷之七(卷之六)	享和甲子孟春序	180402099	高蘭山男高伴恭述	村田町(一ツ)山田屋、山田新五郎	冊		1	「文化五年山田新五郎、持用翁拾五卷」とあり、1413・131・58、14151・53・72参照
13 27						絵本三国妖婦伝 中編卷之四	(享和4年2月序)	180402099	高蘭山男高伴恭述	(印、仙台領村田町(一ツ)山田屋)	冊		1	1413・53・72参照
13 26						匠家雛形 増補初心傳			石川重甫著	(印、仙台領村田町(一ツ)山田屋)	冊		1	813・45参照
13 25						民の繁栄 卷之一			書林・弘所大谷津建堂	村田町(一ツ)山田屋	冊		1	「明治十六歳」とあり、13141参照
13 24						長命になるの傳受 卷之下	文化十四丑とし初夏開刻	181704099	脇坂義堂述／書林・文徴堂・群玉堂刊	福井店、村田郷・福井店	冊		1	
13 23						詩林良材 坤之上(卷之四)			平字加黒点	福新、(印、仙台領村田町(一ツ)山田屋)	冊		1	3177参照
13 22						詩林良材 乾之下(卷之三)					冊		1	3177参照
13 21						詩林良材 坤之下	貞享丁卯之春上巳三日跋	168703003	梅郊平井誠之彦真甫(跋)		冊		1	「加茂品」ほか書込みあり、3177参照
13 20						詩林良材 乾之中(卷之二)					冊		1	3177参照
13 19						詩林良材 乾上(新刊名公精選大全鍵徑媒教軒)(卷之一)	貞享丁卯仲春甲午序	168702099	村田通信序		冊		1	卷末に書込みあり、3177参照
13 18						増補絵本宝鑑 卷之一	元禄十一(序)	169899999		秋保屋庄右衛門	冊		1	「双鶴堂蔵版神史目」を付す、書込みあり
13 17						阿古義物語 卷之四	午正月	999901099		一舛山新	冊		1	「此書物御らん被成候ハ、山新廻御返し可被成候」ほか書込みあり、6110参照
13 16						あつめ艸 初篇				山田屋新五郎持用	冊		1	「此書物御らん被成候ハ、山新廻御返し可被成候」ほか書込みあり、6110参照
13 15						絵本故事談 卷之二					冊		1	「此書物御らん被成候ハ、山新廻御返し可被成候」ほか書込みあり、6110参照
13 14						絵本宝鑑 卷第五				山田屋新五郎、吉主郎	冊		1	「明治巳十年六月廿八日」「南無不動明王」ほか書込みあり、表紙裏に書込みあり、2137・4130・611参照

13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	箱
43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	尊
													枝1
													枝2
													枝3
													枝4
													枝5
画本実語教童子教余師	町人囊底弘 卷下	長命になるの傳受 卷の上	高等小学読本 卷之五	高等小学読本 卷之四	手本（貪欲偷深…）	相法言彦解 卷之三	尺牘彙書	花実御伽俚 卷之四	伊達模様 倭韓乃染分 卷三	救荒辟穀 不饑簡易奇方 救荒本草（救荒辟穀方）	増註唐賢絶句三體詩法 卷之一	絵本三国妖婦伝 卷之一	表 題（内 容）
嘉永四辛亥年正月再刻	享保己亥年林鐘穀日跋		明治廿九年二月十一日訂正三版発行	明治廿九年二月十一日訂正三版発行							元禄八乙亥年六月吉辰板行		日 付
18101099	17199999		189602011	189602011							169506099		西 暦
山田常助註／東都書肆・順恩堂 本屋又助梓	洛陽書林・柳枝軒跋／三都發行書林・須原屋茂兵衛ほか9名	脇坂義堂述／書林・文徴堂・群玉堂刊	西澤之助編／東京 国光社	西澤之助編／東京 国光社				浪華 五島清道著、同廬洲山人閣			摂州大坂心齋橋筋 秋田屋大野木市兵衛板行		差 出 人
（一マ）山田町	（印、仙台領）村田町（一マ）山田屋	（印、仙台領）村田町（一マ）山田屋		加茂氏	保原（印、水原）直、秋保毛平盛光	（印、独□之印）		山田屋新五郎、代清四郎年十四才持用			信貞（後表紙見返し）	（印、仙台領）村田町（一マ）山田屋	受取人
冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	形態
					折本								状態
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	表 数
「明治五歳申十月吉祥日、福井新助」とあり、末尾に出版書目あり	卷末に「崎陽求林齊西川先生撰述書目」を付す	13・24参照				8・42・44参照	11・17参照	4・42・6・11参照	33・14・57参照	元式千五百」ほか書込みあり、4・21・8・33、14・57参照	「三宮」「神武天皇記	「三宮」	備 考

13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	箱 尊
60	59	58	57	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	枝 1
																枝 2
																枝 3
																枝 4
																枝 5
(解字)	絵本昔語松虫墳 之六	絵本三国妖婦伝 中編卷之三	玉堂註釈尺牘彙書	町人囊 巻五	浄瑠璃媛物語	孝行往来	増補華夷通商考 巻之三	増補華夷通商考 巻之二	窮理日新 發明記事 巻の三	窮理日新 發明記事 巻の一(上)	舟弁慶	(能案) (第四)	(連歌当流新式) うふきぬ(産衣)中	唐宋詩語玉屑 巻之五	(書式文例)	表 題(内 容)
									明治六年二月上 梓	明治五年壬申七 月序					(明治3年)	日付
									187302099	187205099					187099999	西暦
	浪速 聴雨軒編次／書林・江戸田所町 新道 鶴屋金助ほか5名刻		陳晋撰、蔡方炳註／集賢居梓行		東都 狂蝶子文麻呂著	西川美暢序、小川保唐述／皇都書林・ 弘簡堂 須磨勘兵衛梓			東井潔全纂輯、松光斎長栄画／大阪 文 敬堂梓、發行書肆・東京 若林半七ほか 6名	東井潔全纂輯、松光斎長栄画／大阪 文 敬堂梓、發行書肆・東京 若林半七ほか 6名	京都 谷口七左衛門板、京都 高嶋屋 利助・大坂 和泉屋善兵衛求板 京都 谷口七左衛門板、京都 高嶋屋 利助・大坂 和泉屋善兵衛求板		淡嶋 高木専輔輯	東都書肆・須原屋茂兵衛ほか14名板元		差 出 人
郎、山田屋新語 か、長屋長助	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	受取人
																形態
																状態
1	1	1	1	1			1	1	1	1	1	1	1	1	1	臺 数
照	出来目録(大坂心齋橋 通、河内屋嘉七板)を 付す、14・73・74参 照	巻末に「絵本読本新板 出来目録(大坂心齋橋 通、河内屋嘉七板)を 付す、14・73・74参 照	31・6・13・27・28・ 31・14・51・53・72参 照		2・11参照	「弘化四丁未年六月吉 日求之」、「王明治二 年 山田屋新五郎」と あり	照 8・7・14・8・9参 照	照 8・7・14・8・9参 照	8・5・14・12参照	8・5・14・12参照	表紙に書込みあり、巻 末に「幼童便用蔵書目 録(弘簡堂)」を付す、 8・5・14・12参照	14・3・5参照		13参照 4・17・14・2・6・	「記元式巻千五百十五 年」(表紙)	備 考

1379	1378	1377	1376	1375	1374	1373	1372	1371	1370	1369	1368	1367	1366	1365	1364	1363	1362	1361	箱 尊
																			枝1
																			枝2
																			枝3
																			枝4
																			枝5
古今和歌集 卷第十一	中庸章句 (倭板四書・山崎嘉点)	曾我物語 卷第一	新語論言	大藏流語本	中庸章句	塵劫記 中卷	陳太史合評 大学衍義	輕口闇鉄砲 卷之一	中華若木詩抄 卷之下	公宴御会始	安産仙翁邦言教諭 初篇乾卷	聚類参考梅花心易掌中指南 卷四	大坂状	大学章句新疏 卷下	大学章句	(刀目利本)	(能楽)	(葉種斤目付) (本草書付)	表 題 (内 容)
孟春吉日								辛巳初春序	正保四年丁亥卯月下旬吉日刊	(寛延二年正月十二日)二月七日	明治二年正月施		元禄十二年			寛永二乙丑年季冬初旬跋			日付
999901999							999901999	164701099	174901012 174902007	186901099		169999999				162599999			西暦
松会開板							西春堂序	東山如月和尚註	岩代国刈田郡平澤村 施主五十嵐健蔵 妻きゑほか2名、世話人金森弥曾平妻 さきほか1名			日東 後学英賀室直清新疏			久信				差 出 人
致斎	治 此主 山田豊	持主 山田新	山田屋	□田郡村田村 山田仁三□		山奥氏、山田氏、福井山田屋、藥屋新吾	山田屋新五□	北越之國富久井屋	福井屋須敬、			周蔵、ほか	持主山田や門之助、山田新五郎、山田屋	郎	(印、新帳写、山田屋五郎三郎	須敬		村田本町・山田須敬	受取人
冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	形態
					前後欠														状態
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	表 数
8164参照	4139、13180参照			「皇即位記元式十五百五拾歳」「明治貳拾参年」とあり	「柴田郡」、ほか(本文上段)	後表紙に書付けあり		稀観本	8121参照	仙洞歌会、日付は内容より	稀観本、「是不在売書也 施信用姉而已」とあり	712、814参照	後表紙見返しなどに書込みあり、日付は表紙書付けより	照 131102・105、14178参照	稀観本、「旧より在来書也。此外鍛冶番一冊有別 須敬」	稀観本、「旧より在来書也。此外鍛冶番一冊有別 須敬」	末尾に書付けあり	「右之趣御欺も不恐、御所望ニ任せ：」「右」「九間薬店松葉屋甚三郎殿之筆也、元禄年中二書貫候」とあり	備考

[illegible]

13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	箱	
114	113	112	111	110	109	108	107	106	105	104	103	102	101	100	99	98	97	尊	
																		枝1	
																		枝2	
																		枝3	
																		枝4	
																		枝5	
(断簡、書籍表紙)	孟子集註 卷之三・六	孟子集註 卷之三・六	孟子集註 卷之三・六	孟子集註 卷之三・六	孟子集註 卷之三・六	孟子集註 卷之三・六	孟子集註 卷之三・六	孟子集註 卷之三・六	孟子集註 卷之三・六	孟子集註 卷之三・六	孟子集註 卷之三・六	孟子集註 卷之三・六	孟子集註 卷之三・六	孟子集註 卷之三・六	孟子集註 卷之三・六	孟子集註 卷之三・六	孟子集註 卷之三・六	表題 (内 容)	
					大徳二年九月八日						宝暦元年辛未十一月吉日					淳熙丁未三月朔日題		日付	
											17511099							西暦	
				朱熹集註序説	呉興趙孟頫書	朱熹集註	朱熹集註	朱熹集註、道春点	道春点		江戸日本橋南一丁目小川彦九郎、ほか					晦庵題		差出人	
	山田屋信貞		(後表紙)	山田屋新五郎		山田屋順助	山田屋順助	山田屋順助	山田氏	此主山田屋新五良、山田屋主	加茂氏	山田豊治、ほか	山田留三郎、明治貳拾壹年、山田新五郎				山田屋本店	受取人	
冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	形態	
																		状態	
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	表数	
	1032284 参照 36691 231038 258 91426	1032284 参照 36691 231038 258 91426	1032284 参照 36691 231038 258 91426	33り表紙・後表紙書込みあり 参照 13106 108 14		13 110、14 33参照	13 110、14 33参照	14書込みあり、13参照	64・102、1478参照	「安政四丁巳六月吉辰」と書込みあり、13参照	「是宝永二年五月上旬御政道也」、172参照	「書込みあり」	105、1478参照	「文化十三丙子歳」と書込みあり、1364参照	仕入明細ハ明治十八年万口牒二有とあり、465、870参照	11974 13参照 3511 2335 213	24 215参照	111004 13145 参照 3511 2335 213	備考

箱 尊	表 題	(内 容)	日 付	西 曆	差 出 人	受 取 人	形 態	状 態	頁 数	備 考
枝1	一休禪師一代記図会 卷之二				東都書林・日本橋通老丁目 須原屋茂兵衛ほか11名	陸前・山田新五郎勝	冊		1	12 25 参照
枝2	唐宋詩語玉屑 卷之三						冊		1	6 4 17、13 45、14 13 参照
枝3	高砂		□ □ (正徳4年カ) 甲午弥生吉日(刊)	171403099	谷口七左衛門板、□都 高嶋屋利助・□坂 和泉屋善兵衛求板	仙台村田町・福井新五郎、柴田「」山田	冊		1	
枝4	白楽天		正徳四甲午曆弥生吉日(刊)	171403099	京都 谷口七左衛門板、京都 高嶋屋利助・大坂 和泉屋善兵衛求板		冊		1	
枝5	藤栄		正徳四甲午曆弥生吉日(刊)	171403099	京都 谷口七左衛門板、京都 高嶋屋利助・大坂 和泉屋善兵衛求板		冊		1	
	唐宋詩語玉屑 卷之九		天保十二年辛丑九月原刻／安政三年丙辰正月増補再刻	184109099 185601099	淡嶋 高木専輔輯／京都書林・今井七兵衛ほか6名		冊		1	2 4 17、13 45、14 13 参照
	五体千字文		弘化四年丁未夏六月新雋／安政五年戊午八月再刻	184706099 185808099	東都書肆・日本橋通式丁目 山城屋佐兵衛・馬喰町四丁目 吉田屋文三郎刊	佐藤太左衛門、佐藤亀治、玄毅、佐藤家	冊		1	「明治二歳四月十三日」とあり
	增補 華夷通商考 卷之五		宝永五戊子年三月殺旦	170803099	寺町五條上ル町 書林・梅村弥右衛門・古賀三郎兵衛同刻		冊		1	照 8 7、13 51、52 参
	增補 華夷通商考 卷之四(有図絵 四)						冊		1	照 8 7、13 51、52 参
	源大夫		正徳四甲午曆弥生吉日刊	171403099	京都 谷口七左衛門板、京都 高嶋屋利助・大坂和泉屋善兵衛求板		冊		1	
	詩学袖珍 熟字彙雋 卷上		正徳乙未秋七月序	171507099	雲州清虚子序／雍州書肆舍翠亭壽梓		冊		1	
	窮理日新 發明記事 卷の二				東井潔全纂輯	龍光堂門人、山田、ほか	冊		1	
	唐宋詩語玉屑 卷之七				淡嶋 高木専輔輯		冊		1	照 8 5、13 49、50 参
	石堂丸刈萱物語 下之巻				曲亭馬琴／鶴屋金助上梓	宮城県平民・山田新五郎	冊		1	4 17、13 45、14 2 6 参照
	新編靈宝業性能毒 卷之二						冊		1	録を付す
	新刊万病回春 卷之七		延宝二年甲寅孟夏吉辰重版	167404099	太医院医官金谿雲林撰廷賢子才編輯／金陵書坊対峰周日校刊行、寺町通門福寺前町 秋田屋平左衛門重版	直田太兵衛書之、山田貞生、須敬、真田氏、山田信貞ノ聞	冊		1	「寒食種拵」とあり
	小兒秘伝 卷一						冊		1	
	(榴岡先生) 論語講義 里仁篇一						冊		1	14 21 参照

14 35	14 34	14 33	14 32	14 31	14 30	14 29	14 28	14 27	14 26	14 25	14 24	14 23	14 22	14 21	14 20	14 19	箱 尊
																	枝1
																	枝2
																	枝3
																	枝4
																	枝5
論語集註 卷之四・五（倭板四書・山崎嘉点）	行儀抄中	論語 卷之三（五）（論語 道春点（二））	孟子集註 卷之十一（十四）（倭板四書・山崎嘉点）	遊松島記 游富山記（囲碁棋譜）		千字類合（千字文）		庭訓往来	改正増補 士氏 物理小学 卷之一四刻	宮城県温泉小誌 卷之下 廿八日御届／全 年十月出版	養生訓 卷第七・八 月吉日版行	教訓雜長持 卷第一 望日序	（新庄蘭谷先生）詩經集註講義		（蘭谷先生）論語講義 里仁篇	（蘭谷先生）論語講義 里仁篇	表題（内容）
				享保庚子花朝				（天保4年カ）		明治十五年九月廿八日御届／全 年十月出版	正徳三癸巳年正月吉日版行	宝暦二年秋八月望日序	宝暦四甲戌四月	天政（ママ）五年丑五月清書	（4月18日）（4月14日）	（4月18日）	日付
				172099999				183999999	188109999	188210099	171301099	175208099	175104099	999905099	999904014	999904018	西暦
			朱熹集註	桐江先生著、來明 叔亮謹書／立城書林流輝軒壽梓					士都華氏著、小林六郎訳／牧野氏藏版	宮城病院副院長中目斉関、有田正誠編次、鈴木省三校補／出版人 宮城県平民白木半右衛門	八十四翁貝原篤信書／永田調兵衛版行	武州多摩郡青柳の農圃 伊藤草朴著					差出人
									〔山田〕印		村田町（一ツ）山田屋、一升本店	福井本店、□田屋 新五郎	貞愛	山田信貞書、山奥信貞			受取人
冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	形態
あり	破損あり、挟み込み（銀杏の葉）																状態
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	臺
1397 4 参照 100・5、 2311 235 1113		13106 108・110 参照	211128 9・169・1 101438 参照365、 231326					目を付す	日付は後表紙裏書付けより	定価金四十五錢、宮城県内温泉の売捌人二覽を付す			於小林氏講義」とあり	「右榴岡先生講義也／左ハ嶋津一明之順講也」 「右子貢ノ問本文ヨリ末ハ宮床家中嶋津通安一明子之論講也」 とあり、14・18参照			備考

14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	箱 尊	
54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	枝1	
																			枝2	
																			枝3	
																			枝4	
																			枝5	
忠臣烈女	絵本三国妖婦伝	絵本三国妖婦伝	絵本三国妖婦伝	秋のめさめ	俳諧古選（全）	萬病回春指南	職原抄支流大全	（本草書）	唐詩選 卷之六・七	名所小鏡	唐詩品彙 七言絶句	詩法初學鈔	長拳流（手習手本）	（手習手本）	女大学寶箱	赤穂義臣傳記 卷之十三・十八目録／卷之二	神代卷 卷上	孟子集註 卷之七・十（倭板四書・山崎嘉点）	表題（内 容）	
東鑑操物語 卷之二	卷之三	中編卷之五	下編序・卷之一			卷之四	卷之四・五				卷之六・十									
					宝暦十歳（序）／ 宝暦十三年癸未 正月吉日發行				宝暦八戌寅年初 夏元版／慶應三 丁卯年初春再版	貞享二乙丑年三 月吉旦	天和三癸亥歳八 月吉辰刊 享保十八年癸丑 八月日							日付		
					176099999 176301099				175804099 186701099	168503099	173308099	168308099							西暦	
東都	文松菴金文編				嘯山先生編纂、金龍道人釈迦敬雄序／ 京書林二條寺町西入 井筒屋莊兵衛、 新町二條上ル 西村平八板				濟南李攀龍編選／京都三条通富小路 須 原屋平左衛門ほか5名	洛陽錦小路 永田長兵衛開板	江戸書肆・須原屋新兵衛梓行	八百物町 清兵衛			益軒貝原先生述／難波書肆・称琥堂 （カ）		朱熹集註	差出人		
	山田屋	村田町（二ツ） （印、仙台領 村田町（二ツ） 山田屋）	村田町（二ツ） （印、仙台領 村田町（二ツ） 山田屋）	致齋、双井山	山田屋□山				大沼屋己右衛 門			山田新五郎	清成、佐藤茂 助	山田屋	村田町（二ツ） （印、仙台領 村田町（二ツ） 山田屋）	山田屋	陸前村田・山 田新五郎持用 也	（印、仙台領 村田町（二ツ） 山田屋）	受取人	
冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	形態	
								前後欠						前後欠					状態	
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	臺数	
	31 6 58 3、 14 13 72 27 参照 28	31 6 58 3、 14 13 72 27 参照 28	31 6 58 3、 14 13 72 27 参照 28		吉日」とあり	「宝暦十二歳午ノ正月			「十一月十一日」ほか 書込みあり	書込み・朱書きあり	8 10 参照	り	「寛保二壬戌年四月廿 八日」於姪子講御讓 ほか書込みあり	「元禄六年求之」とあ り	「文政十二歳三月五 十四日」ほか書込みあ り	「天保二年吉日求也」 「明治十四年」ほか書 込みあり	12 11 参照	2 1 9 10 参照	4 1 1 28 69、 10 15、 32 23 13 26	備考

1473	1472	1471	1470	1469	1468	1467	1466	1465	1464	1463	1462	1461	1460	1459	1458	1457	1456	1455	箱 尊
																			枝1
																			枝2
																			枝3
																			枝4
																			枝5
表 題 (内 容)																			
(絵本昔語松虫墳) 卷之三																			
絵本三国妖婦伝 卷之二																			
(算数教科書)																			
(高・人名書上)																			
實用補習読本 下篇第二																			
綿操馬之段																			
二十番碁 (囲碁棋譜)																			
新板歌祭文																			
(御殿力)																			
郵便取扱規則																			
台湾鉄道案内																			
流轉數回阿古義物語 卷之三																			
枉蝶新語 卷之一																			
續々鳩翁道話 三之上・下																			
(勤孝みせはやカ)																			
大内裏大友真鳥																			
伊達模様 倭韓乃染分 卷之二																			
増補絵本寶鑑 卷之四																			
女徳寶鑑 (生徒用) 卷四																			
明治廿七年四月十七日(訂正再版) 発行																			
189401099																			
差 出 人																			
安積五郎、田中登作合著／東京市日本橋區呉服町一番地 合資会社普及舎																			
山田民代																			
山田新五郎、秋保屋庄右衛門																			
浪華 五島清道編述、同廬洲山人閣																			
作者武田出雲／京寺町松原上ル西町より菱屋治兵衛板																			
京都書林・二條通麴屋町 山本長兵衛ほか3名様																			
男武修閑書																			
巫山亭夢輔戯述、鴛鴦亭主人画図／芬蒿堂梓																			
江戸式亭三馬著編、門人徳亭三孝校																			
台湾総督府																			
190408099																			
江戸本さいもく町一丁目 地本問屋にしのみや新六再板大六くだり元祖																			
東京市日本橋區本町三丁目 金港堂書籍株式会社																			
189411008																			
明治廿七年十一月八日(訂正再版) 発行																			
實用補習読本 下篇第二																			
(高・人名書上)																			
(算数教科書)																			
絵本三国妖婦伝 卷之二																			
(絵本昔語松虫墳) 卷之三																			
箱 尊																			

15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	14	14	14	14	14	14	14	箱 尊	
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	81	80	79	78	77	76	75	74	枝 1
2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1									枝 2
1	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	2	1										枝 3
												2	1										枝 4
																							枝 5
大物店卸牒	木綿古手店卸帳	木綿古手店卸帳	木綿古手店卸帳	木綿古手店卸帳	木綿古手店卸帳	木綿古手店卸帳	木綿古手店卸帳	木綿古手店卸帳	木綿古手店卸帳	木綿古手店卸帳	木綿古手店卸帳	木綿古手店卸帳	木綿古手店卸帳	木綿古手店卸帳	東京神戸間大線路 鉄道郵便発着表	(断簡)	点例 卷之序・一	大学章句	南都先生文集 初編卷之二・三	最上流算法記	陰雲(手習手本)	絵本昔語松虫墳 卷之二	表 題 (内 容)
月二日	丙明治九年子正	辛明治四年未正	癸文久三年亥正	萬延二年酉正月	吉日	安政六年申正月	安政五年未正月	安政五年午正月	吉日	安政四年巳正月	安政三年辰正月	安政二年卯正月	吉祥日	嘉永七年寅正月	嘉永六年丑歲正月二日	嘉永五年子正月	吉日	嘉永四年亥正月	明治三十三年六月一日改正				日 付
187601002	187101002	186301099	186101099	186001099	185901099	185801099	185701099	185601099	185501002	185401099	185301002	185201099	185101099	190006001									西 曆
																	貝原篤信書・編録	輯、南都勝元啓維迪校	平安服元喬子遷著、江都望三英君彦			浪速 聴雨軒編次	差 出 人
福井本店	山田屋新五郎	山田屋新五郎	山田屋新五郎	山田屋新五郎	山田屋新五郎	山田屋新五郎	山田屋新五郎	山田屋新五郎	福井新五郎	山田屋新五郎	山田屋新五郎	山田屋新五郎	山田屋新五郎	山田屋新五郎				慶応四年六月	山田屋新助	中村豊治	持用	山新店持用、山田屋新五郎	受取人
冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	状	状	冊	冊	冊	冊	冊	冊	形態
																虫損	前欠、後欠、						状態
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	臺 数
																	「柳沢弥太郎初メテ御加増之事」ほか	13 + 64・102・105参照	「弘化四丁未歲正月吉日写之 中村豊治」ほか書込みあり		13 + 59参照		備 考

箱	尊	枝1	枝2	枝3	枝4	枝5	表 題 (内 容)	日 付	西 暦	差 出 人	受 取 人	形 態	状 態	頁 数	備 考
15	2	11					覚 (差引書)	仲秋四日	99911019 99908004	用中	山新丈人	状		1	
15	2	10					覚 (油代金差引勘定)	十一月十九日	99911019	伝四郎	新五郎殿	状		1	
15	2	9					覚 (粒在油代金拾両受け取り)	十月十九日	99910019	千葉屋伝四郎 (印)	山田屋新五郎	状		1	
15	2	8					覚 (金差引勘定)	申六月十三日	99902013	大沼や所左衛門	山田屋新五郎	状		1	
15	2	7					覚 (金請取相済候につき)	卯三月二日	99903099	あしか、屋新五兵衛長治郎	山田屋新五郎	状		1	
15	2	6	2				てにつき)	十月卅日	99910030	村用中玄瑞 (花押)	人机下	状		1	
15	2	6	1				(書状、此節金子逼迫につき米買金は木香代の他に金九十兩を渡すことなど)	十月卅日	99910030	小林用中 (印、万預不用 (ヤ林) 足利屋)	山田雅君	状		1	
15	2	5					(書状、年賦金の年数について相手方の望みに任せるべきこと)			玄瑞	新七様、仲蔵	状		1	
15	2	4					(書状、無尽取立・買米売払いなどにつき)	三月三日控	99903003	林用中	山田新七様、新五郎様	状		1	
15	2	3	3				(書付、酒桶大小四つ印符につき)	延享貳年閏十二月三日	174512103	今泉七三郎 (印)	村田町新五郎	状		1	
15	2	3	2				(書状、酒桶大小四つ印符につき)	延享貳年閏十二月三日	174512199	村田町飯検断酒屋・新五郎 (印、同所肝煎・清四郎)	大肝煎・佐山八郎兵衛殿	状		1	
15	2	3	1				(包紙、今泉七三郎様御印符書付巻枚此内二入置候、酒桶大小四本くつし桶二仕候願之扣壹枚入)					状		1	
15	2	2					他二名に渡すべき旨	貞享三年壬三月四日	18603105	仲左衛門	御納戸役人衆	状		1	「享保三年 山田屋新七享」と書込みあり
15	2	1					(書状、賣銭断絶無く出したことに付き、褒美として嶋紬六端を新五郎他二名に渡すべき旨)	貞享三年壬三月四日	18603104	仲左衛門	御納戸役人衆	状		1	
15	1	2	8				木綿古手店卸帳	慶應四年辰正月二日	186801002		山田屋新五郎	冊		1	
15	1	2	7				木綿古手店卸帳	慶應三年卯正月二日	186701002		山田屋新五郎	冊		1	
15	1	2	6				木綿古手店卸帳	已明治二年巳正月二日	186901002		山田屋新五郎	冊		1	
15	1	2	5				木綿古手店卸帳	慶應二年寅正月二日	186601001			冊		1	
15	1	2	4				木綿古手店卸帳	庚明治三年午正月二日	187001002		山田屋新五郎	冊		1	
15	1	2	3				木綿古手店卸帳	元治二年丑正月二日	186501002		山田屋新五郎	冊		1	
15	1	2	2				木綿古手店卸帳	文久四年子正月二日	186401002		山田屋新五郎	冊		1	

箱 尊	枝 1	枝 2	枝 3	枝 4	枝 5	表 題 (内 容)	日 付	西 暦	差 出 人	受 取 人	形 態	状 態	臺 数	備 考
15	2					(書状、江戸小嶋や八郎兵衛へ添え状下さるべき旨)			喜藏	新五郎殿	状		1	
15	2					(書状、文五郎様へ御目見被仰付候旨)	十一月七日	999911007	松平太夫	新七殿	状		1	
15	2					覚(銀子受け取り証)	辰七月十二日	999907012	大河原町村上屋伴藏(印)	村田町山田屋新五郎殿	状		1	
15	2					(覚、鷹方御用にて村田町新七、出入一人)	五月	999905099	石川留之進(印)	柴田郡大肝入・佐藤太郎右衛門殿	状		1	「村田町宿・新七」 「宝暦十四年五月」とあり
15	2					(書状、御用の通り伊右衛門宅へ罷り出ること)	二月七日	999902007	横四右衛門ほか2名	新七殿	状		1	
15	2					(書状、荷物江戸廻送について)	八月十七日	999908017	小林喜藏	山田新五郎殿	状		1	
15	2					(書状、紅花の追加送付・値段の問い合わせ)	五月十六日	999905016	小林玄瑞、行忠(花押)	様、同三郎兵衛様	状		1	
15	2					(書状、紅花代金送付・酒田より江戸へ廻送などについて)	八月十五日	999908015	小林喜藏	山田新五郎様	状		1	
15	2					(書状、内々に伺った件について再考してほしいこと・買い置いた品の売り払い等について)	正月十四日	999901014	小林玄瑞	山田新五郎様	状		1	
15	2					(書状、御町老役御免について覚右衛門殿より仰せがあった旨)	巳ノ三月朔日	999903001	検断・新助	本町・新五郎殿	状	短冊共	2	
15	2					(書状、升屋に勘六を遣わしてほしい旨)	十一月廿九日	999911029	小林玄瑞	山田屋新五郎様	状	前欠	1	
15	2					(永代売渡証文、町屋敷半間・苗代半分を分判拾五切にて)	延宝五年ミノ三月十二日	167703012	村田本町買主・近左右衛門(印)ほか5名	新七殿	状		1	
15	2					(覚書、角田本町介十郎が我が祖母の妹婿であることなど)					状		1	
15	2					覚(代金預り証)	辰六月廿三日	999906023	山田屋新五郎、(印、仙台領村田町(一ツ山田屋)	越中(杯平)様	状		1	
15	2					(書状、助十郎夫婦が年寄り諸事不自由になったため親類で村田に集まりたい旨)	三月廿二日	999903022	大木与右衛門(花押)	村田二て新五郎様	状		1	
15	2					(書状、金子受取についての伺い)	巳ノ九月十五日	999909015	十郎右衛門(印)、喜十郎(印、村田町大沼屋)	新五郎殿、丹左衛門殿	状		1	
15	2					(証文、足立村百姓長五郎女房を午年まで二季の間新五郎宅へ差し置いて差し支えない旨)	寛延元年十一月十六日	174801116	足立村肝入・権十郎(印)	村田町新五郎殿	状		1	
15	2					御荷桶の覚	延宝八年正月廿日	168001020	新五郎、新九郎、久右衛門	山内賀右衛門殿、永沼庄六殿	状		1	
15	2					覚(香十包受け取りにつき)	二月十一日	999902011	足利屋与四郎、安兵衛	新七様、新五郎様	状		1	

15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	箱
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	尊
42	41	40	39	38	37	36	35	35	35	35	35	35	35	34	34	34	33	32	枝1
							8	7	6	5	4								枝2
											2	1							枝3
																			枝4
																			枝5
表 題 (内 容)																			
(書状、紅花買取の相場ならびに金子について)																			
覚(金式分受取につき)																			
覚(伝内金代勘定につき)																			
(覚、造り桶書上写)																			
(付札、「延享式年閏十二月三日又兵衛七三郎様ニ而御尋之桶ニ被成下候分」)																			
(付札、外四本先年くつし桶ニ成候分年次不知)																			
(包紙)																			
(包紙)																			
(包紙)																			
(覚、金高書付)																			
(覚、金高書付)																			
(覚、貸金高書付)																			
(書状、御荷桶について)																			
(書付、荒町右門より譲り受けた川原町梅木畑について)																			
(証文、御普請方御用につき村田町新五郎より人足一人を出した旨)																			
覚(往油代金受取証)																			
覚(金子受取証)																			
(証文、借金利足代として河原にて畑代七文渡す旨)																			
覚(紅花荷物通行手形)																			
東山分(田畑書上)																			
覚(金子返済につき)																			
午十一月廿七日	安政二年七月日	寛保三年十月八日	嘉永二年西ノ九月十日	子ノ十月廿九日	安永六年四月														
999911027	185607999	174310008	184909010	999910029	177704099											175608014			
渡部義蔵(印、白石中町(丸)渡部屋様)	新三郎(印)	国産取締人・岩井作兵衛(印、中井新三郎(印)	南町加々屋吉兵衛(印)(ほか2名)	大沼屋養之丞(印)	□門前町千葉屋伝四郎(印)	鈴木多蔵(印)								富田勘四郎(印)	小林玄瑞	小松伴太夫様御印符	北郷屋十兵衛	足利屋喜左衛門(印、最上山形(ヤ林)足利屋)	足利屋新七殿
山田屋専次郎				伊平次殿	大肝煎・日下村田町山田屋新五郎殿									仙台村田山田新五郎様御控	村田両雅兄林用	山田屋新五郎様	山田屋新七殿	山田屋新七殿	山田屋新七殿
状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

[illegible]

[illegible]

箱 尊	枝 1	枝 2	枝 3	枝 4	枝 5	表 題（内 容）	日 付	西 暦	差 出 人	受 取 人	形 態	状 態	臺 数	備 考
16	2	2	16	16	16	覚（酒造桶書上） 乍恐口上之覺書を以奉願候御事（酒造につき）ほか （書狀）	延享二年閏十二月	1745.12.199	村田町飯検断酒屋新五郎、同所肝煎清四郎	大肝煎佐八郎兵衛殿	冊	16・2・49・1・2・綴	1	
16	2	2	16	16	16	沼田屋敷七兵衛分地ノ覚	寛文拾貳年二月五日	167202005	柴田村田町新七		冊	1	1	
16	2	2	16	16	16	柴田郡村田郷酒屋延宝七年酒造石高之覚	天和三年九月十四日	168309014	村田町酒や善右衛門ほか11名	大肝煎作七殿	冊	1	1	
16	2	2	16	16	16	（書狀、京地紅花の義につき）	二月十一日	999902011	足利屋与四郎、勘六	山田新七様、同新五郎様	狀	1	1	
16	2	2	16	16	16	（書狀、金子について）	閏六月六日	999906106	小平治	山新様	狀	1	1	
16	2	2	16	16	16	（書狀、紅花相場につき）	七月五日	999907005	小林玄瑞	山田屋新五郎	狀	1	1	
16	2	2	16	16	16	（書狀、油値段について）	十月廿四日	999910024	岩沼町・傳四郎	村田町・新五郎様	狀	前欠	1	
16	2	2	16	16	16	（書狀、村方吟味につき）	十一月廿四日	999911024	村田町・新五郎様	山田屋新五郎	狀	1	1	
16	2	2	16	16	16	（書狀、正金請け取り）	申六月廿九日	999906029	大沼や所左衛門（印、仙台村田（林叶）□□）	山田屋新五郎	狀	1	1	
16	2	2	16	16	16	（書狀、田代につき御相談）	十八日	99999918	十郎左衛門	新五郎様	狀	1	1	
16	2	2	16	16	16	（書狀、正金来夏までに御才覚願ひ）	十二月朔日	999912001	森屋喜六（印）	山田屋新五郎	狀	1	1	
16	2	2	16	16	16	渡し方（金子）					狀	1	1	
16	2	2	16	16	16	（書付、病人へおまじない）	六月廿七日	999906027	惣内	新七様、新助	狀	1	1	
16	2	2	16	16	16	（証文、金子請け取り証文）	已正月廿六日	999901026	大沼善兵衛（印、仙台村田（林吉）大沼屋）	山田屋新五郎様、周藏様	狀	前欠	1	
16	2	2	16	16	16	虫葉				衛様	狀	入袋共、薬	2	
16	2	2	16	16	16	（書狀、紅花荷物の儀につき）	七月十五日	999907015	斎藤久兵衛	山田屋新五郎様、同三郎兵衛	狀	1	1	
16	2	2	16	16	16	（書狀、入用金について）	八月三日	999908003	山十より	山新様	狀	1	1	
16	2	2	16	16	16	（書狀、菜種の値段などについて）	四月三日	999904003	大和屋久四郎ほか3名	山田新五郎様、已之助様	狀	1	1	
16	2	2	16	16	16	（書狀、紅花や油の買入れ・代金の支払いについて）	丑正月三日	999901003	勘四郎（印）	山田新七殿、山田仲蔵殿	狀	1	1	
16	2	2	16	16	16	（書狀、新七への貸金の年賦について）	二月十一日	999902011	小林玄瑞（印）	山田新七殿、衛様	狀	1	1	
16	2	2	16	16	16	（書狀、紅花の買取金について）	七月晦廿日夕	999907020	小林喜左衛門、茂兵衛	山田新五郎様、同三郎兵衛	狀	1	1	

[illegible]

18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	17	17	17	17	17	16	16
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	3	3	3	2	1	4
3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	1	1	1	4	3	2	1			枝1
5	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	2	2	1							枝2
2	1										2	1								枝3
																				枝4
																				枝5
表 題 (内 容)																				
(包紙) 菅名小太郎殿自詠自筆（和歌書付） （包紙、岩手山伊達主馬様御手跡同御下中戸田六太夫殿より得ル） （地頭隠居芝多一夢軒自詠和歌発句書付） 家君公ノ御筆 当御城御代々之事也 家君須敬ノ書状（包紙） （書状、年始の塩釜参詣及び歳旦の尋歌につき） （書状、布子・明衣一つ送付・読書手習い第一に小遣い無益になさるまじき旨） 新五郎殿 新七（宛名書付） （書状、登仙の時期・葉・療治・狂歌・試作等につき） （書状補足、十日時分に下ることにつき）										萬覚帳 草稿（漢詩文章稿） 護国女太平記 壹卷貳卷 田畑帳（包紙） （田畑帳） 御知行目録 御知行目録 （封筒、〔未撮影分四二・七・一一〕） 借用證（明治十一年酒類税規則便覧と山田家家譜写につき） （借用目録、家系に関する史料につき） 昭和十八年一月八日 昭和十九年十一月十六日 昭和十九年十一月十六日 弘化四丁未年十二月 嘉永貳年己酉二月改 嘉永貳年己酉二月改 嘉永四ノ年正月吉日										日 付
										□二月十九日夜 999902019 169507024 平盛從 遊佐□衛門 仙台市北六番丁二九一・平重道 山城県酒造史編纂委員会借用責任者・伊藤信（印） 山田新五郎殿 福井新五郎殿 本町新五郎 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊										

箱	尊	枝1	枝2	枝3	枝4	枝5	表 題 (内 容)	日 付	西 暦	差 出 人	受 取 人	形 態	状 態	点 数	備 考
18	1	3	6	1			(書状、西国の風説の虚実につき)					状	18 11・31	1	
18	1	3	6	2			(書状、五日に給(つ)届くにつき)			新七	新五郎殿	状	6 12・3	1	
18	1	3	6	3			(書状、米金送付、洪範全書等につき)	七月十二日	999907012			状		1	
18	1	7					(書状、必ず掟に背かずよう心付らる旨)	十一月十日	999911010	伊□□	新七様	状	破損あり	1	
18	1	4	1				(包紙)	享保十巳年二月念八日	172502028	山田須敬		状	18 11・41 む2 14を包	1	「八枚包入」とあり
18	1	4	2				土舟三神伝	二月廿八日	999902028			状		1	
18	1	4	3				陰陽之訓伝 君之訓伝	二月廿八日	999902028			状		1	
18	1	4	4				八耳之伝					状		1	
18	1	4	5				面足惶根尊伝	二月廿八日	999902028			状		1	端裏書きあり
18	1	4	6				国号伝	享保十年二月廿七日夜	172502027	山田須敬		状		1	
18	1	4	7				乾道獨化伝	二月廿八日	999902028			状		1	
18	1	4	8				七代一色七神一神伝	二月廿八日	999902028			状		1	
18	1	4	9				三神一神伝	二月廿八日	999902028			状		1	
18	1	10					(書状、書状を届けらるべき旨)	正徳五乙未年六月十九日	171506019			状		1	
18	1	11					山田や新五郎殿 大町二丁め きた村や吉左衛門処にて 岩渕幸七郎(宛名書付)			岩渕幸七郎	山田や新五郎殿	状		1	
18	1	12					勝雄木之伝					状		1	
18	1	13					享保三戌年柴田郡糟沢洞勝寺ニおめて怪異之事左に有増伝へ聞を相記			須敬記ス		状		1	
18	1	14					人之訓伝 鬼之訓伝	二月廿八日	999902028			状		1	
18	1	1					(包紙)「享保元年之書状也 蜂屋先生より」	享保元年	171609999			状	1 15 12 8を包む	1	
18	1	2					(書状、二番丁先生・詩作・小学問目・狂歌などにつき)	閏二月十二日	999902112	可敬(花押)	新五郎殿	状		1	
18	1	3					(書状、村田新七書立の物の文体などにつき)	三月廿五日	999903025	次郎左衛門	又左衛門様	状		1	
18	1	4					(書状、村田の娘縁談のことなどにつき)	八月十九日	999908019	積塚吉之助(花押)	今井八郎次様	状		1	
18	1	5					(書状、新春の賀詞・長作の江戸訴訟の占いのことなどにつき)	正月十日	999901010	蜂屋彦介可敬(花押)	山奥新五郎殿	状		1	
18	1	5					江戸訴訟ノ占	正徳五乙未年十二月十日	171512010	可敬		状		1	
18	1	6					作が抜群である旨)	正月七日	999901007	蜂屋彦介可敬(花押)	山奥新五郎殿	状		1	

[illegible]

[illegible]

箱 尊 枝1	箱 尊 枝2	箱 尊 枝3	箱 尊 枝4	箱 尊 枝5	表 題 (内 容)	日 付	西 暦	差 出 人	受 取 人	形 態	状 態	臺 数	備 考
18 24 4	18 24 3	18 24 2	18 24 1	18 23	(漢詩及び和歌書付・備後伝)	享保十五寅戊夏 五月十日	17305010	山田豊治		冊		1	18 18 32・33 参照
				18 22	奥羽觀蹟聞老志 卷之五					冊		1	18 32・33 参照
				18 20	礼儀條目抄百ヶ條 卷之六					冊		1	18 32・33 参照
				18 19	礼儀條目抄百ヶ條 卷之五					冊		1	18 32・33 参照
				18 18	(貞樹院様七十御月賀月次御屏風和歌)	享保十二年二月 十九日(廿五日)	172702025	伊達助三郎村胤盈若冲拝輦		冊		1	
				18 17	湯津爪櫛囊中玄櫛伝	享保九年九月五 日	172409005	山田須敬		冊		1	
				18 16	子孫戒	安永改元臘月八 日	177212008	田辺希文	山奥信貞亨之	冊		1	
				18 15	西銘					冊		1	
				18 14	松前風土記					冊		1	
				18 13	到斎山田氏須敬 雨続松方 紙蓋共二 撥葉			越前屋福井屋新七須敬(花押)		冊		1	
				18 13	紙蓋トモニ六葉			越之前州福井屋須敬 富久井屋		冊	18 13 11	1	
				18 12	百ヶ條卷之二(弓矢射法等礼儀條目に つき)					冊		1	
				18 11	(諸病伝)			到斎山田屋須敬		冊		1	
				18 10	(諸病伝)			到斎山田屋須敬		冊		1	
				18 9	達金に対し紋付羽織下さる御意の旨				福井新五郎	状		1	
				18 8	新五郎参候時被遣候状也	正徳元年七月三 日四日	171107003			状		1	
				18 8	(和歌書付)				しん五郎との	状	包紙共	1	
				18 8	眼鏡の添付札につき書付					状		1	
				18 8	(元禄年中家君公京都にて買い求めた					状		1	
				18 8	(短冊 米買取手形の控につき)					状		1	
				18 8	(短冊 二遣候御状也)	正徳三年正月七 日	171301007			状		1	
				18 8	(短冊、正徳三年正月七日白石へ御出 候時二遣候御状也)					状		1	
				18 8	(袋、地所売却證人)					状		1	
				18 24	地所売却證	明治廿三年八月 十二日	189008012	由井良之助	山田新五郎殿	状		1	
				18 24	地所売却證	明治二十二年五 月九日	188905009	名取群玉浦村寺嶋六十番地売渡人・菊 池久三郎(印)	山田新五郎殿	冊		1	
				18 24	地所永代売渡証	明治十九年八月	188608099	刈田郡平澤村十八番地売渡人・村上定 吉(印)、同郡同村十六番地保証人・ 村上文助(印)	山田新五郎殿	冊		1	

箱 尊	表 題（内 容）	日 付	西 暦	差 出 人	受 取 人	形 態	状 態	歳 考
18 40	地所売渡ノ証	明治十八年十二月廿三日	1885/12/23	柴田郡村田郷寺田十一番地此所売渡人・佐藤ちう（印）、同郡同郷弥太平（印）、保証人佐藤早助（印）	山田新五郎殿	冊		明治十八年十二月廿七日柴田郡村田郷外三ヶ村戸長安積公の署名・（印）あり
18 24	畑地売却証	明治十五年八月六日	1882/08/06	柴田郡足立村畑売渡人・的場甚兵衛（印）、保証人	村田郷山田新五郎殿	冊		明治三十年十一月三十日付の地所ノ書入公証取消願共
18 24	地券書入証	明治十二年五月廿七日	1879/05/27	借用人大宮栄治（印）、保証人大宮富右衛門（印）、同斎藤幸七（印）	村田町山田新五郎殿	冊		
18 25	潮信考			源可敬誌	到斎須敬、（印、仙台領村田町（一ツ）山田屋、（印、山田屋）	冊		
18 26	竹園抄（写本）	享保七歳仲春五日	1722/02/05	横田永将（古溪）書	山田信貞	冊		「宝暦七年仲秋十三日謹騰写」とあり
18 27	卤銘講義	享保十九年甲寅十一月廿九日	1734/01/29	榴岡島直寛		冊		
18 28	易幸伝	享保九甲辰九月四日	1724/09/04	須敬		冊		
18 29	綱斎先生喪葬小紀	享保十八年己丑十二月廿七日	1733/12/27	島直寛謹識		冊	後表紙破損あり	
18 30	諸病伝	文政十二年己丑二月	1829/02/09	到斎山田氏越前屋須敬		冊		目次表題に「一」とあり
18 31	方位			墨雲堂南北撰		冊		
18 32	礼儀百ヶ條 卷之一（礼儀）百ヶ條 卷之三					冊		1811・19・20参照
18 33	日本書記総説					冊		1811・19・20参照
18 34	親蹟聞老志 首卷	享保四年己酉孟秋	1719/07/09			冊		1811・21参照
18 35	竹千代君御髪置御賀屏風画賛					冊		
18 36	続撰仙台名所集全					冊		
18 37	御請□申證文之事					冊		
18 37	電報送達紙	一月廿五日	9999/01/25		奥州山□□□	リクセンムラタキヨク	あり	
18 38	（過去帳、山田家先祖の生没年等につき書付）					リクセンムラタキヨク	あり	
18 39	（山田家先祖生年より享保十年までの年数等書付）	享保十年	1725/99/99				あり	
18 40	（妙慶様隠居に際して下人下女等につき書付）						あり	

箱 尊	表 題	内 容	日 付	西 暦	差 出 人	受 取 人	形 態	状 態	臺 数	備 考
18 51	8	寛(惣九郎家族等につき書付)	享保十五年四月廿日	173004020	須敬記		状		1	
18 50	7						状		1	
18 50	6						状		1	
18 50	5						状		1	
18 50	4						状		1	
18 50	3		宝永七年二月	171002099		八郎左衛門殿	状		1	
18 50	2	(短冊、年代書付)	寛保元年辛酉	174199999		御家老 武沢	状		1	
18 50	1	(短冊、宝永七年二月新五郎が仙台にいた時の書状である旨)					状		1	
18 49		(書状、天正年間の事跡の記述に関する語句・文体への意見)					状		1	
18 48		(書状、金三百両を此者にお渡しくださるべき旨)	七月八日	999907008	常七	新五郎様、順助様	状		1	
18 47		(七言絶句書付)			可敬艸	山田新五郎	状		1	
18 46	7	(柴田郡村田小学校校務係任命書)	明治十七年十一月廿七日	188411027	柴田刈田郡役所		状		1	
18 46	6	(柴田郡村田郷字学務委員任命書)	明治十五年六月卅日	188206030	宮城県	山田新五郎	状		1	
18 46	5	(村会議員査定書)	明治十七年七月十九日	188407019	村田郷連合戸長加藤榮利(印)	村田郷山田新五郎	状		1	
18 46	4	(村田郷年行司査定書)	明治十七年七月十三日	188407019	柴田郷連合戸長加藤榮利(印)	山田新五郎	状		1	
18 46	3	(連合会議員査定書)	明治十七年七月三十一日	188407031	村田郷連合戸長加藤榮利(印)	村田郷山田新五郎	状		1	
18 46	2	(封筒)			宮城県村田町山田新五郎		状		1	
18 45	1	元日(七言絶句)	享保二丁酉年	171799999	可敬		状		1	端裏書き「享保二丁酉年」
18 44		(書、後西院之御皇女御年六十一本覚寺女宮様御真筆)					状	包紙共	1	
18 43		(書状、山田新五郎逝去につき哀悼の意)	大正六年十一月十四日	191711014	通信協会仙台支部長河合静庵	故山田新五郎殿御遺族御中	状	封筒共	1	
18 42		山田新五郎君の逝去をいたみて	明治四十四年七月七日	191107007	巨理郡巨理町松原錦吾梅正		状		1	端裏書き「明治四十四年七月七日旧六月十二日」
18 41		覚(惣九郎家族等につき書付)	享保十五年四月廿日	173004020	須敬記		状		1	
箱 尊	枝 1									
	枝 2									
	枝 3									
	枝 4									
	枝 5									

箱 尊	枝 1	枝 2	枝 3	枝 4	枝 5	表 題 (内 容)	日 付	西 暦	差 出 人	受 取 人	形 態	状 態	頁 数	備 考
18 72						(書状、新年挨拶など)	正月五日	999901005	佐藤助五郎半兵衛	山田屋新五郎 様、吉左衛門 様、御居中様	状		1	
18 71						(書状、星氏妻逝去の知らせ・病床の 様子につき)	正月廿三日	999901023	小林太兵衛	山田新五郎 様、同三郎兵 衛様	状		1	
18 70						(1~12月の吉凶につき書付)					冊		1	
18 69						(年月日法名書付)					状		1	罫紙6枚に朱書で書付 けている
18 68						(便箋)			宮城県柴田郡村田町山田新五郎		状	破損あり	1	裏面にメモ書きあり
18 67						(山田新五郎及び家族生没年等書付)					状		1	
18 66						(塩釜の杜家鈴木宅岐守殿の説書付)	享保甲辰霜月	172411099	須敬		冊		1	
18 65						御神官御奉加金請弘鹿嶋	享保庚戌上無月	173010099	山田須敬		冊		1	「山田須敬 紙蓋共二 八葉」
18 64						塩釜鈴木宅岐守殿説	五月朔日	999905001			冊		1	
18 63						覚(入部につき祝儀として羽織ならび に銀三枚下さる御意の旨)	享保十年乙巳六 月十八日	172506018	山田新七須敬		冊		1	
18 62						家蔵之軸物相改帳	享保二十乙卯歳 十一月三日	173511003			冊		1	
18 61						(上使高家衆二人所司代四人へ下され 候料理・献立につき書付)	享保乙巳六月廿 二日	172506022	山田新七		冊		1	「一到斎須敬 須敬反生二
18 60						家蔵之刀剣相改帳(従祖先公之御遺物 也)	明治十五年壬午 陰曆九月十一日	188209011	山田氏		冊		1	
18 59						陽陰元例年月々善悪ヲ知事	宝曆六丙子春 本町新七町在持高帳	175699999			冊		1	
18 58						貝原篤信ノ著セル大和俗訓ノ内ヨリ写 之	正徳二年六月廿 三日	171206023	山奥須敬		冊		1	
18 57						利根姫君様御女中名セ并御道具之写 紙蓋共二六枚	享保二十一丙辰 年正月十九日夜	173501019			冊		1	
18 56						(富士噴火などにつき新五郎の問いと 可敬の返答書付)	十三日	999999913	可敬	山奥様	冊		1	
18 55						享保二十乙卯年霜月廿八日 利根姫君 様御婚札御行列之写 紙数蓋共二拾壹 枚	享保二十一丙辰 年孟陬十九日夜	173501019			冊		1	
18 54						貝原好古著述 和爾雅 (利根姫君様御入奥以後初めて御登城 御行列の写)	享保己亥季春日 (12月朔日)	999912001	到斎		冊		1	
18 53						一八十八(御札)	宝永七年正月元 日	171001001			冊		1	
18 52						御伝授之事左之通(神拝之事などにつ き)	享保九甲辰八月 廿七日雨	172408027	山田新七		冊		1	

[illegible]

箱 尊	表 題（内 容）	日 付	西 暦	差 出 人	受取人	形態	状態	臺 数	備 考
18 87	丹波国大江山千丈嵩之事	正徳五年正月晦	171501030	桑田郡上吉田村林保クハイコク僧		状	1	1	
18 88	卯月廿二日晚（茶道具書上） （村田町領主（カ）支配年数書上）	日 月 享保六年五月	999904022 172105099	村田町新七		状	1	1	
18 89	（短冊、天和元年より貞享元年迄大松沢和泉様御住居の旨）					状	1	1	
18 89	（短冊、寛文元年より延宝八年迄右京様式十年程岩沼居城の旨）					状	1	1	
18 89	（短冊、寛永十四年より万治三年迄奥山大学様式拾四年程の旨）					状	1	1	
18 89	（短冊、寛永六年より同十三年迄奥隼人様八ヶ年程の旨）					状	1	1	
18 89	（短冊、寛永四年より同五年迄式ヶ年御蔵入の旨）					状	1	1	
18 89	（短冊、慶長十八年より寛永三年迄右衛門様十四ヶ年程の旨）					状	1	1	
18 89	（短冊、慶長十三年より同十七年迄大和様八ヶ年程御住居の旨）					状	1	1	
18 89	（短冊、慶長八年より同九年迄式ヶ年御蔵入の旨）					状	1	1	
18 89	（短冊、万好様文禄年中より慶長七年迄十一ヶ年程御住居の旨）					状	1	1	端裏書き「喜十郎子佐太郎継目被仰付候節之書状」
18 90	（書狀、一昨十八日繼目仰せ付けられたことなど）			大沼屋甚兵衛		状	後欠	1	
18 91	村田郷御城主御代々様之品俗二申伝候事					状		1	
18 92	（書狀、先達て上京の節結構なる品を下され忝ないことなど）	二月七日	999902007	小林玄瑞・同忠内	山田新七郎 様・山田三郎 兵衛様	状		1	
18 93	（包紙）	元文五庚申二月	171002099	今井長右衛門	村田町山田新七様	状		1	「佐治次郎兵衛殿ハ手前ノ重兵衛おい也…大和はせ佐治氏より参り状迄通有」とあり
18 93	（書狀、新年慶賀・十兵衛老衰につき書く事不自由の旨）	二月四日	999902004	山田屋新五郎	佐治次郎兵衛様	状		1	
18 93	（書狀、拙者分として買い置きいたただいた大豆をお送り下さりたい旨他）	二月四日	999902004	今井長右衛門	山田新七様、 新五郎様	状	後欠	1	
18 93	（書狀、大和佐次次郎兵衛への挨拶を内見の上差し出してほしい旨）					状		1	
18 94	（書狀、さよの身分についての金子工面のこと等）	十二月廿一日	999912021	佐治次郎兵衛	山田屋新七 様、同新五郎 様	状		1	
18 94	（書狀、頼み置いた金子のことなど）	七月廿（カ）日	999907004	蜂屋彦介可敬（花押）	山奥新五郎殿	状		1	

箱	尊	枝	表 題 (内 容)	日 付	西 暦	差 出 人	受 取 人	形 態	状 態	臺 数	備 考
18	99	枝 1	(書付、宇賀神の祭りについて・可敬先生公の文)	宝永己丑孟夏念四日	17904024	貞生		状		1	
18	96	枝 2	(書状、新五郎を夏中申し来たり次第帰すようにすることなど)	二月十一日	999902011	次郎右衛門	新七殿	状		1	
18	97	枝 3	(包紙)	正徳三巳年	171399999			状	括り紐共	2	
18	97	枝 4	(書状、こども衆の疱瘡のこと・学問の姿勢のことなど)	三月廿九日	999903029	蜂屋彦介可敬(花押)	山奥新五郎殿	状		1	
18	97	枝 5	(書状、蔵旦の御作の添削・木斎先生三日登りのことなど)	正月廿二日	999901022	蜂屋彦介可敬(花押)	山奥新五郎殿	状		1	
18	97		(書状、珍酒一樽への謝辞・江戸への用事は書状で伝えてほしい旨)	三月朔日	999903001	遊佐次郎右衛門好生(花押)	山奥新五郎殿	状		1	
18	97		(書状、年賀・老父の江戸登りが三月初め出発であること)	正月廿二日	999901022	遊佐延次郎篤好(花押)	山奥新五郎殿	状		1	
18	97		(書状、新助の人柄や学問のこと・聖像披見のことなど)	二月四日	999902004	蜂屋彦介可敬(花押)	山奥新五郎殿	状		1	
18	97		(書状、正徳三年正月晦日に山奥新助が登仙し二月五日に帰った際に初めて蜂屋先生に参ったことなど)	巳ノ二月六日	999902006		山田屋新七郎殿	状	括り紐共	2	
18	98		(包紙)	享保十二丁未	172799999	蜂屋十太夫		状			
18	98		(書状、組会のことについての二十日の閉門のことなど)	十二月廿七日	999912027	蜂屋又左衛門	山田新七殿	状		1	
18	98		(書状、年賀・新五郎が登り煙草を賜ったこと・当御作の歌がよいことなど)	正月廿四日	999901024	蜂屋又左衛門可敬(花押)	山田新七殿	状		1	
18	98		(書状、人が少ないため遺すことのできないこと・表具代のことなど)	正月元日	999901001	蜂屋又左衛門可敬(花押)	山田新七殿	状		1	
18	98		答問寿者(七言絶句)	享保丙午陽月吉日	172699999	朴斎一井光宣		状		1	
18	98		(書状、道中のことなど追伸)					状		1	
18	98		(書状、九月登仙以後疎意になつてゐることなど)	十二月二日	999912002	山田新七	渡部宇右衛門様	状		1	
18	98		(書状、老母の病状・新五郎のことなど)	十二月廿四日	999912024	十太夫可敬(花押)	新七郎様	状		1	
18	98		(書状、年頭に新五郎を名代として見事な煙草を悦納したことなど)	正月廿四日	999901024	蜂屋十太夫可敬(花押)	新七郎様	状		1	
18	98		(書状、御系図・大石の問答のことなど)	二月十三日	999902013	又左衛門	村田町 新七殿	状		1	
18	98		丁未上日(西皇老人の七言絶句書付)	正月十八日	999901018	又左衛門	新七殿	状		1	
18	98		(包紙)			遊佐次郎左衛門	山田屋新七殿	状		1	
18	98		(書状、新五郎が九日江戸に登ることなどについて)	九月十五日	999909015	次郎左衛門	新七殿	状		1	
18	98		正徳四甲午年三月朔日二か様御銀ヲ連レ立仙台へ御登被遊候同四日ニ長作之相返候ニ被下置候御状也	正徳四甲午年三月朔日	171403001			状		1	

箱 尊	表 題（内 容）	日 付	西 暦	差 出 人	受取人	形態	状態	臺 数	備 考
枝 1	（書状、当所紅花不出來の上高値で困っていること・そちらはいかがか十兵衛をつかわすこと）	六月七日	99906007	渡會屋弥左衛門（印、羽州尾花沢預手形不用〔ヤ木〕渡會屋）	村田新七様	状	1	1	
枝 2	覚（布生地の仕切）	已十月十日	999910010	大沼屋十郎左衛門（印、仙臺村田町〔ヤ十〕□□□□）	山田屋新五郎殿	状	1	1	
枝 3	（日付・差出・宛名書付のみ）	十二月廿一日	999912021	同夏左衛門	山田屋新七様、大沼屋左太郎様	状	前欠	1	
枝 4	ゆとのさまへ御りうくわんぢやう	十月吉日	999910099	施主左助、同門之助	御湯殿様へ	状	1	1	
枝 5	（包紙） （書状、新九郎様お越しのこと・病氣に灸などもよいこと） 明神御寄進（先年三貫文の地寄進の証・奥山大学様御寄進高など書付） 柴田郡村田古城御持領の承伝（秀平様時代のことなど書付） 庚子元日（七言絶句書付）	三月五日 六月二日	999903005 999906002	足利や太兵衛 肝入・兵右衛門	山田新七様	状	1	1	全文見せ消ち
	（包紙） （書状、勘六息災に学問し大慶であることなど） （諸品代書付） （書状、荷数が揃ったら延金・盆切りにすべきこと）	享保五年 十二月廿三日 甲閏十二月 六月十五日	172099999 999912023 999912199	可敬 遊佐次郎左衛門 遊佐次郎左衛門（花押） 新七 用中	山奥新七殿 山奥新七殿 平蔵殿 勘六殿	状	1	1	
	（書状、足腰より下が腫病で起居不自由のこと・白鳥明神社階のこと） 覚（金子受取証） （書状、年賀・「旧冬之紅花売留メ相庭」を付す） 金子受取状	八月十四日 未ノ十二月廿二日 正月五日 元文二丁巳極月十一日	999908014 999912022 999901005 173712011	遊佐清左衛門（花押） 遊佐清左衛門 苦竹村・伊三郎（印） 村田新七様	山田屋新七殿 山田屋新七殿 村田町和助殿 伊勢屋源助（花押）	状	1	1	
	（書状、旦那様への伝言に対する御礼・やち吉田氏（のこ）宿のことなど） 柴田郡村田古城御持領之承伝（秀平様時代のことなど書付） 切韻帰納（音韻についての書状） （漢詩書付）	五月十七日 十一月六日	999905017 999911006	坂下小平太 戸田六太夫	山田屋新七様 山田新五郎様	状	後欠	1	「六太夫殿ハ岩手山ノ御家中」とあり
	慢和見賀（七言律詩書付） （包紙） （書状、十八日に迎えにくるとの申し出に対する返答など）	宝永四丁亥年 十二月二日	170799999 999999912	聴松軒主草稿 及川久兵衛 母	山田新五郎殿 山田新五郎殿	状	1	1	端裏書き「宝永四丁亥年富山別当斗配也」

箱	表題（内容）	日付	西暦	差出人	受取人	形態	状態	臺数	備考
18	（書状、紅花が見事な出来で上々物、八百ほどで心に叶うこと・例年京着が遅くなるので当年は急ぎ登せてほしいことなど）	六月六日	999906006	小林用藏、小林玄瑞（印、万預不用（ヤ林）足利屋）	山田屋新七様、同新五郎様	状	1	1	
18	（包紙）	享保十九甲寅年	17399999	遊佐清左衛門	山田屋新七殿	状	1	1	
18	（書状、おりよの婚札が首尾良く終わったこと・新五郎の後妻縁組が調ったことを祝う旨）	四月四日	999904004	遊佐清左衛門好生（花押）	山田屋新七殿	状	1	1	
18	（書状、別冊が成就したので披見の上お直しいただき両先生公の御筆も添えてほしいことなど）	六月三日	999906003	新七	先生様	状	1	1	
18	登洗降閑・登日観峯（七言律詩二首書付）					状	1	1	
18	覚（取替金受取証）	巳ノ十一月十八日	999911018	小林玄瑞（印）	山田屋新七殿	状	1	1	
18	（書状、越年の挨拶・知行物成が少なく米価もやすいため新五郎が病氣と聞いて金二切のみ送ることなど）	（享保卯）十二月廿九日	999912029	次郎左衛門	新七殿、新五郎殿	状	1	1	
18	（包紙）	享保壬子五月十四日	173205014	遊佐清左衛門	村田町山田屋新七殿、新五郎殿	状	1	1	
18	（書状、新五郎が江戸表で首尾よく商売物を調達したことを喜ぶ旨・小十郎殿の御休所を申し付けられたと聞いたことなど）	五月十四日	999905014	遊清左衛門（花押）	山田や新七殿、新五郎殿	状	1	1	
18	（包紙）	正月十一日	999901011	蜂屋又左衛門	山奥新七殿	状	1	1	
18	（書状、新年慶賀の挨拶）	六月三日	999906003	可敬（花押）	山奥新五郎殿	状	1	1	
18	（書状、新五郎が無事で人柄もよいことなど）	（享保五子ノ年）正月十三日	172001013	蜂屋又左衛門可敬（花押）	須敬丈	状	1	1	
18	（書状、新年の挨拶・加増・御作のことなど）	延享式年十二月十三日	174512013	新五郎、口入・喜十郎	山奥新五郎殿	状	1	1	
18	（御蔵拝借米申し受けに関する證文）			吉左衛門殿、儀右衛門殿、兵右衛門殿		状	1	1	
18	元日（七言絶句書付け）					状	1	1	
18	（書状、附花取り引きにつき）	六月十五日	999906015	玄瑞（印、万預不用（ヤ林）足利屋）	あしかが屋勘六殿	状	1	1	
18	（書付け、片倉別山様御忌事料理覚書き）			新七須敬		状	1	1	
18	おほえ（料理覚書き）					状	1	1	

箱 18	表 18	内 18	容 18	日 付 18	西 暦 18	差 出 人 18	受 取 人 18	形 態 18	状 態 18	頁 数 18	備 考 18
尊 枝1	表 題	(内 容)	おほえ(料理覚書き)	九月十八日	99909018			状	18 一括	1	
枝2			(書状断簡、帯刀の可否について)	享保二丁酉年	171799999	木斎		状	前欠	1	
枝3			(書付け、和歌・七言絶句書付け)	延享式乙丑年七	174507008	検断本町・丹左衛門		状	前後欠	1	
枝4			(書状断簡、書付の写の件)	月八日				状		1	
枝5			(書状、人別送り状)					状		1	
			(断簡)					状		1	
			とふらいのおほへ					状		1	
			(書状、字誤りにつき)	六月三日	99906003	須敬	御西先生様	状		1	
			(書状、礼状)	閏正月六日	99901106	□□(花押)	山田屋新五郎様	状		1	端裏書あり、「貞樹院様ノ御家老高橋清兵衛様ハ宝永五子ノ年」とあり
			(書状、商品取り引きのつき)	正月廿八日	99901028	柴崎弥左衛門	山田屋新七様	状		1	両面記載あり 朱書きにて「享保十八癸丑」
			(包紙)	享保十八癸丑	173399999			状		1	
			(書状、御老母様へ御目懸りにつき)	三月十八日	99903018	鶴谷惣之丞(花押)	山田屋新五郎様	状		1	
			(書付け、三郎兵衛さまへも奉願)			太兵衛	新五郎様	状		1	
			(書状、商事の件につき)	九月九日	99909009	小林玄瑞 用中(花押)	山田屋新七様、同新五郎様	状	前欠	1	
			追啓			太兵衛	新五郎様	状		1	
			覚(金子貸付)	乙巳享保十年十二月廿九日	172512029	村田町かり人・新七(印抹消)ほか2名	沼田村・四衛門殿	状		1	裏面記載あり、全文見せ消ち
			(書状、紅花の荷作り及び値段の件)	(延享改元甲子)八月十日	174408010	小林玄瑞 用中(花押)	山田新七様、山田新五郎様	状		1	端裏書きあり、「日付」年号は端裏書きより
			(書状断簡、挨拶及び尚々書きのみ)	寛保元年辛酉	174199999	山形(ヤ林)	山田屋新五郎様	状	後欠	1	
			(書状、酒の振舞及び城米出方の取り計らいにつき礼状)	十二月朔日	999912001	足利屋太兵衛	山田屋新五郎様	状		1	
			(書状、おじゅん・おわよ・おぎんの近況、田植えの件)	(享保九甲辰)閏四月十六日	172404116	ははより	新七との	状		1	端裏書きあり、「日付」年号は端裏書きより
			(書状、渋谷兵右衛門死去につき案内ほか)	(享保十六辛亥年)十月十五日	173110015	遊佐清左衛門(花押)	山田新七殿、新五郎殿	状		1	端裏書きあり、「日付」年号は端裏書きより
			(書付け、漢詩作者について)					状		1	
			(書付け、祝儀の御さかな目録)	正徳四年三月九日	171403009	いなか・せいひょうえ ほか7名		状		1	
			(書状、おじゅんの件について万吉より話あり)	八月十日	99908010	松岡屋□□、清左衛門	同町・山田屋新七様	状		1	
			(書状、火傷の状況について報告)	閏正月廿七日	99901127	次郎左衛門(花押)	新五郎殿	状		2	包紙上書き「享保八年」(マ)とあり
			(書状、伊四郎衛門を大肝入任命の件、新四郎病気の件ほか)	八月十五日	99908015	松岡屋□□、清左衛門	村田本町・山田屋新七様	状	包紙共	2	

箱	尊	枝	表	題	(内	容)	日	付	西	暦	差	出	人	受	取	人	形	態	状	態	数	備	考
18	157	156	156	156	156	156	156	156	156	156	156	156	156	156	156	156	156	156	156	156	156	156	156
		7	7	7	6	5	4	3	2	1													
		3	2	1																			

	箱 尊	表 題（内 容）	日 付	西 暦	差 出 人	受取人	形態	状態	臺 敷	備 考
18	167	(包紙)	享保十七年	17329999	遊佐清左衛門	山田屋新七殿	状	18 + 158 + 2 を包む	1	
18	158	(書狀、新五郎妻死去のお悔やみ状失念の申し訳及び慰め、家督問題に関する事情)	十月壹日	999910001	清左衛門	新七殿	状		1	
18	158	(書狀、妻の病気の件、及び新五郎江戸へ上がった件について)	十月四日	999910004	清左衛門（花押）	新七殿	状		1	
18	158	(書狀、酒・砂糖桶の礼状、おしゅんの婚礼と里帰り、新五郎後妻の件へ忠告)	十二月十六日	999912016	遊佐清左衛門（花押）	山田新七殿	状		1	
18	158	(書狀、新五郎快復祝い、代物の礼状)	享保十五庚戌 十月廿五日	173010025	遊佐寛藏好（花押）	山田新七殿	状		1	
18	158	(書狀、病状報告、来訪と焼米の礼状)	四月十日	999904010	遊佐清左衛門（花押）	山田屋新七殿	状		1	
18	159	追加捧問目（武尊神の美女変装について）	甲寅春分日		新七須敬		状		1	
18	160	(書狀、御見舞い延引につき小四郎指遣す件)	極月十三日	999912013	大沼屋十郎左衛門	山田屋新七殿	状		1	
18	161	(書狀、新五郎の気象、学問に精を出している様子を報告)			次郎左衛門	新七殿	状	後欠	1	
18	162	(書狀、吟味の進捗および書籍借用につき)	八月十九日	999908019	軍内	新五郎様	状	括り紐共	2	
18	162	(包紙、「宝永三年先生分ノ状」)	宝永三年	170699999			状		1	
18	162	(書狀、小平利太夫へ仙台での勉学を勧める旨)	九月二日	999909002	遊佐次郎左衛門	山田や新五郎様	状		1	
18	162	(書狀、歳暮御禮代百疋への謝礼)	十二月廿九日	999912029	遊佐次郎左衛門（花押）	山田屋新五郎様	状		1	
18	163	(漢文書付)	元禄十六年仲春 四日	170399904	林祭酒		状		1	
18	164	(書狀、紅花相場及び病氣見舞いほか)	八月十四日	999908014	小林玄瑞行忠（花押）	山田新七様、 同三郎兵衛 様、同新五郎	状		1	
18	165	(包紙)			蜂屋又左衛門	山奥新七殿	状		1	
18	165	(書狀、加増御礼および大風にて屋敷作り直しの件)	八月十三日	999908013	蜂屋又左衛門	山奥新七殿	状		1	
18	166	(包紙)			遊佐次郎左衛門	山田新七殿	状		1	
18	166	(書狀、新五郎様子および覚書など遺わす件)	六月四日	999906004	次郎左衛門好生（花押）	山田新七殿	状		1	
18	167	(包紙)			遊佐次郎左衛門	山奥新七殿	状	括り紐共	2	
18	167	(書狀、盆事の件および送物御礼ならびに金子飯米用立てにつき)	七月十三日	999907013	次郎左衛門（花押）	山奥新七殿	状		1	
18	167	(書狀、そめ物につき)	九月廿八日	999909028	九郎次	山奥新七殿	状		1	
18	167	(書狀、子供の着物の模様)	九月十七日	999909017		新五郎様	状		1	

[illegible]

[illegible]

箱	尊	枝	表	題	(内	容)	日	付	西	暦	差	出	人	受	取	人	形	態	状	態	臺	数	備	考
18	185	4	(書状、新五郎の人柄・様子報告)				九月十八日		999909018		次郎左衛門(花押)		新七様	状			1				1			
18	186	1	(包紙)										山奥新五郎殿	状			1		括り紐共		2			
18	186	2	(書状、借金延引につき)				十月廿七日		999910027		峰屋彦介可敬(花押)		山奥新五郎殿	状			1				1			
18	186	3	(書状、公義の書立拝借写し取りにつき)								山奥新五郎		しん七様	状			1		後欠		1			
18	186	4	(書付、母の筆である旨)								須敬		山田新七様	状			1				1			
18	186	5	(書状、逗留くだされたきにつき)				七月廿三日		999907023		足利屋太兵衛		山田新七様	状			1				1			
18	186	6	(書状、解をつくったことにつき)				四月五日		999904005					状			1				1			
18	187	1	(包紙、「山田屋新七宝暦六年ノ八月酒道具物数拾貳品へ小松伊太夫様より御印符申受候覚書人」とあり)								新七			状			1				1			
18	187	2	御焼印造桶九本(桶書上)											状			1				1			
18	187	3	(書付、嶋田次郎兵衛殿について)				寅ノ十二月		999912099				本町新七	状			1				1			
18	187	4	(書状、新五郎様子および屋形様出賃の条記述の件、縁起写式冊貸借の件)				六月三日		999906003		山奥新七須敬(花押)		惺斎先生様	状			1				1			
18	187	5	(包紙、「宝永五年先生今ノ状」)											状			1				1			
18	187	6	(書付、青根へ湯治の際に下された書状である旨)											状			1				1			
18	188	1	(書状、御越しくださるべく酒なまぐさなどの件)											状			1				1			
18	188	2	(書状、御越しくださるべく白きもの黒きものの件)											状			1				1			
18	188	3	(書状、礼状)											状			1				1			
18	188	4	(書状、芙蓉の件、雷雨につき)				七月四日		999907004		蜂屋又左衛門可敬(花押)		山田新七殿	状			1				1			
18	189	5	(包紙、寛永五年・享保九年の書付入の旨)								山田新七須敬改之			状			1				1			
18	190	1	(書付、御身二直参ふうふの法名・男道意・女ノ法名望)				寛永五年八月九日		162808009		(印、表久右衛門) ほか			状			1				1			
18	190	2	(書付、六切六字)				寛永五年八月十日		162808015		(印、表久右衛門)、(印、林帯刀)			状			1				1			
18	190	3	(書付、文箱・和讃など書上)								備後			状			1				1			
18	190	4	(書付、六切九字)				寛永五年八月十五日		162808015		(印、表久右衛門)、(印、林帯刀)			状			1				1			
18	190	5	(書付、和讃ほか代銀)				八月五日		999905005		富井勘左衛門			状			1				1			
18	190	6	(書付、和讃ほか代銀)				大正九年五月廿五日印刷納本ノ		192005025		発行所・喜多流謡本版元東京市日本橋区通四丁目八番地 わんや謡曲書肆ノ			冊			1				1			
18	190	7	志賀 枕慈童 輪蔵 三笑 一角仙人 一(喜多流謡本)				大正九年五月三十日初版発行		192005030		著作者・東京市麹町区飯田町四丁目卅一番地 喜多六平太ノ発行兼印刷者・東京市日本橋区通四丁目八番地 江島伊兵衛(印)						1				1			

19	19	19	19	19	19	19	箱
2	2	2	1	1	1	1	尊
3	2	1	5	4	3	2	枝1
							枝2
							枝3
							枝4
							枝5
飛雲 葛城天狗 愛宕空也 龍虎 松 山鏡 八(喜多流謡本)	大仏供養 関原与市 烏帽子折 檀 風谷行 七(喜多流謡本)	咸陽宮 鱗形 鉄輪 竹雪 鳥追船 六 (喜多流謡本)	松虫 満仲 高野物語 土車 弱法 師五(喜多流謡本)	求塚 砧 水無瀬 小原御幸 撰待 四 (喜多流謡本)	花筐 加茂物狂 雲雀山 飛鳥川 蟬 丸三(喜多流謡本)	雲林院 落葉 住吉詣 二人祇王 籠 祇王二(喜多流謡本)	表 題 (内 容)
大正九年七月廿 五日印刷納本 大正九年七月三 十日初版発行	大正九年七月廿 五日印刷納本 大正九年七月三 十日初版発行	大正九年六月廿 五日印刷納本 大正九年六月三 十日初版発行	大正九年六月廿 五日印刷納本 大正九年六月三 十日初版発行	大正九年六月廿 五日印刷納本 大正九年六月三 十日初版発行	大正九年五月廿 五日印刷納本 大正九年五月三 十日初版発行	大正九年五月廿 五日印刷納本 大正九年五月三 十日初版発行	日付
192007025 192007030	192007025 192007030	192006025 192006030	192006025 192006030	192006025 192006030	192005025 192005030	192005025 192005030	西暦
発行所・喜多流謡本版元東京市日本橋 区通四丁目八番地 わんや謡曲書肆 著作者・東京市麹町区飯田町四丁目卅 一 番地 喜多六平太／発行兼印刷者・ 東京市日本橋区通四丁目八番地 江島 伊兵衛(印)	発行所・喜多流謡本版元東京市日本橋 区通四丁目八番地 わんや謡曲書肆 著作者・東京市麹町区飯田町四丁目卅 一 番地 喜多六平太／発行兼印刷者・ 東京市日本橋区通四丁目八番地 江島 伊兵衛(印)	発行所・喜多流謡本版元東京市日本橋 区通四丁目八番地 わんや謡曲書肆 著作者・東京市麹町区飯田町四丁目卅 一 番地 喜多六平太／発行兼印刷者・ 東京市日本橋区通四丁目八番地 江島 伊兵衛(印)	発行所・喜多流謡本版元東京市日本橋 区通四丁目八番地 わんや謡曲書肆 著作者・東京市麹町区飯田町四丁目卅 一 番地 喜多六平太／発行兼印刷者・ 東京市日本橋区通四丁目八番地 江島 伊兵衛(印)	発行所・喜多流謡本版元東京市日本橋 区通四丁目八番地 わんや謡曲書肆 著作者・東京市麹町区飯田町四丁目卅 一 番地 喜多六平太／発行兼印刷者・ 東京市日本橋区通四丁目八番地 江島 伊兵衛(印)	発行所・喜多流謡本版元東京市日本橋 区通四丁目八番地 わんや謡曲書肆 著作者・東京市麹町区飯田町四丁目卅 一 番地 喜多六平太／発行兼印刷者・ 東京市日本橋区通四丁目八番地 江島 伊兵衛(印)	発行所・喜多流謡本版元東京市日本橋 区通四丁目八番地 わんや謡曲書肆 著作者・東京市麹町区飯田町四丁目卅 一 番地 喜多六平太／発行兼印刷者・ 東京市日本橋区通四丁目八番地 江島 伊兵衛(印)	差 出 人
							受取人
冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	形態
							状態
1	1	1	1	1	1	1	点数
							備 考

箱	尊	枝	表題 (内 容)	日付	西暦	差出人	受取人	形態	状態	臺数	備考
19	3	5	鳥頭 藤戸 阿漕 通小町 女郎花 廿 (喜多流謡本)	大正九年三月廿 五日印刷納本 大正九年三月三 十月初版発行	192003025 192003030	発行所・喜多流謡本版元東京市日本橋 区通四丁目八番地 わんや謡曲書肆 著作者・東京市麹町区飯田町四丁目卅 一 番地 喜多六平太／発行兼印刷者・ 東京市日本橋区通四丁目八番地 江島 伊兵衛 (印)		冊		1	
19	3	4	(喜多流能楽大会番組案内)	昭和二十七年十 月	192710099	仙台能楽協会		状		1	1913141に挟み 込まれていた
19	3	4	道成寺 葵上 黒塚 紅葉狩 船弁 慶 廿四 (喜多流謡本)	大正九年二月廿 五日印刷納本 大正九年二月三 十月初版発行	192002025 192002030	発行所・喜多流謡本版元東京市日本橋 区通四丁目八番地 わんや謡曲書肆 著作者・東京市麹町区飯田町四丁目卅 一 番地 喜多六平太／発行兼印刷者・ 東京市日本橋区通四丁目八番地 江島 伊兵衛 (印)		冊		1	
19	3	3	石橋 望月 国栖 昭君 山姥 廿三 (喜多流謡本)	大正九年二月廿 五日印刷納本 大正九年二月三 十月初版発行	192002025 192002030	発行所・喜多流謡本版元東京市日本橋 区通四丁目八番地 わんや謡曲書肆 著作者・東京市麹町区飯田町四丁目卅 一 番地 喜多六平太／発行兼印刷者・ 東京市日本橋区通四丁目八番地 江島 伊兵衛 (印)		冊		1	
19	3	2	定家 木賊 景清 隅田川 雨月 廿 二 (喜多流謡本)	大正九年二月廿 五日印刷納本 大正九年二月三 十月初版発行	192002025 192002030	発行所・喜多流謡本版元東京市日本橋 区通四丁目八番地 わんや謡曲書肆 著作者・東京市麹町区飯田町四丁目卅 一 番地 喜多六平太／発行兼印刷者・ 東京市日本橋区通四丁目八番地 江島 伊兵衛 (印)		冊		1	
19	3	1	鸚鵡小町 関寺小町 卒都婆小町 松 垣 伯母捨 廿一 (喜多流謡本)	大正九年一月廿 五日印刷納本 大正九年一月三 十月初版発行	192001025 192001030	発行所・喜多流謡本版元東京市日本橋 区通四丁目八番地 わんや謡曲書肆 著作者・東京市麹町区飯田町四丁目卅 一 番地 喜多六平太／発行兼印刷者・ 東京市日本橋区通四丁目八番地 江島 伊兵衛 (印)		冊		1	
19	2	5	海人 当麻 絃上 融 狸々 卅 (喜 多流謡本)	大正九年四月廿 五日印刷納本 大正九年四月三 十月初版発行	192004025 192004030	発行所・喜多流謡本版元東京市日本橋 区通四丁目八番地 わんや謡曲書肆 著作者・東京市麹町区飯田町四丁目卅 一 番地 喜多六平太／発行兼印刷者・ 東京市日本橋区通四丁目八番地 江島 伊兵衛 (印)		冊		1	
19	2	4	大蛇 土蜘蛛 羅生門 大江山 現在 鶴 九 (喜多流謡本)	大正九年七月廿 五日印刷納本 大正九年七月三 十月初版発行	192007025 192007030	発行所・喜多流謡本版元東京市日本橋 区通四丁目八番地 わんや謡曲書肆 著作者・東京市麹町区飯田町四丁目卅 一 番地 喜多六平太／発行兼印刷者・ 東京市日本橋区通四丁目八番地 江島 伊兵衛 (印)		冊		1	

19	19	19	19	19	19	19	箱
4	4	4	4	4	4	3	尊
6	5	4	3	2	1	6	枝1
							枝2
							枝3
							枝4
							枝5
要石 桜井 山姫 重盛 追二(喜多流謡本)	鶯 鬼界島 草紙洗小町 須磨源氏 追一(喜多流謡本)	曲舞(喜多流謡本)	蟻通 歌占 唐船 張良 項羽 廿九(喜多流謡本)	鉢木 七騎落 正尊 橋弁慶 熊坂 廿八(喜多流謡本)	柏崎 百万 三井寺 桜川 籠太鼓 廿七(喜多流謡本)	月宮殿 邯鄲 天鼓 富士太鼓 梅枝 廿六(喜多流謡本)	表 題 (内 容)
大正九年八月廿五日印刷納本／大正九年八月三十日初版発行	大正九年八月廿五日印刷納本／大正九年八月三十日初版発行	大正九年八月廿五日印刷納本／大正九年八月三十日初版発行	大正九年四月廿五日印刷納本／大正九年四月三十日初版発行	大正九年四月廿五日印刷納本／大正九年四月三十日初版発行	大正九年三月廿五日印刷納本／大正九年三月三十日初版発行	大正九年三月廿五日印刷納本／大正九年三月三十日初版発行	日 付
192008025 192008030	192008025 192008030	192008025 192008030	192004025 192004030	192004025 192004030	192003025 192003030	192003025 192003030	西 暦
発行所・喜多流謡本版元東京市日本橋区通四丁目八番地 わんや謡曲書肆／著作者・東京市麹町区飯田町四丁目卅一番地 喜多六平太／発行兼印刷者・東京市日本橋区通四丁目八番地 江島伊兵衛(印)	発行所・喜多流謡本版元東京市日本橋区通四丁目八番地 わんや謡曲書肆／著作者・東京市麹町区飯田町四丁目卅一番地 喜多六平太／発行兼印刷者・東京市日本橋区通四丁目八番地 江島伊兵衛(印)	発行所・喜多流謡本版元東京市日本橋区通四丁目八番地 わんや謡曲書肆／著作者・東京市麹町区飯田町四丁目卅一番地 喜多六平太／発行兼印刷者・東京市日本橋区通四丁目八番地 江島伊兵衛(印)	発行所・喜多流謡本版元東京市日本橋区通四丁目八番地 わんや謡曲書肆／著作者・東京市麹町区飯田町四丁目卅一番地 喜多六平太／発行兼印刷者・東京市日本橋区通四丁目八番地 江島伊兵衛(印)	発行所・喜多流謡本版元東京市日本橋区通四丁目八番地 わんや謡曲書肆／著作者・東京市麹町区飯田町四丁目卅一番地 喜多六平太／発行兼印刷者・東京市日本橋区通四丁目八番地 江島伊兵衛(印)	発行所・喜多流謡本版元東京市日本橋区通四丁目八番地 わんや謡曲書肆／著作者・東京市麹町区飯田町四丁目卅一番地 喜多六平太／発行兼印刷者・東京市日本橋区通四丁目八番地 江島伊兵衛(印)	発行所・喜多流謡本版元東京市日本橋区通四丁目八番地 わんや謡曲書肆／著作者・東京市麹町区飯田町四丁目卅一番地 喜多六平太／発行兼印刷者・東京市日本橋区通四丁目八番地 江島伊兵衛(印)	差 出 人
							受取人
冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	形 態
							状 態
1	1	1	1	1	1	1	点 数
							備 考

箱	尊	枝	表題 (内容)	日付	西暦	差出人	受取人	形態	状態	臺数	備考
19	6	2	朝長 忠度 通盛 清経 俊成 忠度 七 (喜多流謡本)	大正八年九月廿 五日印刷納本 大正八年九月三 十月初版発行	191909025 191909030	発行所・喜多流謡本版元東京市日本橋 区通四丁目八番地 わんや謡曲書肆 著作者・東京市麹町区飯田町四丁目卅 一番地 喜多六平太／発行兼印刷者・ 東京市日本橋区通四丁目八番地 江島 伊兵衛 (印)		冊		1	
19	6	1	田村 八島 兼平 実盛 六 (喜 多流謡本)	大正八年八月廿 五日印刷納本 大正八年八月三 十月初版発行	191908025 191908030	発行所・喜多流謡本版元東京市日本橋 区通四丁目八番地 わんや謡曲書肆 著作者・東京市麹町区飯田町四丁目卅 一番地 喜多六平太／発行兼印刷者・ 東京市日本橋区通四丁目八番地 江島 伊兵衛 (印)		冊		1	
19	5	5	玉井 金札 岩船 皇帝 道明寺 五 (喜多流謡本)	大正八年八月廿 五日印刷納本 大正八年八月三 十月初版発行	191908025 191908030	発行所・喜多流謡本版元東京市日本橋 区通四丁目八番地 わんや謡曲書肆 著作者・東京市麹町区飯田町四丁目卅 一番地 喜多六平太／発行兼印刷者・ 東京市日本橋区通四丁目八番地 江島 伊兵衛 (印)		冊		1	
19	5	4	難波 白髭 大社 源大夫 東方朔 四 (喜多流謡本)	大正八年八月廿 五日印刷納本 大正八年八月三 十月初版発行	191908025 191908030	発行所・喜多流謡本版元東京市日本橋 区通四丁目八番地 わんや謡曲書肆 著作者・東京市麹町区飯田町四丁目卅 一番地 喜多六平太／発行兼印刷者・ 東京市日本橋区通四丁目八番地 江島 伊兵衛 (印)		冊		1	
19	5	3	賀茂 氷室 嵐山 竹生島 和布刈 三 (喜多流謡本)	大正八年七月廿 五日印刷納本 大正八年七月三 十月初版発行	191907025 191907030	発行所・喜多流謡本版元東京市日本橋 区通四丁目八番地 わんや謡曲書肆 著作者・東京市麹町区飯田町四丁目卅 一番地 喜多六平太／発行兼印刷者・ 東京市日本橋区通四丁目八番地 江島 伊兵衛 (印)		冊		1	
19	5	2	老松 白楽天 放生川 呉服 西王 母 二 (喜多流謡本)	大正八年七月廿 五日印刷納本 大正八年七月三 十月初版発行	191907025 191907030	発行所・喜多流謡本版元東京市日本橋 区通四丁目八番地 わんや謡曲書肆 著作者・東京市麹町区飯田町四丁目卅 一番地 喜多六平太／発行兼印刷者・ 東京市日本橋区通四丁目八番地 江島 伊兵衛 (印)		冊		1	
19	5	1	翁 高砂 弓八幡 養老 御裳濯 絵 馬 一 (喜多流謡本)	大正八年七月廿 五日印刷納本 大正八年七月三 十月初版発行	191907025 191907030	発行所・喜多流謡本版元東京市日本橋 区通四丁目八番地 わんや謡曲書肆 著作者・東京市麹町区飯田町四丁目卅 一番地 喜多六平太／発行兼印刷者・ 東京市日本橋区通四丁目八番地 江島 伊兵衛 (印)		冊		1	

19	19	19	19	19	19	19	箱
7	7	7	7	6	6	6	尊
4	3	2	1	5	4	3	枝1
							枝2
							枝3
							枝4
							枝5
春日龍伸 野守 鶴飼 錦木 船橋 十 五(喜多流謡本) 発行	羽衣 杜若 小塩 遊行栖 西行桜 十 四(喜多流謡本) 発行	誓願時 葛城 三輪 龍田 巻絹 十 三(喜多流謡本) 発行	夕顔 半部 浮船 玉葛 源氏供養 十 二(喜多流謡本) 発行	千寿 班女 二人静 吉野静 仏原 十 一(喜多流謡本) 発行	湯谷 松風 井筒 采女 六浦 十 (喜多流謡本) 発行	東北 芭蕉 野宮 江口 楊貴妃 九 (喜多流謡本) 発行	表 題 (内 容)
大正八年十一月 廿五日印刷納 本/大正八年十 月三十日初版	大正八年十一月 廿五日印刷納 本/大正八年十 月三十日初版	大正八年十一月 廿五日印刷納 本/大正八年十 月三十日初版	大正八年十月廿 五日印刷納本/ 大正八年十月三 十日初版発行	大正八年十月廿 五日印刷納本/ 大正八年十月三 十日初版発行	大正八年九月廿 五日印刷納本/ 大正八年九月三 十日初版発行	大正八年九月廿 五日印刷納本/ 大正八年九月三 十日初版発行	日 付
191911025 191911025 191911030	191911025 191911025 191911030	191911025 191911025 191911030	191910025 191910025 191910030	191910025 191910025 191910030	191909025 191909025 191909030	191909025 191909025 191909030	西 暦
発行所・喜多流謡本版元東京市日本橋 区通四丁目八番地 わんや謡曲書肆/ 著作者・東京市麹町区飯田町四丁目卅 一 番地 喜多六平太/発行兼印刷者・ 東京市日本橋区通四丁目八番地 江島 伊兵衛(印)	発行所・喜多流謡本版元東京市日本橋 区通四丁目八番地 わんや謡曲書肆/ 著作者・東京市麹町区飯田町四丁目卅 一 番地 喜多六平太/発行兼印刷者・ 東京市日本橋区通四丁目八番地 江島 伊兵衛(印)	発行所・喜多流謡本版元東京市日本橋 区通四丁目八番地 わんや謡曲書肆/ 著作者・東京市麹町区飯田町四丁目卅 一 番地 喜多六平太/発行兼印刷者・ 東京市日本橋区通四丁目八番地 江島 伊兵衛(印)	発行所・喜多流謡本版元東京市日本橋 区通四丁目八番地 わんや謡曲書肆/ 著作者・東京市麹町区飯田町四丁目卅 一 番地 喜多六平太/発行兼印刷者・ 東京市日本橋区通四丁目八番地 江島 伊兵衛(印)	発行所・喜多流謡本版元東京市日本橋 区通四丁目八番地 わんや謡曲書肆/ 著作者・東京市麹町区飯田町四丁目卅 一 番地 喜多六平太/発行兼印刷者・ 東京市日本橋区通四丁目八番地 江島 伊兵衛(印)	発行所・喜多流謡本版元東京市日本橋 区通四丁目八番地 わんや謡曲書肆/ 著作者・東京市麹町区飯田町四丁目卅 一 番地 喜多六平太/発行兼印刷者・ 東京市日本橋区通四丁目八番地 江島 伊兵衛(印)	発行所・喜多流謡本版元東京市日本橋 区通四丁目八番地 わんや謡曲書肆/ 著作者・東京市麹町区飯田町四丁目卅 一 番地 喜多六平太/発行兼印刷者・ 東京市日本橋区通四丁目八番地 江島 伊兵衛(印)	差 出 人
							受 取 人
冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	形 態
							状 態
1	1	1	1	1	1	1	点 数
							備 考

20	20	20	20	20	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	箱
1	1	1	1	1	9	9	9	9	9	8	8	8	8	7	7	尊
5	4	3	2	1	7	6	5	4	3	4	3	2	1	5	5	枝
																枝
																枝
																枝
																枝
古文真宝大成俚諺鈔 卷之五	古文真宝大成俚諺鈔 卷之四	古文真宝大成俚諺鈔 卷之三	古文真宝大成俚諺鈔 卷之二	古文真宝大成俚諺鈔 卷之一	(袋、扇子入れ)	(袋、扇子入れ)	(扇子)	謡曲稽古順	喜多流謡伊呂波別早見表	鼓符調	喜多流謡本	調伏曾我 元服曾家 小袖曾我 夜討 曾我 禪師曾我 二十 (喜多流謡本)	盛久 蘆刈 安宅 眷栄 小督 十九 (喜多流謡本)	自然居士 東岸居士 花月 放下僧 藤 永十八 (喜多流謡本)	是界 鞍馬天狗 車僧 大会 舍利 十 (喜多流謡本)	小鍛治 雷電 殺生石 鶴 鍾馗 十 (喜多流謡本)
				元禄十七甲申歳 孟春穀旦					大正十五年七月		明治四十拾貳年正月元日	大正九年一月廿五日印刷納本／大正九年一月三十日初版發行	大正九年一月廿五日印刷納本／大正九年一月三十日初版發行	大正八年十二月廿五日印刷納本／大正八年十二月三十日初版發行	大正八年十二月廿五日印刷納本／大正八年十二月三十日初版發行	日付
				170401099				192607099	190901001			192001025	192001030	191912030	191912030	西暦
				毛利貞斎述				喜多會宮城支部編			伊兵衛(印)	發行所・喜多流謡本版元東京市日本橋区通四丁目八番地 著作者・東京市麹町区飯田町四丁目卅一 一番地 喜多六平太／發行兼印刷者・東京市日本橋区通四丁目八番地 江島	發行所・喜多流謡本版元東京市日本橋区通四丁目八番地 著作者・東京市麹町区飯田町四丁目卅一 一番地 喜多六平太／發行兼印刷者・東京市日本橋区通四丁目八番地 江島	發行所・喜多流謡本版元東京市日本橋区通四丁目八番地 著作者・東京市麹町区飯田町四丁目卅一 一番地 喜多六平太／發行兼印刷者・東京市日本橋区通四丁目八番地 江島	發行所・喜多流謡本版元東京市日本橋区通四丁目八番地 著作者・東京市麹町区飯田町四丁目卅一 一番地 喜多六平太／發行兼印刷者・東京市日本橋区通四丁目八番地 江島	差出人
									浅野用	村田町字荒野						受取人
冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	形態
				題箋前欠												状態
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	表数
																備考

[illegible]

箱 尊	枝 1	枝 2	枝 3	枝 4	枝 5	表 題 (内 容)	日 付	西 暦	差 出 人	受 取 人	形 態	状 態	臺 数	備 考
21	2	8				礼記集説 卷之九 卷之十 (礼記集註 八)					冊		1 印あり	
21	2	7				礼記集説 卷之七					冊		1 印あり	
21	2	6				礼記集説 卷之六					冊		1 印あり	
21	2	5				礼記集説 卷之五 (礼記集註 五)					冊		1 印あり	
21	2	4				礼記集註 卷之三					冊		1 印あり	
21	2	3				礼記集註 卷之二					冊		1 印あり	
21	2	2				礼記集註 卷之一 (礼 記集註 二十)			陳澧序		冊		1 印あり	
21	1	10				礼記集説 序、礼記集註 卷之一 (礼 記集註 二十)	元禄九丙子年二 月吉日	16960209	野田庄右衛門板行		冊		1 印あり	
21	1	9				春秋集伝 卷之三十一 卷 之三十二 卷之三十三 (春秋集註 九)					冊		1 印あり	
21	1	8				春秋集伝 卷之二十六 卷之二十七 卷之二十八 卷之二十九					冊		1 印あり	
21	1	7				春秋集伝 卷之二十二 卷之二十三 卷 之二十四 卷之二十五 (春秋集註 七)					冊		1 印あり	
21	1	6				春秋集伝 卷之十九 卷之二十 卷之 二十一 (春秋集註 六)					冊		1 印あり	
21	1	5				春秋集伝 卷之十五 卷之十六 卷之 十七 卷之十八 (春秋集註 五)					冊		1 印あり	
21	1	4				春秋集伝 卷之十一 卷之十二 卷之 十三 卷之十四					冊		1 印あり	
21	1	3				春秋集伝 卷之七 卷之八 卷之九 卷 之十					冊		1 印あり	
21	1	2				春秋集伝 卷之四 卷之五 卷之六 (春秋集註 二)					冊		1 印あり	
21	1	1				春秋集註 卷之一 卷之二 卷之三 (春秋集註 一)					冊		1 印あり	
20	2	18				大学衍義 (卷之四十三)			評閱 宋 学士真德秀彙輯、明 史官陳仁錫		冊		1 印あり	
20	2	17				大学衍義 (卷之四十一、四十二)			評閱 宋 学士真德秀彙輯、明 史官陳仁錫		冊		1 印あり	
20	2	16				大学衍義 (卷之四十)			評閱 宋 学士真德秀彙輯、明 史官陳仁錫		冊		1 印あり	
20	2	15				大学衍義 (卷之三十八)			評閱 宋 学士真德秀彙輯、明 史官陳仁錫		冊		1 印あり	
20	2	14				大学衍義 (卷之三十五、三十七)			評閱 宋 学士真德秀彙輯、明 史官陳仁錫		冊		1 印あり	
20	2	13				大学衍義 (卷之三十二、三十四)			評閱 宋 学士真德秀彙輯、明 史官陳仁錫		冊		1 印あり	
20	2	12				大学衍義 (卷之二十八、二十九)			評閱 宋 学士真德秀彙輯、明 史官陳仁錫		冊		1 印あり	

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

23	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	箱										
1	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	奪										
1	13	12	11	10	9	8	7	6	5	5	4	3	2	1	14	13	12	11	11	枝1										
									2	1										枝2										
																				枝3										
																				枝4										
																				枝5										
晦菴先生語録類要（巻第一～第三）																				表	題（内 容）	日 付	西 暦	差 出 人	受 取 人	形 態	状 態	点 数	備 考	
大学或問（官版四書大全 大学或問）																					孟子集註大全 卷之十三（官版四書大 全 孟子 十三 十四）	寛永十有二年夏 四月初吉	163504099	讃州高城忍菟自乾、書之於洛妙蓮精舎 寓所		冊			1	22 1 1、 5 13参照、 背表紙に
論語集註大全 卷之十七 卷之十八 （官版四書大全 論語 十七 十八）																										冊			1	22 1 1、 5 13参照、 背表紙に
論語集註大全 卷之十五 卷之十六 （官版四書大全 論語 十五 十六）																										冊			1	22 1 1、 5 13参照、 背表紙に
論語集註大全 卷之十三 卷之十四 （官版四書大全 論語 十三 十四）																										冊			1	22 1 1、 5 13参照、 背表紙に
論語集註大全 卷之十一 卷之十二 （官版四書大全 論語 十一 十二）																										冊			1	22 1 1、 5 13参照、 背表紙に
論語集註大全 卷之九 卷之十 （官版四書大全 論語 九 十）																										冊			1	22 1 1、 5 13参照、 背表紙に
論語集註大全 卷之七 卷之八 （官版四書大全 論語 七 八）																										冊			1	22 1 1、 5 13参照、 背表紙に
論語集註大全 卷之五 卷之六 （官版四書大全 論語 五 六）																										冊			1	22 1 1、 5 13参照、 背表紙に
論語集註大全 卷之三 卷之四（四書集 註大全（官版四書大全 論語 三 四）																										冊	挟み込み文 書（22 1 3、 5 2あり		1	22 1 1、 5 13参照、 背表紙に
杜律五言集解 卷之四（杜律集解 五 言四）																										冊			1	
杜律五言集解 卷之三（杜律集解 五 言三）																										冊			1	
杜律五言集解 卷之二（杜律集解 五 言二）																										冊			1	書込みあり
杜律七言集解 卷下（杜律集解 七言 坤）																				寛文十三癸丑初 夏吉日		167399999	油屋市郎右衛門刊行		冊			1	書込みあり	
中庸章句集註大全（官版四書大全 中 庸末）																									冊			1	5 13参照、 22 1 3、 22 1 3、	
中庸或問（官版四書大全 中庸或問）																									冊			1	5 13参照、 22 1 1、 22 1 3、	
讀中庸法（官版四書大全 中庸本）																									冊			1	5 13参照、 22 1 1、 22 1 3、	
孟子集註大全 卷之十三（官版四書大 全 孟子 十三 十四）																									冊			1	5 13参照、 背表紙に	

23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	箱
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	尊
13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	枝1
												枝2
												枝3
												枝4
												枝5
増註頭書字彙 (字彙巳集)	増註頭書字彙 (字彙辰集)	増註頭書字彙 (字彔卯集)	増註頭書字彙 (字彔寅集)	増註頭書字彙 (字彔丑集)	増註頭書字彙 (字彔子集)	増註頭書字彙	増註頭書字彙	晦菴先生語録類要 (卷第十六、第十八)	晦菴先生語録類要 (卷第十二、第十五)	晦菴先生語録類要 (卷第八、第十二)	晦菴先生語録類要 (卷第四、第七)	表 題 (内 容)
								寛文八年林鐘 (6月) 吉日	(寛文8年6月)	(寛文8年6月)	(寛文8年6月)	日付
								16680609	16680609	16680609	16680609	西暦
刊 衛、華洛二條通衣棚角 風月勝左衛門	刊 衛、華洛二條通衣棚角 風月勝左衛門	刊 衛、華洛二條通衣棚角 風月勝左衛門	刊 衛、華洛二條通衣棚角 風月勝左衛門	刊 衛、華洛二條通衣棚角 風月勝左衛門	刊 衛、華洛二條通衣棚角 風月勝左衛門	刊 衛、華洛二條通衣棚角 風月勝左衛門	刊 衛、華洛二條通衣棚角 風月勝左衛門	鶴屋町・田原仁左衛門刻 勉斎黄先生門人括蒼葉士龍編次二條通	鶴屋町・田原仁左衛門刻 勉斎黄先生門人括蒼葉士龍編次二條通	鶴屋町・田原仁左衛門刻 勉斎黄先生門人括蒼葉士龍編次二條通	鶴屋町・田原仁左衛門刻 勉斎黄先生門人括蒼葉士龍編次二條通	差 出 人
												受取人
冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	形態
虫損	虫損	虫損	虫損	虫損、挟み 込み文書あり	虫損	虫損	虫損	付書(語意書 挟み込み文 書)あり	付書(語意書 挟み込み文 書)あり	付書(語意書 挟み込み文 書)あり	付書(語意書 挟み込み文 書)あり	状態
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	臺 数
												備 考

23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	箱
2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	尊
6	5	4	3	2	1	20	19	18	17	16	15	14	枝1
													枝2
													枝3
													枝4
													枝5
標題註疏小学集成（卷之四、五）	標題註疏小学集成（卷之二、三）	標題註疏小学集成 卷之一	年中用文章	文公家礼儀節 卷之一	小笠原当流「」（結納并婚礼之部）	増註頭書字彙	増註頭書字彙（字彙多集）	増註頭書字彙（字彙戌集）	増註頭書字彙（字彙酉集）	増註頭書字彙（字彙申集）	増註頭書字彙（字彙未集）	増註頭書字彙（字彙午集）	表 題（内 容）
秋（8月）吉旦	万治元年戊戌仲秋（8月）吉旦	万治元年戊戌仲秋（8月）吉旦											日 付
165808099	165808099	165808099											西 曆
風月庄左衛門新刊	風月庄左衛門新刊	風月庄左衛門新刊	国分町十九軒「」	宋新安朱熹編、明瓊山丘濬輯	小笠原大膳太夫長時（ほか）	鐫宣城梅誕生先生重訂字彙／鹿角山房蔵版、大坂高麗橋一丁目 芳野屋五兵衛、華洛二條通衣棚角 風月勝左衛門刊	鐫宣城梅誕生先生重訂字彙／鹿角山房蔵版、大坂高麗橋一丁目 芳野屋五兵衛、華洛二條通衣棚角 風月勝左衛門刊	鐫宣城梅誕生先生重訂字彙／鹿角山房蔵版、大坂高麗橋一丁目 芳野屋五兵衛、華洛二條通衣棚角 風月勝左衛門刊	鐫宣城梅誕生先生重訂字彙／鹿角山房蔵版、大坂高麗橋一丁目 芳野屋五兵衛、華洛二條通衣棚角 風月勝左衛門刊	鐫宣城梅誕生先生重訂字彙／鹿角山房蔵版、大坂高麗橋一丁目 芳野屋五兵衛、華洛二條通衣棚角 風月勝左衛門刊	鐫宣城梅誕生先生重訂字彙／鹿角山房蔵版、大坂高麗橋一丁目 芳野屋五兵衛、華洛二條通衣棚角 風月勝左衛門刊	鐫宣城梅誕生先生重訂字彙／鹿角山房蔵版、大坂高麗橋一丁目 芳野屋五兵衛、華洛二條通衣棚角 風月勝左衛門刊	差 出 人
		山田屋（印、仙台領村田町（一ツ））	山田屋豊治持用	山田新七									受取人
冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	形態
			袋共		虫損	虫損	虫損	虫損	虫損、前後	虫損	虫損	虫損	状態
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	表 数
			治「塾中出席山田屋豊持用」とあり	「万延二辛酉年卒業」とあり 「八冊物 山田新七」	23「2」14「19参照、								備 考

[illegible]

[illegible]

24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	箱
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	尊
10	9	8	7	6	5	4	4	3	2	1	22	21	20	19	18	17	16	15	14	14	枝 1
							2	1											2	1	枝 2
																					枝 3
																					枝 4
																					枝 5
新編和漢歴代帝王備考大成 卷之一 (一) 歴代備考大成 (一) 新編和漢歴代帝王備考大成 卷之二 (倭漢歴代備考大成 (一)) 新編和漢歴代帝王備考大成 卷之三 (倭漢歴代備考大成 (三)) 新編和漢歴代帝王備考大成 卷之四 (倭漢歴代備考大成 (四))																					表 題 (内 容)
求下 元禄七歳次甲戌 仲秋吉日																					日 付
169407099																					西 暦
洛陽書林 東都 南郭先生考訂、皇都 上村藤右衛門・赤井亦七、東都 並河善六・山崎金兵衛 (再板)																					差 出 人
閩洲主 閩洲主 閩洲主																					受 取 人
冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊 冊																					形 態
1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1																					状 態
照 1 照 1 照 1 照 1 照 1 照 1 照 1 照 1 照 1 照 1 照 1 照 1 照 1 照 1 照 1 照 1 照 1 照 1 照 1 照 1 照 1 照 1																					備 考

[illegible]

[illegible]

25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	箱 尊	表 題 (内 容)	日 付	西 暦	差 出 人	受 取 人	形 態	状 態	頁 数	備 考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	枝 1	枝 2										枝 3	枝 4	枝 5	(書状、紅花仕切残金差送りの旨承知につき)	八月廿一日	999908021	三井喜四郎 (印) ほか3名	山田屋新五郎	冊	2枚一綴	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14															(書状、紅花仕切残金差送りの旨承知につき)	八月廿一日	999908021	三井喜四郎 (印) ほか3名	山田屋新五郎	冊	2枚一綴	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
																																							(書状、紅花仕切残金差送りの旨承知につき)	八月廿一日	999908021	三井喜四郎 (印) ほか3名	山田屋新五郎	冊	2枚一綴	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
																																							(書状、紅花仕切残金差送りの旨承知につき)	八月廿一日	999908021	三井喜四郎 (印) ほか3名	山田屋新五郎	冊	2枚一綴	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
覚 (地面引きにつき)	覚 (代金受取)	覚 (油代金送付につき)	五百廿四番入日記 (領収書)	(領収書綴)	(書状、金子借用願い)	覚 (送付状)	覚 (金子受取)	覚 (金子受取)	五百廿番番入日記 (領収書)	覚 (手形送付につき)	覚 (代金受取)	覚 (貸金受取)	(書状、貸与願い)	(書状、訪問御礼)	(書状、買金送付につき)	(書状、金子御礼につき)	(書状、江戸送り荷物買方につき)	(書状、紅花買方につき)	覚 (入帳につき)	(書状、代金御礼につき)	(書出)	(書状、鳳仙花受取金手違いにつき)	(書状、紅花仕切残金差送りの旨承知につき)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	</

箱 尊	表 題 (内 容)	日 付	西 暦	差 出 人	受 取 人	形 態	状 態	臺 数	備 考
25 1 56 3	五百廿番入日記(領収書)	亥四月 寛延三年午六月 五日	999904099	古手や長左衛門(印、京都七条通大川 西入(「ル」古)古手屋長左衛門)	山田屋庄三郎 様、同庄助様	状		1	
25 1 39	覚(紅花代金受取)	五月	175006005	仙台村田・山田屋新五郎(印)	富田勘四郎殿	状		1	
25 1 41	(断簡、反物仕切)	七月十四日	999907014	大沢屋藤吉	山田新五郎様	状	横帳断簡	1	
25 1 40	覚(購入品覚)	午八月廿二日	999908022	笹森屋利兵衛(印、仙台角田中町(「ヤ さ」笹森屋)	山田屋新五郎 様	状		1	
25 1 42	覚(登記残金受取)			塩沢村肝煎・一太郎	林田町年寄・ 山田屋新五郎 様	状		1	
25 1 43	覚(先年分勘定済みにつき)			(於角田) 笹森屋利兵衛	而(村田町二 五郎様	状		1	
25 1 44	(書状、登記残金引替につき)	午九月三日	999909003	関東より・清右衛門(印、梁川新町(大 三)関東屋)	山田屋吉右衛 門様	状		1	
25 1 45	(覚、金受取)	子ノ七月八日	999907008	松岡屋幸助(印)	山田屋周蔵様	状		1	
25 1 46	覚(金受取)	戌六月廿一日	999906021	鐘屋惣右衛門(印)	山田屋新五郎 様	状		1	
25 1 47	相場(日用品の相場表)	辰八月十七日	999908017	鐘屋惣右衛門(印、羽州庄内鐘屋)	山田屋新五郎 様、御店中様	状		1	
25 1 48	覚(春出帆につき)	辰八月十七日	999908017	鐘屋惣右衛門(印、羽州庄内鐘屋)	山田屋新五郎 様	冊	2枚一綴	1	
25 1 49	(書状、紅花積附并出帆案内承知願ひ)	八月十七日	999908017	三井・喜四郎(印)(ほか3名)	山田屋新五郎 様	状		1	
25 1 50	(書状、紅花買い方につき)	六月十一日	999906011	新九郎(印)	新七殿	状		1	
25 1 51	指引牒	元禄三年十二月 廿三日	169012023	山田屋周蔵	山田屋庄三郎 様	状		1	
25 1 52	(書状、荷物代金につき)	十一月朔日	999911001	上・狩野屋金蔵	村田町二而・ 山田屋新五郎 様	状		1	
25 1 53	口演(残金勘定依頼)	今日		西村屋清九郎、庄兵衛(印、金銀不用 (「ル」西清)	山田屋新五郎 様、周蔵様、 参人へ御中	状		1	
25 1 54	(書状、荷物代金につき)	九月七日	999909007	(「ル」忠蔵	山田屋新五郎 様	状		1	
25 1 55	(書状、荷物差送りにつき)	十月廿六日	999910026	銀治、清右衛門	肝入・長右衛 門様、組頭・ 直助様	状	25+1+56+ 1+3包紙 一括	1	
25 1 56	正付(金拝借願)	天保十五年十二 月廿二日	184412022	塩沢村肝煎・直介(印)ほか2名	村田町・山田 屋新五郎殿	状		1	
25 1 56	金子借用證文事	天保十五年十二 月	184412099	塩沢村肝入・山田屋新五郎	山田屋新五郎 様	状		1	
25 1 56	(書状、拝借金上納に付き)	辰十二月廿二日	999912022			状		1	

25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	箱
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	尊
72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	60	59	59	59	58	58	57	枝1
													3	2	1	2	1		枝2
																			枝3
																			枝4
																			枝5
(書状、御酒頂戴につき御礼)	為替金請証之事	(包紙)	(書状、金指越しにつき)	(書状、金不払いにつき)	口述(金拝借願い)	(書状、金拝借願い)	(書状、荷物取引手違いにつき)	四番(紅花様子につき)	(書状、紅花出来高御尋ね)	(書状、御馳走御礼につき地嶋送り状)	覚(金子借用覚)	錢借用扣	覚(古手代金覚)	御本丸御屋鋪御用達	(書状、紅花受取につき)	(書状、紅花荷物江戸送りににつき)		表題(内容)	
六月朔日			元禄八年亥十二月九日	十月十七日	五月十一日		八月五日	七月十日	六月十二日	壬五月十五日	三月廿七日	天保十四年卯五月朔日	天保十四年卯七月	たつ正月五日	巳七月廿八日	七月廿八日	十二月廿三日	日付	
999906001			169512009	999910017	999905011	999911004	999908005	999907010	999906012	999905015	999903027	184305001	184307099	999901005	999907028	999907028	999912023	西暦	
(いわぬまより) 森屋喜六様		武沢八郎左衛門	武沢八郎左衛門(印)	京屋弥兵衛(印、奥福嶋金銀不用京弥□□□)ほか2名	鈴木善太夫(印)	佐藤や市右衛門(印)	(従山形) 後藤小平治(印)	三井嘉蔵(印) ほか2名	坂蔵屋万之助ほか2名	有澤米吉	大飼富記(印)	山田屋新五郎(印、仙台領村田町(二ツ)山田屋)	大沼屋養之丞	大石田・二藤部兵右衛門(印)	羽州大石田(二藤部)	京屋弥兵衛(印、奥福嶋州飛脚(市京)京弥)	差出人		
山田屋新五郎様、吉右衛門様	(むら田町)	山田屋新七殿、□屋喜左衛門殿	山田屋新七殿、喜左衛門殿	山田屋新五郎様、御店中様	村田町・山田屋新五郎殿	山田屋新五郎様	新五郎様、山田屋新五郎様	山田屋新五郎様	山田屋新五郎様	丸木御主人様	笹谷通り	沼屋林兵衛殿	くわし屋養助	山田屋新五郎様、周蔵様	仙台村田・山田屋新五郎殿	山田新五郎様	(仲付問屋・村田) 山田屋新五郎様	受取人	
状	状	状	状	状	状	状	状	冊	状	状	状	状	状	状	状	状	状	形態	
	包紙共	251169の包紙か					共	3枚綴			包紙共	包紙共	一括	25115813紙綴	一括	25115812紙綴	包紙共	状態	
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	枚数	
												全文見せ消ち	全文見せ消ち					備考	

25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	箱																																																																																																																																																																																																																																																																								
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	尊																																																																																																																																																																																																																																																																								
80	79	79	79	78	77	77	77	77	76	75	75	75	75	75	74	73			枝 1																																																																																																																																																																																																																																																																								
1	3	2	1		3	2	2	1		9	8	7	6	5	4	3	2	1	枝 2																																																																																																																																																																																																																																																																								
1						2	1												枝 3																																																																																																																																																																																																																																																																								
																			枝 4																																																																																																																																																																																																																																																																								
																			枝 5																																																																																																																																																																																																																																																																								
拾壹番（紅花売買につき）	覚（購入品物）	円田村紅花前金面付左二 廿六日	（書状、金拝借願い） 辰閏四月廿六日	（書状、請取書差上および荷為替不都合につき） 九月四日	（支払い覚） 覚（預かり荷物送付につき） 戌六月十四日	覚（荷物御渡し願い） 戌六月十四日	（支払い覚） 覚（代金受取） 八月十八日	（包紙） 覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日	覚（代金受取） 八月十八日

[illegible]

[illegible]

25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	箱
4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	3	3	尊
21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	枝1
																				枝2
																				枝3
																				枝4
																				枝5
(包紙)	(包紙)	奉公人請状之事		(預かり金覚)	(書状、帶購入覚)	(包紙)	(包紙)	(包紙)	(支払い覚)	本斎先生御録筆	(支払い覚)	(支払い覚)	(支払い覚)	(金銭ならびに人名書上)	(支払い覚)	(書上、桶改めにつき)	扣 (桶数改めにつき)	(覚、増酒御免につき)	(断簡、横半帳表紙)	表 題 (内 容)
				四月十七日			五月十五日									明和四年二月	元文三戊午十一月晦日	元文三戊午十一月晦日		日 付
				999904017			999905015									176702099	173811030	173811030		西 暦
京都より・若山□右衛門							田村金兵衛			佐藤屋庄松	沼部村					柴田郡北方村田町・御百姓・新五郎	村田町・酒屋新五郎ほか4名	千石村文三郎		差 出 人
兵衛様	越後・石崎弥					上	山田屋新五郎	南仙村田町・山田屋新五郎		村田町・山田屋新五郎様	上				弥兵衛殿	肝入・彦右衛門殿、検断・	笹原久右衛門様	貞太様		受取人
状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	形態
																				状態
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	包紙共、 (印、仙台 岩沼南町・ 森屋) 断簡
																				備 考

[illegible]

[illegible]

25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	箱
5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	尊
42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	枝 1
																							枝 2
																							枝 3
																							枝 4
																							枝 5
																							表 題 (内 容)
																							日 付
																							西 暦
																							差 出 人
																							受 取 人
																							形 態
																							状 態
																							臺 数
																							備 考

箱 尊	枝 1	枝 2	枝 3	枝 4	枝 5	表 題 (内 容)	日 付	西 暦	差 出 人	受 取 人	形 態	状 態	頁 数	備 考
25 5 67	25 5 66	25 5 65	25 5 64	25 5 63	25 5 62	金子借用証文之事 (書状、拝借金ならびに紅花入帳につ き)	弘化貳年四月 四月廿八日	184504099	入間野村・与頭・借主・新五郎(印) ほか2名(奥書)右村肝入・吉弥(印)	村田町・山田 屋新五郎殿	状		1	奥書に「同四人殿」と
						(書状、金子到着延引につき)	四月廿八日	999904028	吉弥	山田屋新五郎	状		1	
						覚(上納額書上)	八月六日	999908006	庄兵衛(印)	新五郎殿	状		1	
						覚(勘定覚)	十二月七日	999912007	清右衛門(印)	本町・嘉五郎	状		1	
						覚(金銀御届け)	六月廿日	999906020	山崎屋安右衛門(印、白石定飛脚取次 所(一山)山崎屋	山田屋新五郎	状		1	
						(金子借用証文)	延享三年三月六 日	174603006	小泉村・借主・宅右衛門(印)(ほか 3名)	村田本町・新 五郎殿	状		1	
						金子借用証文之事	天保十五年十二 月	18412099	沼辺村・借用人・為之丞(6名)	村田町・新五 郎殿	状		1	
						金子請取証文之事	天保九年戌ノ六 月廿二日	183806022	角田町・葉成屋利兵衛代・伝兵衛	山田屋新五郎	状		1	
						(金子借用証文、屋敷西表畑抵当)	天保十二年十一 月	18411099	御旦那廻ノ借主・七兵衛(印)、請合・ 組頭・星基蔵(印)	新五郎殿	状		1	
						(包紙)	天保十一年	184099999	馬持中(印)、馬持請合・利八(印)	新五郎殿	状		1	
						町傳馬証文之事	天保十一年	184099999	借主・馬持中(印)、馬持請合・利八 (印)	周蔵殿	状		1	
						町傳馬証文之事	天保十一年	184099999	借主・馬持中(印)、馬持請合・利八 (印)	新五郎殿	状		1	
						(紅花代金書付)	天保十三年寅十 二月	184212099	検断・勘右衛門(印)、(ほか2名)	新五郎殿、周 蔵殿	状		1	
						町伝馬証文之事	天保十五年十二 月廿五日	18412025	参中借主・我妻吉治(印)・定判(花 押)、同・請人・同苗米之助(印)・定 判(花押)	山田屋新五郎 様	状		1	
						(包紙、金子証文之事・実之)	宝永貳年七月二 日	170507002	本町・勘左衛門(印)	山田新五郎殿	状		1	
						預り申金子手形之事	今日	172408016	ぬりし・市三郎	新七様	状		1	
						(書状、金子無心につき)	享保九年八月十 六日	172408016	十太夫	新七様	状		1	
						(書状、金子借用願い)	未ノ三月廿六日	999903026	河原町・七平(印)	本町・新五郎 殿	状		1	
						預り申証文	延享二年三月廿 一日	174503021	木村崎・かり主・喜四郎(印)ほか3 名	村田町・新五 郎殿	状		1	
						(金子借用証文)	延享二年七月廿 六日	174507026	木村崎・かり主・喜四郎(印)ほか3 名	村田町・新五 郎殿	状		1	
						(代金預かり証文)	享保貳拾年卯ノ 閏三月六日	173503106	小泉・預り主おや・清兵衛(印)、村 田町・取次・善左衛門(印)	村田町・新七 殿	状		1	

25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	箱
6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	5	5	5	5	5	5	5	5	5	尊
13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	76	75	74	73	72	71	70	69	68	枝 1
																						枝 2
																						枝 3
																						枝 4
																						枝 5
覚（紅花渡し状）	荷物請証之事（紅花廿八個）	覚（紅花三拾式個受取申し相違無く御居けにつき）	覚（紅花三拾式個受取申し相違無く御居けにつき）	覚（金銭受取り）	（証文、紅花荷物立て替え上納につき）	御明神田畑立付覚	御明神田畑立付覚	明神田覚	（証文、明神宮たて替につき）	覚（反物売り捌き依頼） （田畑売り渡し証文）	覚（反物売り捌き依頼）	覚（反物売り捌き依頼）	覚（金子借用）	覚（金子借用）	弘化三年分商人上判 （包紙、弘化三年分上判・村田町・商人・新五郎）	（金子借用証文） （銀蔵）	（包紙、辰歳・一季証文・小泉村本人銀蔵）	証文之事（金子借用）	吉殿江） （包紙、卯・舟廻村銀判貸一札入・養	金子借用証文之事	覚（金子借用証文）	表 題 （内 容）
卯八月九日	月	天保十五年辰戌六月廿六日	弘化三年午七月廿六日	未八月廿三日	戌七月廿六日	戌七月廿日（カ）			元禄十四年二月十六日	元禄十四年三月二十八日	八月十四日	八月廿一日	うの三月廿六日	弘化三年	弘化三年	嘉永二年二月	辰歳	天保十五年辰年二月	卯	天保十四年五月	延享元年十一月十一日	日 付
999908009	18409099	184607026	999908023	999907026	999907099				170102016	170103028	999908014	999908021	999903026	184699999	184699999	184902099		18402099		184305099	174411011	西 暦
沼屋	大沼屋正七（印、仙台村田（ヤ正）大沼屋）	大沼屋養之丞（印、仙台村田（ヤ吉）大沼屋）	銀不用（ヤ中）嶋屋	金銀不用（ヤ中）嶋屋	ふく嶋・嶋屋佐右衛門（印、奥州福嶋金銀不用（ヤ中）嶋屋）	田中屋総ノ助（印）	設案治左衛門（印、最上大石田（ヤ中）設案）		肝入・久右衛門（印）	組頭・久太郎（印）ほか7名	名取屋権三郎（印、仙台大町三丁目（ヤ中）名取屋）	名取屋権三郎	□・清右衛門（印）	村田町・商人・新五郎	柴田郡村田町・御判肝入・十市左衛門（印）ほか2名	鈴木善太夫	小泉村・銀蔵	町請合・萬右衛門（印）ほか5名		舟迫村・借用人・養吉（印）ほか5名（奥書）舟迫村組頭・利惣右衛門（印）ほか2名	小泉・姥懐・久三郎（印）、長兵衛（印）	差 出 人
殿	山田屋新五郎殿	山田屋新五郎殿	仙台村田・山田屋新五郎殿	新五郎様	村田・山田屋新五郎様	山田屋新五郎	山田屋新五郎		本町・新七殿	本町・新七殿	様、御店中様	山田屋新五郎	殿	村田・新五郎		山田屋新五郎殿	養吉殿江	村田町・山田屋新五郎殿	新五郎殿	新五郎殿	村田町・新五郎殿	受取人
状	状	状	状	状	状	状	状	冊	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	形態
																						状態
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	臺 数
																						備 考

箱	表題 (内容)	日付	西暦	差出人	受取人	形態	状態	頁数	備考
25	6	14		(包紙、大石田より請取書入)		状		1	包紙上書き「大石田より請取書入」
25	6	15		設楽治左衛門(印、最上大石田(祇に)二藤部)	仙台村田・山田屋新五郎殿	状		1	
25	6	16		弘化四年未七月	佐藤利兵衛殿	状		1	
25	6	17		船為替取次置証文之事	中村源四郎殿	状		1	全文見せ消ち
25	6	18		預り申手形之事	仙台村田町・山田屋新五郎殿	状		1	
25	6	19		天保十三年寅十月廿九日	仙台村田・山田屋新五郎殿	状		1	
25	6	20		覚(品物御届けにつき)	一升様	状		1	
25	6	21		覚(太物代金受取り)	山田屋新五郎殿	状		1	
25	6	22		覚(代金受取り)	山田屋新五郎殿	状		1	
25	6	23		覚(紅花受取申し相違無く御届けにつき)	仙台村田・山田屋新五郎殿	状		1	
25	6	24		覚(証書、金銭書上)	田屋新五郎殿	状		1	
25	6	24		覚(仕切状)	上	状	25 16 24 一括	1	
25	6	24		覚(仕切状)	仙台・伝兵衛	状		1	
25	6	24		覚(仕切状)	山田屋新五郎殿	状		1	
25	6	24		覚(仕切状)	山田屋新五郎殿	状		1	
25	6	25		(書状、取引代金につき)	山田屋新五郎殿	状		1	端裏書き「山田屋周蔵殿、大沼十郎左衛門」
25	6	26		覚(葉ほか金品書上げ)	大沼十郎左衛門	状		1	
25	6	27		覚(借用願い)	門殿	状		1	
25	6	28		覚(勘定寛)	山田新五郎様	状		1	
25	6	29		覚(勘定寛)	山田新五郎様	状		1	
25	6	30		覚(勘定寛)	山田新五郎様	状		1	
25	6	31		覚(勘定寛)	山田新五郎様	状		1	
25	6	32		覚(葉ほか金品書上げ)	大沼十郎左衛門	状		1	
25	6	33		覚(勘定寛)	山田屋新五郎殿	状		1	
25	6	34		覚(勘定寛)	山田屋新五郎殿	状		1	
25	6	35		覚(仕切状)	山田屋新五郎殿	状		1	

25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	箱 尊
6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	枝 1
55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	枝 2
																			枝 3
																			枝 4
																			枝 5
仕切状	覚(仕切状)	仕切覚	庖瘡輕ク仕薬味写し	(書状、金子受取りにつき)	目録(金銭目録)	(書状、品切れにつき)	覚(品物仕切状)	覚(紅花仕切状)	覚(紅花仕切状)	覚(銀貸付)	覚(紅花仕切状)	覚(仕切状)	覚(紅花仕切状)	覚(紅花仕切状)	覚(紅花仕切状)	指出申一札之事	覚(紅花仕切状)	(断簡)	表 題 (内 容)
九月廿七日	西閏八月廿六日	西八月十七日	天明元年十月	十一月廿九日	戌ノ七月	十一月廿七日	十一月廿七日	十一月廿七日	申正月六日	寅十月十八日	二月廿三日	天保十一子歳十 月十四日	嘉永元年申九月 十日	六月卅日	天保十三壬寅歳 八月廿八日	天保十四年卯九 月十七日	天保四年巳三月 八月十三日	天保十二歳丑ノ 八月十三日	日付
999909027	999908126	999908017	178110099	999911029	999907099	999911027	999911027	999911027	999910006	999910018	184012023	184809010	999910014	999906030	184208028	184309017	184108013	999901005	西暦
中村屋佐平次(印、奥州梁川〔一〕)	ヤマト 長谷川吉郎治(印、羽州山形十日町〔二〕) 長谷川	長谷川吉郎治(印、羽州山形十日町〔二〕) 長谷川	岩沼町・森屋喜六	塩津・中村佐右衛門(印)	えがわ屋三郎助、利兵衛(印)	杉岡屋市次郎	角田町松岡屋幸助(印、奥州角田〔一〕)	福嶋・嶋屋佐右衛門(印、金銀不用〔一〕) 中〔奥州福嶋嶋屋〕	福嶋・京屋弥兵衛(印、金銀不用〔一〕) 京〔奥州福嶋京彌彌平〕	佐藤屋林(力)作、小兵衛(印、〔一〕) 佐藤屋	大沼屋養之丞(印、仙台村田〔一〕) 大沼屋	福嶋・京屋弥兵衛(印、金銀不用〔一〕) 京〔奥州福嶋京彌彌平〕	福嶋・京屋弥兵衛(印、金銀不用〔一〕) 京〔奥州福嶋京彌彌平〕	福嶋・京屋弥兵衛(印、金銀不用〔一〕) 京〔奥州福嶋京彌彌平〕	最上谷地・和田兵右衛門(印)	福嶋・京屋弥兵衛(印、金銀不用〔一〕) 京〔奥州福嶋京彌彌平〕	福嶋・京屋弥兵衛(印、金銀不用〔一〕) 京〔奥州福嶋京彌彌平〕	塩津・中村佐右衛門(印)	差 出 人
中様	門様、御店衆	ヤマトサマ 長谷川吉右衛門様、御蔵様	此方、御子様 方二而も	仙台村田・山田屋新五郎殿	仙台村田・山田屋新五郎殿	仙台村田・山田屋新五郎殿	仙台村田・山田屋新五郎殿	仙台村田・山田屋新五郎殿	仙台村田・山田屋新五郎殿	仙台村田・山田屋新五郎殿	仙台村田・山田屋新五郎殿	仙台村田・山田屋新五郎殿	仙台村田・山田屋新五郎殿	仙台村田・山田屋新五郎殿	仙台村田・山田屋新五郎殿	仙台村田・山田屋新五郎殿	仙台村田・山田屋新五郎殿	仙台村田・山田屋新五郎殿	受取人
冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	形態
																			状態
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	前欠
				端裏書き「村田町・山田屋新五郎様御手形等」共御添	端裏書き「一升御店様本紙在中、山太」														備 考

25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	箱 尊
6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	枝 1
63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	62	61	60	59	58	57	56	枝 2
16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1									枝 3
																								枝 4
																								枝 5
表 題 (内 容)																								
日 付																								
西 暦																								
差 出 人																								
受 取 人																								
形 態																								
状 態																								
頁 数																								
備 考																								
覚 (反物御届け証文)	覚 (勘定証文)	(覚、書上げ)	覚 (勘定証文)	覚 (勘定証文)	(書状、売溜金貸し渡しにつき)	(書状、秋物仕入れにつき)	覚 (勘定証文)	覚 (品物書上げ)	(覚、金銭書上げ)	(書状、お悔やみ状)	覚 (勘定証文)	覚 (勘定証文)	覚 (勘定証文)	覚 (品預かり証文)	覚 (売上金受取証文)	覚 (売上金受取証文)	覚 (荷物代渡し状)	覚 (品売り捌き依頼)	覚 (布地仕切状)	覚 (布地仕切状)	覚 (紅花仕切状)	覚 (紅花仕切状)	覚 (紅花仕切状)	箱 尊
九月六日	八月六日		戌ノ五月朔日	戌ノ四月廿九日	極月廿五日	七月十九日	十二月二日	五月朔日		二月二日	戌ノ八月廿七日	午三月	午ノ九月八日	十二月二日	午二月廿五日	八月九日	八月七日	八月晦日	八月廿一日	八月十四日	安政三年七月	天保十二年辛丑歳 十月十六日	天保十二年辛丑歳 十月十六日	箱 尊
999909006	999908006		999905001	999904029	999912025	999907019	999912002	999905001		999902002	999908027	999903099	999909008	999912002	999902025	999908009	999908007	999908031	999908021	999908014	135607099	184110016	184110016	西 暦
佐藤屋善右衛門、吉兵衛	佐藤屋勘次		佐藤善右衛門、吉兵衛 (印、仙台大町二丁目 (マル木) □□商)	後藤屋八兵衛 (印)	えがわ屋三郎助、利兵衛 (印)	佐藤屋善右衛門、久次 (印、仙台大町二丁目 (マル木) □□商)	後藤屋亀五郎 (印、仙台南町 (カサ) □屋)	佐藤屋善右衛門		同	佐藤屋善右衛門、吉兵衛 (印、仙台大町二丁目 (マル木) □□商)	佐藤助五郎	後藤屋八兵衛 (印)	佐藤屋善右衛門 (印、仙台「」)	高橋屋善右衛門 (印、仙台二丁目生糸真綿紅花問屋 (祿吉) 高橋屋)	丸木 (カ)	府安 (カ)	名取屋権三郎	名取屋権三郎	名取屋権三郎	御判肝入清左衛門 (印)	福嶋・京屋弥兵衛 (印、奥州福嶋銀不 用□□京彌)	福嶋・京屋弥兵衛 (印、奥州福嶋銀不 用□□京彌)	差 出 人
様、三右衛門	山田屋新五郎 様、御店中様	山田屋新五郎 様、御店中様	山田屋新五郎 様、御店衆中	山田屋新五郎 様、御店中様	山田屋新五郎 様、御店中様	山田屋新五郎 様、周蔵様	山田屋新五郎 様	山田屋新五郎 様	殿	菊池屋万五郎 様	山田屋新五郎 様	山田屋新五郎 様	山田屋新五郎 様	山田屋新五郎 様	山田屋新五郎 様	山田屋新五郎 様	山田屋新五郎 様	山田屋新五郎 様	山田屋新五郎 様	山田屋新五郎 様	山田屋新五郎 様	山田屋新五郎 様	山田屋新五郎 様	受 取 人
状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	形 態
		前欠カ													1 括	25 6 31 紙 経								状 態
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	頁 数
								別途記述「村田 山田 屋新五郎様 佐善」	裏面まで記述あり															備 考

25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	箱 尊
6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	枝 1
68	67	66	65	64	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	枝 2
					31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	枝 3
																				枝 4
																				枝 5
覚 (勘定証文)																				表 題 (内 容)
覚 (勘定証文)																				日 付
日																				西暦
999912029																				差 出 人
大沼屋権兵衛 (印、仙台田 (林吉) □□屋)																				受取人
山田屋新五郎																				形態
状																				状態
1																				臺 数
																				備 考
25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	箱 尊
6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	枝 1
68	67	66	65	64	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	枝 2
					31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	枝 3
																				枝 4
																				枝 5
覚 (勘定証文)																				表 題 (内 容)
覚 (勘定証文)																				日 付
日																				西暦
999912029																				差 出 人
大沼屋権兵衛 (印、仙台田 (林吉) □□屋)																				受取人
山田屋新五郎																				形態
状																				状態
1																				臺 数
																				備 考
25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	箱 尊
6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	枝 1
68	67	66	65	64	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	枝 2
					31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	枝 3
																				枝 4
																				枝 5
覚 (勘定証文)																				表 題 (内 容)
覚 (勘定証文)																				日 付
日																				西暦
999912029																				差 出 人
大沼屋権兵衛 (印、仙台田 (林吉) □□屋)																				受取人
山田屋新五郎																				形態
状																				状態
1																				臺 数
																				備 考

	箱	表題（内容）	日付	西暦	差出人	受取人	形態	状態	数量	備考
25 697	尊枝1	(覚)紅花書上げ					状		1	
25 670	枝2	覚(熊谷屋吾兵衛殿分荷物送り状)	正月廿八日	999901028	<ヤキ>店□兵衛一升様	山田屋新五郎様、同周蔵様	状		1	
25 671	枝3	覚(勘定)	十一月卅日	999911030	喜代治	仙台村田・山田屋新五郎殿	状		1	
25 672	枝4	覚(金品勘定)	酉八月十五日	999908015	長谷川用	大沼屋所左衛門殿、同藤助殿	状		1	
25 673	枝5	御本丸御屋鋪御用達越後屋弥右衛門殿分(紅花納入)	申七月廿四日	999907024	石田<マニ>(二藤部)<一マ>店	大沼屋所左衛門殿、同藤助殿	状		1	
25 674		覚(勘定証文)	弘化四年未正月四月	999908015	大沼屋新左衛門	増田ノ左見様	状		1	
25 675		覚(借用証文)	九月	999909099	<ヤ左>	様	状		1	
25 676		覚(紅花代金)	九月十六日	999911006	山崎屋安右衛門(印)	山田屋新五郎様	状		1	
25 677		(断簡、不足品につき)白紙	九月十三日	999909013	佐藤助五郎森内□□(庄六カ)栄冶岡崎嘉治郎えがわ屋三郎助	山田屋新五郎様	状		5	反故紙に商標など試し書き
25 678		(断簡、鎮守祭礼につき)	巳四月	999904099			状		1	
25 679		(断簡)	十一月廿一日	999911021			状		1	
25 680		覚(金錢書上げ)	七月廿日	999907020			状		1	
25 681		覚(金錢書上げ)	戌六月六日	999906006			状		1	
25 682		覚(紅花手金受取証文)					状		1	
25 683		(包紙)					狀		1	
25 684		(覺、代金書上げ)	四月十日	999904010	八平(印)、仙台大町<ヤハ>八平、西淵屋□□□(印)、直三郎	佐藤彦三郎殿	狀		1	後に附けたと思われる付箋あり
25 685		覚(勘定帳断簡)	丑十月廿七日	999910027	京屋徳兵衛(印、奥州福嶋□□<杵京>)京弥、京屋伝助(印、奥州福嶋□□<杵京>京弥)	山田屋庄三郎様	狀		1	
25 686		覚(受取証文)					狀		1	
25 687		(斷簡、金錢書上げ)	十月十六日	999910016	古手屋長右衛門(印、京都七条通大川西入<マル>古手屋長右衛門)	山田屋庄三郎様	狀	前欠	1	(印、<マル>)(表端)
25 688		五百三十番入日記					狀		1	
25 689		覚(書上げ)					狀		1	端裏書きあり
25 690		(書状、試し書き)					狀		1	
25 691		口上(売り捌き入金につき)	十月十七日	999910017	大澤(印)染や富次	山新様	狀		1	
25 692		覚(品受取りにつき)					狀		1	

[illegible]

[illegible]

	箱	表題（内容）	日付	西暦	差出人	受取人	形態	状態	裏紙	備考
25	尊	寛（紅花代金受取りにつき）	八月十五日	99908015	澤口安左衛門（印）	山田屋新五郎	状		1	包紙上書き「金子之請取入」
8	枝1	寛（金子請取証文）	十月四日	999910004	三井清四郎（印）	山田屋新五郎殿	状	包紙共	1	
25	枝2	寛（金子請取証文）	子ノ十二月十五日	999912015	受払処（印、仙台□町老丁目□□□）	山田屋新五郎殿	状		1	
25	枝3	寛（引き替え金受取りにつき）	天保十一年十一月十五日	184012015	中井新三郎（印）、岩井作兵衛（印） 大沼や所左衛門（印、仙台村田（鉢□□□））	山田屋新五郎様	状		1	
25	枝4	覚（金子請取証文）	西正月五日		大沼や所左衛門（印、仙台村田（鉢□□□））	山田屋新五郎様	状		1	
25	枝5	覚（借金証文）	午六月十八日	999906018	大沼や所左衛門（印、仙台村田（鉢□□□））	山田屋新五郎様	状		1	
25		覚（借金証文）	天保十三年寅五月朔日	184205001	山田屋新五郎、周蔵（印、仙台領村田町（一ツ）山田屋）	大沼藤助殿、養吉殿	状		1	全文見せ消ち
25		証文之事（借金証文）	嘉永二年酉十月廿九日	184910029	山田屋新五郎（印）、周蔵（印）	大沼屋処左衛門殿、藤助殿	状		1	見せ消ちあり
25		金子借用証文之事	嘉永元年申九月朔日	184809001	仙台村田・山田屋新五郎（印）、周蔵（印）	長谷川吉郎治殿	状		1	全文見せ消ち
25		証文之事（借金証文）	弘化三年午八月廿六日	184608026	山田屋新五郎（印）	石田屋栄治殿	状		1	
25		証文之事（借金証文）	天保十五年辰九月朔日	184409001	山田屋新五郎（印、仙台領村田町（一ツ）山田屋）、周蔵	大沼屋藤助殿、養吉殿	状		1	全文見せ消ち
25		覚（借金証文）	弘化二年巳二月	184502099	山田屋新五郎（印、仙台領村田町（一ツ）山田屋）	大沼屋養之丞殿	状		1	全文見せ消ち
25		証文之事下書（借金証文）	天保十五年辰十月廿三日	184410023	刈田郡高町・近江屋次左衛門	大沼屋所左衛門殿	状		1	全文見せ消ち
25		証文之事（借金証文）	天保十五年辰六月晦日	184406030	山田屋新五郎（印）、周蔵（印）	菊池屋養助殿	状		1	全文見せ消ち
25		金子借用証文之事	天保十四年卯壬九月五日	184309005	山田屋新五郎（印）、周蔵（印）	養吉殿	状		1	全文見せ消ち
25		（証書、金子入用につき）	十二月廿二日	999912022	新五郎	亀吉祥	状		1	端裏書き「亀吉祥 新五郎」、全文見せ消ち
25		金子借用証文之事	天保十五年辰八月朔日	184408001	山田屋新五郎（印）	大沼屋庄七殿	状		1	全文見せ消ち
25		金子借用証文之事	天保十五年辰五月三日	184405003	山田屋新五郎（印）、周蔵	大沼屋藤助殿、養吉殿	状		1	全文見せ消ち
25		金子借用証文之事	天保十四年卯八月朔日	184308001	山田屋新五郎（印）、周蔵（印）	佐藤屋文三郎殿、万四郎殿	状		1	全文見せ消ち
25		証文之事（借金証文）	天保十五年辰正月	184401099	山田屋新五郎（印）	大沼屋林兵衛殿	状		1	全文見せ消ち
25		証文之事（借金証文）	天保十五年辰六月廿九日	184406029	山田屋新五郎（印）	大沼屋庄七殿	状		1	全文見せ消ち
25		（証書、借金証文）	天保十五年辰七月	184407099			状		1	全文見せ消ち

箱 号	表 題 (内 容)	日 付	西 暦	差 出 人	受 取 人	形 態	状 態	頁 数	備 考
25 8 62	金子借用証文之事	天保十五年辰六 月廿三日	18406023	山田屋新五郎(印)、周蔵(印)	大沼藤助殿、 養吉殿	状		1	全文見せ消 ち
25 8 61	証文之事(借金証文)	嘉永四年亥四月 二日	185104002	山田屋新五郎(印)、吉右衛門(印)	大沼屋林兵衛	状		1	全文見せ消 ち
25 8 60	借用手形之覚	寛延貳年巳極月 五日	174912005	仙台村田・山田屋新五郎(印)	山形・小林喜 左衛門殿	状		1	全文見せ消 ち
25 8 59	(包紙、証文巻通)	卯ノ十二月廿九 日	999912029	佐藤屋文三郎(印)、仙台村田(□)佐 藤屋	山田屋新五郎 様、周蔵様	状		1	全文見せ消 ち
25 8 45	覚(金子請取証文)	天保十四年卯八 月八日	184308008	山田屋新五郎(印)	大沼屋庄七殿	状		1	全文見せ消 ち
25 8 46	金子借用証文之事	天保九戌年九月 十五日	183809015	江戸・三井本店(印)	山田屋新五郎	状		1	全文見せ消 ち
25 8 47	請取申金子之事	弘化三年午十一 月三日	184611003	山田屋新五郎(印)、仙台領村田町(一 又)山田屋)ほか2名	菊池屋伊久治 殿、又蔵殿	状		1	全文見せ消 ち
25 8 48	預り申金子之事	嘉永四年亥七月 十日	185107010	山田屋新五郎(印)、周蔵(印)、吉右 衛門(印)	石田屋栄治殿	状		1	全文見せ消 ち
25 8 49	証文之事(借金証文)	嘉永三年戌七月 六日	185007006	山田屋新五郎、周蔵、吉右衛門(印)	大沼屋庄七殿	状		1	全文見せ消 ち
25 8 50	証文之事(借金証文)	天保十二年丑正 月十二日	184101012	山田屋新五郎(印)、仙台領村田町(一 又)山田屋)	大沼屋林兵衛	状		1	全文見せ消 ち
25 8 51	覚(借金証文)	弘化二年巳八月 月四日	184508099	山田屋新五郎(印)、仙台領村田町(一 又)山田屋)	大沼屋養助殿	状		1	全文見せ消 ち
25 8 52	金子借用証文之事	天保十二年丑六 月四日	184106004	山田屋新五郎、周蔵(印)、仙台領村田 町(一又)山田屋)	大沼屋養助殿	状		1	全文見せ消 ち
25 8 53	借用証文之事	嘉永三年戌六月 二日	185006002	山田屋新五郎(印)、吉右衛門(印)	星屋彦内殿	状		1	全文見せ消 ち
25 8 54	(証書、借金証文)	嘉永二年酉十月 廿一日	184910021	山田屋新五郎(印)、周蔵	大沼屋養之丞	状		1	全文見せ消 ち
25 8 55	証文之事(借金証文)	嘉永二年酉十月 廿一日	184910021	山田屋新五郎(印)、周蔵	大沼屋養之丞	状		1	全文見せ消 ち
25 8 56	証文之事(借金証文)	弘化二年巳八月 朔日	184508001	山田屋新五郎、周蔵(印)、仙台領村田 町(一又)山田屋)	大沼屋林兵衛	状		1	全文見せ消 ち
25 8 57	金子借用証文之事	天保七年申七月 二日	183607002	山田屋新五郎、周蔵(印)、仙台領村田 町(一又)山田屋)	大沼屋新五郎	状		1	全文見せ消 ち
25 8 58	御届金受取手形	嘉永二年酉十月 五日	184910005	大沼屋吉弥(印)	山田屋新五郎	状		1	全文見せ消 ち
25 8 59	証文之事(借金証文)	寛延貳年巳八月 五日	174908099	仙台村田・山田屋新五郎(印)	大沼屋所左衛 門殿	状		1	全文見せ消 ち
25 8 60	借用手形之覚	嘉永四年亥ノ七 月三日	185107003	仙台村田・山田屋新五郎(印)	小林喜左衛門	状		1	全文見せ消 ち
25 8 61	証文之事(借金証文)	弘化貳年巳七月 十三日	184507013	山田屋新五郎(印)、吉右衛門(印)	星屋彦内殿	状		1	全文見せ消 ち
25 8 62	金子借用証文之事	天保十二年丑八 月七日	184108007	山田屋新五郎(印)、周蔵(印)	大沼屋藤助 殿、養吉殿	状		1	全文見せ消 ち

	箱	表	題	(内)	容	日付	西暦	差出人	受取人	形態	状態	裏	備考
25	8	8	8	8	8	弘化二年己未七月廿九日	184507099	山田屋新五郎、周蔵(印)	菊池屋養助殿	状		1	全文見せ消ち
25	8	8	8	8	8	安政二年六月廿四日	185506024	山田屋新五郎(印)、吉右衛門(印)	大沼處左衛門殿	状		1	全文見せ消ち
25	8	8	8	8	8	天保拾年亥六月十五日	183906015	山田屋新五郎(印)	佐藤養右衛門殿、惣右衛門殿	状		1	全文見せ消ち
25	8	8	8	8	8	弘化四年未八月朔日	184708001	山田屋新五郎(印)、証人・松本衛守(印)	菊池屋伊久治殿	状		1	全文見せ消ち
25	8	8	8	8	8	天保十三年寅正月二日	184201002	山田屋新五郎(印)、周蔵(印)	大沼屋林兵衛殿、亀吉殿	状		1	全文見せ消ち
25	8	8	8	8	8	天保十三年寅七月十一日	184207011	山田屋新五郎、周蔵(印)	大沼藤助殿、養吉殿	状		1	包紙上書き「上山新様證文」
25	8	8	8	8	8	天保十三年寅五月朔日	999910017	大沼屋養之丞(印、仙台村田(林吉)大沼屋)	山田屋新五郎様、周蔵様	状		1	包紙上書きあり
25	8	8	8	8	8	天保十三年寅二月朔日	184205001	山田屋新□□(印)、周蔵(印)	大沼藤助殿、養吉殿	状		1	全文見せ消ち、差出人「新五郎」の名をわざと切り取りカ
25	8	8	8	8	8	天保十二年丑十一月十日	184111010	山田屋新五郎(印)、周蔵(印)	大沼庄七殿	状		1	全文見せ消ち
25	8	8	8	8	8	嘉永七年寅七月九日	18507009	山田屋新五郎(印)、吉右衛門(印)	大沼屋所左衛門殿、龜吉殿	状		1	全文見せ消ち
25	8	8	8	8	8	嘉永三年戌八月十六日	185008016	山田屋新五郎(印)、吉右衛門(印)	大沼屋所左衛門殿、藤助殿	状		1	全文見せ消ち
25	8	8	8	8	8	天保十二年丑七月七日	184107007	仙台村田・山田屋新五郎(印)、証人・吉田屋左四郎(印)	仙台大町二丁目・佐藤養右衛門殿	状		1	全文見せ消ち、端裏書き「表書之通儀請取申候 七月十八日 亀屋伝助代 同倉松(印)」
25	8	8	8	8	8	弘化二年七月晦日	1845070331	山田屋新五郎、周蔵(印)	大沼屋藤助殿	状		1	全文見せ消ち
25	8	8	8	8	8	弘化二年己未七月廿九日	184507029	福井新五郎(印)	高橋綾之進様	状		1	全文見せ消ち
25	8	8	8	8	8	天保十二年丑十月十三日	184110013	山田屋新五郎(印)、周蔵(印)	大沼屋林兵衛殿	状		1	
25	8	8	8	8	8	天保十二年丑八月五日	184108005	山田屋新五郎(印)、周蔵(印)	大沼屋藤助殿、養吉殿	状		1	
25	8	8	8	8	8	天保十二年丑七月十一日	184107011	山田屋新五郎(印)	大沼屋庄七殿	状		1	全文見せ消ち、差出人「新五郎」の名をわざと切り取りカ

箱 尊	枝 1	枝 2	枝 3	枝 4	枝 5	表 題 (内 容)	日 付	西 暦	差 出 人	受 取 人	形 態	状 態	臺 数	備 考
25 22 5	25 22 4	25 22 3	25 22 2	25 22 1		(断簡) (断簡、値段の義、) (帳面断簡、大福帳) (帳面断簡、大福帳)	七月十五日	999907015	〈ヤ正〉 竹原文右衛門	〈一ヌ〉様	状	前欠 半分欠	2 1 1 1 1	包紙上書き「貳朱金五拾両 竹原文右衛門包」
25 22 21	25 22 19	25 22 18	25 22 17	25 22 16	25 22 15	(断簡断簡、大福帳) (横帳断簡、人名および代金書上)					状	横帳断簡	33 60	明治20年代のもの
25 22 14	25 22 13	25 22 12	25 22 11	25 22 10	25 22 9	(断簡断簡、大福帳) (断簡断簡、大福帳) (断簡断簡、大福帳) (断簡断簡、大福帳) (断簡断簡、大福帳) (断簡断簡、大福帳)					状		54 20 5	
25 22 9	25 22 8	25 22 7	25 22 6	25 22 5	25 22 4	(断簡断簡、大福帳)					状		5	2 / 5 点目は両面記載あり、明治10年代のもの
25 22 3	25 22 2	25 22 1				(断簡断簡、大福帳) (断簡断簡、大福帳)	(天保7年)	183609099			状		4 6 8	日付は内容より入力
25 22 8	25 22 7	25 22 6	25 22 5	25 22 4	25 22 3	証文之事 (借金証文) (書付け、村田町大崎主水の金子)	天保十三年寅正月二日	184201002	山田屋□□□(印)、周蔵(印)	大沼屋藤助殿、養吉殿	状		1 1	折紙カ、裏面に記載あり「金かし方證文入」
25 22 8	25 22 7	25 22 6	25 22 5	25 22 4	25 22 3	証文之事 (借金証文) (借用手形之覚)	天保十五年辰六月廿九日	184606029	山田屋新五郎(印)、周蔵	大沼屋藤助殿、養吉殿	状		1	全文見せ消ち
25 22 8	25 22 7	25 22 6	25 22 5	25 22 4	25 22 3	証文之事 (借金証文) (金子請取証文)	弘化三年午七月十五日	184607015	山田屋新五郎(印)、仙台領村田町(一ヌ)山田屋	星屋嘉内殿	状		1	
25 22 8	25 22 7	25 22 6	25 22 5	25 22 4	25 22 3	証文之事 (借金証文) (借金証文)	乙未六月廿二日	999906022	山形・後藤小平治(印)	村田・山田屋新五郎殿	状		1	
25 22 8	25 22 7	25 22 6	25 22 5	25 22 4	25 22 3	証文之事 (借金証文) (借金証文)	天保十二年壬子正月六日	184101006	山田屋新五郎(印)、仙台領村田町(一ヌ)山田屋	大沼藤助殿	状		1	全文見せ消ち
25 22 8	25 22 7	25 22 6	25 22 5	25 22 4	25 22 3	証文之事 (借金証文) (借金証文)	嘉永三年戊辰七月十一日	185007011	山田屋新五郎(印)、吉右衛門(印)	大沼屋庄七殿	状		1	全文見せ消ち
25 22 8	25 22 7	25 22 6	25 22 5	25 22 4	25 22 3	証文之事 (借金証文) (借金証文)	嘉永三年四月廿七日	185004027	山田屋新五郎(印)	大沼屋庄七殿、権五郎殿	状		1	

[illegible]

[illegible]

	箱	表題（内容）	日付	西暦	差出人	受取人	形態	状態	臺数	備考
25 23 66	尊枝1	覚（頼母子預かり金につき）	午七月廿八日	999907028	大沼屋新助	山田屋新五郎	状		1	
	枝2									
	枝3									
	枝4									
	枝5									
25 23 66		覚（代物受取証文）	酉ノ六月廿九日	999906029	重兵衛（印）、九郎右衛門（印）	山田屋新五郎	状		1	
		覚（借用金返済遅延につき）	寛政元年十一月廿九日	178911029	借主・重兵衛（印）、口入・九郎右衛門（印）	山田屋新五郎殿	状		1	
		（書狀、品物勘定依頼）	九月十六日	999909016	圓田村北さかいより・斉藤勘四郎	村田町二而・山田屋新五郎	状		1	端裏書きあり、差出人・受取人は端裏書きより
		御荷桶之覚	同年（乙寅8年）二月二日	999902002	山内嘉右衛門（印）、永沼庄六（印）	村田町・新五郎殿ほか2名	状		1	
		（書狀、勘定依頼）	十二月廿五日	999912025	善四郎	山田屋新五郎様	状		1	
		（書狀、人足口入始末につき）	寛政四年十二月三日	179212003	遠山長之助（印）、口入本町・弥兵衛（印）	新五郎殿	状		1	端裏書きあり
		口上（金子借用願につき）	十一月七日	999911007	新介（印）	山田屋新五郎様	状		1	端裏書きあり、差出人・受取人は端裏書きより
		（書狀、太物残金の儀につき）	八月十二日	999908012	白石より・阿子嶋彦惣	新五郎様	状		1	
		本荷桶こはし指置目記	延宝五年九月四日	167709004	永沼庄六（印）（花押）	村田町酒や・新七殿	状		1	
		請狀之事					後欠		1	裏面を包紙として使用カ
		（書付け、詩歌書付け）							1	
		（書狀、年貢減免願下書き）							1	
		（書狀、紅花値引き依頼）	十月十五日	999910015	西村屋清九郎（印、金銀不用（赫叶）西清）	山田屋新五郎様、山田屋周蔵様	状		1	
		（書狀、入金につき）	六月朔日	999906001	西村屋清右衛門（印、（紫仁）清）	山田屋新五郎様ほか2名	状		1	端裏書きあり、日付年号・差出人・受取人は端裏書きより
		口上（金借用につき）	大晦日	999912099	幸八	新五郎様	状		1	
		（書狀、頼母子掛代借用願）	享保九年十一月十三日	171411013	三浦友平	本町・新七様	状		1	
		（書付け、名前書上げ）	正徳元年十二月廿八日	171112028	林七（印）	新五郎殿	状		1	
		（証書、金子預かり証文）	十二月廿一日	999912021	大沼屋正治郎	山田屋新五郎様ほか2名	状		1	端裏書きあり
		（書狀、紅花買付けにつき）	十一月十四日	999911014	松□屋四郎兵衛	村田町・山田新七殿	状		1	
		（書狀、無尽講につき）	貞享貳年丑ノ十二月四日	168512004	売主御足軽・孫惣（印）、しなん本町・喜兵々（印）	新五郎殿	状		1	
		（帳面断簡、酒造桶休桶につき）								

[illegible]

25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	箱
24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	尊
18	18	18	18	18	18	18	18	17	17	17	17	17	17	17	16	15	14	13	12	枝 1
9	8	7	6	5	4	3	2	1	8	7	6	5	4	3	2	1			2	枝 2
																				枝 3
																				枝 4
																				枝 5
(書付け、譲り状)																				表 題 (内 容)
月 元文二丁巳閏霜																				日 付
173711199																				西 暦
																				差 出 人
																				受取人
状	状	状	状	状	状	状	冊	状	冊	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	形態
																				状態
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	臺 数
																				備 考

[illegible]

[illegible]

26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	箱
8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	尊
24	23	22	21	20	19	18	17	17	16	15	14	枝1
							2	1				枝2
												枝3
												枝4
												枝5
認可状(明治三十一年度郵便為替貯金出納証明計算の検査を遂げ責任を解除す)	金七拾五銭(職務格別勉勵に付慰勞として)	認可状(明治廿九年年度郵便為替貯金出納証明計算の検査を遂げ責任を解除す)	金五拾銭(職務勉勵に付慰勞として)	金拾五銭(職務勉勵に付慰勞として)	仙郵発第三四一號(勉勵手当全七通送付状)	金五拾銭(職務勉勵に付慰勞として)	金七拾五銭(職務格別勉勵に付慰勞として)	金七拾五銭(職務格別勉勵に付慰勞として)	金壹円(職務勉勵につき手当として)	認可状(明治三十三年度郵便為替貯金出納証明計算の検査を遂げ責任を解除す)	金四円(職務格別勉勵に付慰勞として)	表 題 (内 容)
明治三十三年三月十五日	明治廿六年十二月廿八日	明治三十年十二月廿五日	明治廿八年十二月廿五日	明治廿六年十二月廿八日	明治三十年一月二十二日	明治廿八年十二月廿五日	明治三十三年十二月廿日	明治三十三年十二月廿日	明治廿九年十二月廿五日	明治三十五年三月十八日	明治廿九年二月五日	日付
190003015	189312028	189712025	189512025	189312028	189701022	189512025	190012020	190012020	189612025	190203018	189512025	西曆
通信大臣子爵・芳川顯正(印)	仙台郵便電信局	通信大臣子爵・野村靖(印)	仙台郵便電信局	仙台郵便電信局	仙台郵便電信局郵便課長・杉浦岩次郎	仙台郵便電信局	仙台郵便電信局	仙台郵便電信局	仙台郵便電信局	通信大臣子爵・芳川顯正(印)	仙台郵便電信局	差 出 人
郎長・山田新五	陸前国村田郵便局郵便為替貯金出納官吏三等郵便局	郎長・山田新五	陸前国村田郵便局郵便為替貯金出納官吏三等郵便局	陸前国村田郵便局郵便為替貯金出納官吏三等郵便局	村田郵便局長	配人・猪股清四郎	村田郵便局集田養吉	村田郵便電信局通送人・大村茂助	配人・猪股清四郎	電信局長・山田新五郎	陸前国村田郵便電信局郵便為替貯金出納官吏三等郵便局	受取人
状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	形態
												状態
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	点数
												備考

26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	箱 尊
8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	枝 1
38	37	36	35	34	33	32	31	30	30	29	28	27	26	25	枝 2
								2	1						枝 3
															枝 4
															枝 5
通知状 (事務格別勉勵につき慰勞金四円給与 明治三十一年十 二月十五日)	通知状 (事務格別勉勵につき慰勞金五円給与 明治三十年十二 月十五日)	通知状 (事務格別勉勵につき慰勞金三円給与 明治廿九年十二 月十五日)	履歴書 (山田新五郎)	辞令 仙監発第九三五号 (郵便局長へ任命 明治三十二年十 二月廿三日)	郵務研究会々則 仙監発第二一九二号 (別紙辞令取り纏 め) 明治廿九年三月 三十日	仙郵発第二一九二号 (郵便物窃取の監督 不周のため文官懲戒) 明治三十三年五 月九日	秘発第一二九六号 (郵便物窃取の監督 不周のため文官懲戒) 明治三十三年五 月九日	仙監発第六八八三号 (事務勉勵慰勞手 当運配通知書) 明治三十一年十 二月二十七日	仙監発第六八七号 (発令書送付状) 明治三十一年十 二月二十六日	金五拾銭 (事務格別勉勵に付手当とし て) 明治廿九年三月 三十日	認可状 (明治廿七年度郵便為替貯金出 納証明計算の検査を遂げ責任を解除す) 明治二十八年十 二月二十日	認可状 (明治二十五年郵便為替貯金出 納の計算を正当と判決し責任を解除す) 明治二十六年十 二月十一日	認可状 (明治二十八年郵便為替貯金 出納証明計算の検査を遂げ責任を解除 す) 明治三十年二月 十日	金七拾五銭 (職務勉勵に付手当として) 明治廿九年十二 月廿五日	表 題 (内 容)
明治三十一年十 二月十五日	明治三十年十二 月十五日	明治廿九年十二 月十五日		明治三十二年十 二月廿三日	明治廿九年三月 三十日	明治三十三年五 月九日	明治三十三年五 月九日	明治三十一年十 二月二十七日	明治三十一年十 二月二十六日	明治廿九年三月 三十日	明治二十八年十 二月二十日	明治二十六年十 二月十一日	明治三十年二月 十日	明治廿九年十二 月廿五日	日 付
189812015	189712015	189612015		189912023	189603030	190003009	189812027	189812026	189603030	189612020	189512020	189312011	189702010	189612025	西 暦
通信省	通信省	通信省	山田新五郎 (印)	仙台郵便電信局長・久万祐 (印)	仙台郵便局郵便課長・西川晋 (印)、 電信課長・弥石柔嘉 (印)	通信大臣子爵・芳川顕正 (印)	仙台郵便電信局監理課長 (長尚連)	仙台郵便電信局監理課長・長尚連 (印)	仙台郵便電信局	通信大臣・白根專一 (印)	通信大臣伯爵・黒田清隆 (印)	通信大臣伯爵・黒田清隆 (印)	通信大臣子爵・野村靖 (印)	仙台郵便電信局	差 出 人
郎長・山田新五 村田郵便局	郎長・山田新五 村田郵便局	郎長・山田新五 村田郵便局	三等郵便局 郎長・山田新五	村田郵便局長 山田新五郎殿	殿 村田郵便局長	五郎 村田郵便電信 局長・山田新	郵便局長殿 村田郵便電信 局長・山田新	三等郵便電信 局長殿 村田郵便電信 局長殿	村田郵便局 備・山田豊治	郎長・山田新五 村田郵便局	陸前国村田郵 便局郵便為替 貯金出納官吏 三等郵便局 長・山田新五	陸前国村田郵 便局郵便為替 貯金出納官吏 三等郵便局 長・山田新五	陸前国村田郵 便局郵便為替 貯金出納官吏 三等郵便局 長・山田新五	村田郵便局通 送人・小石川 彦治	受取人
状	状	状	状	状	冊	状	状	状	状	状	状	状	状	状	形態
			挟み込み文 書あり												状態
1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	臺 数
															備 考

	箱	表題（内容）	日付	西暦	差出人	受取人	形態	状態	臺数	備考
26	10	明治廿五年度為替貯金計算書	明治廿六年四月二日	189304002	陸前国村田郵便局為替貯金出納官吏・山田新五郎	會計検査院長子爵・渡邊昇殿	狀		1	
26	10	明治廿七年度為替貯金計算書	明治廿八年四月一日	189304001	陸前国村田郵便局為替貯金出納官吏・山田新五郎	會計検査院長・渡邊昇殿	狀		1	
26	10	明治廿八年度為替貯金計算書	明治廿九年四月二日	189604002	陸前国村田郵便局為替貯金出納官吏・山田新五郎	會計検査院長・渡邊昇殿	狀		1	
26	10	明治三十一年度為替貯金計算書	明治三十二年四月五日	189904005	陸前国村田郵便局為替貯金出納官吏・山田新五郎	會計検査院長・渡邊昇殿	狀		1	
26	10	明治三十九年度現金出納計算書	明治四十年四月二日	190704002	陸前国村田郵便局分任出納官吏三等郵便局長・山田新五郎（印）	會計検査院長法学博士男爵・田尻稻次郎殿	狀		1	
26	10	検定書（山田新五郎の帳簿全權を檢查した成績）	明治四十年三月三十一日	190703031	検査員通信事務員・山田豊治（印）、陸前国村田郵便局分任出納官吏三等郵便局長・山田新五郎（印）		狀		1	
26	10	明治三十八年度現金出納計算書	明治三十九年四月三日	190604003	陸前国村田郵便局分任出納官吏・山田新五郎（印）	會計検査院長法学博士男爵・田尻稻次郎殿	狀		1	
26	10	明治三十年度為替貯金計算書	明治三十一年四月七日	189804007	陸前国村田郵便電信局為替貯金出納官吏・山田新五郎	會計検査院長・内海忠勝殿	狀		1	
26	10	明治三十二年度為替貯金計算書	明治三十三年四月二日	190004002	陸前国村田郵便電信局為替貯金出納官吏・山田新五郎	會計検査院長・内海忠勝殿	狀		1	
26	10	（包紙、明治四十一年度分迄現金出納計算表在中）			通信協会	村田郵便局	狀		1	
26	10	認可状（明治三十年度郵便為替貯金出納の証明の計算を檢査し其責任を解除す）	明治三十二年三月十五日	189903015	通信大臣子爵・芳川顕正（印）	陸前国村田郵便局郵便為替貯金出納官吏三等郵便局長・山田新五郎	狀		1	
26	8	通知状 （事務格別勉勵につき慰勞金三円給与通知状）	明治廿九年十二月廿五日	189612025	仙台郵便電信局	陸前国村田郵便局通常雇員・善積隆造	狀		1	
26	8	（事務格別勉勵につき慰勞金五円給与通知状）	明治三十三年十月十五日	190012015	通信省	三等郵便電信局長・山田新五郎	狀		1	

26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	箱 尊
10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	枝 1
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	枝 2
19	19	18	18	17	17	16	15	14	13	12	11	枝 3
2	1	2	1	2	1							枝 4
												枝 5
明治四十一年度現金出納計算書	検定書（山田新五郎の帳簿全櫃を検査した成績）	明治四十年度現金出納計算書	検定書（山田新五郎の帳簿全櫃を検査した成績）	明治三十七年度現金出納計算書	検定書（山田新五郎の帳簿全櫃を検査した成績）	明治三十五年度郵便為替貯金取立金出納計算書	明治三十四年度為替貯金計算書	明治三十六年度郵便為替貯金取立金出納計算書	明治廿五年度為替貯金計算書	明治 年度 為替貯金計算書	明治廿六年度為替貯金計算書	表 題 （内 容）
明治四十一年四月一日	明治四十一年三月三十一日	明治四十一年四月一日	明治四十一年三月三十一日	明治三十八年四月三日	明治三十八年四月一日	明治三十六年四月一日	明治三十五年四月四日	明治三十七年四月三日	明治廿五年九月四日		明治廿七年四月二日	日付
190904001	190803031	190804001	190803031	190504003	190504001	190304001	190204004	190404003	189209004		189404002	西暦
陸前国村田郵便局分任出納官吏三等郵便局長・山田新五郎（印）	検査員 通信事務員・山田豊治（印）、陸前国村田郵便局分任出納官吏三等郵便局長・山田新五郎（印）	陸前国村田郵便局分任出納官吏三等郵便局長・山田新五郎（印）	検査員 通信事務員・山田豊治（印）、陸前国村田郵便局分任出納官吏三等郵便局長・山田新五郎（印）	陸前国村田郵便局分任出納官吏・山田新五郎（印）	通信事務員・山田豊治（印）、陸前国村田郵便局分任出納官吏三等郵便局長・山田新五郎（印）	陸前国村田郵便局為替貯金出納官吏・山田新五郎（印）	陸前国村田郵便電信局為替貯金出納官吏・山田新五郎	陸前国村田郵便局為替貯金出納官吏・山田新五郎（印）	陸前国故村田郵便局長佐藤文五郎代理元雇大沼松五郎（印）	陸前国故村田郵便局長佐藤文五郎代理元雇大沼松五郎（印）	陸前国村田郵便局為替貯金出納官吏・山田新五郎	差 出 人
會計検査院長 法学博士子 爵・田尻稲次郎殿		會計検査院長 法学博士子 爵・田尻稲次郎殿		會計検査院長 法学博士男 爵・田尻稲次郎殿		會計検査院長 男爵・田尻稲次郎殿	會計検査院長 男爵・田尻稲次郎殿	會計検査院長 法学博士男 爵・田尻稲次郎殿	會計検査院長 子爵・渡邊昇殿	會計検査院長 子爵・渡邊昇殿	會計検査院長 子爵・渡邊昇殿	受取人
状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	形態
									付札「別紙へ御調整有之度候也」あり			状態
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	表 数
												備 考

箱	表題(内容)	日付	西暦	差出人	受取人	形態	状態	頁数	備考
26	認可状(明治四十年現金出納会計の証明計算の検査を遂げ其の責任を解除す)	明治四十二年三月二十五日	190903025	通信大臣男爵・後藤新平(印)	村田郵便局分任出納官吏三	状		1	
26	認可状(明治三十九年度現金出納会計の証明計算の検査を遂げ其の責任を解除す)	明治四十一年三月二十五日	190803025	通信大臣・原敬(印)	村田郵便局分任出納官吏三	状		1	
26	認可状(明治三十八年度現金出納会計の証明計算の検査を遂げ其の責任を解除す)	明治四十年十二月十五日	190712015	通信大臣・山県伊三郎(印)	村田郵便局分任出納官吏三	状		1	
26	認可状(明治三十五年郵便為替貯金及び取立金出納会計の証明計算の検査を遂げ其の責任を解除す)	明治三十六年十二月二十日	190312020	通信大臣・大浦兼武	山田郵便局長・山田新五郎	状		1	
26	明治三十三年為替貯金計算書	明治三十四年四月二日	190104002	陸前国村田郵便電信局為替貯金出納官吏・山田新五郎	會計検査院長・内海忠勝殿	冊		1	絵の書込みあり
26	萬覺牒	明治廿年亥二月吉日	188702099	柴田郡村田郷本町五十四番地平民・山田豊治	龍吟禪師様	冊		1	
26	和歌書付			季昂・東洋(印)		冊		1	
26	沼部吉右衛門殿分(金高書上)					冊		1	
26	記(買入代金渡し証)	旧九月七日	999909007	月番利助	山新様	冊		1	
26	萬龜(書)					冊	後欠	1	
26	兩親対面済引(献立)					冊		1	
26	壽之間床飾	十一月十二日	999911012			冊		1	
26	龜直本膳					冊		1	
26	吊詞(山田新五郎君逝去の哀悼の意を表す)	大正六年十一月十三日	191711013	宮城県第一仙南四郡通信事務研究会代表者大河原郵便局長從七位勲八等・佐藤源三郎		状		1	
26	吊詞(包紙)					状		1	
26	祝辞(村田局特設電話開通式挙行につき)	大正四年拾壹月二十二日	191511022	大沼新三郎		状		1	
26	祝辞(村田局特設電話開通式挙行につき)	大正四年十一月廿二日	191511022	大河原郵便局長正八位勲八等 佐藤源三郎		状		1	
26	祝辞(村田局特設電話開通式挙行につき)	大正四年十一月廿二日	191511022	田山専之丞		状		1	

箱	尊	枝	表	題	(内)	容)	日付	西曆	差出人	受取人	形態	状態	臺数	備考
26	18	9				(追悼状、日本赤十字社正社員山田新五郎氏病没につき)	大正六年十一月十三日	191711013	日本赤十字社宮城支部長 從四位勲四等 濱田恒之助		狀		1	
26	18	8				祝詞(円田郵便局新設につき)	明治四十三年五月十六日	191005016	村田郵便局長 山田新五郎		狀		1	
26	18	7				祝詞(下書き・円田郵便局新設につき)	大正四年十一月廿二日	191511022	村田特設電話組合長 田山孫八		狀		1	
26	18	6				(式辞、村田町特設電話開通式)	大正六年十一月十三日	191711013	村田禁酒会員 山家為三郎		狀		1	
26	18	5				弔詞(山田新五郎君の霊前に告ぐ)	大正六年十一月十三日	191711013	宮城県三等局長会長 白石郵便局長從七位勲七等鈴木清之輔		狀		1	
26	18	4				(追悼状、村田郵便局長山田新五郎君永眠につき)	大正四年十一月十三日	191511022	村田郵便局長 山田新五郎		狀		1	
26	18	3				祝詞(包紙)	大正四年十一月廿二日	191511022	村田尋常高等小学校 佐久間喜左衛門		狀		1	
26	18	2				祝詞(特設電話開通式)	明治四十四年七月八日	191107008	星勝之助		狀		1	
26	18	1				弔詞(学務委員山田新五郎翁の靈へ)	明治四十四年七月八日	191107008	宮城県三等郵便局長協議会長 白石郵便局長正八位勲八等鈴木清之輔		狀		1	
26	17	20				弔詞(柴田郡村田町郵便局長山田新五郎君の霊前に告ぐ)	明治四十四年七月八日	191107008	村田町長 田山孫八		狀		1	
26	17	19				(弔辞、村田郵便局長・学務委員山田新五郎君哀悼)	明治四十六年十一月十三日	191711013	隣局惣代 円田郵便局長 佐藤善八		狀		1	
26	17	22				弔詞(村田郵便局長山田新五郎君の霊前に告ぐ)	大正六年十一月十三日	191711013	村田郵便局逋送集配人惣代 山田喜藏		狀		1	
26	17	21				祝詞(特設電話開通式)	大正四年十一月廿二日	191511022	通信局技手 河合忠兵		狀		1	
26	17	24				(金錢通)	(明治)四十年五月廿九日	190705029	(山一) 西村商店	井長兵工廠	狀	前後欠	6	点数は概数
26	18	2				(罰紙、未記入)	(明治)四十年拾月卅壹日	190710031	(山二) 西村商店		狀		1	
26	18	3				(金錢通)	大正五年拾月貳日	191610002	(山二) 西村商店	名取郡西多賀村富澤庄子文助殿	狀	前後欠	1	
26	18	4				(金錢通)	八月八日	999908008	(山一) 西村商店		狀	前欠	1	
26	18	5				(金錢通)	八月八日	999908008	(山一) 西村商店		狀	前欠	1	
26	18	6				(金錢通)	(明治)四十年五月二日	190705002	(山一) 西村商店	清太郎殿	狀		1	
26	18	7				(金錢通)	(明治)廿九年十月四日	189610004	(山二) 西村商店	吉太郎殿	狀		1	
26	18	8				(名簿)			(山二) 西村商店	吉殿ほか7名	狀		1	

[illegible]

[illegible]

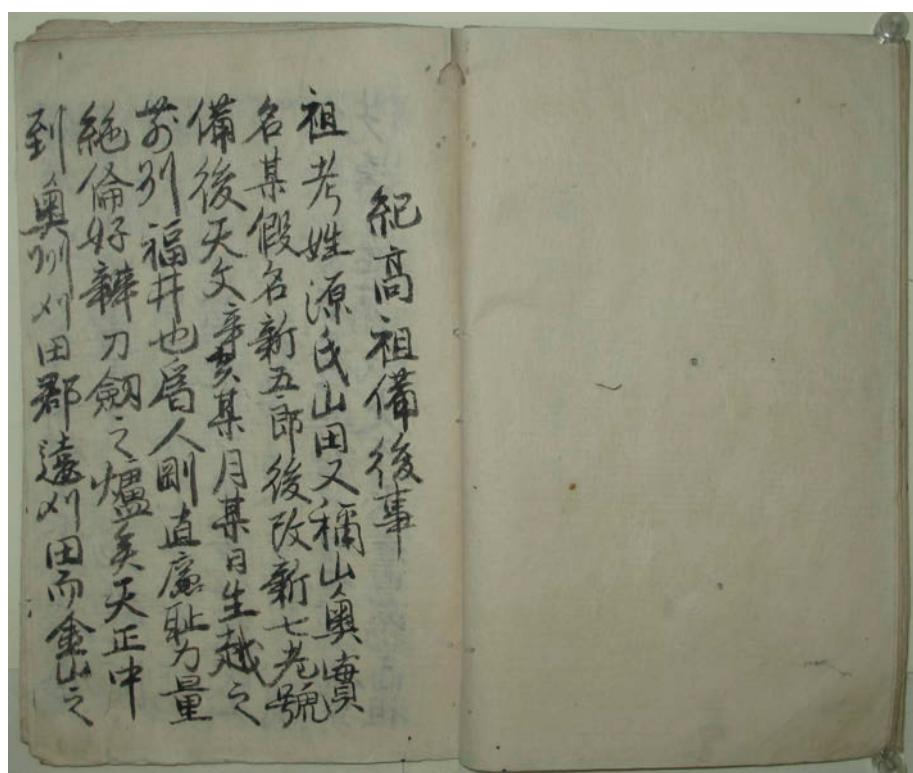
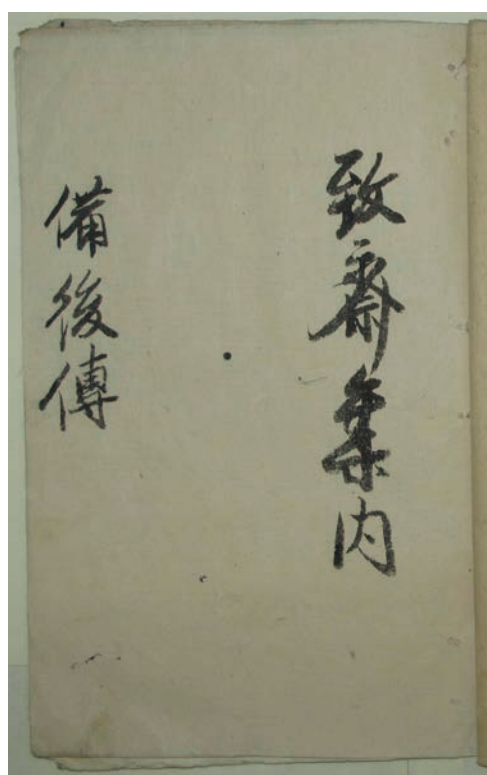
箱 尊	枝1	枝2	枝3	枝4	枝5	表 題 (内 容)	日 付	西 暦	差 出 人	受 取 人	形 態	状 態	臺 数	備 考
27	13					(手帳)	(大正8年)	191999999			冊	栗(二十月分)と記載)挿入あり	1	
27	14					(メモ帳)					冊		1	
27	15					(年賀はがき、仙台郵便局長・管理課員集合写真)	明治四十三年一月一日	191001001	福田長次郎ほか28名	宮城県村田郵便局御中	冊		1	
27	16					(絵葉書、皇太子殿下行啓記念)	(41・10・31 8消印)	190810003	宮城県(製作)		冊	未使用	1	
27	17					(絵葉書、万国郵便連合加盟廿五季祝典記念・横浜郵便局他の図)	(1902)	190299999	通信省発行・印刷局印刷		冊	未使用	1	
27	17	1				(絵葉書、万国郵便連合加盟廿五季祝典記念・加通当時の駅通局他の図)	(1902)	190299999	通信省発行・印刷局印刷		冊	未使用	1	
27	17	2				(絵葉書、万国郵便連合加盟廿五季祝典記念・山陽道汽車進行中の図)	(1902)	190299999	通信省発行・印刷局印刷		冊	未使用	1	
27	17	3				(絵葉書、万国郵便連合加盟廿五季祝典記念・東京郵便電信局舎と郵便発着口の図)	(1902)	190299999	通信省発行・印刷局印刷		冊	未使用	1	
27	17	4				(絵葉書、万国郵便連合加盟廿五季祝典記念・日本交通地図)	(1902)	190299999	通信省発行・印刷局印刷		冊	未使用	1	
27	17	5				戦役記念郵便絵葉書(第三回発行・一組三種)			通信省発行		冊	未使用、括弧共	4	
27	18					安神散(氣付け薬)			本家越中富山高堂屋八兵衛・出店秋田久保田大町二丁目		冊	粉薬入り包紙共	2	
27	19					(演説草稿カ、吾人の進むべき道は困難で勤勉と努力が必要な旨)			Yanada & Tayama		冊		1	
27	20					(金領収日の書付)					冊		1	
27	21					(包紙、「当町仮検断被仰付并御免御末書御聞御判御代官様願書入」)	延享二乙丑年	174399999	須敬	村田町山田屋新五郎様	冊		1	
A	3	1				(包紙、「前葉百俵米之御蔵入書付」)			吉□		冊		1	
A	3	2				(書状)	五月八日	999905008	理助	新五郎様	冊		1	
A	3	3				(証文、米百俵預かり証)	とらノ五月七日	999905007	石田理助(印)	村田町山田新五郎殿	冊		1	
A	3	3				乍慮外口上書を以願申上候事(明神様の御道具についで)	元文四年十月吉日	173910099	仙台南町松坂屋利三郎	山田屋新七様	冊	包紙・括り紐共	3	
A	3	4				南町今市立前之儀奉願候二付添翰を以乍憚品々申上候御事	延享式年七月十日	174507019	仮検断新五郎(印)	儀右衛門様、又左右衛門様	冊		1	
A	3	5				乍恐奉願候御事	延享二年八月十九日	174508019	村田町仮検断新五郎	大肝入佐山八郎兵衛殿	冊		1	
A	3	6				仮検断御免大肝入殿今	延享二乙丑年閏十二月	174512199	須敬記		冊		1	
A	3	7				南町今市立前之儀奉願候二付添翰を以乍憚品々申上候御事					冊	後欠	1	

箱	尊	枝1	枝2	枝3	枝4	枝5	表題（内容）	日付	西暦	差出人	受取人	形態	状態	臺数	備考
A	3	1	21				（往昔の村田館主・秀衡などにつき書付）					状		1	
A	3	1	20				（金借用証文）	天和式年十二月二日	168212002	川村孫兵衛（花押） ほか4名	柴田郡村田町新五郎との	状		1	
A	3	1	19				（金借用証文）	天和三年八月二日	168308002	川村孫兵衛（花押） ほか2名	柴田郡村田町新五郎との	状	後欠	1	
A	3	1	18				乍恐奉願候御事	延享式年閏十二月	174512199	村田町仮検断新五郎	大肝煎佐山八郎兵衛殿	状		1	
A	3	1	17				（出入申送状）	享保二十年四月十二日	173504012	芝多文九郎内武沢覚右衛門	村田町肝煎清四郎殿、同町	状		1	
A	3	1	16				宗旨証文之事	寛永元甲申年九月廿八日	162409028	京知恩院末寺大善寺摂誓（花押）	柴田郡村田町山田屋新五郎殿	状		1	
A	3	1	15				仮検断御免申上候書付	延享式年八月七日	174508007	仮検断新五郎	儀右衛門様、又左右衛門様	状		1	
A	3	1	14				（女房息子惣三郎への金子合力の約束手形）	享保式拾壹年二月十二日	173602012	刈田郡宮村肝入四郎七（印）、柴田郡沼田村仲人五兵衛	柴田郡村田町新七殿	状		1	
A	3	1	13				乍恐口上之覚書を以奉伺候御事	延享式年閏十二月七日	174512107	本町仮検断新五郎	儀右衛門様、又左右衛門様	状		1	
A	3	1	12				乍恐奉願候御事（控）	延享式年閏十二月七日	174512107	村田町仮検断新五郎	大肝入佐山八郎兵衛殿	状		1	「伊具郡角田天神町岩間屋惣内殿之相渡候書付、惣内殿直筆也」
A	3	1	11				（包紙、「御村書札年賦皆済申候覚書壹枚」）					状		1	
A	3	1	10				（年賦皆済証文）	元文五年閏七月廿五日	174007125	伊具郡角田天神町惣内、同町新四郎、惣三郎	柴田郡村田町新七殿、新五郎殿	状		1	
A	3	1	9				口上之覚書を以申上候御事	延享式年七月廿九日	174507029	本町南町仮検断新五郎（印）	儀右衛門様、又左右衛門様	状		1	
A	3	1	8				乍恐奉願候御事（一番町検断丹左衛門病氣につき療治中御暇願）	延享式年四月九日	174504099	村田町仮検断御蔵守彦六（印）	大肝入佐山八郎兵衛殿	状		1	
A	3	1	7				乍恐奉願候御事（当町検断・御蔵守を拙者に仰せ付けらるるに付）	十一月十九日	999911019	茂庭町四郎右衛門	儀右衛門様、又左右衛門様	状		1	
A	3	1	6				（欠番）	延享式年八月	174508099	仮検断新五郎（印）	儀右衛門様、又左右衛門様	状		1	
A	3	1	5				覚（金子預証文）	正月十八日	999901018	理助（印）	山田新五郎殿	状		1	

五 史料編（画像）

I 山田家の歴史

〔1〕 備後伝（享保二五（一七三〇）年、一八一三）



賑倉客交易主村田本町遠藤
藤八郎家遂卜居於此地設一酒
肆沽酒而旁力農以營生業此地
有清酒蓋始於此人云娶伴藤氏生
一男一女長者新五郎更名新七老補
備後次女名春適樋口氏後諸祝賀
先壽遠藤氏是不忘舊故也高祖

雄力大出群足二人以敵數人冬日蹈履
背負米三俵而兩腋授二俵而運從他
所數也荒町有大沼將監者見之驚
歎之餘戲將試其力立所累積米
累上待其過躍到其頂上取米盡折
摧不顯仆徐回頭為誰而并負之
行步如初大沼氏愕然云噫子之
雄力不可測乃飛下微笑相去遠

境禪梵如出於一口此尋本願寺宗
流屢徙若立村願律寺住僧怠行
時偶回村西窪之鰥夫有圓頂號道
願坊者而修他力念佛門又磨尖尾
刀使屠業也訪之約為檀那後以越
之中別行脚僧一向宗權宅云為道
願之後住且遣權宅於京師東本
願寺請得寺號西安寺是也當

時領主 村田力好哥或云 每逢
宗高公之時 於仙臺之第享
未也孰是 國君貞山公欲求美酒於家上以
為之饗食已迫期日不可及也於是自
仙臺急遣來經平之於村田奉備後
購求美酒於家上備後謹奉
命即獨為昏夜往山躬經迴酒肆

七所以試其義惡醇酒買養酒盛
二樽親自旅歸此日已期而
國君未入第於是公大喜曰不以
苦艱爲勞使我忘不饑食之醜可
謂老而益壯者也
國君其甚酒公甚悅美爲賞之
併所宅之餘地盡下賜之則并之

歸家建四柱於田畦以象家形此
一夜寐漸造營家室子孫相繼
居也猶子十以者遠來自越之
此人亦有力一日灑酒以澆酒謬布
置舟之其址一隅不平不流出無壘
之十和輒取酒舟之一隅而輕揚之以
加礎石人皆歎賞也寬永戊辰秋

備後從政因逢親戚舊故共談從
事且遷京師謁于東本願寺宣如
上人自筆賜六字子九字之佛號及法
諱於道意也遲留之間尋名境探古
跡殊詣于伴勢兩宮而歸家矣委任
世中於嗣子新五郎幽居後園寬永
辛未八月十九日奉以病歿因得看氏
謚效喜葬於加野山此嘗卜宅北除

五患之地也正係丁亥季冬嗣子新
五郎家定而確看糧米以給新歲
一月之食備後自親有年五斗米云
爲我確看之使自戶外投之恰如
小枕也慶安戊子年二月八日以奉
終焉壽九十有八第久化于加野山
子孫徃其所哭泣收骨于此山東南所
庄以老同徃其所此人肥大畧有力

好角力也陳氏而見之願骨不嘗
燒碑人皆以奇之安達氏取而蒙
之願緩心以所獲之酒盛之更不滴
洩也皆云生時力強死後骨堅矣
盡集其骨而藏之為以葬也如今
我聞其行狀屢歷之詳無知者所
遺憾哉唯幼年須留祖母於法

之語於旁耳而記其三以傳子
孫云享年八十歲戊之年歲六月
十日越前屋山田須敬謹識

須敬

謹云今天下靡然惑胡因

淳厚氏之弗說甚者空辨

父祖之尸使子孫大陷不孝之罪
筆哉志聖遺得略聞其罔
每惟念祖先之失葬未嘗悲
痛嘆息哉因書以示子孫也

男由兒小名千松後云新四郎
六改新五郎白石新男嶺山崎
氏之女生一女早死元祿四拜年
十二月廿日病死矣弟神名
次郎卿大河原町為大泉氏
之妻居子壽山田氏也皆大泉氏
之婦所產也兄強而服束于此

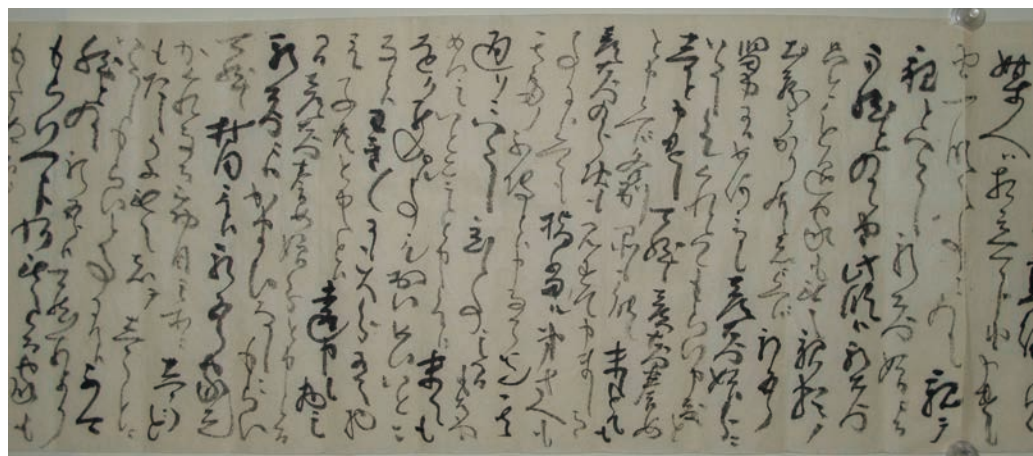
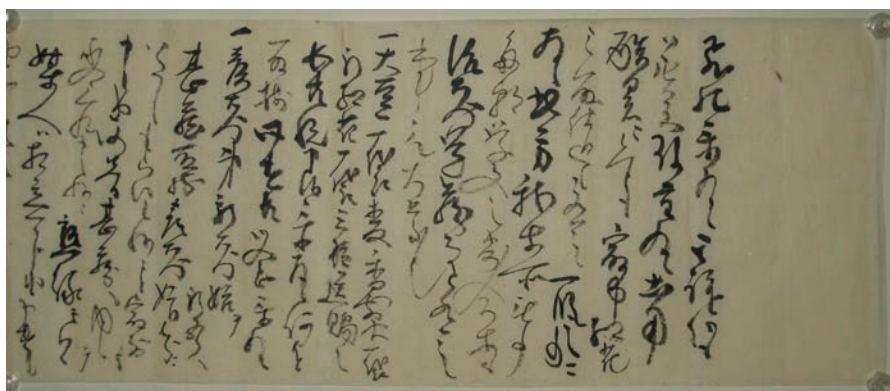
嘗好酒。病同六年。十二月
辛酉年。死也。其則吾家
 新五郎至僕。世數十三郎
 七也。仍書。

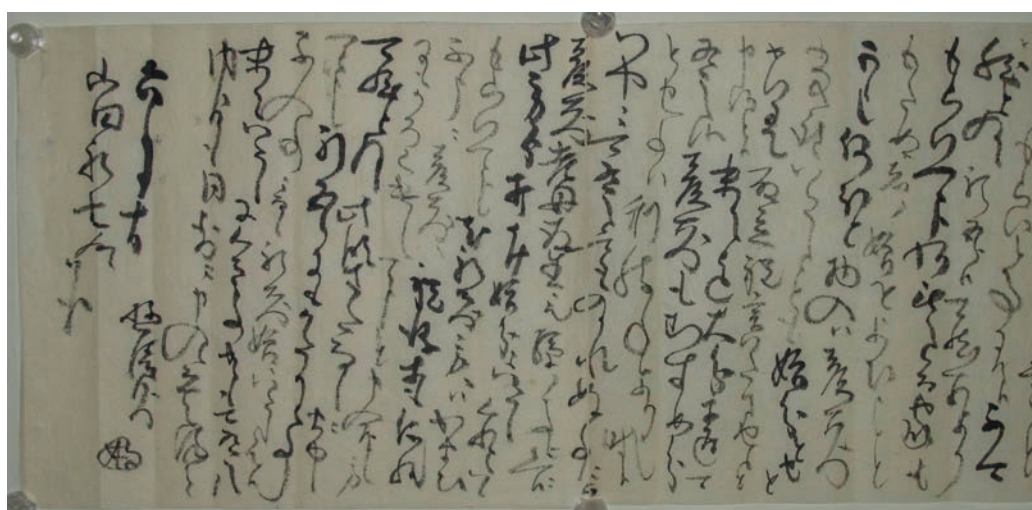
致齋須敬記

[illegible]

Ⅱ 山田家の交流

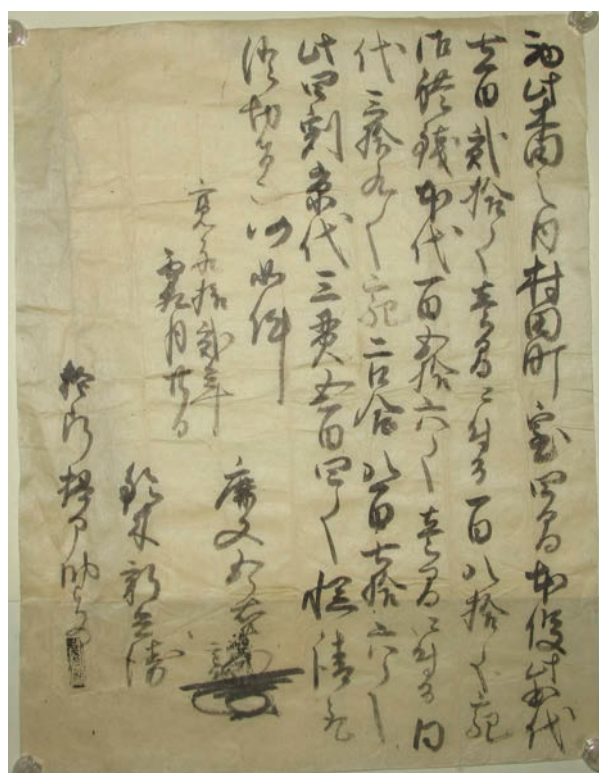
〔3〕 (山田新七宛遊佐清左衛門 (木斎) 書状) (年未詳、一六一
三―八一二)





〔4〕（本役銭受領証）〔寛永一二（一六三五）年、二五―二三―

三五



〔5〕 (川村孫兵衛他借用証文) (天和二(一六八二)年、A
三一一八一二)

右金紋為借所實心也
月壹歩之利息と加
束年亥七月元利
共可返下也

天和貳年十二月二日

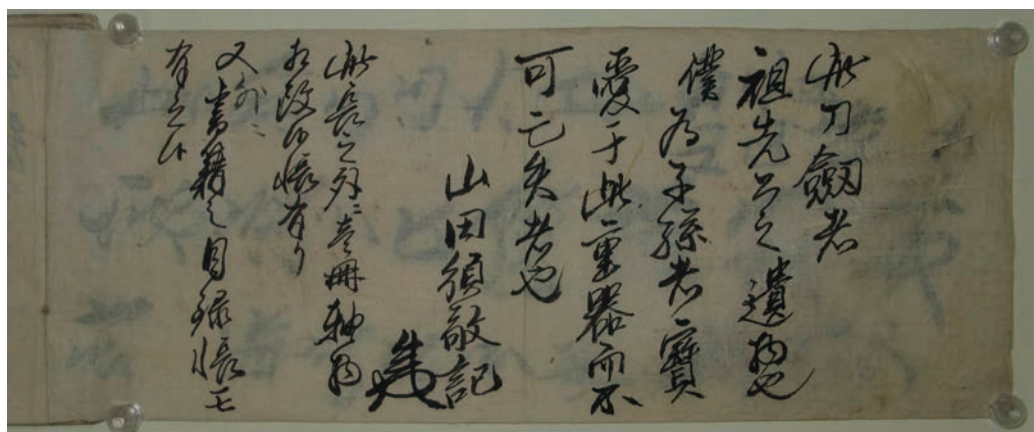
川村孫兵衛
大町清九郎

大町清九郎
松本仲兵衛
遠坂角四郎
北村中務
松本新助
大町清九郎
新助



[7] 家蔵之刀剣相改帳（享保一〇〇〜二七

二五）年、一八一六二）



一 束圓後 刀差腰
 腰中ヨリ長九寸五分、
 腰埋忠目費極花
 切羽を金根極葉
 毎月計元二角五分、
 一人一羽ふち八羽、
 二九内つて一級、
 考り高知に御宅の時御
 子も受て高知に御宅の時
 御宅の外腰長波御宅の時
 御宅の時御宅の時

一 圓後 小腰
 長九寸九分、
 腰埋忠目費極花
 切羽を金根極葉
 毎月計元二角五分、
 一人一羽ふち八羽、
 二九内つて一級、
 考り高知に御宅の時御
 子も受て高知に御宅の時
 御宅の外腰長波御宅の時
 御宅の時御宅の時

一 束圓先 小腰
 長八寸九分、
 腰埋忠目費極花
 切羽を金根極葉
 毎月計元二角五分、
 一人一羽ふち八羽、
 二九内つて一級、
 考り高知に御宅の時御
 子も受て高知に御宅の時
 御宅の外腰長波御宅の時
 御宅の時御宅の時

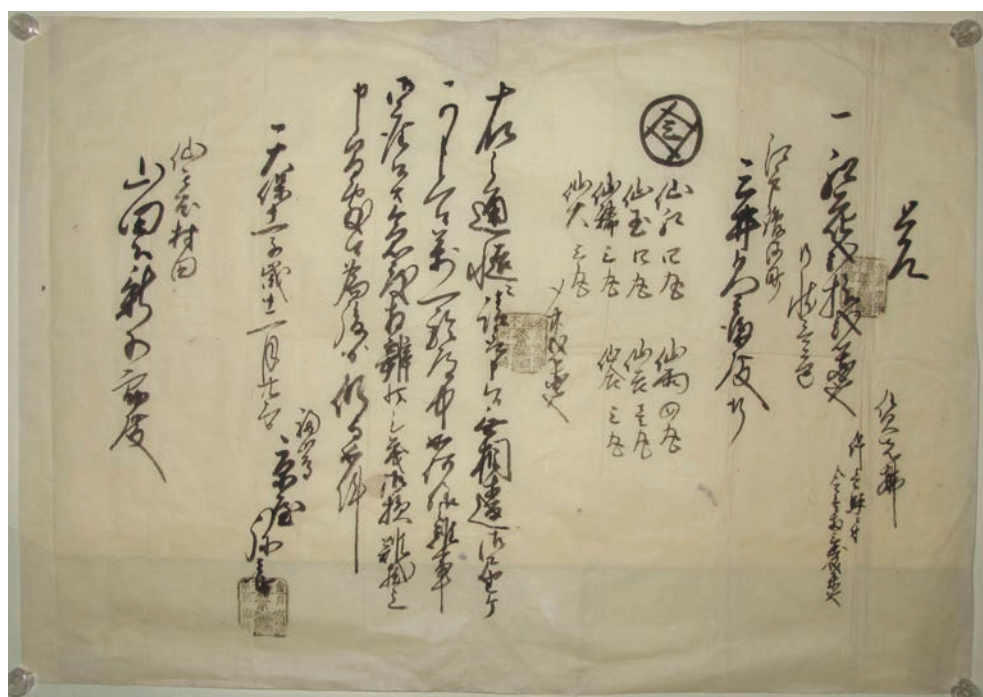
一 圓先 小腰
 長八寸九分、
 腰埋忠目費極花
 切羽を金根極葉
 毎月計元二角五分、
 一人一羽ふち八羽、
 二九内つて一級、
 考り高知に御宅の時御
 子も受て高知に御宅の時
 御宅の外腰長波御宅の時
 御宅の時御宅の時

一 束圓先 小腰
 長八寸九分、
 腰埋忠目費極花
 切羽を金根極葉
 毎月計元二角五分、
 一人一羽ふち八羽、
 二九内つて一級、
 考り高知に御宅の時御
 子も受て高知に御宅の時
 御宅の外腰長波御宅の時
 御宅の時御宅の時

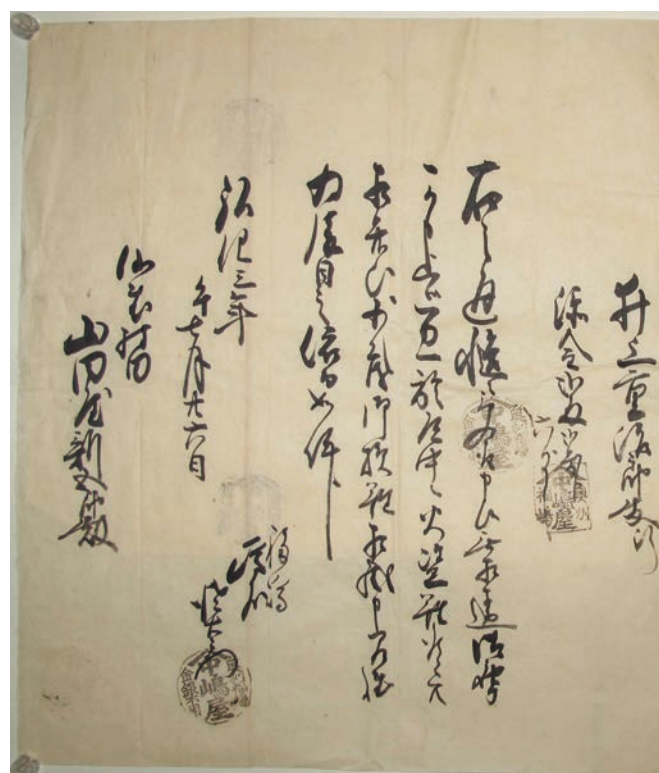
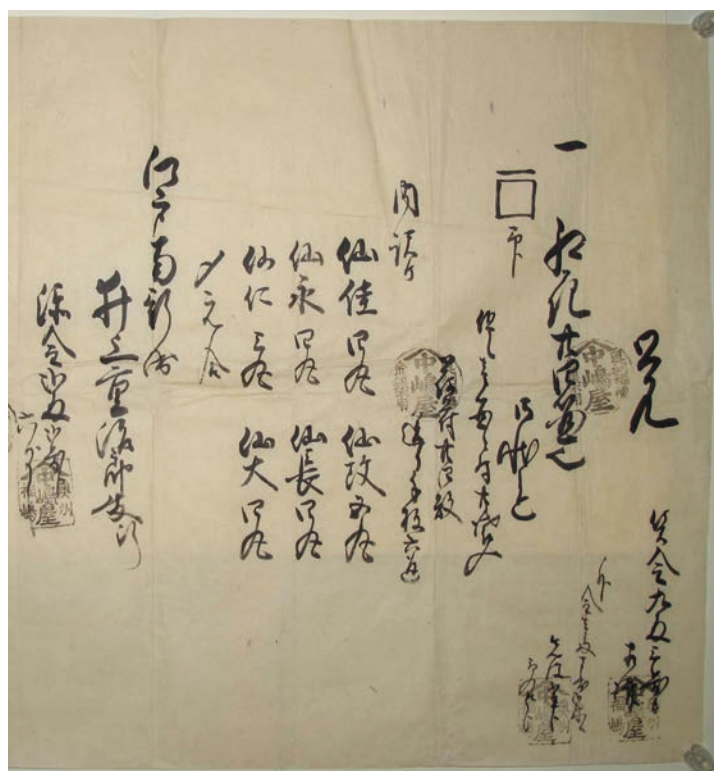
一 圓先 小腰
 長八寸九分、
 腰埋忠目費極花
 切羽を金根極葉
 毎月計元二角五分、
 一人一羽ふち八羽、
 二九内つて一級、
 考り高知に御宅の時御
 子も受て高知に御宅の時
 御宅の外腰長波御宅の時
 御宅の時御宅の時

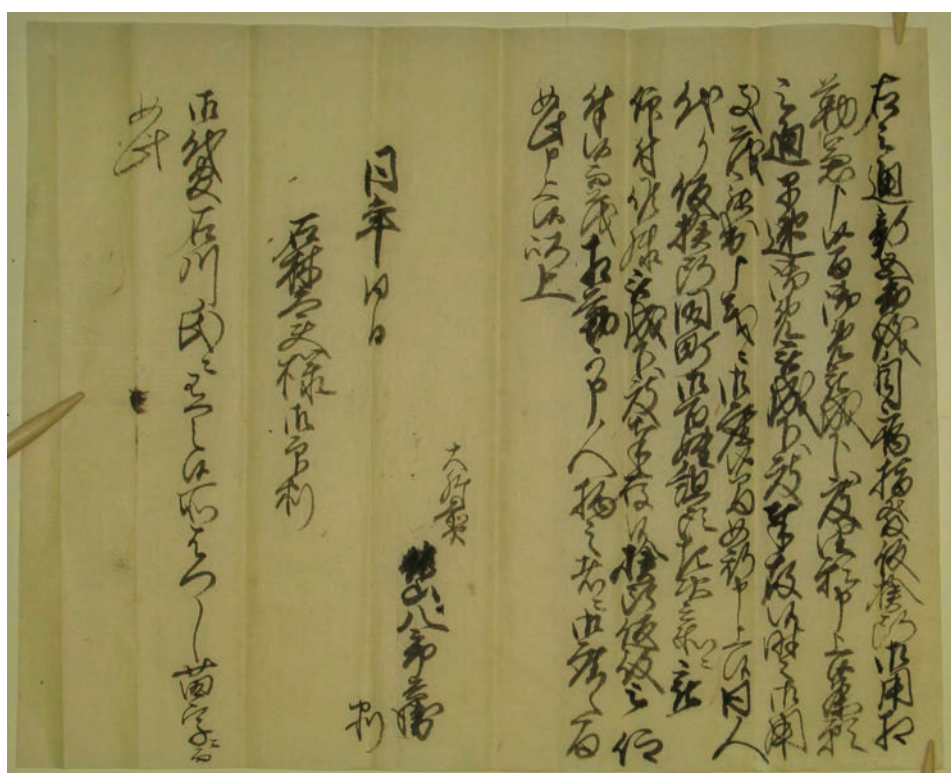
内三子

Slide.



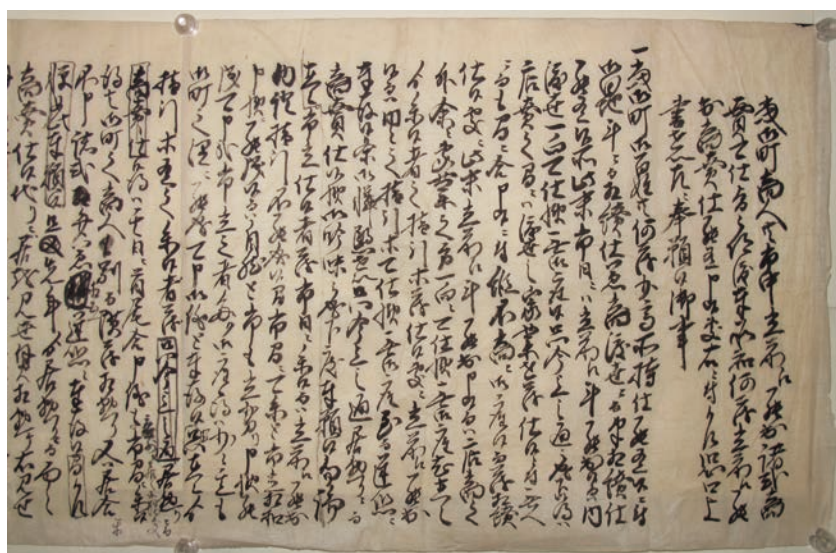
〔8〕 覚〔天保一一（一八四〇）年、二五一六―四四〕

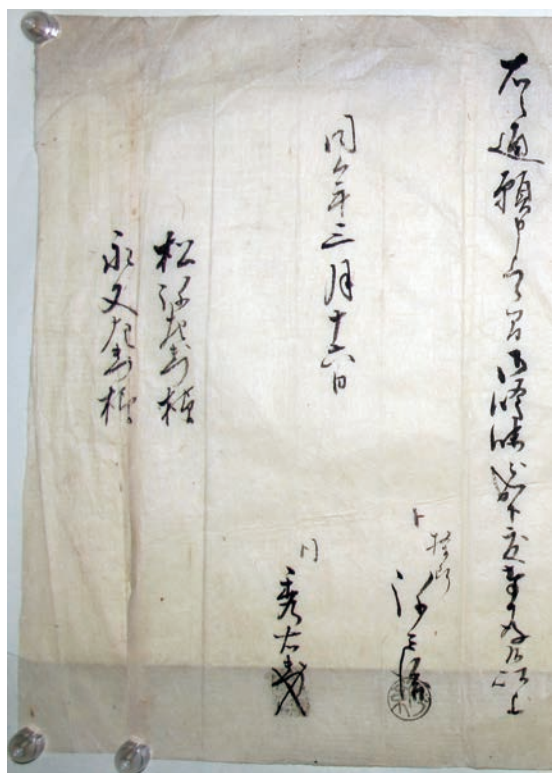
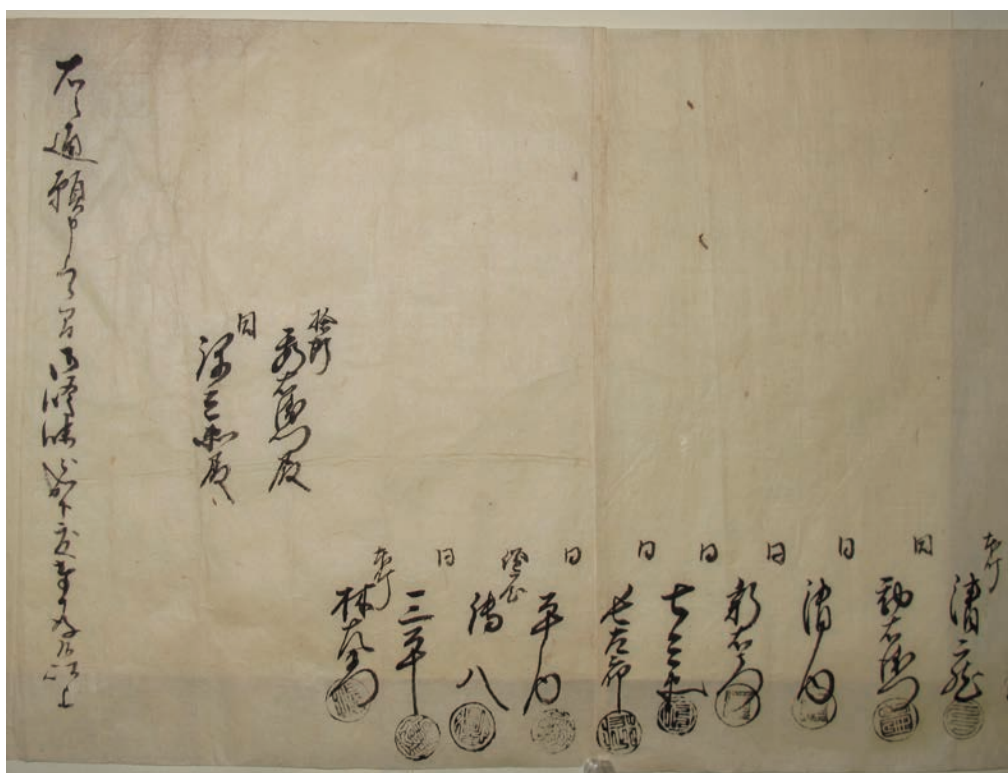




[15]

当御町商人共、市中立前え罷出、諸式商売可仕旨被仰渡奉
承知、何も立前え罷出商売仕罷有申候処、右二付乍恐口上
書を以、左二奉願候御事（宝暦二（一七五二）年、二五
二四一八）





執筆者紹介

高橋 陽一 東北大学東北アジア研究センター 上廣歴史資料学研究部門 助教

佐藤 大介 東北大学災害科学国際研究所 人間・社会対応研究部門歴史資料保存研究分野 准教授

小関悠一郎 千葉大学教育学部 准教授

後藤 三夫 公益財団法人日本美術刀剣保存協会 刀剣等相談員

よみがえる江戸時代の村田——山田家文書からのメッセージ——
東北アジア研究センター報告 第15号

2014年11月28日発行

編 者 高橋陽一・佐藤大介・小関悠一郎

発行者 東北大学東北アジア研究センター

〒980-8576 仙台市青葉区川内41

印 刷 (株)東北プリント

〒980-0822 仙台市青葉区立町24-24

ISBN 978-4-901449-97-7

CNEAS

Center for Northeast Asian Studies Tohoku University